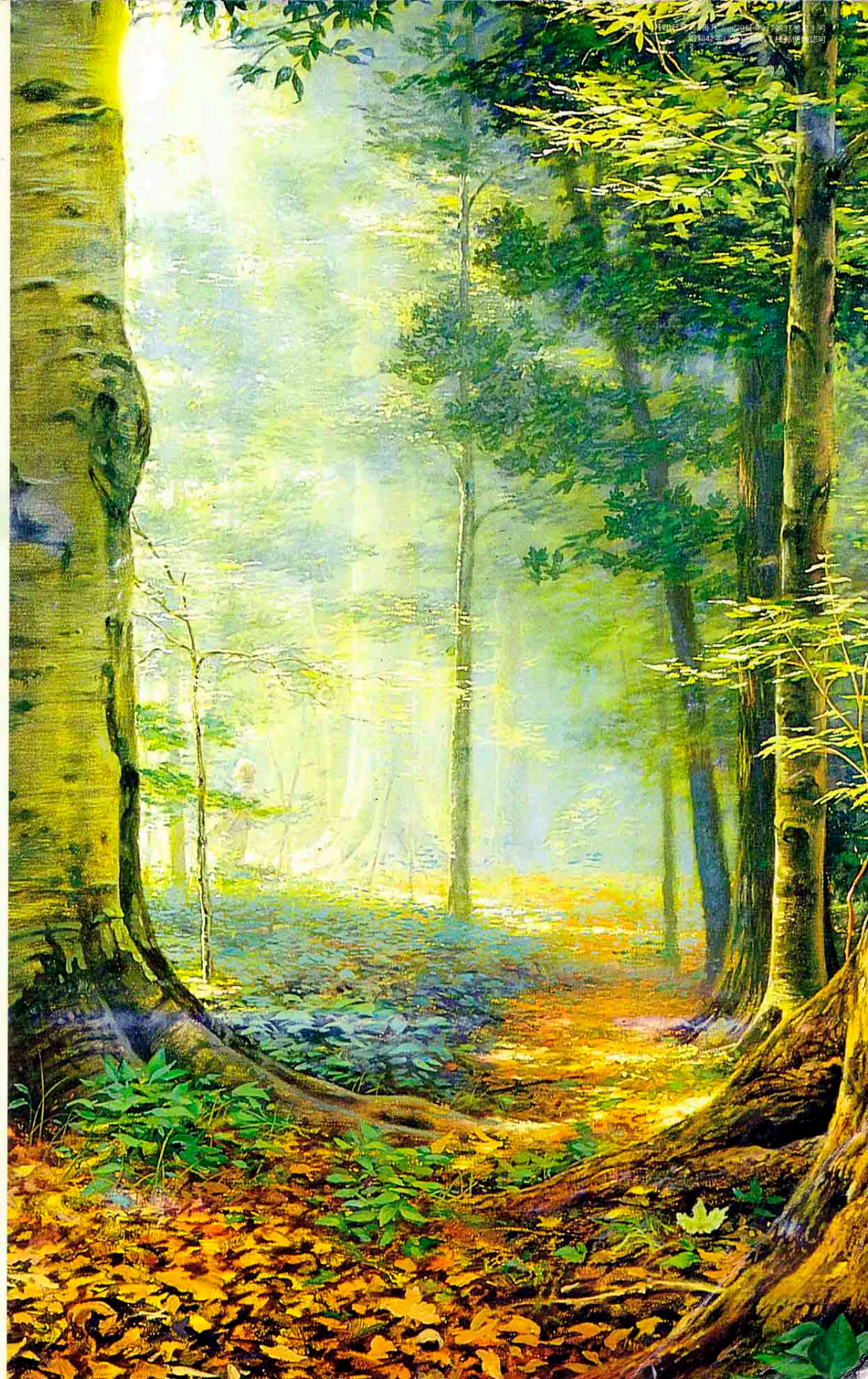
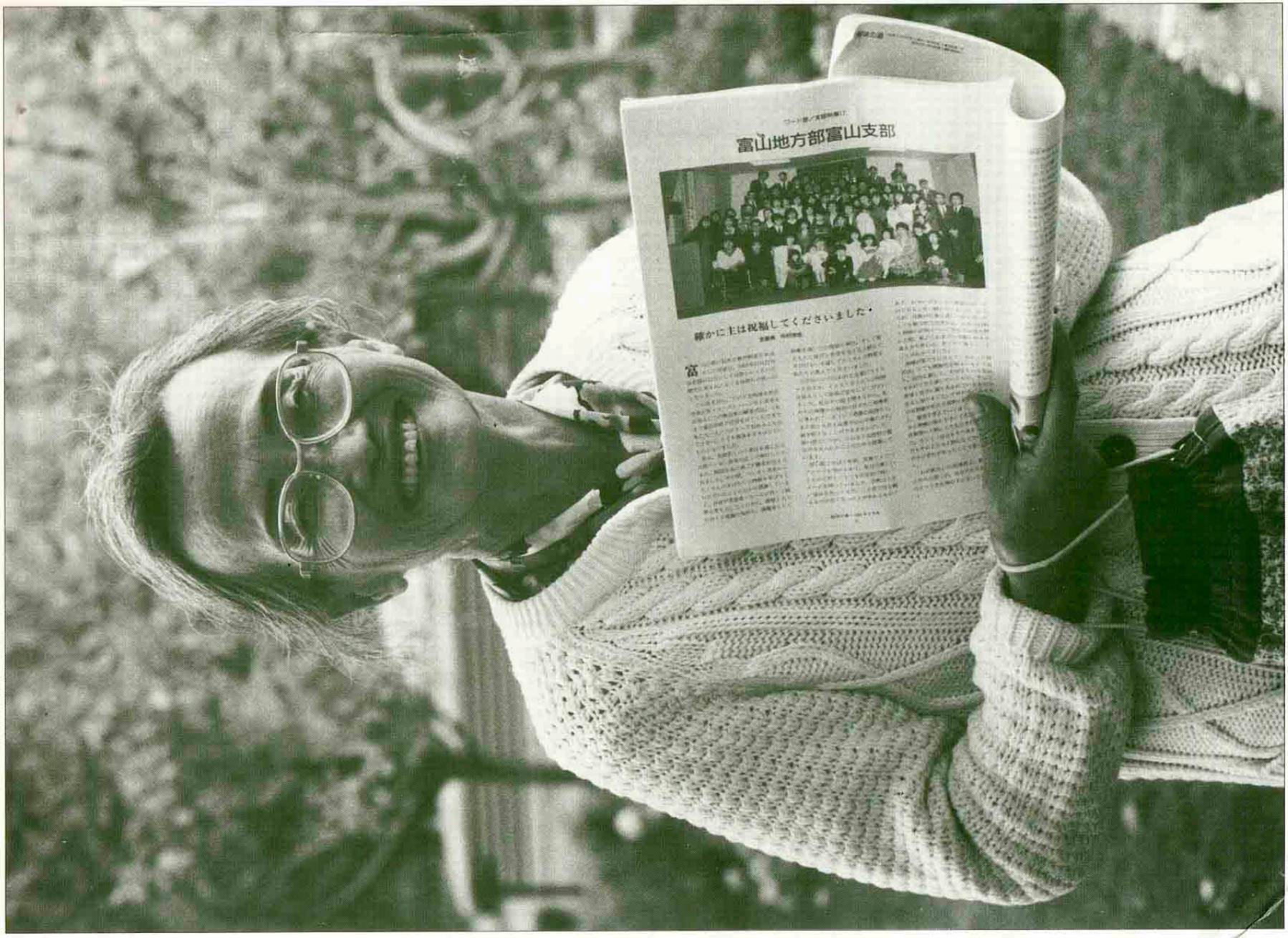
聖徒の道

1
1993

第一六二回半期総大会報告



末日聖徒
イエス・キリスト
教　会


富山地方部富山支部
静かに主は祝福してくださいました・

末日聖徒イエス・キリスト教会
第162回半期総大会報告

1992年10月3，4の両日，
ユタ州ソルトレークシティー，テンプルスクウェアのタバナクルにおいて開かれた
半期総大会の説教とその模様

「いざ非常事態が発生したときに主のみ業が滞ることのないよう，主はご自身の王国にどんなことにも対処できる，画期的ですばらしい予備システムを備えてくださったことをせん越ながら思い起こしていただきたいと思います。私にとって，このシステムは驚きであり，絶えることなく繰り返されている奇跡です。」第162回半期総大会の日曜日午前の部会で，ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長はこのように語った。

「大管長はお年を召され，以前のようには多くのことはできなくなりました。かといって，それは，大管長の予言者としての召しの貴さを損なうものではありません。ただ，肉体的な活動には限度が出てきたということです。

過去にも似たような状況がいくつかありました。ウイルフォード・ウッドラフ大管長も高齢になるまでその責務を果たされましたし，ヒーバー・J・グラント大管長，デビッド・O・マッケイ大管長，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長，そして最近ではスペンサー・W・キンボール大管長もそうでした。……

しかし，状況がどうであれ，主のみ業は秩序正しく，感嘆すべき方法で前進を続けるとはっきり申しあげることができます。キンボール大管長が病床にあった時と同様，私たちは，確立された方針がすでに存在する場合には，それに従って迷うことなく速やかに決断を下しています。方針が確立されていない場合は，大管長と話し合い，行動に移る前に承認を受けます。」

さらにヒンクレー副管長は，大管長会と十二使徒定員会の勧告について次のように語った。「私たちは，提出された様々な問題について一緒に話し合います。私たち一人一人は違う人間であり，様々な背景や経験から意見を述べ合います。み業を推し進めるうえで改善し，強めるべき点を話し合うのです。この会議の始めには様々な意見が出ることもあります。しかし，会議が終わるとき，意見は完全に一致しています。また，そうでなければ，何事も実行に移されることはありません。主ご自身も，そのような一致こそ必要不可欠であると明言しておられます。

これはごく特殊な管理方式なのでしょうか。いや，これこそ，地上における神の王国の管理方式なのです。この方式はほかに類がなく，そのシステムの下では，ひとりの人が機能を十分果たせなくなったとしても，み業が滞ったり，危険にさらされたりすることはありません。」

ベンソン大管長は，今大会のどの部会にも出席しなかったが，自宅のテレビで大会の模様を見守った。そのほかの教会幹部は，全員出席した。

総大会の各部会は，ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長とトーマス・S・モンソン第二副管長の司会により行なわれた。

土曜の午後の部会では，管理上の決定がなされた。まず，七十人会長会のマリオン・D・ハンクス長老とロバート・L・バックマン長老が解任され，七十人第一定員会の名誉会員に任命された。また，七十人第二定員会から，ジョージ・R・ヒルIII長老，ジョン・R・ラサター長老，ダグラス・J・マーティン長老，グレン・L・ラッド長老，ダグラス・H・スミス長老，リン・A・ソレンセン長老が解任された。さらに，管理監督会のヘンリー・B・アイリング第一副監督，グレン・L・ペイス第二副監督が解任され，続いて七十人第一定員会会員として支持を受けた。このふたりに代わって管理監督会の副監督として支持されたのは，第一副監督にH・デビッド・バートン長老，第二副監督にリチャード・C・エッジリー長老である。両副監督とも，ソルトレークシティー出身である。以前に大管長会から発表され，今大会で支持を受けたのは，七十人第一定員会から七十人会長会に召されたチャールズ・ディディエ長老とL・アルディン・ポーター長老，さらに七十人第一定員会に召された4人の教会幹部および七十人第二定員会に召された15人の教会幹部である。これに加えて，中央日曜学校会長会と中央若い男性会長会にも異動があった。(pp. 23—24参照)

ヒンクレー副管長による香港（ホンコン），コネチカット州ハートフォード，ユタ郡における神殿建設用地購入の発表も強い関心を集めた。(p. 24参照)

各部会の模様は，教会の衛星放送網を通じて，合衆国をはじめ，カナダ，メキシコ，プエルトリコ，ハイチ，ドミニカ共和国をはじめとする西インド諸島の3,000カ所以上の会場に伝えられた。同時通訳は英語以外の15の言語で行なわれた。また，実況中継あるいは録画放送ができない教会のユニットには，大会のビデオテープが送られた。

聖徒の道

1993年1月号

本誌は，末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊――イタリア語，英語，オランダ語，サモア語，スウェーデン語，スペイン語，中国語，韓国語，デンマーク語，ドイツ語，トンガ語，日本語，フィンランド語，フランス語，ポルトガル語，ノルウェー語。隔月刊――インドネシア語，タイ語，タヒチ語。季刊――アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ジェームズ・E・ファウスト，ニール・A・マックスウェル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，ジョセフ・B・ワースリン，リチャード・G・スコット
顧問：レックス・D・ピネガー，ジョン・H・グローバーグ，V・ダラス・メリル，ロバート・E・ウエルズ
編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン
国際機関誌
編集主幹：ブライアン・K・ケリー
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐／こどものページ：ディーン・ウォーカー
工程管理：トム・フォセット
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ
アートディレクター：スコット・D・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン，スティーブ・デイトン，ジェーン・アン・ケンプ，デニーズ・カービー
配送部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1993年1月号第37巻第1号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話　03-3440-2351
印刷所　株式会社　精興社/クロスロード
定価　年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約1,100円(送料共)
普通号150円，大会号350円

Copyright © 1993 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認－1991年10月　翻訳承認－1991年10月　原題－International Magazine January 1993. Japanese. 93981 300.

●定期講読は，「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか，または現金書留か郵便振替(口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会　振替口座番号／東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ，直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課☎03-3440-2351(代表)●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131／末日聖徒イエス・キリスト教会　資材管理部配送センター☎044-811-0417

The *Seito No Michi*(ISSN 0385-7670)is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price $14.00 a year. $1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

索　引

●以下のテーマによる説教が，それぞれ右側のページに掲載されています。

あ　愛　34, 69, 75, 110
証　12, 40, 50
イエス・キリスト　21, 32, 34, 37, 40, 50, 105, 108
祈り　85
戒め　28
癒し　66
インスティテュートプログラム　79
引退　14
教える　30, 105
恐れ　102
親　28, 30
か　改宗　50, 100
開拓者　93
学習　5, 79
価値観　82
家庭　25
逆境　12, 69, 75
教育　5, 79
教会運営の学校　79
教会の指導者　62
教会の成長　91
犠牲　93
希望　37
悔い改め　9, 40
クリスマス　85
警告　18, 37, 82
決心　12, 72, 82, 93
献身　72
子供　105
さ　最後まで耐え忍ぶ　25, 75, 93
慈愛　34, 37
自尊心　30, 100
従順　4, 12, 28, 43, 47, 72, 96
自由　9
自由意志　66, 100
正直　9
女性　108
神権　54
信仰　5, 21, 37, 40, 43, 58, 91, 102, 110
真理　66, 69
聖典　18, 32, 87, 89
聖典学習　32, 43, 85
総大会　87
た　大管長の職の継承　62
高ぶり　18, 47
タバナクル　58
知恵　5
チャレンジ　52
強さ　58
伝道活動　14, 52, 54, 91
な　忍耐　69, 110
は　繁栄　18, 47
平和　21
ベンソン大管長　4, 96
奉仕　14, 34, 52, 54, 85, 108
ま　守り　43
や　約束　89
安らぎ　25
勇気　75, 102
予言者　4, 50, 62, 87, 96

●今大会の話者(アイウエオ順)の説教が，右側のページに掲載されています。

アシュトン，マービン・J　25
アーチボルド，ダラス・N　30
アルバレス，リノ　28
オークス，ダリン・H　43
クライド，アイリーン・H　100
グラスリ，マイカリーン・P　105
コールドウェル，C・マックス　34
コールマン，ゲーリー・J　50
ジェプセン，ベティー・ジョー・N　85
ジェンセン，ジェイ・E　89
スコット，リチャード・G　66
ディクソン，ジョン・B　52
ネルソン，ラッセル・M　5
パッカー，ボイド・K　79
バックマン，ロバート・L　14
バラード，M・ラッセル　37
パラモア，ジェームズ・M　9
ハンクス，マリオン・D　69
ハンター，ハワード・W　21, 108
ピアス，バージニア・H　102
ヒンクレー，ゴードン・B　4, 23, 58, 62
ファウスト，ジェームズ・E　93
ファウラー，ジョン・E　87
ペイス，グレン・L　12
ヘイト，デビッド・B　82
ベイトマン，メリル・J　32
ペリー，L・トム　18
マックスウェル，ニール・A　72
モンソン，トーマス・S　54, 75, 96, 110
ラーセン，ディーン・L　47
リム，アウグスト・A　91
ワースリン，ジョセフ・B　40

目　次

末日聖徒イエス・キリスト教会第162回半期総大会報告…… 1

1992年10月3日(土)午前の部会

罪が勝利を収めることはない
ゴードン・B・ヒンクレー…… 4
知恵はどこにあるのか　ラッセル・M・ネルソン…… 5
「主の御言葉の力によって牢屋を地に倒した」
(モルモン8：24)　ジェームズ・M・パラモア…… 9
霊的再生　グレン・L・ペイス…… 12
黄金の時代　ロバート・L・バックマン…… 14
「主は大きな驚嘆すべきことを私に教えたもうた」
L・トム・ペリー…… 18
平和な港の光　ハワード・W・ハンター…… 21

1992年10月3日(土)午後の部会

教会役員の支持　ゴードン・B・ヒンクレー…… 23
郷愁　マービン・J・アシュトン…… 25
「あなたの父と母を敬え」　リノ・アルバレス…… 28
善い父母から生まれて　ダラス・N・アーチボルド…… 30
「聖典の研究を通してキリストに近づく」
メリル・J・ベイトマン…… 32
キリストの愛　C・マックス・コールドウェル…… 34
希望のかなった喜び　M・ラッセル・バラード…… 37
証という霊のかがり火　ジョセフ・B・ワースリン…… 40

1992年10月3日(土)神権部会

聖書の物語と個人的な守り　ダリン・H・オークス…… 43
主は義人を栄えさせる　ディーン・L・ラーセン…… 47
福音の回復の要であるイエス・キリスト
ゲーリー・J・コールマン…… 50
簡単にはいかない　ジョン・B・ディクソン…… 52
行動する神権者　トーマス・S・モンソン…… 54
あなたのタバナクルを築きなさい
ゴードン・B・ヒンクレー…… 58

1992年10月4日(日)午前の部会

教会は正しい方向に進んでいます
ゴードン・B・ヒンクレー…… 62
罪深い生活を改める　リチャード・G・スコット…… 66
愛をもって人と語る神　マリオン・D・ハンクス…… 69
「心に決めなさい」　ニール・A・マックスウェル…… 72
奇跡――今も昔も　トーマス・S・モンソン…… 75

1992年10月4日(日)午後の部会

「もしも神の訓戒に従うならば，学問のあるのも
善いことである」　ボイド・K・パッカー…… 79
福音の原則を生かす　デビッド・B・ヘイト…… 82
「人を導く」(アルマ5：62)
ベティー・ジョー・N・ジェプセン…… 85
救いに至る知恵を得る　ジョン・E・ファウラー…… 87
神の約束をまた想い見よ　ジェイ・E・ジェンセン…… 89
フィリピンの伝道活動　アウグスト・A・リム…… 91
貴重な受け継ぎ　ジェームズ・E・ファウスト…… 93
閉会に当たって　トーマス・S・モンソン…… 96
指どう者の言葉…… 98

1992年9月26日(土)女性の大会

改宗を通して得られる自信
アイリーン・H・クライド…… 100
恐れ　バージニア・H・ピアス…… 102
「汝らの子供たちを見よ」
マイカリーン・P・グラスリ…… 105
教会の姉妹たちへ　ハワード・W・ハンター…… 108
「信者の模範」　トーマス・S・モンソン…… 110

チャーチニューズ…… 113
ローカルニューズ…… 118

●総大会の音楽―今大会の音楽は，以下の方々の協力を得た。(敬称略)土曜日午前―モルモンユースコーラス。指揮，ロバート・C・ボーデン。オルガン演奏，ボニー・L・グッドリフとリンダ・S・マーゲッツ。土曜日午後―ユタ州ジョーダン南地区の家族聖歌隊。指揮，ロジャー・L・ソレンソン。オルガン演奏，ジョン・ロングハースト。神権部会―モルモンタバナクル合唱団ならびにモルモンユースコーラスによる合同男性聖歌隊。指揮，ジェラルド・D・オトリーとロバート・C・ボーデン。オルガン演奏，リチャード・エリオット。日曜日午前―モルモンタバナクル合唱団。指揮，ジェラルド・D・オトリーとドナルド・H・リップリンガー。オルガン演奏，クレー・クリスチャンセン。日曜日午後―モルモンタバナクル合唱団。指揮，ジェラルド・D・オトリー。オルガン演奏，リチャード・エリオット。女性の大会―ユタ州スパニッシュフォーク地区の扶助協会と若い女性の女性合同聖歌隊。指揮，ベバリー・トーマス。オルガン演奏，ボニー・L・グッドリフ。

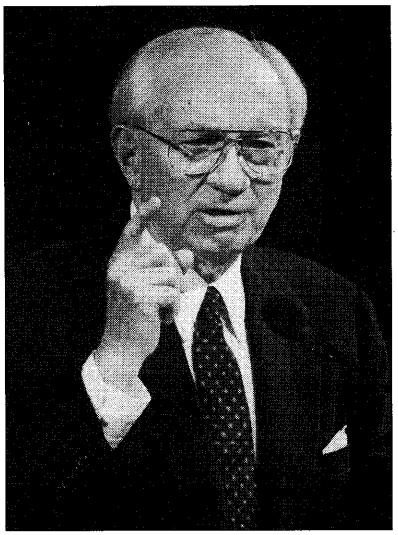
●本号の写真提供者(敬称略)―ジェド・A・クラーク，ウェルデン・アンダーソン，フィル・シャートリフ，クレイグ・ダイモンド，ジョン・ルーク，メラニー・シャムウェー，マット・ライアー。

●1992年10月3日(土)午前の部会

罪が勝利を収めることはない

第一副管長
ゴードン・B・ヒンクレー

私たちに示された標準に従い，平安と昇栄へ通じるこの道をまっすぐに歩むことができますように。



親愛なる兄弟姉妹の皆さん，大会の最初の部会ではベンソン大管長が話され，温かい歓迎の言葉を述べられるのが慣例となっていますが，きょうは大管長がここにおられないのが残念です。大管長ご自身も出席されたかったでしょうし，私たちも大管長に出席していただきたいと思っていました。しかし大管長にとって外出することは，次第に困難になってきています。高齢のために公の場所に出るのがむずかしいのです。数えで94歳になられた大管長にとって，かつてのように精力と熱意にあふれた行動をとるのはたやすいことではありません。以前私たちは皆，大管長のいきいきとした力強い声に心を動かされたものでした。確信のこもった彼の話を聞く人はだれでも，その説得力ある雄弁な福音の解釈と主のみ業に対する揺るぎない証に鼓舞されたのです。私たちは大管長がここにおられないのを寂しく思うとともに，残された人生を幸せに過ごせるように主の慰めと祝福をお祈りいたします。

大管長の愛する伴侶(はんりょ)フローラ・アムッセン・ベンソン姉妹が8月14日に亡くなられ，大管長が担っておられる重荷は以前よりもはるかに重いものとなりました。結婚されてから66年近くにもなるおふたりは，いつも全世界の教会員に模範を示してこられました。才能豊かで美しい妻であり，彼の子供たちの母であり，大管長にとって大きな支えと慰めであった姉妹の死は，彼を孤独の極みに追いやっています。

私たちの心は大管長に対する同情と愛の気持ちでいっぱいです。彼が神の予言者として私たちと共におられる間，主が彼を慰め支え，彼の心に喜びの火をともしてくださいますようにお祈りいたします。

大管長は大会を進めるようにとおっしゃいました。私たちは大管長の励ましの言葉に従い，話す者が皆主の祝福を受け，様々な状況の下で多くの場所に集う聖徒たちにみたまの力が豊かに注がれるように祈りつつ，この大会を進めたいと思います。

大管長の力強い言葉を思い起こし，私たち一人一人が真理を再確認するために，この大会の冒頭に当たり大管長の言葉をいくつか引用させていただきたいと思います。それらは繰り返し聞く価値のある言葉です。

「現代は神の目的が達成される最後の偉大な神権時代であり，罪が勝利を収めることはないと主が約束された唯一の神権時代です。教会は再び地上から取り去られることはありません。教会はこの地上にとどまると主は約束されたのです。皆さんは教会と神の王国の一員であり，皆さんを中心として地上における偉大な神の王国が築かれるのです。キリストが再臨されるとき，天の王国と地上における神の王国がひとつになりますが，その時はもう近くまで来ています。私たちがこのみ業とその根底にある英知を悟り，その大いなる出来事が近いことを認識できたらどんなにかよいでしょう。私たちの前に迫っているものが何かを悟ることができたら，私たちはきっと今の自分を見つめ直すことでしょう。」(「エズラ・タフト・ベンソンの教え」p. 19)

「天父と私たちの偉大な模範である主イエス・キリストによって示された道を私たちが歩むように，神は私たちすべてを祝福しておられます。この世の人々がどのようなことを言い行なおうとも，私たちが鉄の棒にしっかりとつかまり，信仰を守り，私たちに示された標準に従い，平安と昇栄へ通じるこの道をまっすぐに歩むことができますように。(Ⅰニーファイ8：19参照)門は開かれています。主の計画は今この地上にあり，その計画を実行するための権威と権能も今この地上にあるのです。後は皆さん次第なのです。」(「エズラ・タフト・ベンソンの教え」p. 26)

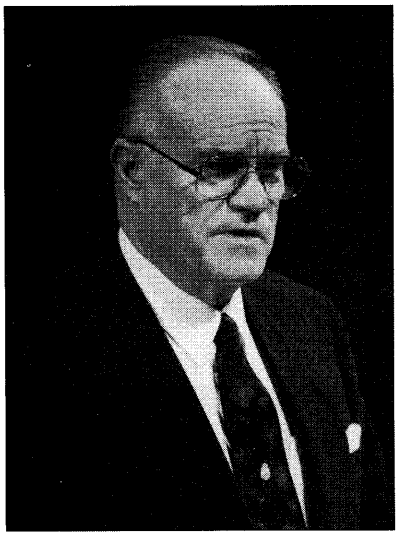
今日主の予言者であり，私たちの大管長であるお方が，以上のように宣言しておられます。皆さんに大管長の愛と思いやりと祝福をお伝えいたします。そして，天父が大管長を祝福し，慰め，励まし，喜びを与えられるように心の中で祈りつつ，大管長への私たちの愛と忠誠を伝えたいと思います。ベンソン大管長は世界中の民の予言者としてまた私たちの指導者として語るために，これまでずっと主に導かれ支えられてきた予言者であることを，イエス・キリストのみ名により証いたします。アーメン。

「主の御言葉の力によって牢屋を地に倒した」

（モルモン8：24）

七十人会長会
ジェームズ・M・パラモア

愛する友である皆さん，私たち一人一人の獄の扉を開けてくださったのは，またこれからも開けてくださるのは，イエスなのです。



愛する兄弟姉妹の皆さん。今朝のこの部会で皆さんにどのような話をしたらよいのか，私は数年来，心に深く考えてまいりました。予言者モルモンは，「聖徒らは……主の御言葉の力によって牢屋を地に倒した」（モルモン8：24）と言っています。ここ数週間で，私はヴィクトル・ユーゴーの傑作「レ・ミゼラブル」に登場するジャン・バルジャンの話と，ロイド・C・ダグラスの小説「華麗なるとりこ」に登場するボブ・メリックの話を読み直してみました。このふたつの話は，時代や環境，主人公の持っていた富などに大きな違いはありますが，多くの点で私の心を打ちました。

ジャン・バルジャンの苦しい体験のことを考えると，私も心が痛みました。19年にわたる獄中生活や，彼の身の上に起こった様々な出来事。これらはみな，ひもじい思いをしている家族に食べさせようとして一切れのパンを盗んだ，その小さな罪がもとで起きたことでした。さらに，獄から解放された後も，彼はつらい経験を数多くしました。

私の心が同じような思いに襲われたのは，ボブ・メリックが自分自身に課した苦しみのことを考えた時のことです。ひとりの高名な医師の生命が奪われ，さらに別のひとりが失明したのですが，それはボブ・メリックの気まぐれな行動や利己心，また，尊大さや人を見下す態度が原因でした。そして，彼は自分の心で作った獄にとらわれる身となったのです。

もちろん私はこのふたつの優れた作品がフィクションであることは知っています。しかし，私はこのふたつの物語を読みながら，私たちはサタンにいざなわれて自分自身や人のために様々な種類の獄を作っているのではないだろうかと考えました。また，人が私たちのために作る獄もあります。私たちは皆，様々な形のとらわれの状態から解き放たれたことがあるのではないでしょうか。自分の獄の扉が開けられた時，どのような気持ちがしたでしょうか。自由になって，どのような気持ちがしたでしょうか。それがいかなる形の獄であれ，とらわれの状態から解放されるということは，どれほどすばらしいことでしょうか。

私は41年前に感じたそのような気持ちを今でもよく覚えています。ヨーロッパで列車に乗っていた私は，夜中の2時ごろ，敵国のふたりの兵士によって，無理やり拘束されたのです。私は口汚くののしられ，肉体的虐待を受け，自分の家族や祖国を再びこの目で見ることはあるまいと感じたものでした。拘束されている間，心臓が早鐘のように打っていました。丸一日拘束されていたわけではありませんが，私にとっては永遠の時間のように思えました。ようやく解放されて別の列車に乗せられた時，主に対する私の感謝の思いは尽きることがありませんでした。ようやく自由になったのだ，という感激でした。列車の車掌に話したところ，拘束された何百人という人々の中でも，私ほど幸運な人間はそれほどいなかったそうです。

その時私は，本当の意味で私を様々な形の獄から解放してくださるお方のことを考えました。私たちを赦し，生活や霊や変化や機会を新たなものにしてくださるお方です。人はそのような獄から解放されるとき，どのような解放感や達成感，安心感を味わうのでしょうか。私は，神の御子のことと，御子が私たち一人一人のためにみずから喜んで捧げてくださった最大の捧げ物のことを考えました。主はご自分の生命を差し出し，激しい苦痛を受けてくださったのです。私はまた，天の御父がいかに私たち一人一人を深く愛しておられるかを考えました。私たちはときどき，自分で作った獄の中に入り込んでしまうことがありますが，主はいつも，私たちを閉じ込めている部屋の扉を開ける鍵を持って，そこにいてく

ほしいと望むことは，人々にもそのとおりしなさい，と教えられました。(マタイ７：12，IIIニーファイ14：12参照)また，「汝(なんじ)らことごとくその債務を償却すべし」(教義と聖約104：78)とも教えておられます。何年かかろうとも，負債は支払わなければならないのです。

クリスチャンがほかのクリスチャンに重荷を負わせるようなことがあってはなりません。数多くの未亡人，ひとりで子供を育てている女性，そして老齢の夫婦の方々がその弱みに付け込まれて犠牲になっています。陥れる者たちは，約束を守らず，被害に遭った人々を獄へと追い込んでいきます。犠牲になった人々は，ミルクを求めて泣き叫ぶ飢えた赤ん坊のように，だれかその獄の扉を開けてくれる人が現われるのを祈るような気持ちで待っています。

私たちがキリストに従おうとするとき，この教会の会員としてクリスチャンとなる誓約を結びます。いかなる種類の獄であれ，人を陥れるようなことはしないと誓約します。むしろ今獄にいる人々を解き放つ役割を果たすと誓約します。この教会に加入したある人がこう言っていました。「私は教会に入って，考え方も，話し方も，信条も変わりました。また，服装にも，勤務態度や上司との接し方にも変化がありました。その変化は読み物にも見る映画にも及びました。金銭にかかわることで人と接するときには常に正直ということを念頭に置いて行動するようになりました。それは人に奉仕する態度にも現われました。」私たちもそうなるはずです。それは，イエス・キリストの福音には人を解放する力があると真心から信じたからであり，事実その力のおかげで自由になったからです。ヨハネによる福音書にあるように，「だから，もし子があなたがたに自由を得させるならば，あなたがたは，ほんとうに自由な者となる」(ヨハネ８：36)からなのです。

何年も前のことですが，私の知人のひとりが，20年来の重度のアルコール依存症のために，毎日苦しんでいました。毎日仕事を終えると，酒を買い，人里離れた所まで車を走らせては，帰り道がわからなくなるくらいまで飲むのが常でした。まさに悪魔のとりことなって，地獄同然の生活をしていたのです。ひとりの信仰あついホームティーチャーがこの兄弟を常に愛していました。彼はこの兄弟を度々訪ねては，助けを求めて祈るようにと教え，自分でもその兄弟のために度々祈りました。ある日，その兄弟がいつものように酒を飲もうと人けのない場所に向かって車を運転していると，何か強い力を感じました。車を止めて，畑の中に入り，ひざまずいて，天父に助けを求めて祈らなければならないと感じたのです。祈り終えて立ち上がった時，酒を飲みたいという気持ちは完全になくなっていた，と後に彼は涙ながらに証をしていました。この兄弟は，20年来の獄から解放されたのです。神がその祈りを聞かれ，心の望みにこたえて，閉じ込められていた獄の扉を開けてくださったのです。

愛する友である皆さん，私たち一人一人の獄の扉を開けてくださったのは，またこれからも開けてくださるのは，イエスなのです。それがいかなる理由であれ，獄にとらわれているすべての人々には，悔い改めを条件として，栄光に満ちた約束が与えられています。

末日聖徒は，主に教えられたとおり，道徳的に清く，正直な生活をすることによって享受している自由を，実際に行動で示す者とならなければなりません。主のみ言葉は，決して破られることのない神聖な約束です。主の生涯は，救い主とその予言者たちの口を通して語られるあらゆる原則と言葉が，みな真実であることを証するものです。こうした基本的な原則に従った生活をすることにより，私たちは本当の意味で自由になり，主のみ言葉の証し人となるのです。

神の人が，ジャン・バルジャンに語った最も美しく，また意味深い言葉を紹介しましょう。「あなたはもう悪のものではない，善のものです。私が購(あがな)うのはあなたの魂です。私はあなたの魂を暗黒な思想や破滅の精神から引き出して，そしてそれを神にささげます。」(ヴィクトル・ユーゴー「レ・ミゼラブル」第１巻，p. 196。豊島与志雄訳，岩波文庫)私は自分の行ないが原因で，ほかの人の獄を作ることがないよう，心から願っています。

イエスが来られたのは，人に命を得させ，豊かに得させるためです。(ヨハネ10：10参照)イエスは道を歩み，道を説き，人類を真の意味で解放するために扉を開けられました。そしてこう言われました。「また真理を知るであろう。そして真理は，あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ８：32)同様のことを作家のダグラス氏は，ボブ・メリックに語る言葉を借りて，次のように美しく表現しています。「君がその道を見つけたら，その道から離れられなくなる。その道のとりこ，華麗なるとりことなるのさ。」

確かにそのとおりです。救い主がアメリカ大陸を訪れられた後200年にわたってその教えに真心から従い続けた聖徒たちがどのような生活をしていたのか，モルモン経を読んでみましょう。「そして，弟子たちの所へきて真心からその罪を悔い改めた者はみなイエスの御名によってバプテスマを施されて聖霊を受けた。

……全地の住民……の間に何の不和争論もなく一人のこらずみな互いに正しく扱った。

そればかりでなく，一同は一切の所有物を共有したので富んでいる者と貧しい者との区別もなく，自由な者と奴隷との区別もなくて，誰(たれ)もかれも自由と〔なった。〕

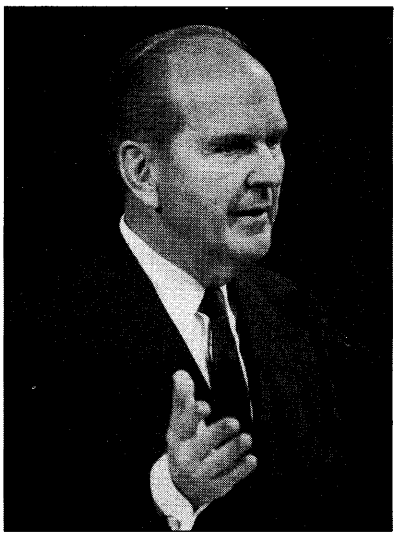
……まことに神が造りたもうたすべての民の中でこの民ほど幸福な民があるはずがなかった。」(IVニーファイ１：１－３，16。下線付加)

そうです。確かに「主の御言葉の力によって牢屋〔すなわち獄〕を地に倒した」(モルモン８：24)のです。私たちが自分自身のためにも，人のためにも獄を作ることなく，皆自由な生活を満喫することができますように願っています。そして，ただ自由と祝福に満たされた華麗なるとりことなることができますように。イエス・キリストのみ名によってお話しいたします。アーメン。

知恵はどこにあるのか

十二使徒定員会会員
ラッセル・M・ネルソン

教育の追究の中で大きな力を発揮するのは，学歴よりも本人の望みであり，能力よりもその人の信仰です。



きょうは，古代のヨブの問いを取り上げてみたいと思います。「知恵はどこに見いだされるか。」(ヨブ28：12)

教会の指導者たちは，再三，教育の大切さを強調してきました。確かにそれは知恵を得るためには不可欠な要素です。開拓者たちはイリノイ州に神殿を建設し始めて間もなく，ノーヴー市立大学を設立し，大管長会は次のように宣言しました。この大学で「私たちは子孫に知恵を伝え，あらゆる知識と学問，様々な芸術，科学，高度な職業を教えることができるであろう。」[1]

迫害に追われた開拓者たちがソルトレーク盆地に入植した後にも，同じようなことがありました。入植後3年もしないうちに，デゼレト州立大学が創設されました。[2] その後も，いくつかの学校が設立されています。

800万人以上の教会員数を数える現在では，教会が直接介入して世俗的な教育を施すことはもはや不可能です。それでも教育を強調する教会の姿勢は変わっていません。

「神の栄光は英智なり。」(教義と聖約93：36)聖典はそう教えています。さらにはそれぞれの英知が「この世に先だちて組織され」(アブラハム3：22)，「人はまた太初に神と共に在りき。英智，すなわち真理の光とは，創造されしにあらずまた造られしにあらず，実にかかるべきものにあらざるなり」(教義と聖約93：29)とも記されています。

私たち一人一人が持つ英知は，神のような特質を備えた永遠のものなのです。トーマス・ジェファソン(1743—1826年，アメリカ合衆国第3代大統領)が次のように記した時，彼は人間の精神に宿るそのような神聖さを感じていたのだと，私は考えています。「人間精神へのいかなる形の圧制に対しても，私は永遠に敵対すると神の祭壇の前で誓っている。」[3]

教育の追究

個々人の中に潜む知性を神聖なものと考える私たちの立場から，教育を受けることは宗教上の義務であると考えなければなりません。とは言え，人それぞれに，機会と能力の差があります。私は，教育の追究の中で大きな力を発揮するのは，学歴よりも本人の望みであり，能力よりもその人の信仰であると考えています。造り主はその子供たちに，どこにあっても教育を受けてほしいと願いを示され，次のように命じておられます。「汝ら努めて求め，互いに智恵ある言葉を教うべし。然り，汝ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし。」(教義と聖約88：118)しかも，この地上で得た知識は永遠に私たちのものであると保証してくださっています。(教義と聖約130：18—19参照)

この日の光栄の標準に照らして見ると，衝動的に学業を半ばであきらめ，早々に勉強を放棄してしまうのは，神命を無視するばかりか，自らの可能性の実現を妨げてしまう結果になることも明らかです。

遠い昔，私自身も教育を受けようと決心した時のことを覚えています。未熟な十代のクリスマスの時期に，私が世の仕事に就いた時でした。仕事は単調で，毎日，毎時間の経過がひどくゆっくりと感じられました。その時，その場で決心したのです。もっと良い人生を開くために教育を受ける必要があると。私は学校に通い，自分の命をかけるつもりで勉強に励もうと，心に決めたのです。

後年，ステーキ部長として働いた時に，若い人々から学業と自分たちの将来について多くの相談を受けました。その中に，医師になるにはどれだけの期間を見ればいいだろうかという質問をする人もいました。「一般的には，大学で4年間，さらに専門の学校で4年間が必要です」と答え，「さらにスペシャリストを目指すなら，加えてあと5年，ないしは望みに応じてそれ以上の年月が必要でしょう」と言いました。

すると往々にして，次のような答えが返ってくるのです。「えっ！　それじゃ13年から，場合によってはそれ以上の期間が必要じゃないですか。長すぎます！」

私はそれに対して，よくこう答えたものです。「あなたの望み次第ですよ。自分の人生でしたいことがわかっていれば，仕事のための準備が長すぎるということはありません。勉強を続けずに13年間たったとしてあなたは何歳になっているでしょうか。自分の望む者になろうとなるまいと，年だけは取り

ますよ。」

そこで私は当時も今も同じ助言をすることになります。どこにいようと，どのような関心を持ち，どのような機会にあずかろうと，どのような分野を選択しようとも，勉強を続けてください。そうすれば，家庭でも社会でも最高の奉仕ができるでしょう。

不均衡に注意する

自分の学ぶ分野と，どのような目的をもって働くのかを決めてください。しかし，皆さんの知力を世俗的な学問の追究にだけ費やしてはなりません。モルモン経にある警告に心を留めましょう。

「おお人間の虚栄と意志の弱さと愚さよ。人間は学問があると自分は賢いと思って神の訓戒に耳をかさず，自分独りで解ると思って神の訓戒をうち捨てるから，その智恵は愚であって何の益にもならず，かれらはついに亡びるのである。しかし，人間がもしも神の訓戒に従うならば，学問のあるのも善いことである。」（IIニーファイ9：28—29）

この聖句を読むと思い出す友人がひとりいます。彼は，自分の得た富は不断の労働と実社会の厳しい経験から学んだ教訓のおかげさと，鼻高々に自慢していました。しかし残念なことに，彼の富は霊的な成長と引き換えに築かれたのです。取り返しのつかない時期を迎えてから，自分が登り詰めた成功へのはしごが誤った壁に立て掛けられていたことを，後悔しながら悟ったのです。この友人は救い主の次の教えを読んだことがありませんでした。

「富を求めずして智恵を求めよ。さらば見よ，神の奥義は開かれ，それより汝ら富める者とせらるべし。見よ，永遠の生命を有つ者は富めるなり。」（教義と聖約6：7。同11：7も参照）

人類は聖典をよく知らなかったために，長い歴史の間に，ときとして大勢の人々が悲しみを味わってきました。無知のために生じた苦しみこそ本当の悲惨です。歴史をひもといて伝染病の感染にまつわる話を，紹介しましょう。

19世紀，医療関係者をはじめとする人々は空気の汚染に心を悩ませていました。現代のような目に見える炭化水素のスモッグのことではなく，あらゆる感染症の原因と考えられていた目に見えない「ミアスマ」による汚染でした。たとえば，1867年，リスター卿（1827—1912年。イギリスの外科医，殺菌消毒法の完成者）は伝染病の主要な原因は悪い空気にあると指摘しています。[4] このため，スコットランドのシンプソン医師（1811—1870年）は，2，3年おきに病院を取り壊して再築することを強く主張しました。[5] こうした突飛な慣行を唱導する専門家は，ほかにもいたのです。[6]

クリミア戦争での英雄的な看護で生きながらにして伝説の人物となったフローレンス・ナイチンゲール（1820—1910年。イギリスの看護婦）でさえ，伝染病が患者から患者へ感染するものであることを知りませんでした。手術後の死因の40パーセントまでが傷口からの感染にあるという事実を記録した，鋭い観察眼を持つ彼女にしてこれでした。[7]

感染症の因果関係を見逃していたのは彼女だけではありません。何世紀もの間，産褥熱によって数えきれないほどの母子の命が奪われてきましたが，これは出産の介添えに当たった何も知らない人々が，手を洗わなかったために感染した病気だったのです。[8]

コッホ（1843—1910年。ドイツの医師）やパスツール（1822—1895年。フランスの細菌学者）などの偉大な業績によって，感染症が患者の体液中の細菌によって引き起こされることが証明されたのは，ほんの1世紀ほど前でしかありません。

歴史上のこの重要な出来事を心に留めながら，古代に記録された主のみ言葉を，レビ記第15章から引用してみましょう。

「主はまた，モーセとアロンに言われた，『イスラエルの人々に言いなさい，「だれでもその肉に流出があれば，その流出は汚れである。その流出による汚れは次のとおりである。……流出ある者の寝た床はすべて汚れる。またその人のすわった物はすべて汚れるであろう。その床に触れる者は，その衣服を洗い，水に身をすすがなければならない。……流出ある者の肉に触れる者は衣服を洗い，水に身をすすがなければならない。……」』」（レビ15：1—5，7）

これに続く数節では，同じこの大切な原則がもう一度強調され説明されて，最後に次のようにまとめられています。

「流出ある者の流出がやんで清くなるならば，……その衣服を洗い，流れ水に身をすすがなければならない。そうして清くなるであろう。」（同13節）

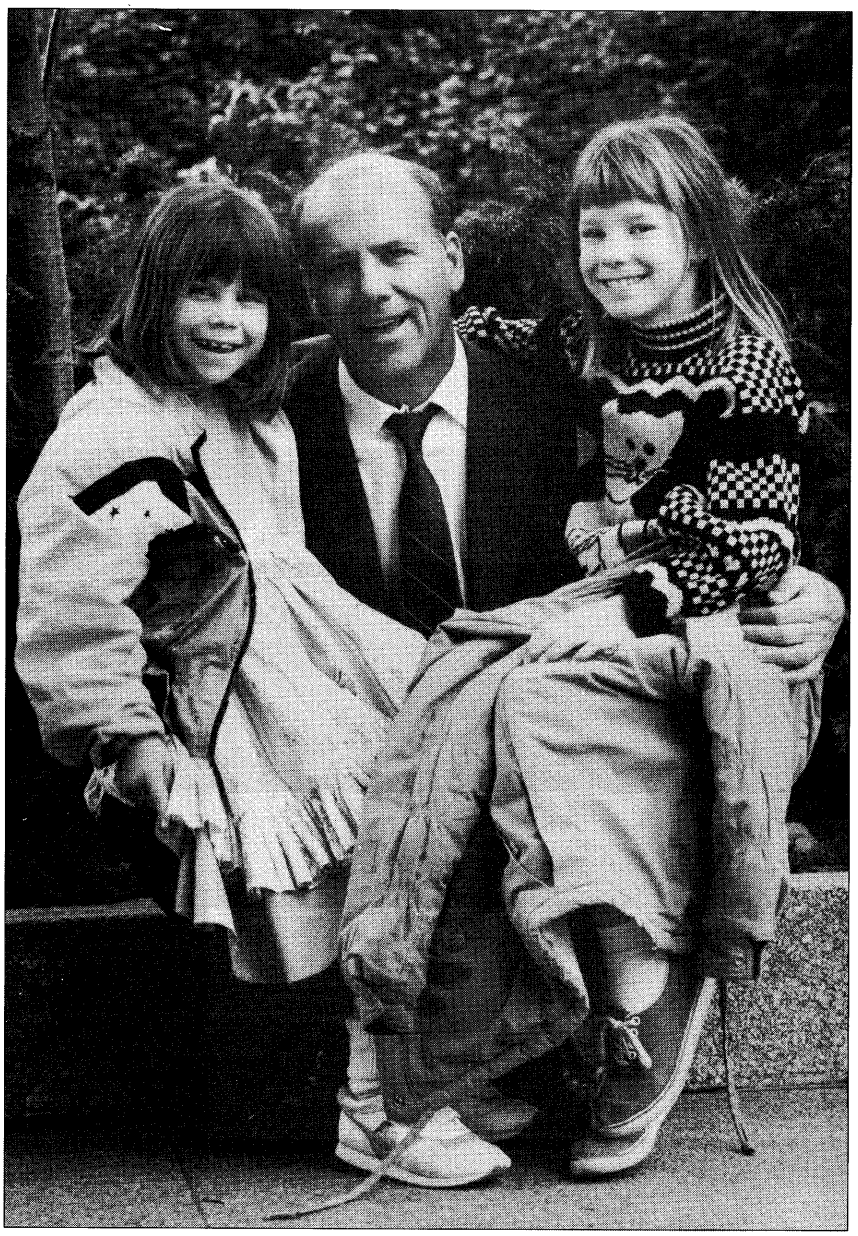
このようにして愛ある私たちの天父は，感染症の患者を扱う衛生学上の原則をすでに3,000年以上も前に明らかにされていたのです。これらの聖句は，現代の医学上の指針と完全に一致するものなのです。[9] ところがこの何千年かの間に，どれだけ大勢の母親が無意味に命を落としたことでしょう。知識の探求が主のみ言葉を無視してなされたために，どれだけ多くの子供たちが苦しんだことでしょう。

現代の課題

今日，私たちは多くの課題に直面しています。あるものは新しく，あるものは昔ながらの，見せかけだけが新しい課題です。パウロの書簡の中には，私たちの時代に対する予言が含まれています。その描写は他人事のようには感じられません。

「終りの時には，苦難の時代が来る。その時，人々は自分を愛する者，金を愛する者，大言壮語する者，〔この後にも陰険な罪が列挙されています〕……神よりも快楽を愛する者，信心深い様子をしながらその実を捨てる者となるであろう。……常に学んではいるが，いつになっても真理の知識に達することができない。」（IIテモテ3：1—5，7）

パウロは背教とそのほかの現代の危険について警告しています。その中の危険のいくつかは神の目的に反し，しかも，能力ばかりで道徳心がなく，知識ばかりで知恵のない説得力ある人々が唱導までしているものです。彼らはそうした罪深い行ないを善いものだと



言い張って，正当化しています。聖書は「愚かな人の道は，自分の目に正しく見える」(箴言12：15)と言っています。確かに，悪意ある目的を心の中に隠した人が正直者の顔をしていることが往々にしてあります。だからこそ私たちは，常に注意をしていなければならないのです。

家屋をまっすぐ強固に建てようとするなら，しなった板を使用することはありません。同じように，自分の永遠の行く末を開こうとするなら，神の啓示を締め出して欠陥の多い知識だけを取り入れることはできません。というより，それはしてはならないことなのです。警告と希望がちりばめられた次のような聖句がモルモン経の中にあります。

「主に向って勧めをしようとはしないで主から訓戒を受けようとせよ。ごらん，あなたたちは主が智恵と正義と大きな憐みとをもって，造りたもうた万物を勧め戒めて治めたもうていることを知っている。」(モルモン経ヤコブ4：10)

神の教えを知らないために払わなければならない代価の大きさを忘れてはなりません。今世紀に差し掛かるまで，レビ記の15章を読むか，真剣にそれを取り入れようとした人がだれもいないかのように，伝染病は広がっていたのです。知恵はどこにあるのでしょうか。

現代の私たちは，ＨＩＶ(ヒト免疫不全ウイルス)および類似のウイルスによる感染症の多発と，それに関連して起きるエイズ(後天性免疫不全症候群)にひどく心を悩ませています。病の流行は予言されていました。それは，ほかの大勢の人々の健康よりも個人の権利を声高に叫ぶ少数の人々によって広められている疫病，不道徳な人々によって助長されている疫病です。ある人々は，まるで純潔に対する神の戒めには特例が付されていて，自分たちは従わなくてもいいかのように，放縦な生き方をしています。こうして残念なことに，過去の疫病と同様，罪のない犠牲者が同じ苦しみに巻き込まれているのです。知恵はどこにあるというのでしょう。

たばこは「人間のために良きものにあらず」(教義と聖約89：8)という神の宣言を無視するか，知らないために，不必要な死と財政負担が世界的に急増しています。アルコール問題，麻薬問題，ギャンブル，民間の紛争，家庭生活の崩壊など，ほかにも様々な社会問題を挙げることができます。[10] 知識は豊富に得ましたが，それがほとんど私たちの身についていません。「知識を得たときの知恵はどこへ行ってしまったのだろうか。初めて知ったとき得た知識はどこへ行ってしまったのだろうか。」[11] ここでも浮かんでくるのは，知恵はどこにあるのだろうかという問いです。

見いだされた知恵

知恵は純粋な英知の中に潜んでいます。あらゆる国々，あらゆる地域，あらゆる大陸に住む人々を導くあの神よりの光の中にあるのです。主は「暗きに坐する者の中に光輝やき出でん，この光はわが完全なる福音なりとす」(教義と聖約45：28)と約束しておられます。そして次のように嘆いておられます。

「されど彼らはその光を受け入れず。そは，彼ら光を認めざれば，人の教えの故によりてわれにこころを背くれば

なり。……この時に当り，その世に立ちて而も地に溢るる懲しめを見終りて後始めて過ぎ行く人々在るべし。世を滅ぼすべき疫病，地を覆うべければなり。されどわが弟子たちは，聖地に立ちて動くことなかるべし。されど悪しき人々の中には，声を挙げて神をのろい死ぬる者たちあらん。また地震も至る所に起り多くの荒廃は来らん。されどなお人々はわれに向いてこころを頑固にし，……。」(教義と聖約45：29，31—33。同87：6参照)

こうした苦汁に満ちた混乱とは対照的に，イエス・キリストの福音の光はこの世の希望として輝いています。宣教師と会員たちは勇敢にその光を宣べ伝えています。世界中の賢明な学習者はその光に心を向け，教会のセミナリーやインスティテュートに登録して教養を深めています。主はご自身の持ちたもう知恵を，だれにも控えられることはありません。「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，その人は……神に，願い求めるがよい。」(ヤコブ1：5)

さて，私はもう1度，ヨブの質問を取り上げましょう。「知恵はどこに見いだされるか。」(ヨブ28：12)それは主から出る，というのが答えです。主はみずから次のように言われました。

「われは言葉に言葉を加え，誡命に誡命を加えて，これを世の人に伝え，ここにも少しく教え，かしこにも少しく教えん。故にわが誡命を守りわが勧めに耳を傾くる者は智恵を得るによりて幸福なり。」(IIニーファイ28：30)

神に対する愛が育つときに，神聖な光は輝きを増し，知恵も深まっていきます。

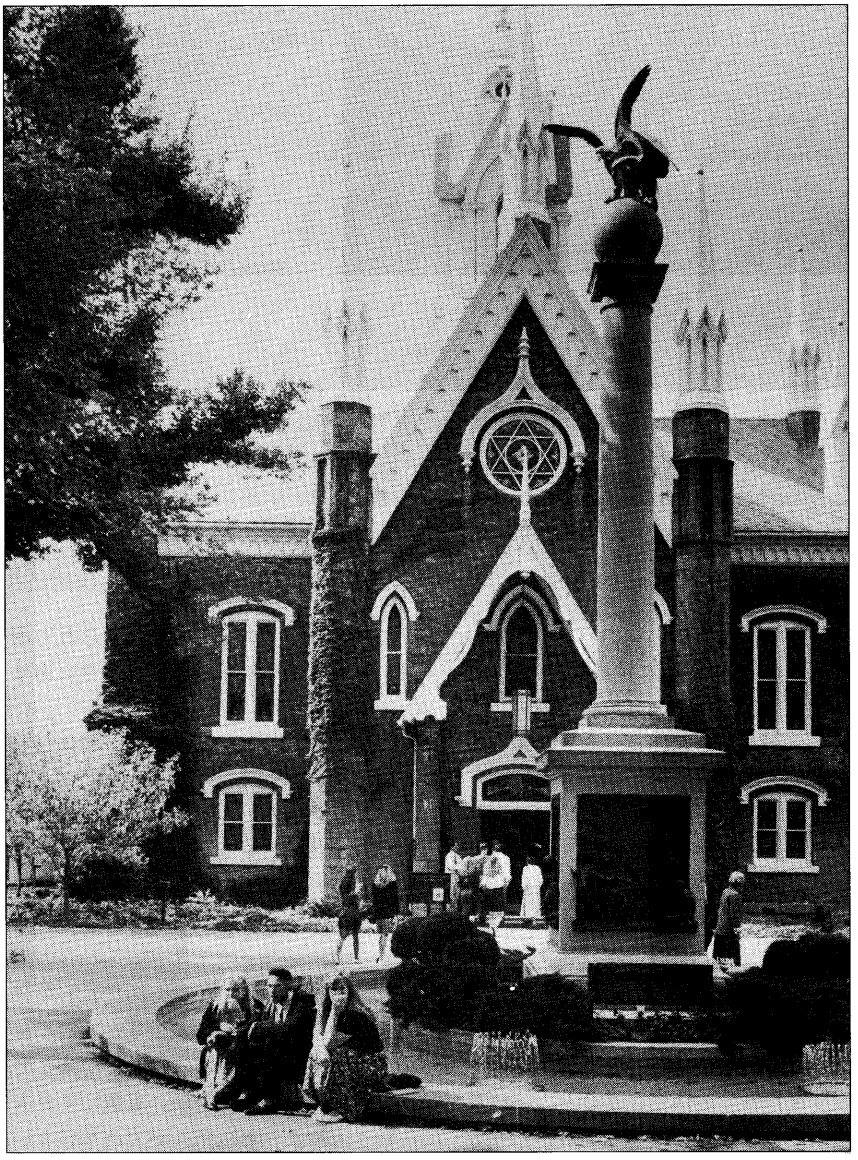
「神によるものは光明なり。その光明を受けて神に従うこといよいよ久しき者は，その受くる光明いよいよ明らかなり。その光明いよいよ明らかとなりてついには完き昼となるべし。」(教義と聖約50：24。同88：67参照)

「彼の誡命を守る人は真理と光とを受け，ついに真理によりて栄光を得て，すべての事物を知る。」(教義と聖約93：28)

知恵はどこにあるのでしょうか。それは主の真理の光の中に息づき，脈々と生きているのです。その光をもって主は私たちを永遠の生命へと導かれるのです。このことをイエス・キリストのみ名によって証いたします。アーメン。

注

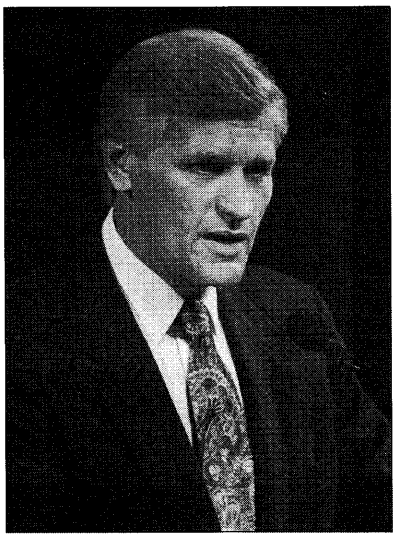
1．「教会歴史」4：269
2．「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史記録」1850年2月28日，pp. 1—2
3．エルバート・D・トマス「トーマス・ジェファソン——世界市民」p. 251
4．J・リスター『化膿状態の観察を含む，複雑骨析と膿傷の新しい治療方法について』「ランセット誌」1：326
5．J・Y・シンプソン『現行の病院制度とその効果』「エジンバラ医学ジャーナル」14：817
6．L・A・スティムソン『細菌と，細菌が傷の合併敗血症の発生と生成に及ぼすその影響』「ニューヨーク医学ジャーナル」22：144
7．エドワード・クック「フローレンス・ナイチンゲールの生涯」全2巻，1：352—438参照
8．イグナス・フィリップ・ゼンメルバイス「病因論から見た産褥熱の概念と予防」(1861年版からの復刻)pp. 102—113
9．「病院における隔離技術」(アメリカ合衆国保険・教育・福祉省編)p. 9
10．ブライス・J・クリステンセン『重病人の家庭看護』「アメリカの家族」pp. 1—8
11．T・S・エリオット『岩の合唱』「詩と戯曲全集」p. 96



霊的再生

七十人
グレン・L・ペイス

私たちはこれまで様々な予言の成就を見てきましたが，この先どのような大きな出来事が待ち受けているのでしょうか。



子供のころの私は姉に頼りきりの生活をしていました。たとえば，食べ物の好き嫌いが多かった私は，祖父母の所へ行くと，自分の口に合わない物を出されることがしょっちゅうありました。私はばつの悪い思いを避けるために，嫌いな料理を盛った皿が回ってくると，姉の方を見て「姉さん，これぼくが好きな物」と尋ねたものです。

姉は，それが何かをよく知っていて，なおかつ私が嫌いな物となると「それは彼の好みじゃないわ」と言いました。

それから私がこう言うのです。「姉さんの言うとおりだよ，おばあちゃん。ぼくはこれ好きじゃないの。」

食べたことがない物が出された時は，姉は「ちょっと待って」と言ってから，自分で味見をし，私の口に合うかどうかを言うのが常でした。姉が，私の口に合わないと言ったら，だれも私にそれを食べさせることはできません。

今となっては小さい時から自分の味覚を信じ，姉のひと言で良い食べ物を拒むようなことはやめるべきだったと思っています。

さて，今度はもっと重要な問題について話したいと思います。だれでも，人の証ではなく，自分の証の実を味わう経験をしていると思います。私が今言っている証とは，単にこの教会が真実であるという以上の証です。私たちは，自分は教会に対して忠実である，といえるところまで成長しなければなりません。また個人的な啓示を受けられるまでに，自分の力を強めなければなりません。ジョセフ・スミスが神とキリストにまみえたという証を受けることと，啓示を受ける自分自身の能力に霊的確信を持つということは，まったく別の事柄です。皆さんは自分で，啓示を受ける資格を授けられているのです。

私たちの多くは福音の祝福に対して感謝の心を忘れています。私たちは，ゆっくりと規則正しく動く教会という列車の乗客にたとえられるのではないでしょうか。ときどき窓の外を見て，「外は楽しそうだな，この列車には行動の自由がない」と思うことがあります。そして列車から飛び降り，森へ行ってしばらくの間，遊ぶことがあります。しかし遅かれ早かれ，私たちはそれがサタンの見せかけほど楽しいものではないということに気づいたり，あるいは心に深い痛手を受けたりします。そして懸命になって線路に戻り，遠くまで進んでいる列車を見つけます。夢中になって走り，ようやく追いつきます。そして息を切らしながら額の汗をぬぐい，悔い改めの機会を主に感謝するのです。

列車の中からは，外で世の人々や一部の教会員が笑い，楽しそうにしている姿が見えます。彼らは私たちをあざけり，列車から降りるようにそそのかします。中には線路に丸太や石を置いて，列車を脱線させようとする人さえいます。また，列車に寄り添うように走り，決して森に遊びに行くようには見えないのに，列車に乗ろうともしないような会員もいます。また列車よりもずっと先に進む人もいますが，多くの場合，彼らはわき道にそれてしまいます。

自分の好きな所で列車に乗ったり，降りたりするぜいたくはいずれ許されなくなることでしょう。列車はその速度を増し加えています。森も非常に危険になってきています。霧とやみが深くなってきています。

私たちを批判する人々は，この列車を脱線させようとしますが，それは弱い腕で，定められた道を流れるミズーリ河の流れを止めようとするのと同じです。(教義と聖約121：33参照)しかし，それでも彼らはときとして，ひとり，またひとりと道をそれさせるのに成功しています。私たちはこれまで様々な予言の成就を見てきましたが，この先どのような大きな出来事が待ち受けているのでしょうか。列車に乗り込み，目的地に着くまでそこにい続けるには，さらに何を見，体験しなければならないのでしょうか。今は霊的再生の時です。自分の内面の奥深くを見つめ，自分自身の光を再びともす時なのです。

ジョセフ・F・スミス大管長はこう言いました。「若い者も年老いた者も含めて，聖徒たちは借り物の光で生活し，自分の光を桝(ます)の下にかくし，塩の味を失い，内にある光を反射させてしまう傾向を避けなければならない。」(「福音の教義」p. 85)

全世界が激しく揺れ動いているかのようです。最近の新聞を見ると，広い地域でのききん，政情不安，自然災害などの記事でいっぱいです。しかし，長期的に見てさらに恐ろしいのは，神

の戒めに対する不従順という，霊的破滅をもたらすハリケーンです。世界を飲み尽くそうとしているこのあらしは国々の倫理的支柱を吹き飛ばし，道徳的荒廃をもたらします。多くの人々はこのハリケーンにまったく気づいていないようです。また非常に鈍感になり，多少の風は感じなくなっています。

モルモン経の中で，何度も繰り返されたサイクルが，今の時代にも見られます。主は私たちにこう言っておられます。「事なき時に，彼らわが助言を軽んじたり。されど事ある時は，彼ら止むを得ずわれを探し求む。」（教義と聖約101：8）

ですから，主が昔の神権時代のように，人々を無感覚状態から目覚めさせるために，警告となる出来事をいくつか見過ごしにしておられるとしても，あまり驚く必要はありません。ヒラマン書の中でニーファイはこう述べています。「また主がいろいろの艱難でその民をこら〔さ〕ないと，民は主を思わないことも明らかである。」（ヒラマン12：3）

近代において，主はこう言われました。「されば，わが民の律法に従順なることを覚るまでは必ずこれを懲しむるを要す。もし必ず要すれば，彼らの受くることによりて打ち懲しめらるるなり。」（教義と聖約105：6）

今の世の中に繰り広げられている様々な出来事を見て，驚いている人々もいます。しかし今は恐怖におびえている時ではありません。明らかに備えの時なのです。間近に迫っている事柄に対して，もっとよい備えをするにはどうしたらよいでしょうか。答えは簡単です。基本に立ち返り，「従順を学ぶ」ことです。従順な人は福音の第一原則に従い，救い主を信じ，罪を悔い改め，バプテスマと聖霊の賜を受けます。聖霊の賜は私たちを導いてくれます。また，従順な人は聖典を読んで，その内容について深く考え，生活の中で導きを祈り求め，困っている人を助けるための方法を探し求めます。そして，世の人々に福音を伝え，幕のかなたに去った人々のために救いの儀式が行なわれるようにします。



この大会やまた様々な機会に私たちは，主の油注がれし僕から教えを学びます。予言者，聖見者，啓示を受くる者と呼ばれる彼らは，その務めとして，神の王国に関する啓示を授かります。従順な人は教会の指導者に従います。そして最後に神殿でエンダウメントを受けられるように，自らを備えるのです。忠実であり続けるなら，このエンダウメントはまさしく，この世の罪を克服し，「聖地に立」つための力を与えてくれます。（教義と聖約45：32）

若い人々に特に申しあげたいと思います。皆さんが自分のエネルギーを将来の悔い改めではなく，今従順になるために使うなら，さらに安らかで幸福になっていくことができます。従順な人は，将来の問題に備えて基礎となるものを築いていきます。

しかし，たとえ従順であっても，試練や苦難を避けることはできません。不慮の災難や苦しみは，必ずしも罪深い人への罰として下されるとは限りません。正しい人を聖めるために与えられることもあるのです。数々の試練に遭いながら忠実さを守り通した昔の教会員を称賛したいと思います。彼らはその霊性のゆえに，苦難に耐え得たのでしょうか，それとも苦難があったからこそ霊的だったのでしょうか。深く考えさせられる興味の尽きない命題です。

人はだれでもその生涯に，逆境という貴重な時を経験します。苦しみを伴うこの友は，私たちの心を砕いて，へりくだらせ，救い主がいなければ自分はちりに等しい存在だということを気づかせてくれます。またこの友には，私たちに，安らぎを求めて，夜を明かして，いや次の日も，そして時には何週間も何カ月も祈らせる力があります。しかし，忠実に信仰を守るなら，最後には夜の後に必ず日が昇るように，その一風変わった友は，私たちを救い主の愛のみ腕の中に確かに導き入れてくれるのです。

私は，これまで苦しみを経験しなけ

れば天父の答えを受けることができない理由を理解しようと努めてきました。祈りが天父のみもとへ届くまでには，よほどの努力をして，心を傾けなければならないようです。そして，もっと大切だと思われるのは，私たちの努力なくしては，天父も私たちに語りかけることができないということです。あの静かな細い声を聞くには，熱心に耳を傾けなければならない時があります。世の人々に隠されたことを教えていただくには，霊的周波数を正しく合わせなければなりません。それはこの世とは無縁のものです。苦難は，この周波数を合わせるうえで私たちの助けになるのです。救い主でさえも，苦しみの中にいた時は，天父により熱意をこめて祈られたのです。ゲツセマネでの主について，ルカはこう記録しています。「イエスは苦しみもだえて，ますます切に祈られた。」(ルカ22：44)

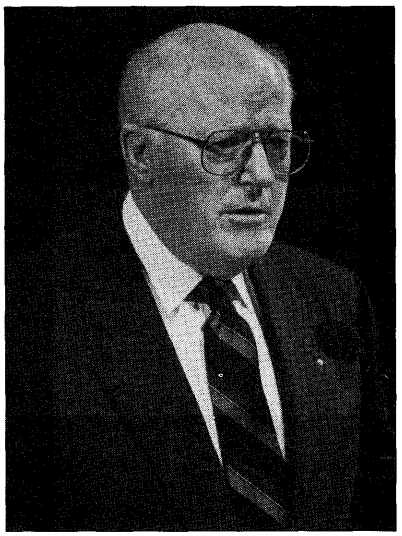
主の警告を何度も受けざるを得ないような状況を避けるには，一度従順になったら，その状態を保ち続けることが大切です。あらしが去れば，自分の証に雄々しくあり，霊的周波数を正しく保つことができます。そして，地上で天の喜びを味わい，ときには長い間，安らぎを享受できるのです。しかし，霊性を高め，完全になることが私たちの目標なら，神の計画から見ても生涯無上の喜びが続くということはあり得ないのではないでしょうか。「それは，すべての物事には必ずその反対のものがなければなら」ないからです。(IIニーファイ2：11)

私は，一人一人がさらに従順になって，霊的再生を体験するように願っています。そうして深められた霊性は，今の苦境に耐えるための洞察と，将来のために必要となる力を与えてくれます。この世は揺れ動いていますが，神の王国は無傷です。私たちはこの神権時代で最もすばらしい胸躍る時に生きています。王国を築くこの業にすべての人が活発に参加するように望んでいます。今はすばらしい機会を与えられている時です。これらのことをイエス・キリストのみ名によって証します。アーメン。

黄金の年代

名誉教会幹部
ロバート・L・バックマン

年輩のご夫婦に輝かしい機会が与えられる様子を拝見してきました。彼らは，現役の時と同じように，同胞のためにすばらしい働きを続けています。教会は私たちのような年輩者を数多く必要としているのです。



14年前，私はこの壇上に立ち，七十人としての召しを受けました。以来，この14年間は，私の生涯で最もチャレンジの多い期間であったと同時に，最も祝福と満足感に満ちた年月でした。どこへ行っても，楽しくかけがえのない経験をさせていただきました。

私は，この大会を機に，名誉教会幹部となることになっています。しかし，私はこれからも何らかの形で皆さんのお役に立ち続けたいと願っております。残された日々をどう過ごそうか，と現在思案しているところです。老け込む気持ちはまったくありません。頭の働きもまだしっかりしていますし，体の機能も依然として正常のようです。私の父は94歳で亡くなりました。母は現在95歳で健在です。ですから，私もまだまだ長生きするつもりです。事故にでも遭わない限り，おそらくあと少なくとも25年は生き続けることになるだろうと思います。

70歳で引退したからといって，「彼は70歳で亡くなったのに，85歳になるまで埋葬されるのを待っていたそうだ」などと言われたくありません。

では，どんなことをしていったらよいのでしょうか。

新約聖書全体を通じて，救い主の生涯のうち，12歳から伝道を開始されるまでの間のことについて触れた聖句は1カ所しかありません。私はその聖句を，青少年向けの話の中でたびたび引用してきました。しかし今は，青少年だけでなく，私たちすべてにも当てはまるのではないかと考えています。特に第一線から退いた人々にはそうかもしれません。ルカはこう記録しています。「イエスはますます知恵が加わり，背たけも伸び，そして神と人から愛された。」(ルカ2：52)

現代風の言葉で言えば，救い主は肉体的にも精神的にも，社会的にも，霊的にも成長された，と表現できるでしょう。なんとすばらしい模範でしょうか。

肉体的な成長

もちろん私たちの肉体は徐々に年老いていきます。それが人生です。しかし，私たちには，適切な運動や健全な食生活を通し，また日々健康に気を配ることによって，できる限り健康を維持していく義務があるのではないかと



考えています。ジョセフ・アンダーソン長老は100歳まで水泳を続け，亡くなるまで散歩を日課としておられました。また私のおじのミルト・バックマンは94歳の今なおラケットボールを楽しんでいますが，私もこういう人たちの模範を見習おうと思っています。

精神的な成長

人はいくつになっても健全な精神の発達に心を配る必要があります。それは，精神も肉体の筋肉同様，常に鍛練を必要としているからです。この点で私は，良き隣人であるペリス・ジェンセン兄弟の模範に従いたいと考えています。彼は81歳でブリガム・ヤング大学を卒業しました。またブルース・R・マッコンキー長老の未亡人であるアメリア・マッコンキー姉妹は，ご主人を亡くしてから，絵の勉強を始められました。

私自身はすでにピアノのレッスンを受け始めています。また，コンピュータもマスターしたいと思っていますが，それには随分長生きしなければならないようです。

社会的な成長

私たちには，同胞のために奉仕をする機会が数多く用意されています。どこに住んでいようとも，社会の人々は，立派に生涯を送ってきた年輩の人々の知恵と経験を切に必要としています。引退した人たちがボランティアとして参加してくれなければ，私たちの住む町はひん死の重症に陥ってしまいます。私は自分の将来のことを考えるとき，ローエル・ベニオン兄弟が生涯を通じて力を注ぎ，とりわけ引退後にさらに力を注いだ比類ない善意の社会活動のことが頭に浮かんできます。彼の生き方は，真のクリスチャンの生きた模範でした。絶えず「わたし〔たち〕の兄弟であるこれらの最も小さい者」(マタイ25：40)たちに手を差し伸べてきたからです。

霊的な成長

引退するに当たって私が危険なことのひとつとして考えているのは，一般社会からも身を引いてしまうことです。そうなると内にこもってしまって，世間の人々から「もうあなたは必要ではない」と言われているように感じてきます。高齢化社会が進めば進むほど，引退する人々の数もますます増えていきます。私は，教会が引き続き私たちを活用してくださるよう，心から願っています。私たちは生涯を通じて，試され，試練を受けてきました。これからの社会が，私たちの経験してこなかったような問題に直面することは，それほどないのではないかと思います。何が大切で，どういうものが永遠の幸福をもたらすのか，といったことを私たちは長年学んできました。どうぞ，

私たちの経験を，私たちの証を，私たちの知恵を，そして私たちの理解力を利用してください。私たちは今でも神の王国の建設のためにお手伝いができると考えています。神は，得られるならどんな助けでも必要としておられるからです。

主のみ業の奉仕には引退というものがありません。永遠の進歩の原則を信じている私たちは，生涯を通じて霊的にも成長を続けていく必要があります。最後まで耐え忍ぶよう教えているのは，ほかならぬ福音なのです。

「耐え忍ぶ」という語には，非常に興味深い意味が含まれています。「耐え忍ぶ」という語からは「苦しみ」を連想しがちですが，英語の endure, つまり「耐え忍ぶ」という語の語源が，ラテン語の indurare, つまり「鍛練する，困難に対して備えをする，長持ちさせる」という意味であることを知って，興味深く思ったものです。ランダムハウスというアメリカの大きな英語辞典には，endure つまり「耐え忍ぶ」という語の意味がいろいろと定義されていますが，その中でも私が一番好きな定義をご紹介しましょう。こう書かれています。「価値，功績，偉大さなどに関して，継続的または永続的にその意義を認め，その認識を持ち続けること。」

この召しを果たしている間に幾度か経験させていただいた，この上ない喜びを思うとき，そのようなすばらしい霊的な経験をこれで終わりにしたくないと心から願います。これからも何か奉仕の機会をいただければ，きっとそのような経験ができるものと確信しています。

過去数年間，伝道活動に深くかかわってきましたので，年輩のご夫婦に輝かしい機会が与えられる様子を拝見してきました。彼らは，現役の時と同じように，同胞のためにすばらしい働きを続けています。教会は私たちのような年輩者を数多く必要としているのです。

私の話をお聞きになっている皆さんの中にも，伝道に出ることに喜びを見いだした方が数多くいらっしゃいます。貴いみ業のために己を忘れ，はつらつとした態度で自分を律し，福音のこと以外には目もくれないほどに献身し，ただひたすら，出会う人々すべてに自分の証を分かち合おうと努めてくださった方々です。私もできるなら同じように働かせていただければ，と願っています。

私は今，ロイス・フランドロご夫妻のことを考えています。ふたりは，退職した後，スペインへ伝道に出かけ，非常に立派な働きをされました。帰国後も，そのすばらしい経験が忘れられず，ふたりで伝道管理部へおいでになって，今度はどこで働いたら一番役に立つと思うかと，尋ねられました。ハンガリー語を勉強していただくことになるかもしれません，と言うと，ふたりは直ちに勉強を開始されました。3カ月後に，ハンガリーへ召されて行ったふたりは，そこでもまた見事な働きをなさいました。そして今は，モンゴルに赴く準備をしておられます。

いわゆる「安住の地」を離れて出かけて行くことに，恐れを抱いている人が大勢います。そのため，そのような人々は，人生で最高の冒険の機会を逃してしまっているのです。

ハロルド・サルウェイご夫妻は，これまでフィジー，アイルランド，南アフリカ，イスラエル，英国，カリフォルニアで伝道に携わってこられました。今また，フロリダへ伝道に出かける準備をしていらっしゃいます。健康の続く限り，伝道を続けていくおつもりです。これまでどれほどすばらしい働きをしてこられたでしょう。またどれほど豊かな祝福をお受けになってきたでしょう。

最近，ミズーリ州インデペンデンス伝道部のトーマス・R・マレー伝道部長から，伝道管理部あてに，1通の手紙をいただきました。そこにはロナルド・スミス長老ご夫妻の伝道活動について，次のような報告が書かれていました。

「スミス夫妻は，ネブラスカ州ネブラスカシティーに測り知れないほどの業績を残しました。18人にバプテスマを施し，ふたつのワード部でかなりの数の人々を再活発化し，毎月相当な距離を伝道して回りました。さらに，地元の新聞に寄稿し，地域のために有意義な奉仕活動をし，ボーイスカウトの活動を活性化し，ワード部の指導者を強め，フェローシップを怠らず，友人をたくさん作り，地元の教会の広報活動のために多大な貢献をしました。」

スミスご夫妻にとって，これ以上に生産的で有益な時間を過ごす場が，ほかにあったでしょうか。これ以上に実り豊かな奉仕をする機会が，ほかにあったでしょうか。

年を取ってしまってから外国語を学ぶことはできないと考えている人もいますが，それは間違いです。外国語の知識がまったくないままに宣教師訓練センターへやって来て，2カ月後には，コミュニケーションの技術を習得してセンターを出て行かれるご夫婦を，これまで幾組となく見てきました。そうして習得した外国語にも，伝道地へ赴任して，愛と奉仕の働きをするようになると，一層磨きがかかります。たとえその新しい外国語がむずかしくても，年輩のご夫婦たちは，ただそこにいるというだけで，その伝道部に欠くことのできないすばらしい働きをします。このような人々の経験と模範，そして信仰は，経験の浅い教会員を訓練するうえで，実に大きな助けとなります。世界中で神の王国が成長を続けるためには，そうした人々の働きが絶対に欠かせないのです。

カリフォルニア州のオークランド伝道部で東南アジアの人々のために宣教師として働いているすばらしいご夫婦にお会いした時のことを，今でもよく覚えています。この夫婦宣教師と，新しく改宗したばかりの幸せそうな末日聖徒たちの間に，強い愛のきずながあることを感じた私は，その姉妹に彼らの言葉が話せるのかどうか尋ねてみました。「話せません」という答えが返ってきました。それでは会員たちとどうしてコミュニケーションを図れるのですか，と尋ねると，その姉妹は，目に涙をいっぱい浮かべてこう答えたのです。「私たちが彼らを心から愛しているからです。」

14年にわたって恵まれた経験をさせていただいたことを，本当に感謝しています。しかしこれから先，黄金の年代になって与えられる数々のチャレンジも心待ちにしています。新しい経験，新しい冒険，新しい地平線，新しい世界を次々に自分のものとしていけるのを楽しみにしています。また，肉体的にも精神的にも，社会的にも，霊的にも成長できる新しい機会が与えられる日を心待ちにしています。これからも生涯を通じて，自分が神の御子イエス・キリストの弟子であることを証していけるような生活を送りたいと願っています。

皆さんも私も，主のみ業のために全力を尽くし，実り豊かな働きを終えた日には，パウロと共に喜ぶことができますように，心から祈っています。パウロはこう言っています。「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき，走るべき行程を走りつくし，信仰を守りとおした。今や，義の冠がわたしを待っているばかりである。」（IIテモテ４：７－８）

召しを解かれるに当たり，1978年に私自身が語った言葉を補足したうえで引用させていただき，話を終えようと思います。その時語った言葉も，その後，かけがえのない経験を積ませていただき，私にとって，はるかに深い意味を持つようになりました。

ベンソン大管長は，私たちが受けられる最も大いなる誉れは，神の教会の会員となることである，と言われました。私はその教会の会員となっています。また，キリストが私たちの救い主だと知ることであると言われました。私もそれを知っており，皆さんにそれを証します。また，主の聖なる神権を受けることであるとも言われました。私はその神権をいただいています。さらに，永遠の家族の一員になることであるとも言われました。私はその家族の一員です。（「聖徒の道」1978年10月号，p. 114参照）ですから私は，あらゆる人の中で，最も誉れを受けた者，最も祝福された者のひとりと言えるでしょう。また私は，与えられた神聖な召しに心から感謝しています。全時間を主のみ業のために捧げる機会が与えられたことを，心からうれしく思っています。

私がこれまでの生涯でいただいてきた数々の祝福も，心に刻み込まれているいとおしく貴重な経験も，みな，私が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であったからこそもたらされたものです。また，主を愛し，神聖な福音に対する証を持ち，奉仕の機会に真心からこたえたからこそ，もたらされたものです。

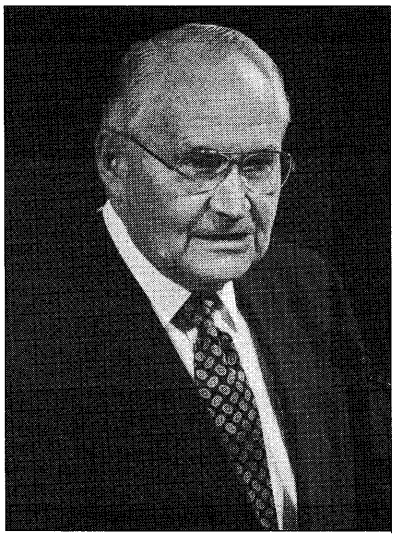
愛する教会幹部の皆さん，妻も私も，今なお，皆さんの望まれる所ならどこへでも出向き，皆さんの要望におこたえする心の準備はできています。私たちはただひたすら，主のみ手にあってその器となって働き，皆さんのお役に立つことだけを願っています。皆さんは，神の王国を築き，主の民を清め，栄光のうちに再臨されるキリストのために道を備えるという重大な責任を担っておられます。その日には，あらゆる人がそのひざをかがめ，すべての舌がこのお方こそ世の救い主であると告白するでしょう。以上のことをイエス・キリストのみ名により証申しあげます。アーメン。



「主は大きな驚嘆すべきことを私に教えたもうた」

十二使徒定員会会員
L・トム・ペリー

私たちは人類史上最も栄光に満ちた時代に生きています。主の祝福を受ける機会にこれほど恵まれた時代はありませんでした。



ブリガム・ヤング大管長はかつて，聖典を読むことに関して次のような勧告を与えました。「兄弟姉妹，聖典を読むに際して，1千年，2千年，5千年の昔に自分でそれを書いているようなつもりで読んでいるだろうか。実際に記録した人と同じ場所にいるようなつもりで読んでいるだろうか。まだそう感じていなければ，そう感じられるようにすることはあなたがたの特権である。そうすれば，自分の日々の行ないや会話に慣れ親しんでいるように，神のみ言葉の精神と意味とに慣れ親しむことができるだろう。」（「ブリガム・ヤング説教集」ジョン・A・ウィッツォー編，p. 128）

モルモン経には，あらゆる時代に適用できる教訓を伴った特別な物語が，数多く収められています。大いなる情熱と思いを込めて記された書物なのです。ブリガム・ヤング大管長の勧告に従い，ニーファイ人の最後の偉大な予言者モロナイと同じ場所に，私たちがいると考えてみましょう。託された大切な記録を完成させるようにという，父親から授かった任務は困難を極めました。モロナイは，ニーファイの民の完全な滅亡をどれほどつらい思いで記したことでしょう。

自分の民が滅亡に至るまでレーマン人に追いつめられた有様をやむを得ぬ思いで記していきました。孤独感にさいなまれながらも，レーマン人に殺された者の中に父親がいたことも記したのです。モロナイは記録を完成させるためだけに生きていたのではないかと感じます。こう記しています。「私は記録を作ってから地の中に隠しておく。その後私がどうなるかは問う所ではない。」（モルモン8：4）

モロナイに残されていたものといえば，記録を完成させるまでは主が自分を生き永らえさせたもうことと，いつの日かこの記録が主に選ばれた人によって見いだされることへの信仰だけでした。モロナイは，この記録が未来の世の人々に向けた警告の声となるのを知っていました。つまり，人々がニーファイの民と同じように主の教えに背を向けたとき，何が起きるかを伝える働きをするということです。彼は，後の世でこの記録を受ける人々に心を込めて呼びかけています。不従順がもたらす心痛と不幸から，自分の話を読む人々を守りたいと望んでいるのです。

モロナイは，まず教会員に向けて記した後，イエス・キリストの福音を受け入れなかった人々に向けて書いています。モロナイが教会員に向けた言葉の最後は，警告の声となっています。彼は，自分の民の身に起きたのと同じことが，未来の世で起きるのを目にしているように記しています。モルモン経をひもといてみましょう。

「この記録が汝らの中に現われてから間もなく起るはずの出来事について主は前以て大きな驚嘆すべきことを私に教えたもうた。

見よ，私はあなたたちが今目の前にあるかのように話しているが，本当はあなたたちはまだ生れないのである。しかし，イエス・キリストが前以てあなたたちを私に見せたもうたのであなたたちの行いが今私に解るのである。

あなたたちが心の中に誇り高ぶることと，あなたたちの中に非常に華やかな衣を着，ねたみ，争い，怨み，迫害し，あらゆる悪い事を起すほどにおごり高ぶっていない者は僅しかないと言うことと，またあなたたちの慢心によって，あなたたちの教会は一つのこらずすでに汚れ果てていると言うことが前以て私に解っている。

ごらん，あなたたちは金銭と自分の財産と自分の華やかな衣と自分の教会の華やかな飾り物とを，貧しい人々，病気の人々および悩んでいる人々よりも愛するのである。

汚れた人たちよ，偽善者らよ，腐るものに替えて自分の身を売る教師たちよ。なぜあなたたちは神の聖い教会を汚したか。なぜキリストの御名を受けることを恥とするか。永遠の幸福はとこしえに止まない不幸にまさって価値があるのに，なぜあなたたちは世の誉を思ってこのことを信じないのか。」（モルモン8：34―38）



この世で最大のなぞのひとつは，なぜ人類は歴史から学ぶことができないのかということだと思われます。キリストの真の弟子であると公言しながら，人はなぜこれほど頻繁に，世の誘惑の犠牲者となるのでしょうか。しかし主が定められた道を信じて歩む者たちに与えられる祝福は，はっきりとした形で示されているのです。

最近，新聞やビジネス雑誌のいくつかの記事で，依然として教会員密度の最も高い，ここユタ州の繁栄が紹介されました。これらの記事は，こう強調しています。「この地には，高い倫理観とアメリカの繁栄の歴史が息づいている」(「ニューヨークタイムズ」1991年9月15日号，p. 1)

このような記事もあります。「かつてカール・マルクスは，宗教はあへんであると説いたが，ユタ州において宗教は活力の源である。末日聖徒イエス・キリスト教会の多大な影響のおかげで，……ユタ州は，近隣の州にとって羨望の的となっている。」(「タイム」1991年7月29日，p. 22)

さらに，雑誌「ビジネスウィーク」には次のように紹介されました。「ユタ州はまさに全盛期を迎えている。全米50州の中でユタ州は，教育の普及率が最も高く，州民の平均年齢は最も若い。さらに，高校卒業率と大学進学率は共に最高で，大学卒業者の人口に占める割合も9番目に多く，人々が教育を受けた年数の平均は最も長い。また，出生率が最高である一方，死亡率は最低であり，平均余命は4番目に長い。そのほか，発癌率の低い3つの州のひとつであり，心臓病になる率も最低で，アルコールとたばこの消費量は最も低く，平均入院日数も最も短い。このようにユタ州は，健康そのものといった人々に満ち，政治も十二分にその機能を果たしている。」(「ビジネスウィーク」1991年12月16日号，p. 118)

これらの記事に取り上げられている点だけでなく，直接触れられていない事柄も心に留めていただきたいと思います。人々は，個人が達成したことではなく，集団としての達成事項を称賛しているのです。特筆されているのは，ユタ州民全体が成し得たことなのです。地域社会として私たちは世界の模範となっています。またひとつの民として私たちは，利害にかかわる争いや，自制心に欠けた利己主義を克服する力があることを証明してきました。

このような特別な関心が私たちに寄せられていることを，心から喜べたらどんなによかったでしょう。しかし，世間から好評を博しながらも，一方で多くの会員が，主の予言者により幾世代にもわたって語られた言葉に反して，この世的な事柄に執着しているのも事実なのです。

私たちの多くは，貧しく助けを必要としている人たちよりも，きれいな服や家の大きさ，車とその装備の方に心を向けています。また，妊娠中絶の法的認可，ギャンブル，ポルノグラフィーといった危険にさらされています。さらに，公共の場で祈ることに対する批判や法律によって，聖徒たちの連帯感が弱められようとしています。

教会員が末日にあって，大変な困難に直面しているのは明らかです。私たちが真に世の人々とは異なった民となるためには，この世の誘惑とその教えに対し，単に抵抗するだけでなく戦わなければなりません。

取り組むべき課題はたくさんありますが，皆さん一人一人が自分の信念を基として固く立つように願っています。神の子供たちが主のみこころに背く道を歩もうとするとき，その頭に下される旋風のような裁きを逃れる方法はありません。(教義と聖約97：22参照)ニーファイ人を滅びに至らせた運命を避けるためには，モロナイの警告に従わなければならないのです。

私たちはモロナイの感じていた思いを，伝道活動への新たな熱意へと置き換えていく必要があります。モロナイは，人々の心が福音の教えにしっかりととどまっていないときに不信仰がもたらす邪悪と滅亡を証しています。信者に警告の言葉を述べた後，不信者に対して次のように語ったのです。

「今私はキリストを信じない人々についても話をする。

ごらん，主がこの世に来りたもうてあなたたちに現われたもう時，すなわち大地が巻物のように巻かれ，物質が酷熱で熔かされる時にあなたたちは信じないことがあろうか。あなたたちが引かれて神の子羊(イエス・キリスト)の前に立たねばならぬあの大きな日に，あなたたちは神がないと言うだろうか。

あなたたちは，その時まだキリストを否定するだろうか。または，その時神の子羊を見るに堪えられるか。あなたたちは自分に罪のあることを覚りながら，それでもキリストと一しょに住めると思うか。あなたたちは，いつもキリストの律法を濫用した罪を覚ることによって，全身が裂かれるほど良心に咎められながら，あの聖いお方と一

しょに幸福に住めると思うか。

それであるから，信仰のない人々よ。主に立ち帰れ。あの大きな終りの日に，あなたたちがすでに子羊(イエス・キリスト)に血によって清められ，罪なく清く美しい潔白な者と認められるため，イエスの御名によってひとえに一生けんめい御父に祈れ。」(モルモン9：1—3，6)

このような心痛と不幸について証する者の警告の声に，心を揺さぶられない人がいるでしょうか。しかしモロナイの言葉は，よりすばらしい，幸福で喜びに満ちた生活があることを宣言していることも確かです。それは単なる警告の声ではなく，希望の声でもあるのです。すべての神の子供たちは神にとって貴い価値があることを告げているからです。モロナイは，すべての人が不死不滅と永遠の生命を享受するように望みつつ，次のように述べています。

「イエス・キリストの為したもうた人類の贖いによって，人は主の御前に帰ることができる。よって万人が贖い救われるはこれによる。キリストの死は復活を来し，復活は人を永遠の眠りから救う。永遠の眠りはラッパが鳴りひびく時に神の力によって万人がこれから呼び覚される。そして大小の区別なくあらゆる人々が，みなこの永遠の眠りである肉体の死の縄目から救われ放されるのでここによみがえって神の法廷に立つ。

その時みなは聖者の裁判を各々受けて，汚れた者は汚れた有様に，義しい者は義しい有様に，幸福な者は幸福な有様に，また不幸な者は不幸な有様にとどまる。」(モルモン9：13—14)

私たちの救い主である主の福音が回復されたのは，すべての天父の子供たちを祝福するためです。私たちが現世にいるのは，それを宣言するためでもあります。このことを皆さんに知っていただきたいと思います。近代のある予言者は次のように述べています。

「私たちの目標は，世界中に福音を伝えることです。これは確かに壮大な計画です。しかしご承知のようにこの計画は，主がすでに予見され，私たちに命じられたものなのです。」(スペンサー・W・キンボール，地区代表セミナーにおける説教，1976年4月5日，p. 1)



皆さんが，この福音の輪に加わって，人生のもたらし得る真の喜びを見いだせるよう願っています。

今日，私たちは落胆や失望，自信と希望の喪失に取り巻かれています。このような陰うつさにはどんな意義があるのでしょうか。ここで，私たちが主と誓約を交わした時に約束された偉大な祝福について考えてみましょう。主は創世の前から，私たち一人一人と，忠実であればご自身がお持ちのすべてのものを与えるという，朽ちることのない厳かな誓約を結んでおられます。主はこう言われました。「汝らわが言うところを行わば，主なるわれこれに対して責任あり。」(教義と聖約82：10)

厳かな誓約により，主はこの取り決めに伴うご自身の役割を果たされます。したがってこれらの偉大な祝福を享受できるか否かは私たち次第です。すなわち一人一人の行ないにかかっているのです。では私たちにはどのようなことが求められているのでしょうか。

まず，主の律法に従順であるべきです。これは，アダムとイヴに与えられた最初の教えです。つまり，従順が信仰をもたらすということです。また従順は天の祝福ももたらしてくれます。これに対し，不従順がもたらすのは，心痛と絶望だけです。

従順の律法に続いて求められているのは，天父の子供たちへの奉仕です。同胞を益するために，自らの持てる物を捧げることは，福音に含まれる大いなる試しといえます。現世での生涯の目的のひとつは，私たちが救い主の次のような教えに従うかどうかを試されることです。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば，これらのものは，すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6：33)

私たちは人類史上最も栄光に満ちた時代に生きています。主の祝福を受ける機会にこれほど恵まれた時代はありませんでした。それは，主に仕え，奉仕がもたらす尽きることのない喜びを味わう機会についても同様です。

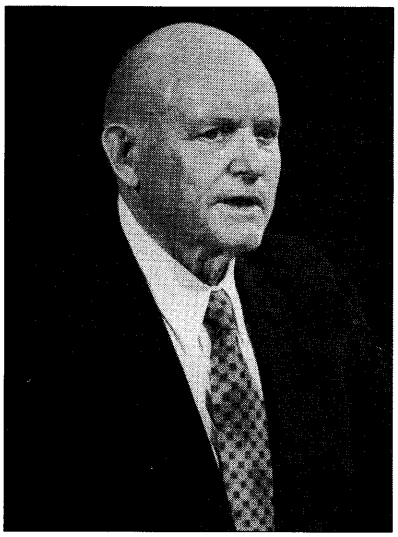
モロナイをはじめとするすべての予言者の言葉を心と霊に刻み込み，神の永遠の律法への不従順によって生じた過去の過ちを繰り返さないようにしようではありませんか。そして，私たちには福音の実を味わう力があることを思い起こしましょう。主の律法に従い，奉仕と犠牲を通して，主に求められることを喜んで行なうなら，永遠の喜びが与えられると，主が約束されたからです。

神が生きておられ，イエスがキリストであり，永遠の父なる神の御子であることを証します。これらのことを主なる救い主，イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

平和な港の光

十二使徒定員会会長
ハワード・W・ハンター

過去，現在，未来を問わず，この世の中に最も必要なのは，ナザレ人イエス……の大切な教えに対するいきいきとした心からの信仰です。



愛する兄弟姉妹の皆さん，私たちは近年希望に満ちた変化を目の当たりにしてきましたが，今なお世界中に争い，悲しみ，失望が満ちあふれていることも忘れてはいません。

新たな紛争，悲しみ，そして頻発する全面的な戦争を伝える地元や海外からのニュースに，私たちは心を引き裂かれるような思いでいます。私たちは，世界がもっと住みやすい所となり，人々が互いに思いやり，平和と安らぎがあらゆる方面に浸透してすべての人に及ぶように願っています。

そのような平和と安らぎを求めることに関して，先人の偉大な言葉を引用したいと思います。

「世界をさらに住みやすくするうえで，最初に踏むべき最も重要なステップは，全幅の信頼を置ける指導力を備え，実践して間違いのない教えを語る指導者を選ぶことである。荒れ狂う海の中を行く指導者に求められるのは，あらしのかなたに平和な港の光を見いだす力である。」（デビット・O・マッケイ「人はその心に思うごとく」p. 407）

末日聖徒イエス・キリスト教会のこの総大会のメッセージは，世界にはそのような導き手となる唯一の方がおられるということです。そのお方は完全な信頼に値する唯一の光であり，絶対確実な光です。この光の方とは，世の光であり命であるイエス・キリストです。モルモン経の予言者はキリストを，「その光はとこしえであっていつまでも薄らぐはずがない」（モーサヤ16：9）と表現しています。

個人，家族，地域社会，国家の別を問わず，安全で平和な港を求めるなら，最終的に頼ることのできる光はキリスト以外にありません。キリストはご自身の使命についてこう言われました。「わたしは道であり，真理であり，命である。」（ヨハネ14：6）

過去，現在，未来を問わず，この世の中に最も必要なのは，ナザレ人イエス，生ける神の御子の大切な教えに対するいきいきとした心からの信仰です。多くの人がこの教えを拒んでいますが，それだからこそイエス・キリストの福音を心から信ずる人は，それが真実であることを証し，模範を通して，正しく隠やかな生活がもたらす力と安らぎを示さなければならないのです。

ひとつの例として，キリストが弟子たちにお与えになった次の教えについて考えてください。「敵を愛し，迫害する者のために祈れ。憎む者に親切にせよ。辱める者のため祈れ。」（欽定訳マタイ５：44）

この勧告が私たちの隣人，また地域社会，あるいはひとつの大きな家族を形成する国家の中にあって，どのような変化をもたらすか考えてみてください。確かにこの教えは大きなチャレンジです。しかし世界が今も直面している戦争，貧困，苦悩がもたらす大きな困難を考えれば，これは納得のできるチャレンジです。

心を傷つける人，誤解する人，また不当な扱い，心ない扱いをする人，自分に罪を犯す人，皆さんはそのような人々に対してどうすることを求められているのでしょうか。愛する人に傷つけられたり，また昇進の機会を先送りにされたり，偽りの訴え，自分の考えに対する不当な攻撃を受けた場合，どうするように求められているのでしょうか。

やり返しますか。何倍にもして，復讐しますか。目には目，歯には歯の時代の人間に戻りますか。それとも，「屋根の上のバイオリン弾き」のテビエのように，そんなことをしていれば最後はすべてをなくしてしまうということに気づくことができるでしょうか。

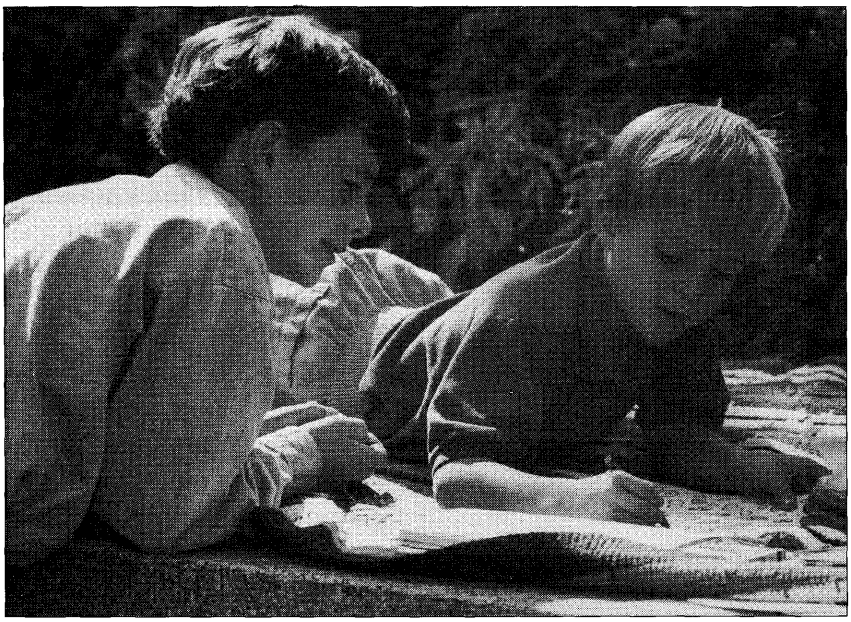
私たちは皆，キリストの教えを実践するすばらしい機会を持っています。あらゆる機会にその努力をすべきです。たとえば，私たちはもう少し寛容になれるはずです。主は末日の啓示の中でこう言われました。

「古えわが弟子たちにして陥入れんとする機をねらい心中互いに相赦すことなき者ありたるが，彼らはこの悪のために苦しみまた甚しき懲しめを蒙りしなり。

この故にわれ汝らに告ぐ，汝ら互いに赦し合うべきなり。そは，人その兄弟の過ちを赦さざれば，その人主の前に罪に値する故にして，そは更に大いなる罪なお彼に在ればなり。

主なるわれは，その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる。」（教義と聖約64：8—10）

キリストはその高貴な生涯と模範による教えの中で，多くの勧告を与え，必ず確かな約束も添えてくださいまし



た。キリストは威厳と権威をもって，知識のある人にもない人にも，また富める人，貧しい人，健康な人，病気の人にも，希望に満ちた教えをお説きになりました。

キリストのメッセージについて，ある作家はこう書いています。それは「ひとりで聞く者にも，魅せられた群衆にも，甘美で心を満たすものであった。しかし，その最もすばらしい教えのいくつかは，支配者や群衆にではなく，ユダヤ人の会堂から追い出された者，やみの中をおずおずと訪ねて来た者，昼の井戸端にいた女などに与えられた。その教えは儀式や瑣末なことよりも，人の魂や行く末，そして信仰，希望，愛に満たされた生活に深くかかわるものが多かった。心の奥底の聖い思いから発したそのメッセージは，聞く者すべての心を強く揺さぶった。つまるところ，その方の権威は神の権威だったのである。キリストの声は純粋で，憐れみに満ちていた。最も厳格な戒めでさえ，その底には言葉には出ない愛が込められていたのである。」(フレデリック・W・ファーラー「キリストの生涯」p. 215)

キリストの勝利を伝えるひとつのすばらしい物語について話したいと思います。その勝利とは，人を苦しめ，試し，恐れを抱かせるかのように思われているものへの勝利です。キリストの弟子たちが，忙しい旅の中，ガリラヤ湖を渡っている時のことでした。夜のやみの中，風が吹きすさんでいました。波が逆巻き，風が激しく吹く中で，この肉をまとった弱い人々は恐れるばかりでした。折あしく，この弟子たちの中にはあらしを静め，彼らを救えるだけの人がいませんでした。イエスは遠く離れた岸の方に残ってとどまっておられたのです。

しかしイエスはいつも彼らを見守っておられました。彼らを愛し，心にかけておられたのです。彼らはこれで最期かと思った時，やみの中にだれかの姿を見ました。その人は激しい風に衣を吹かせながら，海の上を自分たちの方に向かってきました。彼らはそれを見て，幽霊が波の上を歩いているのだと思い，恐怖の叫びを上げました。人生のやみの中では，海はことさら大きく，自分の船は小さく思えることがよくあるものです。そして，その時あらしとやみの中に，ほかにたとえるもののない，安らぎをもたらす声が，彼らの耳に聞こえてきました。「わたしである。恐れることはない。」ペテロが言いました。「主よ，あなたでしたか。……わたしに命じて，水の上を渡ってみもとに行かせてください。」この時のキリストの答えは，私たちに対して下さる答えと同じものでした。主は「おいでなさい」と言われたのです。

ペテロは船から降り，騒ぎ立つ波の中に足を踏み入れました。目をしっかりと主に向けているうちは，風が髪を巻き上げ，しぶきが衣をぬらしても，だいじょうぶでした。しかし，信仰が揺らいで，主から目をそらし，逆巻く波と深いふちを見たときに，ペテロの体は水の中に沈み始めました。私たちと同じように，ペテロはもう1度「主よ，お助けください」と叫びました。イエスは彼をお見捨てにはならず，手を伸ばして，おぼれる弟子をつかみ，やさしく叱責されました。「信仰の薄い者よ，なぜ疑ったのか。」

ふたりが船に乗り込むと，風が弱まり，波も静まりました。ほどなく船は，皆が待ち望んでいた安全な港へ入りました。弟子たちだけでなく，船の中にいた者たちも心から驚き，私が主を呼ぶときと同じように，イエスに向かって「ほんとうに，あなたは神の子です」と言いました。(ファーラー「キリストの生涯」pp. 310—313参照。マタイ14：22—33参照)

個人，家族，地域社会，そして国として，ペテロのようにイエスをしっかりと見つめるなら，不信仰という荒波に勝ってその上を歩き，激しく吹きすさぶ疑いという風の中にあってもひるむことはないと，固く信じています。しかしもし私たちが，信仰を寄せるべきキリストから目をそらしたらどうなるでしょうか。それはたやすく起こり得ることです。この世にはそのような誘惑があふれています。私たちを助け，救う力のあるお方ではなく，周囲に渦巻く破壊的で恐ろしいあらしの猛威に目を奪われたら，争い，悲しみ，失望の海の中に沈んでいくに違いないのです。

皆さんが洪水に押し流され，信仰を激しく揺さぶられ，今にも深みに飲み込まれてしまうのではと感じるときに，そのあらしとやみの中から必ず，世の救い主のあのやさしい言葉を聞くことができるように祈っています。

「しっかりするのだ，わたしである。恐れることはない。」

イエス・キリストのみ名によってお話ししました。アーメン。

●1992年10月3日(土)午後の部会

教会役員の支持

第一副管長
ゴードン・B・ヒンクレー



啓示により告げられた全体一致の原則に従い，これから私が教会幹部ならびに教会の中央管理役員の方々の名前を提議しますので，皆様の支持をいただきたいと思います。

予言者，聖見者，啓示を受ける者，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてエズラ・タフト・ベンソンを支持してくださるよう，また，大管長会第一副管長としてゴードン・B・ヒンクレーを，大管長会第二副管長としてトーマス・S・モンソンを支持してくださるよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表わしてください。反対の方はその意を表わしてください。

十二使徒評議員会会長としてハワード・W・ハンターを，また，十二使徒評議員会会員としてハワード・W・ハンター，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ジェームズ・E・ファウスト，ニール・A・マックスウェル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，ジョセフ・B・ワースリン，リチャード・G・スコットを支持してくださるよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表わしてください。反対の方はその意を表わしてください。

大管長会の副管長，十二使徒を予言者，聖見者，啓示を受ける者として支持してくださるよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表わしてください。反対の方があれば同じようにその意を表わしてください。

私たちは，これまで七十人会長会の一員として働いてこられたマリオン・D・ハンクス長老ならびにロバート・L・バックマン長老を感謝を込めて解任したいと思います。同時におふたりを，七十人第一定員会の名誉会員に任命したいと思います。

また，七十人第二定員会会員のジョージ・R・ヒルIII長老，ジョン・R・ラサター長老，ダグラス・J・マーティン長老，グレン・L・ラッド長老，ダグラス・H・スミス長老，リン・A・ソレンセン長老を，教会幹部としてのこれまでの働きに感謝しつつ解任したいと思います。

さらに私たちは，管理監督会において，第一副監督を務めてきたヘンリー・B・アイリング長老，ならびに第二副監督を務めてきたグレン・L・ペイス長老を解任したいと思います。

これらの兄弟たちのすばらしい働きに感謝してくださる方々は，挙手をもってその意を表わしてください。

私たちは，七十人会長会として，ディーン・L・ラーセン長老，ジェームズ・M・パラモア長老，J・リチャード・クラーク長老，レックス・D・ピネガー長老，カーロス・E・エイシー長老，チャールズ・ディディエ長老，L・アルディン・ポーター長老を支持してくださるよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表わしてください。もし反対の方があれば，その意を表わしてください。

4月の総大会以降，新たにカーロス・H・アマーゾー長老，ベンジャミン・B・バンクス長老，スペンサー・J・コンディー長老，ロバート・K・デレンバック長老が七十人第一定員会会員の召しを受けられました。

さらに私たちは，ヘンリー・B・アイリング長老とグレン・L・ペイス長老を七十人第一定員会の会員として支持するように提議いたします。

これらの兄弟たちを支持してくださる方はその意を表わしてください。もし反対の方があれば，同様にその意を表わしてください。

4月の総大会以降，新たに七十人第二定員会の会員として，以下の方々が召されました。リノ・アルバレス長老，ダラス・N・アーチボルド長老，メリル・J・ベイトマン長老，C・マックス・コールドウェル長老，ゲーリー・J・コールマン長老，ジョン・B・ディクソン長老，ジョン・E・ファウラー長老，ジェイ・E・ジェンセン長老，アウグスト・A・リム長老，ジョン・M・マドセン長老，V・ダラス・メリル長老，デビッド・E・ソレンセン長老，F・デビッド・スタンレー長老，戴國源(タイクオックユン)長老，ローウェル・D・ウッド長老です。

この決定に賛成し，これらの兄弟たちを支持してくださる方々はその意を表わしてください。もし反対の方があれば，その意を表わしてください。

私たちは，管理監督会の管理監督としてロバート・D・ヘイルズ長老を，管理監督の第一副監督としてデビッド・バートン長老を，第二副監督としてリチャード・C・エッジリー長老を支持するよう提議いたします。

この提議に賛成してくださる方はその意を表わしてください。もし反対の方があればその意を表わしてください。

これまで中央日曜学校会長会として働いてくださったヒュー・W・ピノッ

ク長老，ハートマン・レクターJr.長老，クリントン・L・カトラー長老を，また中央若い男性会長会で第一副会長の任にあったロバート・K・デレンバック長老と第二副会長の任にあったスチーブン・D・ナドール長老を，私たちは感謝の意をもって解任したいと思います。感謝してくださる方々は，挙手をもってその意を表わしてください。

私たちは，中央日曜学校会長会として，マーリン・R・リバート長老，クリントン・L・カトラー長老，ロナルド・E・ポールマン長老を，また中央若い男性会長会の第一副会長としてスチーブン・D・ナドール長老を，第二副会長としてL・ライオネル・ケンドリック長老を支持してくださるように提議いたします。

この提議に賛成してくださる方はその意を表わしてください。もし反対の方があれば，その意を表わしてください。

私たちは，そのほかの教会幹部，中央管理役員を現状のままで支持してくださるよう提議いたします。

この提議に賛成してくださる方はその意を表わしてください。反対の方があれば，その意を表わしてください。

提議は全員一致で支持が得られたようです。

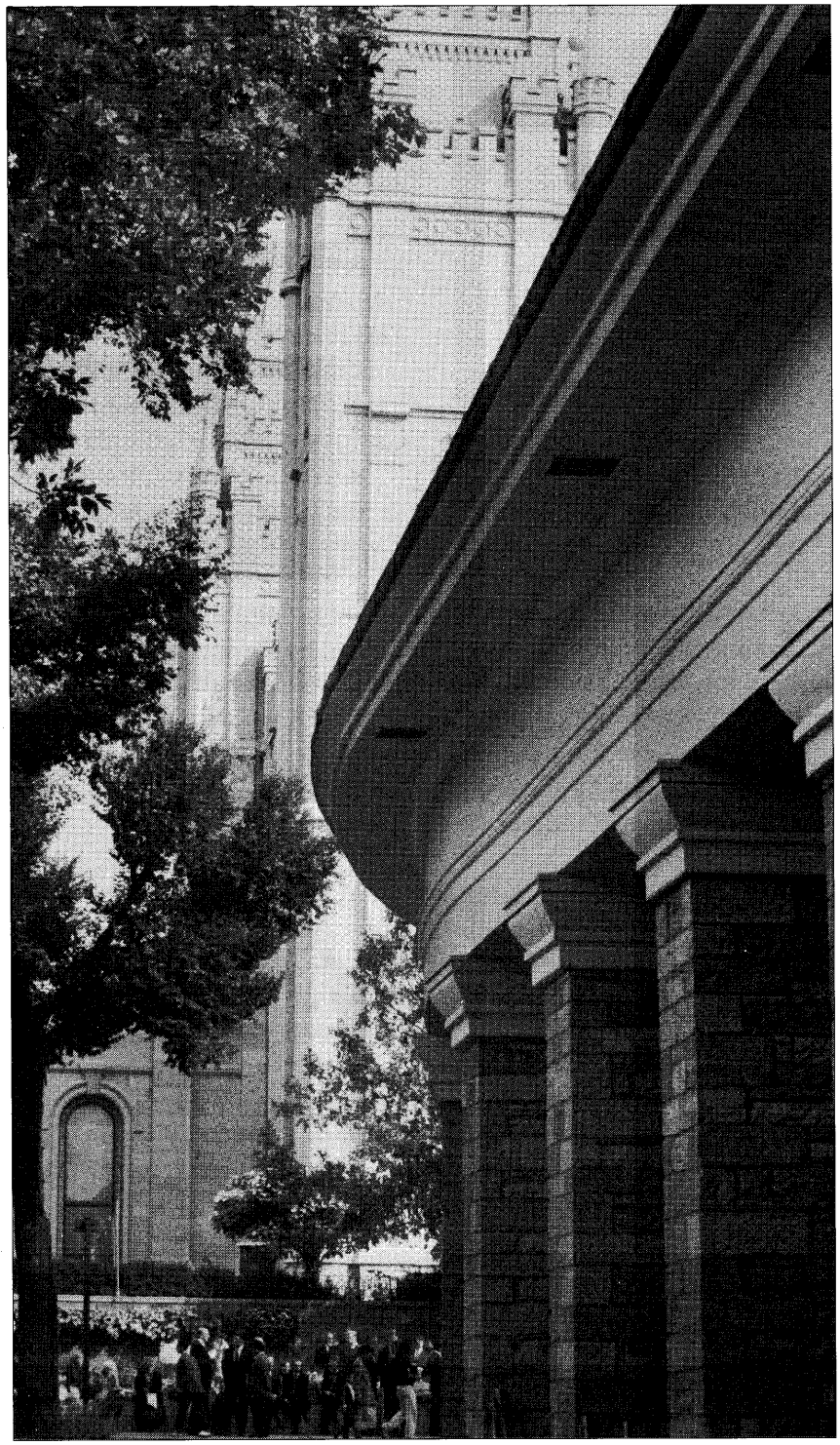
新しく召された管理監督会副監督の方々は，壇上にご着席ください。

兄弟姉妹の皆さんの愛が込められた支持の挙手に感謝いたします。

さて，ここで教会員の皆さんにお知らせしたいことがあります。現在，カリフォルニア州のサンディエゴ神殿の建築が計画どおり進行中であり，来春，献堂される予定です。また，フロリダ州のオーランド神殿とユタ州のバウンテフル神殿の建築も予定どおり進められています。ミズリー州のセントルイス，コロンビアのボゴタ，エクアドルのグアヤキルにおいても，近い将来の神殿建築を目指して，計画が進んでいます。

喜んで皆さんにご報告したいことはこれだけではありません。広大なアジアの地に住む教会員の必要を満たせるよう，香港（ホンコン）に新しく神殿を建てるための敷地が選定されました。このほかにも神殿用の敷地が，コネチカット州ハートフォードに選定されました。これはニューヨーク，ボストンをはじめ，ニューイングランド地方から訪れる教会員に対応するためです。そして，現在その収容力をはるかに上回る業務が行なわれているプロボ神殿の問題を緩和させるため，ユタ郡にも新たな神殿用の敷地が選定されました。以上申しあげた以外にも神殿建築の予定がありますが，その場所については後日，ご報告いたします。

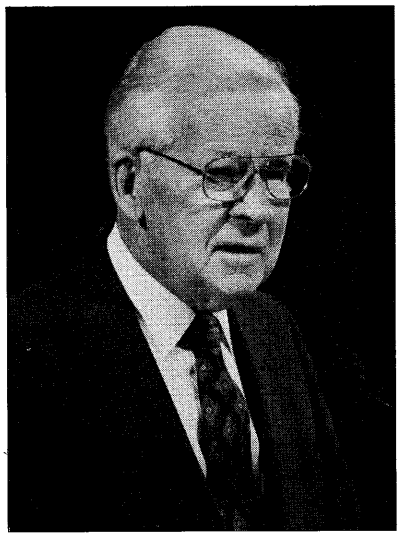
ご協力ありがとうございました。



郷　愁

十二使徒定員会会員
マービン・J・アシュトン

私たちが〔心の故郷への〕あこがれを感じるとき，……それはおそらく心の中心である主を求め，主から離れたくないという願いの表われかもしれません。



皆さんはこれまでにおそらくホームシックにかかったことがあるでしょう。それは，アメリカの子供たちがよくしているように，初めて友達の家にひと晩泊まりに行った時だったかもしれません。友達と一緒にいたい反面，両親や，安全で心地よい家にいるという安心感を求めて寂しく思ったことでしょう。

後に大学や伝道のために家を出たり，結婚して家から遠く離れた所に住むようになったりして，ホームシックが長く続くこともあるでしょう。あるいは，両親が離婚して今までとは違った環境，義父母や新しい親類になじむように努めているときに感じることもあるでしょう。このような見知らぬ環境に適応するときには不安と孤独感を覚え，家へ帰りたいと切望することでしょう。

先日ある伝道部長から，ひどいホームシックにかかって悩んでいる宣教師と面接するように頼まれました。その宣教師は家へ帰りたいという思慕の情があまりにも強いために，宣教師としての務めが十分に果たせず，時間を浪費し，伝道に集中できず，現在の召しに嫌悪感を抱いていました。私は彼に，良い意味のホームシックはむしろ望ましいものではあるが，決してその気持ちにおぼれてはならないと教えました。まず最初に，思慕とは「強く深い望みを持つ，あこがれる」という意味だと述べておきます。しかしこの宣教師は心から今の状態を改善したいと思ったようです。家への思慕の情も適度であるならば益になるのです。

子供だけでなく大人も，楽しいときにも苦しいときにも家を思います。家で教えられ分かち合うことのできた愛や承認，安心感，理解，指導などを求めてホームシックになるのです。家は重荷を下ろし世に立ち向かうための力を新たにする所であり，慰めと喜び，理解に満ち，最も良い友達がおり，できるだけ良い人になる方法を学ぶ所です。

私たちが決して見失ってはならないある種の郷愁があります。家は本来いかりであり，あらしを避ける港であり，愛し愛される幸福な住まいです。また人生の最も大切な教訓が教えられ学べる場所です。家庭と家族は，互いに愛し合い責任を分かち合いながらこの地上で信仰をはぐくむための基盤となります。楽しく幸せな思い出に満ちた家を懐かしく思うことによって，私たちはこの地上での生活を送る間にだんだんと強くなれるのです。

ベンソン大管長はいつも子供時代に過ごした家を懐かしんできました。生まれ故郷のアイダホ州ホイットニー，そして立派な両親の元に11人の子供たちが生まれ育った自営農場が大好きなのです。

大管長は生涯世界中を旅してきましたが，たびたび故郷に帰りたいと思い，実際に帰郷しました。彼の心はいつもキャッシュバレーにあり，今もなおそこに住んでいる家族に会い，幼友達や隣人，先生や監督，そして彼の人生に良い影響を及ぼしてくれた親類を訪ねるのを楽しみにしています。大管長は彼らを「この世で一番すばらしい人たち」と呼び，ホイットニーを「理想的な農場社会」と呼んでいます。

生まれ故郷に帰り，彼を養い育て，人格を築き，神や家族，国家のために生涯を捧げる神聖な第一歩を踏み出した所へ戻ることは，ベンソン大管長にとって活力をよみがえらせる何よりの方法なのです。本当に，ベンソン大管長は子供時代に過ごした家を愛しています。

私は今日，家を懐かしく思わない人々のことを心配しています。私たちの中にそのような人がいるのは不幸なことです。彼らには抑え難い郷愁の念を覚えるほど望ましい家族生活の経験がないのです。私たちにはそのような人々と良い隣人や友達になり，私たちの家庭の温かさを分かち合う責任があります。

私たちが何者であるかを知ることは大切ですが，主を愛し主の戒めを守る人々に天父が用意されたすべての祝福を受けたいと思うならば，私たちが地上の家と天の家に対してどのような関係にあるかを知ることが不可欠です。永遠の家が私たちの最終的な目的地です。正しい郷愁は私たちが道に迷うのを防いでくれます。

ある夏，カナダのアルバータ州で若い女性の大会が開かれ，300人の少女たちが松林の中でテントを張りました。あいにく毎日雨が降り，とても寒くじめじめした天候でした。それにもかかわらず，キャンプの中で不平を言う人

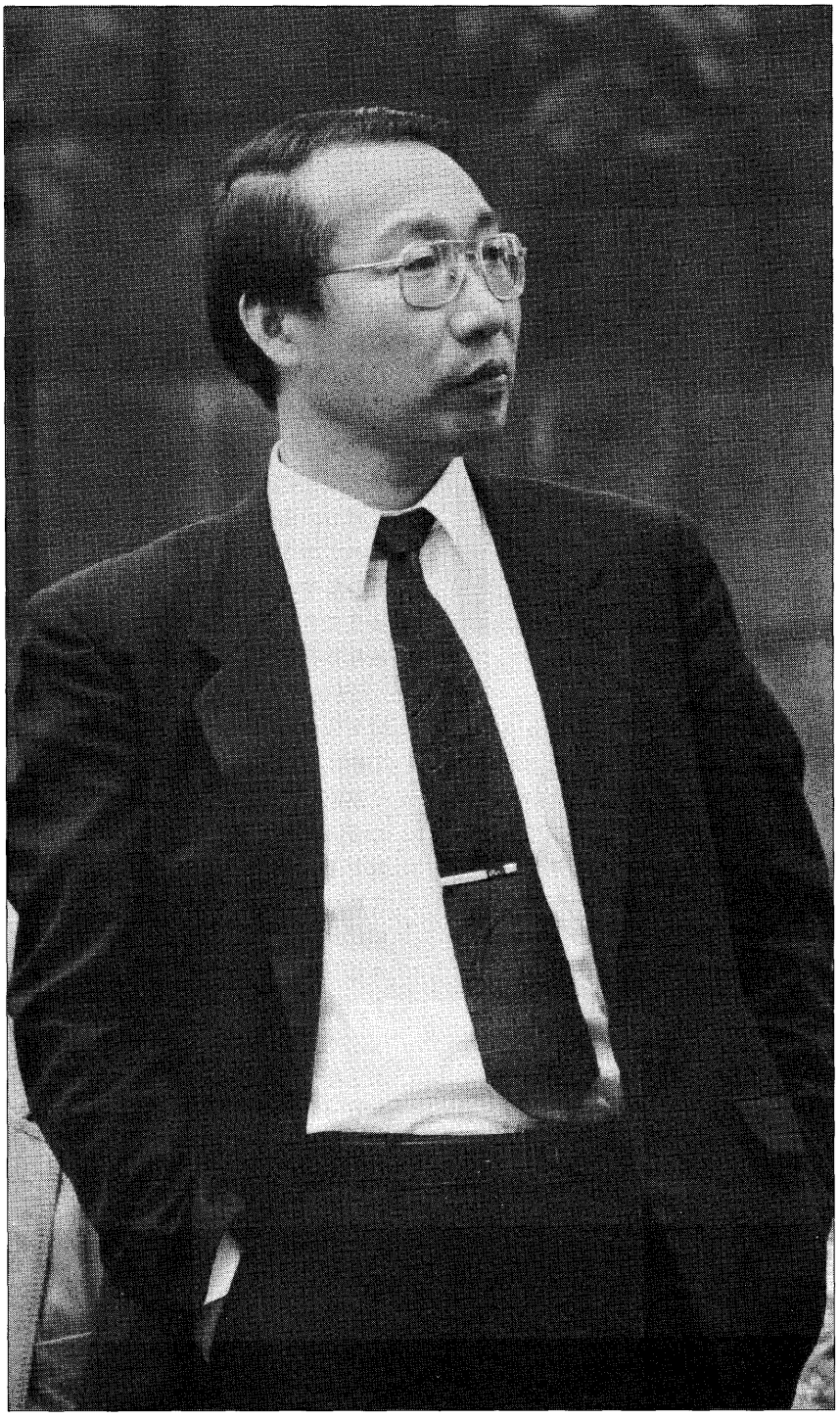
はひとりもいませんでした。大会の最終日，指導者が曇り空の下で若い女性に話をしました。季節外れの寒さでしたが，皆この仮の家に対して温かい気持ちを感じていました。寒さのために逆に皆が肌を寄せ合い，心の中で温かさを感じたのかもしれません。

話し手は開口一番こう尋ねました。「皆さんはこの大会が終わったらどこへ行きますか。」300人の若い女性たちは松林に響き渡る大声で異口同音に答えました。「家へ。」もう一度聞きました。「どこへですか。」するとさらに大きなはっきりした声が返ってきました。「家へ。」皆どこへ一番行きたいかをよく知っており，何より家へ帰りたかったのです。

最も魅力的な家は，天父と御子イエス・キリストと正しい関係を持った私たちの家族と一緒に住む家です。放蕩息子でさえ家の魅力をはねのけることはできませんでした。彼は父親や家庭生活，親譲りの権利を捨て，財産を放蕩に使い果たしました。そして全財産を失い，豚のえさのようなものを食べて飢えをしのぐようにまでなった時，家を思い出したのです。畑に落ちているいなご豆の皮を拾い集めていた時，以前彼のものであった安全で心休まる温かい家を懐かしむ気持ちがわいてきたのでしょうか。ホームシックにかかったのでしょうか。彼は悔い改め，父親は召し使いとしてなら自分を受け入れてくれるだろうと思い，とうとう家へ帰ったのです。父親は大喜びして両手を広げて息子を迎えました。明らかに父親は，自分が天の家へ帰りたいと望むならば，わがままな息子を喜んで迎え入れることがいかに大切なことかを知っていたのです。（ルカ15：11—32参照）

私はこれまでたびたび，ホームシックのあまり伝道や結婚生活，新しい家族とうまくいかない多くの人々の相談に乗ってきました。しかしホームシックは悪いものばかりではないことがわかってきました。親しい人がそばにいないのを寂しく思うのはごく自然なことですし，安心感を覚える所にいたいと思うのは当然のことです。あなたを愛しあなたにとって最高のものを与えたいと思う人がいるからです。歩き方や話し方を学び，友達が去って行くときにさえ愛されていると感じ，どのような状況に置かれても受け入れられる所へ帰りたいと思うのは理解できることです。愛し愛される場所である家庭に取って代わる所は地上にありません。

最近私たちはフロリダ州南部とルイジアナ州を襲ったハリケーン「アンドリュー」が残した悲惨なつめ跡を目にしました。何万人もの人々が家を失いました。軍隊が出動してテントを張り，犠牲者たちに少なくとも当座の避難所を提供しようと努力しました。しかし，少なくともしばらくの間はこれらの人々の多くが文字どおり家へ帰ることはできないという厳然たる事実に変わ



りはないのです。今まで持っていたものを取り戻したいと，どんなに強く彼らが望んだことか，私には想像もつきません。

何らかの理由により家へ帰れない人や帰る家のない人もいます。私は彼らの苦しみを感じ，彼らの涙を見てきました。それはどう考えても心の痛む状況でした。

また別の機会には，天の家へ帰る特権を危うくしている男女にも会いました。神殿に入り永遠の家に住むための永遠の誓約を交わす資格を失うような問題にかかわっている人もいました。私は彼らが心を痛め，少なくともしばらくの間は手の届かないすばらしい機会を切望しているのを感じました。

このような結果，身を切るような思いがいつまでも続きます。おそらく私たちは皆次のような思いにさいなまれたことがあるでしょう。「もし私がふさわしくなかったらどうなるだろう。二度と家に帰れないとしたら，どうなるだろう。」

もしサタンを自由にさせたら，サタンは私たちから受け継ぐべきものを奪ってしまうでしょう。そして私たちに人生で大して重要でない事柄に関心を持たせ，本当に重要な事柄，特に私たちは神の子であるという事実から目をそらさせようとします。家庭や家族の価値を忘れさせようとします。私たちがあまり重要ではない事柄にかまけて，どこから来たか，だれの子供であるか，そして天の家へ帰ることがどんなにすばらしいことかを理解しようと努力する時間を持てないように仕向けるのです。

私たちは文字どおり天父の子供です。前世において第一の位を保ち，愛深き天父と共に住み，天父に養われ教えられました。とりわけ霊的，教育的に完璧な環境の中で学んだのです。そして自分のふさわしさを証明できる計画について聞くと喜びました。こうして，試しの期間を経験する順番が回ってきました。そこで記憶に幕がかけられ，信仰とみたまによって歩むか霊的な受け継ぎと生得権を捨てるか，どちらでも自由に選べる日がやって来たのです。

今私たちは現世にいます。皆きっとこの第二の位は予告されたとおりのものだということに同意するでしょう。これは試しの時です。ときには，困難な問題や義務や責任が私たちの上に覆いかぶさってきて，ほかのものがすべて見えなくなることがあります。また悲しいことに，日常生活に追い回されていともたやすく焦点を見失ってしまうこともあります。

「焦点」という言葉には，「注意や関心の集まる中心点」という意味が含まれています。現代はマスメディアの時代であり，世界的規模で同時に通信が行なわれ，ほんの2，30年前には考えられなかったほど多くのことが1日のうちにできるようになりました。ですから，私たちは本当に大切な事柄に注意を集中する必要があるのです。本当に大切な事柄とは，イエス・キリストについての個人的な証と，自分が何者であり今ここで何をしているのかについての理解と，天の家へ帰ろうという固い決心です。

たとえば，若い音楽家が何年もの間つらい練習に耐えた後，やっと満員のコンサートホールでデビューすることになったとします。会場へ向かう途中，自分の演奏を聞こうと待っている何千人もの聴衆を忘れ，評判の映画を見ようとする人の列に加わったりするでしょうか。

あるいは，10年以上も訓練をした後オリンピックの決勝戦に出ることになった世界的な走者が，競技場の向こうで行なわれている高跳びの決勝戦を見るために，競技の途中で走るのをやめたりするでしょうか。

これらはばかげた例に思えるでしょう。しかし，真理についての証を持ち人生の目的を知っていながら，永遠の生活よりも目の前のこの世的な生活におぼれることは，もっと悲劇的です。永遠に関する事柄より現世における地位や名誉に，少しばかり強い関心を持っている人がいないでしょうか。父なる神と御子イエス・キリストとすばらしいきずなを持つことができるはずであるにもかかわらず，そちらに注意を向けていない人がいるのではないでしょうか。

時折私たちは，トレーニングに全力を傾けるよりもどのようなジョギングスーツを着たらよいかに関心を持つ，場慣れした選手のような行動をとる危険を冒していないでしょうか。C・S・ルイス(1898—1963年。イギリスの小説家・批評家)はこのようなジレンマを次のように巧みに表現しています。「人は中途半端な生き物で，永遠の喜びが与えられているのに，酒や性的な快楽や野心に振り回される。それは，海辺で休日を過ごすことがどんなに楽しいかを知らないために，スラム街でどろんこ遊びを続けたがる無知な子供のようである。……つまらぬことですぐに満足してしまうのはなんとも遺憾である。」(「目覚めた心」p. 168)

予言者モルモンは別の言い方をしています。「なぜキリストの御名を受けることを恥とするか。永遠の幸福はとこしえに止まない不幸にまさって価値があるのに，なぜあなたたちは世の誉を思ってこのことを信じないのか。」(モルモン8：38)

私たちは何のためかわからずに強いあこがれを感じることがありますが，おそらくそれは私たちの心の中心である主を求め，主から離れず，この世が与えるものよりもより高く，より良く，より満ち足りたものを求めているのではないでしょうか。

ヤコブの一番下の息子のヨセフが兄たちに再会した後，カナンの家に戻り父ヤコブをエジプトに連れてくるように頼みました。兄たちが出発の準備をしていると，ヨセフはただこう言いました。「途中で道をそれてはいけません。」(欽訂訳創世45：24)

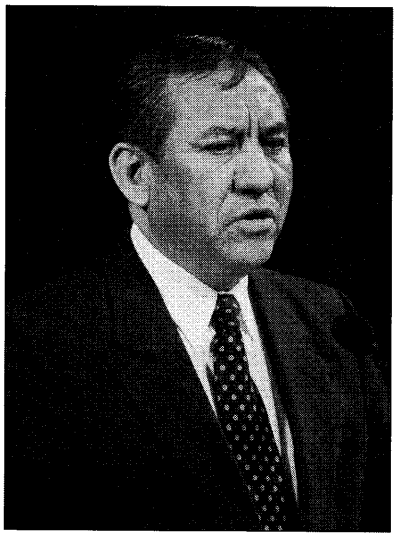
私たちが地上への旅路に就くために天父のそばを離れるとき，天父は同じような助言をしてくれたのではないでしょうか。

郷愁の念がこの世で正しく生活するのに必要な動機となり，天の家へ帰り父なる神と共に永遠に住めるようになりますよう，へりくだりイエス・キリストのみ名によりお祈りいたします。アーメン。

「あなたの父と母を敬え」

七十人
リノ・アルバレス

私の話に耳を傾けておられるすべての人々にお勧めしたいと思います。日々，皆さんの両親を敬うとともに，努めて両親が誇りに思うような事柄を行なってください。



愛する兄弟姉妹，神に召された数多くの人々がこれまでこの説教壇に立って，不変の福音に織り込まれている永遠の真理を教えてきました。私もこの場にあって，へりくだる思いでいっぱいです。

主のみたまが共にあって，母国語以外の言葉で私が語るとき，皆さんが私の伝えたいことを心で理解してくださり，「教ゆる者も受くる者も……共に悦(よろこ)ぶなり」(教義と聖約50：22)という主の約束のとおりとなるよう願っています。どうか皆さんも祈りの気持ちで聞いてくださるようお願いします。

最初に，天父の私への愛と憐(あわ)れみ，忍耐，特に信頼に対して感謝の気持ちを伝えたいと思います。そして，大管長会，十二使徒定員会，七十人の方々に感謝いたします。これらの方々は，長年にわたって，救い主について，また救い主により良く仕える方法について教えてくださいました。若かったころ，私を信頼してくださった伝道部長にも感謝しています。伝道部長は私に自信を得させ，キリストとその回復された福音に対する証をはぐくんでくれました。

この召しを果たすに当たって，力不足を感じてはいますが，同時に主と主の民に仕えるために最善を尽くそうという，神より与えられた厳粛で力強い証が胸にあります。私はこの召しをヒンクレー副管長を通して受けました。1972年に，チリのサンティアゴで最初のステーキ部のステーキ部伝道部長として私を召し，さらに1982年，メキシコシティー南伝道部伝道部長として召してくださったのもヒンクレー副管長でした。

子供のころから大人になるまでの各時期について深く思いをはせるとき，私の信仰の土台は，子供時代や青年期に，両親により築かれたのだと思います。このような両親に敬意を表します。父と母も正式の教育を受けてはいませんでしたが，永遠の福音の原則を教える方法は知っていたのです。私は男10人，女ふたりの12人兄弟の10番目でした。

主はシナイ山で，モーセを通してイスラエルの民に十戒をお与えになりました。「あなたの父と母を敬え。これは，あなたの神，主が賜わる地で，あなたが長く生きるためである。」(出エジプト20：12)きょうは十戒の中のこの5番目の戒めに心を向けていただきたいと思います。

両親が私たち子供にしてくれたことで，今でも誇りに思っていることがふたつあります。ひとつ目は，正しい原則を教え，私たちが主のみ前に正直に歩み，主の戒めを守れるように助けてくれたことです。ふたつ目は，労働，高潔さ，家族の一致の大切さを教えてくれたことです。兄弟全員が教会員であるわけではありませんが，皆，父母から学んだこれらの原則に従って生活しようと努めてきました。毎年，父の元に子，孫，そしてひ孫がひとつの家族として集まるのですが，父は，ちょうどリーハイが死を前にして子供たちにしたように私たちに話してくれます。リーハイは子供たちを集めると次のように言いました。「さて私がお前たちのことを思うて喜びに満ち，悲しみ憂いて墓の中に入ることなくお前たちのために喜び楽しんでこの世を去るよう，わが息子たちよ，塵(ちり)の中から立ち上って男らしい者となれ。そして精神をひとつにし心をひとつにして決心を固めあらゆる事に一致結束せよ。これはお前たちが束縛の身の上にならないためであ〔る。〕」(IIニーファイ1：21)

私が伝道に出ようとしていた時，現在伝道に出ようとしている若人と同様の悩みを抱えていました。仕事やガールフレンド，学校，そして家族についてです。私が伝道に出られる年齢に達した時，父はすでに66歳になっていました。「私が2年も家から離れている間に，年老いた父は死ぬかもしれない。そうしたら，もう二度と会えなくなるのだ。だれが母の面倒を見てくれるのだろう。父がそばにいなくなったら，母は本当にひとりぼっちになってしまう。」そう思ったのです。

しかし，私は2年間伝道しました。その後5年間，チリにある教会運営の学校で働き，さらに伝道部長として3年，地区代表として6年働きました。父はなお健在で，家族の長として私た

ちを導いてくれます。ベンソン大管長より1カ月遅く生まれた父は，先月で93歳になりました。

「心をつくし，勢力をつくし，思をつくし，体力をつくして」(教義と聖約4：2)主に仕えるとき，主が私たちを祝福してくださることを証します。

また，愛にあふれた妻の両親にも敬意を表したいと思います。彼らは，私の父母と同様に，妻を教え育ててくれました。彼女が生まれる以前から彼らが福音を受け入れていたことに感謝しています。

両親を敬うとても良い方法があります。それは戒めを守り，主に仕えることです。

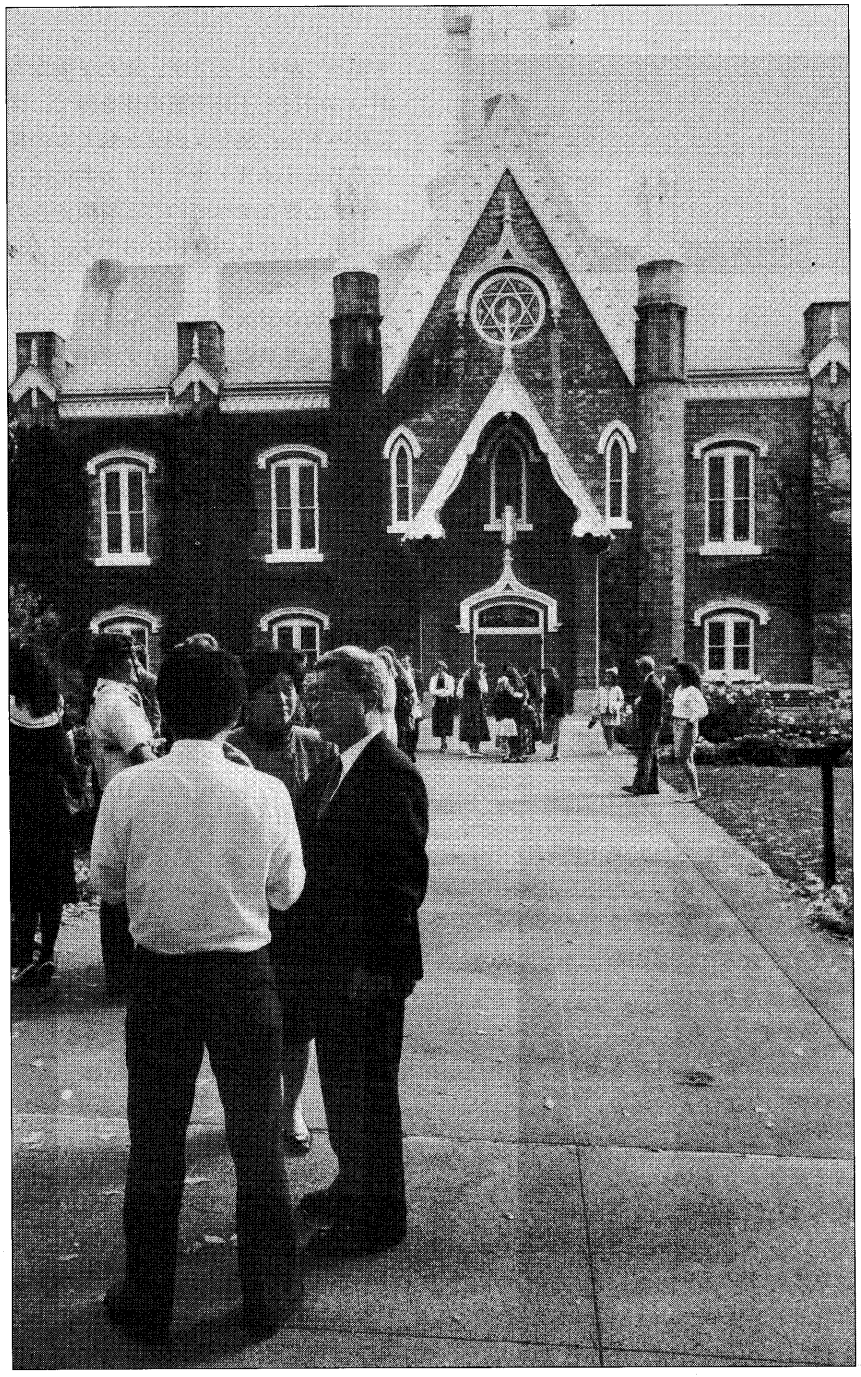
七十人第二定員会で働くよう任命されてから，私は妻と子供のひとりを連れて父に会いに行きました。これまで新たな神権の召しを受けるたびに求めてきたように，祝福を授けてくれるよう父に頼んだのです。父は私の頭に手を置くと，次のような短いながらも崇高な祝福を授けてくれました。「我が子よ。あなたと妻，そして子供たちが何を行なうときも，聖霊が共にいてくださるように祝福します。」これ以上の祝福があるでしょうか。

やさしい妻と愛する子供たちに感謝しています。子供たちのうちふたりは，現在専任宣教師として伝道しています。3番目の子供は主の召しを待っているところです。彼らの愛と信頼がなかったなら，私は何もできないでしょう。私は心から妻と子供たちを愛し，彼らに全幅の信頼を寄せています。

老若を問わず，私の話に耳を傾けておられるすべての人々にお勧めしたいと思います。日々，皆さんの両親を敬うとともに，努めて両親が誇りに思うような事柄を行なってください。神が生きておられることと，御子イエス・キリストも，神の戒めを守り，神のみこころに従うことによって，神を敬われたことを心から証いたします。救い主はこのことについて次のように教えておられます。「わたしが天から下ってきたのは，自分のこころのままを行うためではなく，わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」(ヨハネ6：38)

救い主は私たちにとって人生の模範であり，手本であると証します。私たちは日々，主の教えに従い，主の行ないに倣うよう努めなければなりません。なぜなら，「子は父のなさることを見てする以外に，自分からは何事もすることができない」(ヨハネ5：19)からです。

ジョセフ・スミスは神の予言者であり，彼を通して完全な福音が，人類に祝福をもたらすために回復されたことを証します。また，エズラ・タフト・ベンソン大管長が，この時代に神より召された予言者であり，末日聖徒イエス・キリスト教会は，「全地の面に於ける唯一の真にして生命あ〔る〕教会」(教義と聖約1：30)であることを証します。これらのことをイエス・キリストのみ名により証します。アーメン。



善い父母から生まれて

七十人
ダラス・N・アーチボルド

子供たちの過ちを正し訓練しようとするときに欠かせないのは，常に励まし力づけ，自分が有能で大切な存在であるという自信を失わせないようにすることです。



先日私は，初等協会の分かち合いの時間に礼拝堂の後ろに座って，音楽の教師をてこずらせている元気のいい子供たちを見ていました。最後に指揮者が『神の子です』を歌うように言うと，子供たちは初めて静かになり，ただ大声で歌うのではなく，心をひとつにして歌いました。その歌声はまるで天使が歌っているかのように礼拝堂に響きわたりました。

「私を助けて導いて
いつかみもとへ行けるように」
(『神の子です』賛美歌189番)

この歌詞は私の心に深くしみ込んで，魂を揺さぶりました。主が私たちに課せられた親としての責任は，なんと重大なことでしょうか。それは子供たちの手を取り，義へ導き，この世の悪にさらされる危険の中を，永遠の生命へと続くまっすぐで狭い道へと彼らに付き添って歩むことです。また子供たちがいつの日か不死不滅の体を得て，御父のみもとへ戻り，御父と私たちの長兄であるイエス・キリストと共に住むために必要なすべてのことを教えるのは，実に私たちの責任なのです。

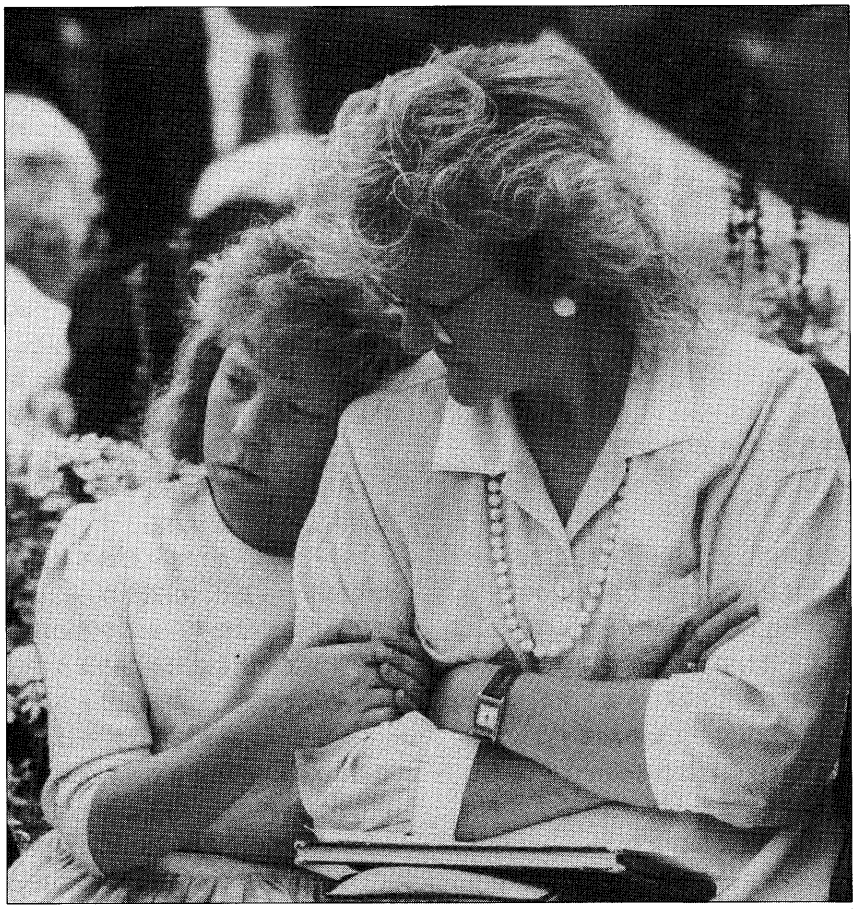
モルモン経には，正しく献身的な両親の大切さがはっきりと示されています。モルモン経でニーファイが最初に語っている言葉は両親への賛辞でした。「私すなわちニーファイは善い父母から生れたので，父の知っていたすべての学問の中からいくらかの教えを受けた」(Ⅰニーファイ１：１)と書いてあります。イノスは「私の父が永遠の生命と聖徒の幸福について教えた言葉を度々聞いたのが私の心に深くしみこんだ」(イノス１：３)と言っています。モルモンはヒラマンの息子であるニーファイとリーハイについて「この二人はその父ヒラマンが自分らに話した言葉を思い出した」(ヒラマン５：５)と言っています。ここには善い親に贈られた賛辞と，親が子供たちに語った言葉が記されています。ヒラマンは子供たちに，常に善い業を進んで行ない，永遠の生命という貴い賜を求めるように，自分たちに付けられたニーファイ，リーハイという名前をもう一度心に留めるように言いました。(ヒラマン５：６－７参照)そして「わが子らよ。ベンジャミン王がその民に話した言葉を忘れるな。この世に降臨して身代りの贖罪をなしたもうはずのイエス・キリストによらなければ，人が依り頼んで救われる道も方法もない」(ヒラマン５：９)と語りました。

ヒラマンがベンジャミン王の言葉を引用したことから，父親である彼が聖典についてよく知っており，予言者の言葉に従うよう子供たちに教えたことがわかります。さらにヒラマンは次のように続けています。「さてわが子らよ。お前たちは神の御子でキリストである私らの贖い主の岩を基にしなくてはならないことを忘れるな。」(ヒラマン５：12)

親から子に伝える教えの中で，予言者の言葉に従い，イエス・キリストの岩を基としなくてはならないということ以上に大切なものがあるでしょうか。モルモン経の予言者のひとりであるヤコブは，人々が教えを受け，「キリストに望みをも」つようになったならば，私たちは彼らに「裸でいる者に着物を着せ，飢えている者に食を与え」る(モルモン経ヤコブ２：19)ために，どのように富を得るかを教えることができると述べています。私たちは，主と共に生きるためになすべきすべてのことを子供たちに教えなければなりません。そして最善の教え方は模範によるのです。

あの日，礼拝堂の後ろに座っていた私は，次のように自問しました。「私は自分のなすべきことをすべて行なっているだろうか。私の妻と娘は，日の栄の王国に導かれると確信しながら，私と共に歩むことができるだろうか。」「私を助けて導いて……。」少し時間を取って，同じ質問を自分自身にしてみてください。「私の伴侶と子供たちは，日の栄の王国に導かれると確信しながら，共に歩むことができるだろうか。」主はこう言われました。「まず神の国……を求めなさい。」(マタイ６：33)

教えられていることは明らかです。私たちは子供たちに主の教えを伝え，その模範とならなければならないのです。しかし，ときとして正しいことを教えたいという気持ちが強いあまり強制的になり，子供を反抗的にしてしまうことがあります。私たちの考え方を押しつけようとすると，子供たちは私たちの教えに心を閉ざし，しまいには私たちの言葉を拒絶するようになります。子供たちにも自由意志があるから



です。

主は教義と聖約の第121章で，教え導く際の正しい方法を次のように説明しておられます。「ただ説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛とによる。

また，親切と浄き知識……その人を甚だ大いならしむるものによる。」(教義と聖約121：41－42)私はこの「その人を甚だ大いならしむる」という言葉が大好きです。

さてここで子供たちを空のコップにたとえ，私たちの長年積み重ねてきた知識と経験をバケツの水にたとえてみましょう。バケツにいっぱいの水をそのまま小さなコップに移し換えることは論理的，物理的に考えると無理ですが，知識という水を移す正しい方法で注げば，そのコップにはいくらでも水が入ります。この正しい方法が「説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛……親切と浄き知識」という原則なのです。この原則は，コップすなわち子供たちの心を広げ，元のバケツよりさらに多くのことを取り入れられるようにしてくれます。

行動心理学者たちはこの事柄についておびただしい数の本を書いていますが，主は同じことを聖典の中のたった2，3節の聖句によって示しておられます。私たちは，子供たちやそのほかの人々を教え導くときは，常にその人の自尊心を高めるような方法を取らなければなりません。

自尊心を養い，高めるためには，その人が有能で大切な存在であることを常に伝えなければなりません。聖典の中では「高く挙げ〔る〕」という言葉が使われています。心理学者は「長所を強調しなさい」と言うでしょう。自尊心を養う秘訣は簡単です。常に一人一人の長所を探し，高く評価し，それを言葉と態度で示すことです。「ばか」とか「まぬけ」，「何ひとつまともにできない」などという頭ごなしに決めつけるような言葉は自尊心を傷つけますし，どんな場合であっても使うべきではありません。否定的な言葉が口をついて出てきたり，態度に表われるようでは良い点を強調することは不可能です。

「私を助けて導いて……」という言葉には「私の弱いところを強くして，私を高く挙げてください。私も人の役に立つ，大切な存在であることを教えてください」という願いが込められています。(教義と聖約81：5参照)

子供たちの過ちを正し訓練しようとするときに欠かせないのは，常に励まし力づけ，自分が有能で大切な存在であるという自信を失わせないようにすることです。主は，教義と聖約第121章で教え導く方法についてさらにこう言っておられます。「すなわち，聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後，また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。」(教義と聖約121：43)

「機に臨みて」という言葉の意味は「時々」とか「たまに」と考えられがちですが「早いうちに」という意味である，とマックスウェル長老はおっしゃっています。ですから間違いを正すには早目に，しかし怒りを抱かずに行なう必要があります。ブリガム・ヤングは132年前にこのタバナクルで，「後に自分がその人を慰めることができないほど厳しく人を戒めることがないように」(「ブリガム・ヤング説教集」9：124－125)と話しました。また主は「その人に一層の愛を示す」(教義と聖約121：43)と言っておられます。

過ちを正す方法についての教えは簡潔で明瞭です。それは，早目に行なうこと，聖霊の導きのもとに穏やかに行なうこと，決して自尊心を傷つけることのないように私たちの慰められる力の範囲内で行なうこと，常にその人が自分の価値と能力について自信を感じられるように行なうことなどです。

善い親である皆さん，子供たちの次のような言葉に耳を傾け，それにこたえましょう。

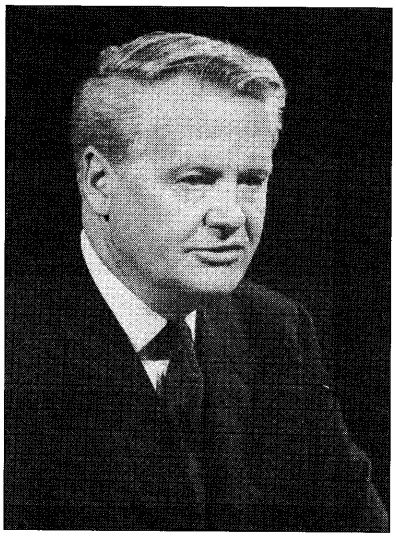
「私を助けて導いて，
いつかみもとへ行けるように。」

これらのことを，イエス・キリストの聖なるみ名によって申しあげます。アーメン。

「聖典の研究を通してキリストに近づく」

七十人
メリル・J・ベイトマン

時折漠然と聖典に目を通すだけでは，聖霊のささやきを聞き取……ることはできないものです。



主は弟子たちに，救いの教義を学び，実践するために聖典を研究するよう，繰り返し命じてこられました。救い主は，地上で恵みと導きを施された時，次のように述べられました。「聖典を調べなさい。……聖典は，わたしについてあかしをするものである。」(欽定訳ヨハネ５：39)またキリストは，復活に続いてアメリカ大陸にみ姿を現わされた時，ニーファイ人に聖典から引用して語られ，さらに次のように言われました。「汝らはこれらの聖文を研究せざるべからず。われは汝らにこれらの聖文を熱心に研究せよと命ず。」(IIIニーファイ23：１)主は現代にあっても，主に従う者たちにこう命じておられます。「これらの誡命をしらべよ。そはこれらは真実確なる誡命にして，……すべて成就さるべければなり。」(教義と聖約１：37)

救い主は予言者ジョセフ・スミスに，聖典を通して主のみ声を聞き，主のみ言葉を知ることができると啓示されました。こう言っておられます。

「これらの言は世の人々より出でしにもあらずまた人間の言にもあらず，われより出でし言なり。……。

この言を汝らに語れるはわが声なり。そはわが『みたま』によりて汝らに与えられ，わが能力によりて互いにこれを読むを得るなり。……

これを以て，汝らわが声を聞きわが言を知るを証するを得べし。」(教義と聖約18：34―36)

「キリストの御許に来てキリストによって全くな〔る〕」(モロナイ10：32)ためには，主のみ言葉に対する証を一人一人が持たなければなりません。聖典を読まないためにつまずく人もいれば，漠然と読んでいるだけで成長できない人もいます。ご承知のように，聖典を熱心に研究し，熟考することと，漠然と読むこととは異なります。この違いを示す良い例が，教会歴史の中に見受けられます。

６歳になる男の子が，あらしの中，手車隊からはぐれて迷子になってしまいました。ロバート・パーカーと妻のアンは，あらしが静まって初めて子供がいないことに気づき，捜し始めました。捜索隊を組んで２日間捜しましたが見つかりません。そして，冬の訪れが目前に迫っていたため手車隊は出発することになりました。

ある開拓者の日記には次のように記録されています。

「アン・パーカーは，真っ赤なショールを夫のやせた肩にピンで留め，子供を捜しにもう一度夫にひとりで引き返してもらった。ショールは，もし子供が死んでいたら，そのなきがらを包むため，もし無事だったら，彼女への合図の旗とするためのものであった。こうしてアンとほかの子供たちは，荷物をまとめて手車隊との旅を続け，一方ロバートは遠い山道を引き返し，いたいけな息子の名を呼びながら祈りの気持ちで捜索を続けた。」

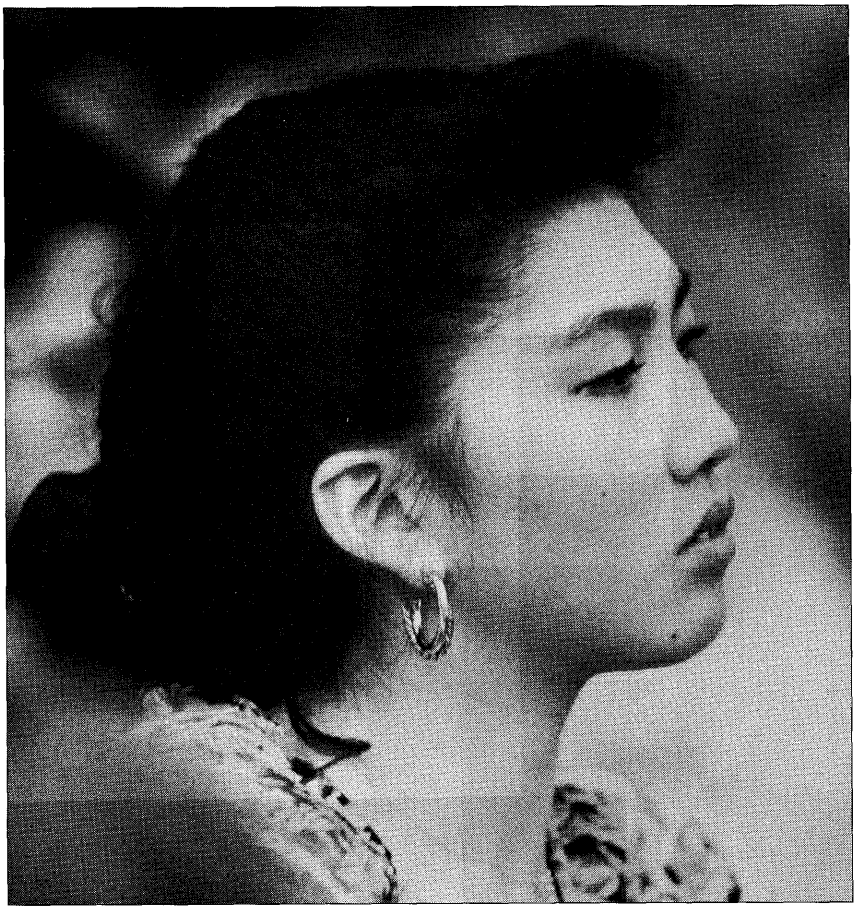
ロバートは，ただ木々の後ろに何げなく目をやったり，山道をゆっくり歩き続けたのではなく，やぶや木の茂み，谷，そして沼地を，目を皿のようにして，必死で捜索したことでしょう。

「ようやく，ある物々交換所にたどり着いた時，息子がきこりの夫婦に助けられ，看病されていることを知った。〔少年は〕風雨と恐怖で病気にかかっていた。しかしながら神は，その民の祈りを聞かれたのである。

山道を行くアンと子供たちは，夜ごと，来た道に目を凝らしていた。そして３日目の晩，夫の頭上で真っ赤なショールが，沈む夕日を受けてきらきら光るのが見えた。この勇敢で小柄な母親は，かわいそうに疲れと安堵とで地にしゃがみ込んでしまった。……それまで一睡もできなかった〔彼女は〕６日ぶりに眠りについた。」[1]

この話は，ただ目を向けることと，「熱心に探求する」ことの違いをよく示しています。時折漠然と聖典に目を通すだけでは，聖霊のささやきを聞き取ったり，救い主の生涯と属性への理解を深めることはできないものです。主のみ声を聞き，主のみ言葉を理解したいと望むなら，ロバートが息子を捜した熱意と，母親が地平線のかなたに目を凝らした頻度で，聖典を研究する必要があります。十二使徒評議員会会長のハワード・W・ハンター長老は，総大会の説教で次のように述べています。

「聖典を探究する人ならば，理解に



は速読や通読以上に集中した精読が必要なことにお気づきであろう。毎日聖典を勉強する人の方が，長時間勉強したかと思うとぱったり休むという人よりも，はるかにはかどることは確かである。」[2]

モルモン経には，主のみ言葉を研究し，自分のものとすることの大切さがよく表わされています。予言者リーハイは家族と共にエルサレムを旅立って，紅海沿岸へと向かいました。荒野を旅して3日たった時，主はリーハイに霊的な武具を何も身につけていないことを思い起こさせました。あわただしくエルサレムを後にしたリーハイの家族は，聖典を携えて来ませんでした。初期の予言者に与えられた主のみ言葉を記した聖文がなかったのです。

リーハイは夢の中で，予言者の教えと先祖の系図が刻まれた真鍮版を手に入れるため，息子たちをエルサレムに戻らせるよう命じられました。多くの困難を乗り越え，ようやく息子たちが真鍮版を携えて父親の天幕に帰ってくると，両親は息子たちの無事に対して，主に感謝を捧げました。その後のことがモルモン経にはこう記されています。

「〔真ちゅう版を〕調べてみてまことに望ましいものであることがわかった。また実際これによって私たちの子孫に主の命令をのこすことができるから，私たちにとって大そう価値のあるものであることがわかった。」（Ⅰニーファイ5：21）

この真鍮版に自分たちの記録も加えることにより，リーハイの家族は主のみ言葉を代々伝えていくことができました。こうして聖典と祈りは，子孫がキリストへの信仰をはぐくんでいくうえでの基本的な手段となったのです。

聖典を研究すると，必ず得られる祝福があります。主のみ言葉を学び，従うにつれて，人はより救い主に近づきます。また，正しい生活をしようという望みがさらに強くなります。誘惑に抵抗する力は増し，霊的な弱点は克服され，心の傷も癒されます。

リーハイは真鍮版をよく学んだ後，しばらくして示現ともいえる夢を見ました。（Ⅰニーファイ8参照）夢の中でリーハイは1本の木を見ましたが，木には非常に白く甘い実がなっていて，それはほかのどんな実よりもすぐれて好ましいものでした。さらに，その木に通じる狭い道とその道に沿って延びる鉄の棒を見ました。道に暗黒の霧が立ちこめ，そのために横道に踏み迷ってしまった人々がいるのも見ました。ほかの人々は鉄の棒をつかんで木にたどり着きましたが，心に恥ずかしく思って，鉄の棒を放し，禁制の道に踏み迷ってしまいました。示現によれば，木にたどり着いて木の実を食べる者となる唯一の方法は，鉄の棒に「たえずしっかりと」（Ⅰニーファイ8：30）すがることでした。

さて，この鉄の棒とは何でしょうか。ニーファイはそれを「神の言葉」であると定義しています。すなわち，人々の心をキリストへと向かわせる生ける予言者の言葉と聖典のことです。さらにニーファイは，神のみ言葉を聞いてこれを固く守る者は決して亡びることがないと述べています。（Ⅰニーファイ15：24参照）

夢の中の木は生命の木であり，それは私たちに対する神の愛，御父と御子の慈しみ深さを表わしています。（Ⅰニーファイ11参照）鉄の棒にしっかりとつかまるなら，キリストとそのみ業に対する信仰を培っていけるでしょう。

リーハイの時代から500年後にこの世に生を受けた予言者アルマは，リーハイの生命の木の示現に強い感銘を受けました。しかしアルマは，この比喩的な話を興味深い別の言葉で表現しています。アルマは神のみ言葉を，人の心にまかれ養われる種にたとえたのです。人々がキリストを信じようとする望みを起こしさえすれば，その種は芽を出し，生長すること，そして種がふくれ始めると，私たちの心が大きく開かれるのを感じる，とアルマは述べています。この信じようとする望みに，従順さが加わって，最終的にはイエス・キリストへの信仰へと変わっていくのです。

さらにアルマは，この種をたゆまず養い育てていくなら生命の木，すなわち，「永遠の生命を生ずる木」へと生長し，きわめて白く，甘く，そして清い実をつけるであろうと言っています。(アルマ32：26—42参照)アルマのたとえでは，生命の木は一人一人の心の中で生長し，その心と霊を変えるとされています。それはリーハイの夢で，鉄の棒にしっかりとつかまることに相当します。

生長して人々の心に変化をもたらす，この生命の木に関するアルマの言葉は，彼が教会員に尋ねた次のような一連の質問の意義を明らかにしています。「あなたたちは今日霊によって生れ神の子になっているか。あなたたちは神の御姿を自分の身に受けているか。あなたたちは今言ったような大きな改心をすでに感じているか。」(アルマ５：14)改心，すなわち心と霊の変化は，種をまき養った結果として生じるものです。同様に，キリストへの信仰をはぐくむには，聖典の学習，祈り，従順，そして奉仕が鍵となるのです。

ベンソン大管長は，1986年４月の総大会で次のような見識を述べられました。

「どんなに一生懸命にほかのことを行なっても，聖典の中にしか見いだせない祝福があります。主のみ言葉を守り，それをしっかりとつかんで放さなければ，暗黒の霧の中を進み，生命の木に到達することができるでしょう。」[3] 兄弟姉妹の皆さん，ベンソン大管長が主の予言者であり，イエスがキリストであることを証します。そして，私たちが聖典の研究を通して主のみ声を聞く者のとなれるよう，イエス・キリストのみ名によりお祈りいたします。アーメン。

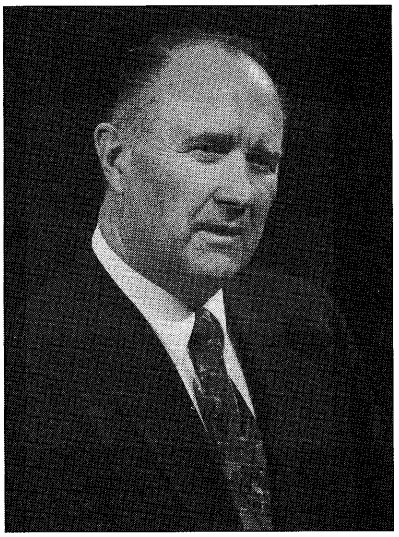
注

1．カミラ・W・ジャッド，ケート・B・カーター編「開拓者歴史逸話集」第６巻。アラン・K・バージェス「聖典を楽しみながら理解する方法」pp. 6—7も参照。
2．「大会報告」1979年10月。
3．「大会報告」1986年４月。

キリストの愛

七十人
C・マックス・コールドウェル

「キリストの愛」という言葉には，「キリストに対する愛」，「キリストから受ける愛」，「キリストのような愛」という３つの意味があると思われます。



最近私はキリストについての証であるモルモン経の価値がいくらかわかるようになり，その神聖な書物に記されている教えをとても大切にしています。きょうはその中のユニークな教えのひとつについてお話ししたいと思います。

宣教師として働いていた若いころ，私はパウロがコリント人にあてて書いた次の言葉を読み，その意味について考えました。「信仰と希望と愛と，この三つである。このうちで最も大いなるものは，愛である。」(Ⅰコリント13：13)ここで，なぜ愛が最も大いなるものなのだろうかと疑問に思いました。そもそも慈愛(訳注——charity，日本語の聖書では愛と訳されている)という言葉がよくわからなかったのです。私が理解に苦しむ理由のひとつは，慈愛という言葉は一般的には慈善という意味に使われており，教義的すなわち聖典で用いられている意味とは違うように思えたからです。

ところがモルモン経を読みながら研究していくうちに，新たな視野が開けてきました。古代アメリカ大陸の予言者モルモンは，慈愛という言葉を救い主に関連づけ，次のように述べています。「この愛〔charity〕はキリストの純粋な愛であって永遠につづくものである。」(モロナイ７：47)

私は「キリストの愛」という言葉がどのような意味かを考えました。その答えは非常に重要です。なぜなら「主なる神は，人は皆慈悲すなわち愛の心を持たなくてはならないと言う命令を与えたもうた」(Ⅱニーファイ26：30)からです。愛の心を持たなくてはならないとしたら，私たちはそれがどのようなものかを知らなくてはなりません。キリストの愛という言葉には，次のような３つの意味があると思われます。

1．キリストに対する愛
2．キリストから受ける愛
3．キリストのような愛

まず，「キリストに対する愛」についてお話ししましょう。この概念は，キリストを愛し，キリストに対する感謝の念が人々に伝わるような生活をすべきであるということを示しています。ときとしてこれはむずかしいことです。私はかつてある大祭司グループの集会に出席したことがあります。そこで年輩の教師がこのように述べました。「私たちは祈りの中でよく，喜ばしいすべての祝福に感謝しますと言いますが，喜ばしくない祝福についてはどう

でしょうか。そうした祝福に感謝するのはとてもむずかしいものです。」この愛すべき兄弟は50年も連れ添った最愛の妻を亡くし，初めてひとりでクリスマスを過ごしたのです。私たちにとって喜ばしくない状況の下で主に感謝するのは本当にむずかしいものです。

私たちの愛するベンソン大管長は，戦争で荒廃した国々の聖徒たちと共に経験したいくつかの事柄について次のように述べています。「ある姉妹は，ポーランドにある家を出て，4人の小さな子供を連れて1,600キロ以上も歩きました。そして，飢えと凍えるような寒さのために4人の子供を皆亡くしてしまったのです。それにもかかわらず，彼女は衰弱した体でボロボロになった服をまとい，足を麻布でくるんだ姿で私たちの前に立ち，自分がどれほど祝福されているかを証したのです。」(1980年4月総大会)たとえ喜ばしくないような経験をしても，そのために救い主を愛する理由が薄らぐことになってはなりません。そうでないと，より広い物の見方ができなくなったり，しんらつになったりして，キリストに対する愛の心が失われてしまうでしょう。

私たちはどれほど深くキリストを愛しているでしょうか。自分が幸せなときにだけ愛してはいないでしょうか。私たちの愛は自分がどのような経験をするかによって弱まったり強まったりしていないでしょうか。キリストに対する愛が私たちの行動や態度に表われているでしょうか。慈愛，すなわちキリストに対する愛は，困ったときにはいつでも私たちを支え，決断を下すときにはいつでも私たちを導いてくれます。

慈愛という言葉の第2の意味は，「キリストから受ける愛」です。モルモン経の予言者のひとりが霊感に満ちた説明をしています。モロナイは主と語った時，次のように言いました。

「汝〔は〕世の人に代って生命を捨てるほど人を愛すると仰せになった……。

汝が世の人を愛したもうこの愛は仁愛である……。」(イテル12：33—34)

贖いのために求められる厳しい要件



を満たすために，救い主は最高の愛を捧げられました。「人がその友のために自分の命を捨てること，これよりも大きな愛はない。」(ヨハネ15：13)また御子にそのような無私の苦しい犠牲を捧げることを許された天父は，ご自分のすべての子供たちに対する賜としてご自身の最高の愛を私たちにくださったのです。

使徒ヨハネは次のように記し，主を信じる信仰という条件はあるものの，神により与えられる無限の愛について明確に証しています。「神はそのひとり子を賜わったほどに，この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで，永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3：16)私たちは，この慈愛の賜を享受しなければなりません。しかし，私たちが進んで主の贖いの条件に従わなくては，救い主の身代わりの贖罪は何の効力もないのです。

私たちが神の愛を受ける必要性について，モロナイは祈りを込めて次のように述べています。「もし人に仁愛がなければ，その人は汝が御父の邸の中に備えたもうた所に住むことができない。」(イテル12：34)

何年か前に私は，自分でも特にむずかしいと感じていたテーマでレッスンをするために準備していました。レッスンの前の晩，導きを祈り求めてから床に就きましたが，まだ心の中には不安が残っていました。目が覚めると，ある考えが心に浮かびました。レッスンでその考えを話すと，後からひとりの若い男性が私のところに来てこのように言いました。「きょうのレッスンは私のためにあったようなものです。今私は何を行なうべきかわかりました。」後に私は，彼が久し振りに教会へ来て，最初に出席したのがあのレッスンだったことを知りました。その後彼は自分の人生を立て直し，やがて伝道に出て忠実にその務めを果たしました。現在，家族を永遠に結ぶ誓約を守って，幸福な生活を送っています。彼はキリストの贖いという愛を受け入れたために，慈愛の賜を享受できたのです。

慈愛の第3の意味は，「キリストのような愛」を持つことです。言い換えれば，人々に対してキリストのような愛を示すことです。ニーファイはこのように述べています。「私は自分の民を愛し，……

またユダヤ人を愛している。……

私はまた異邦人も愛している。」(IIニーファイ33：7－9)ニーファイはどのようにしてすべての人を愛するようになったのでしょうか。後に救い主は愛をはぐくむための鍵として次のような戒めを与えられましたが，おそらくニーファイはその戒めが与えられる前からそれを実践していたのでしょう。「わたしは，新しいいましめをあなたがたに与える，互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ13：34。下線付加)

イエスの愛は，奉仕や犠牲，人々のために自らを捧げる主の生活と切り離すことのできないものであり，またそうした生活から生み出されたものです。主が示された方法を実践する以外に私たちはキリストのような愛をはぐくむことはできません。

使徒ヨハネは主から愛されただけでなく，主のように人々を愛しました。そのように愛する理由をヨハネは次のように述べています。「主は，わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって，わたしたちは愛ということを知った。それゆえに，わたしたちもまた，兄弟のためにいのちを捨てるべきである。」（Ⅰヨハネ３：16）

宣教師はほかの人のために自分の人生の一部を捧げ，帰郷すると，皆，仕えた人々に対する深い愛について証しますが，それは偶然の一致でしょうか。ほかの人のために犠牲を払う監督や神権組織や補助組織の指導者が，その働きの恩恵にあずかる人々に対して愛の気持ちに満たされるのは不思議なことでしょうか。子供のためにすべてを捧げる母親の愛よりも大きな愛がこの世にあるでしょうか。イエスのような慈愛を持ちたいと願う多くの人は，イエスが得られたようにそれを得ることができるのです。

ある時，私の妻が週末に出かけることになり，ワード部のある姉妹に扶助協会のレッスンを代わってくれるように頼みました。次の週，その姉妹は教師用のテキストを返しにやって来て，妻のために焼きたてのパンと次のような言葉を書いたメモを残していきました。「あなたを愛しています。あなたは特別な人です。私のことを心にかけてくださってありがとう。」彼女は奉仕する機会を与えられたことに感謝したのです。彼女の心はキリストの愛に満ちていました。

慈愛は単なる教えや原則ではなく，また行動や態度を表わす言葉でもありません。むしろそれは徐々にはぐくまれ，経験を通して理解することのできる心の状態なのです。慈愛は私たち自身の特質の一部になって初めて身につけることができたといえるのです。慈愛を持っている人というのは，救い主を愛し，主の愛を享受し，主のように人々を愛する人です。

慈愛という言葉が旧約聖書に一度も出てこないことはいくらか注目すべきことかもしれません。もちろん古代の予言者たちは，使徒パウロや古代アメリカの予言者たちのように慈愛の必要性を理解していました。そして確かに慈愛はキリストの純粋な愛である（モロナイ７：47参照）ことを知り，そのように教えていました。しかし，ニーファイが予言しているように，キリストの敵が神聖な書物から，だれにもわかる貴い部分であり，人を救いに導く真理を故意に抜き取ったのではないかと思われます。（Ⅰニーファイ13：20―29参照）また，慈愛は新約聖書にも部分的にしか説明されていません。ところがありがたいことに，キリストについてのもうひとつの証であるモルモン経には，この永遠の原則が私たちに理解できるように回復されています。私たちがこの教えに従うときに神に近づけることを証いたします。本当に私たちはキリストのようになるのです。

「民はその心に神の愛を保っていたから，全国に何ら不和がなかった」（Ⅳニーファイ１：15）と記されているとおりに昔200年間にわたって平和が保たれたように，私たちも個人としてまた主の民として平和と幸福を享受できるのです。救い主が生きておられることと同様にこれが確かであるということを，イエス・キリストの聖なるみ名によって証いたします。アーメン。



希望のかなった喜び

十二使徒定員会会員
M・ラッセル・バラード

きょうの私のメッセージは，端的に言えば，主がすべてを支配しておられるということです。主は何もかもご存じです。



兄弟姉妹，この困難な時代に生きるためには，私たち各自が未来について積極的で希望に満ちた見通しを持ち続けることが必要です。以前にも増して，私は時のしるしについて質問を受けます。そしてこの世の終わりは近づいていると思うかと尋ねられます。私の答えは2,000年前にイエスが答えられたのと同じです。「その日，その時は，だれも知らない。天にいる御使(みつかい)たちも，また子も知らない，ただ父だけが知っておられる。

気をつけて，目をさましていなさい。その時がいつであるか，あなたがたにはわからないからである。」(マルコ13：32—33)

イエスは再臨のしるしについて尋ねられた時次のようにおっしゃいました。「戦争と戦争のうわさとを聞くであろう。注意していなさい，あわててはいけない。それは起らねばならないが，まだ終りではない。

民は民に，国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに，ききんが起り，また地震があるであろう。

しかし，すべてこれらは産みの苦しみの初めである。」(マタイ24：6—8。下線付加)

これらのことが起こると予言されているにもかかわらず，世界各地で起こる災害，災難の頻度が増しているため，多くの人は非常な不安を感じています。この教会の会員として私たちは，「あわててはいけない。それは起らねばならない」(マタイ24：6)という主の訓戒を忘れてはなりません。今は艱難(かんなん)の時代で，自然の力が解き放たれ，あちこちにききんや疫病，地震が猛威を振るっているように思われます。

最近私は，合衆国地質調査の統計についての新聞記事を読みましたが，世界で起こる地震の頻度と強さは増しているということでした。その記事によると1920年代には震度6以上の大地震はたった2回起こっただけです。1930年代には大地震の頻度は5回に増え，1940年代には4回に減少しました。しかし，1950年代には9回大地震が起こり，1960年代には15回，1970年代には46回，1980年代には52回起こりました。1990年代に入ってからは，1980年代に起こった回数とほぼ同数の大地震がすでに起こっています。

世界は自然も社会も激しい混乱の時を迎えています。ここ合衆国においても想像を絶する破壊的なふたつのハリケーンの被害を受けました。フィリピンではピナツボ山の噴火による被害がずっと続いています。ききんに悩むアフリカの諸地域では，人々の悲惨な姿が至る所で見受けられます。程度の差こそあれ，生活水準の高い国々でも飢えは何百万という人々を悩ませています。

昨今，政治的に不穏な状態，福祉あるいは経済の混乱などが世界の多くの地域で増加しており，ポルノグラフィーの氾濫(はんらん)，麻薬の悪用，不道徳，エイズ，子供の虐待などは増大する一方です。マスメディアはめまぐるしく展開し，殺人，暴力，ヌード，性にかかわる卑わいな事柄に心を向ける貪欲(どんよく)な視聴者を満足させようとしています。モロナイが「見よ，私はあなたたちが今目の前にあるかのように話しているが，本当はあなたたちはまだ生れないのである。しかし，イエス・キリストが前以てあなたたちを私に見せたもうたのであなたたちの行いが今私に解(わか)るのである」(モルモン8：35)と書いたのは現在のことではないでしょうか。そしてモロナイは現在のような世界の状態を予言しました。

兄弟姉妹の皆さん，今が終わりの時であるかどうか，またイエスが予言されたように「産みの苦しみの初め」の時であるかどうかは別としても，私たちの中には，生活が行き詰まり，失望と悲しみに沈んでいる人々がいます。多くの人々は，この世に満ちている混乱と取り組むには自分は無力であると感じています。価値観の衰退や低下する道徳水準の激流に飲み込まれた家族のことで苦悶(くもん)している人々もいます。社会が神の戒めから離れれば離れるほど，子供たちが特に被害を受けます。

また多くの人々は，この世の邪悪と冷酷さは是正できないものとあきらめて，身を引いています。望みを捨ててしまっているのです。そのような人々は，この世を，自分と家族が生活していくためにより良い状態にしようという努力を放棄しています。絶望に負けてしまっているのです。

確かに私たちには，深く憂慮すべき理由が十分あります。なぜなら人類という家族が直面している難問に対する答えはすぐには見当たらないからです。世の姿は暗たんとしており，最終的に

はもっとひどいものになっていくでしょう。しかし私たちは決して希望を失ってはなりません。モロナイは私たちの時代を見て次のように勧告しました。「それであるから信仰がなくてはならない。信仰がなくてならないならば，希望もまたなくてはならない。」（モロナイ10：20）

絶望をし，希望を失ったすべての人々に予言者ジョセフ・スミスを通して言われた主のみ言葉を申しあげます。「小さき羊の群よ，おそるるなかれ。善を行え。この世と地獄と共になりてむかい来らしめよ。もし汝らわが磐の上に立たば，彼ら打ち勝つ能わざればなり。

何を念うとも，念々われを見るべし。疑うなかれ，おそるるなかれ。」（教義と聖約６：34，36）「誠にわれまた汝らの中にあるなり。」（教義と聖約６：32）

兄弟姉妹，きょうの私のメッセージは，端的に言えば，主がすべてを支配しておられるということです。主は何もかもご存じです。そこで，私たちがそれに従うならばどんな危機も切り抜けられる教えを，主は与えてくださいました。やがて主の目的は達成され，いつの日か私たちは，永遠の観点から見てこれらすべての出来事には意味があることを理解できるようになるでしょう。ですから今日私たちは不必要に心を騒がせたり，極端なまでの準備にとらわれないよう気をつけなければなりません。私たちが本当にしなければならないことは神の戒めを守り，決して希望を失わないことです。

しかし，このような混乱と破局の中にあってどこに希望を見いだせるでしょうか。ひと言でいえば，この荒れ狂う時代に霊的平安を得る唯一の望みは，イエス・キリストに私たちの心と思いを向けるということです。予言者モルモンは，次のように言っています。

「あなたたちはキリストの身代りの贖罪とその復活の力とによって，自分たちがよみがえって永遠の生命を得ることを望むべきである。このような希望はあなたたちがキリストを信ずるから生ずる。また信ずるのはあなたたちが受けた約束があるからである。



それであるから，もし人に信仰があるならばその人に希望もまたなくてはならない。信仰がなければ希望もまたないからである。」（モロナイ７：41―42）

神と御子イエス・キリストを信ずることは，試練と困難の時にバランスの取れた物の見方を維持するうえで絶対に欠かせません。私たちの生涯には，神が理解しておられない出来事は起こらないということを忘れないでください。アルマは次のように教えました。「〔主〕は世の中へ出て苦難とあらゆる誘惑である試みとを受けたもう。これは，この方が自分でその民の苦しみと病いとを引き受けると言いたもう言葉が成就するためである。」（アルマ７：11）

皆さんが落胆したり人生の進むべき進路を求めて苦闘したりしているときには，どうか神に目を向けてください。信仰の盾で身を固めるならば，私たちは日常のチャレンジに打ち勝ち，大きな弱点や恐れを打ち負かすことができます。最善を尽くして神の戒めを守るなら，何が起ころうとも，私たちには平安がとどまるのです。

もちろん，それは私たちが個人的な苦しみや悲嘆を必ず免れることができるという意味ではありません。正しい行ないによって，不幸な出来事を排除することは決してできないからです。しかし，主イエス・キリストへの確固たる真心からの信仰は，この宇宙にあって大いに頼りとすることのできる力です。それは奇跡を起こす力となり，私たちの心に平安と慰め，そして逆境に取り組む勇気をもたらす精神力の源となります。

私たちがなすべき業に信仰を注ぎ信頼を寄せるとき，希望が生まれます。希望は信仰からはぐくまれ，私たちの行なうすべてのことに意義と目的を与えてくれます。また悪や災害，不義に満ちたこの世で幸福に暮らすために必要な心の平安を私たちにもたらしてくれるのも希望です。

救い主は，この世での伝道の終わりが近づいた時，愛する弟子たちに次のような，平安を伴った希望を与えられました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。私の平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは，世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな，またおじけるな。」（ヨハネ14：27）

希望は生きるうえで大切な原則です。しかし，私たちの中には罪のために希望をまったく失っている人がいるかも

しれません。この世のものに浸りきってしまい，抜け出す方法がわからなくなり，希望をまったく失っている人もいます。このような不幸のわなに陥っている人々に対して心から申しあげたいと思います。決してあきらめないでください。事態がどんなに絶望的に見えても，ますます悪くなりそうに思えても，希望を持つことはできます。希望はどんなときでも持てるのです。私のこの言葉をどうか信じてください。

最近私はあるすばらしい家族のために神殿で結び固めの儀式を行なう特権にあずかりました。いつものようにそれは美しい儀式でした。しかしもし皆さんがこの家族の父親を数年前にご存じなら，その日主の宮居で行なわれたことは，まさに奇跡であったことがおわかりになるでしょう。彼の承諾が得られましたので，私あてに書かれた手紙をご紹介いたします。

「私は教会員の子として生まれ，母から福音を教えられて育ちました。勤勉で忍耐強い母は私の心に小さい証の火をともしてくれました。その証は，私の人生の最も苦しい時でさえ決して消え去ることはありませんでした。私は十代の時サタンにひどく誘惑されました。それは1960年代後半から1970年代前半の深い苦悩の時代でした。サタンは私を悪に引きずり込もうとやっきになっていました。私は麻薬を常用し，性的な事柄におぼれ，快楽に酔い，それ以外のことには無関心でした。初めてアルコールを口にしてから，私は次第に堕落し始めました。アルコールの後は，麻薬にもたやすく手を出してしまいました。麻薬を使うためにはうそを上手につかなければなりません。自分の行為を隠すために何でもしなければなりませんでした。

このような生活を何年か続けた後，私の道徳心は完全にむしばまれてしまったようでした。良心のかけらもなく，ひどい絶望のふちに陥りました。麻薬で死んだり自殺した友人もいました。やがて，私は友人と共に刑事裁判を受けました。実際に以前の友人の多くはまだ服役中です。子供の時に母がともした小さな証の灯がなかったなら，天父がまだ私を愛してくださっていることもわからず，きょうこの手紙を書くこともなかったでしょう。」

このような放蕩息子に対しては希望を捨てる両親がいるかもしれませんが，彼の母親はそうではありませんでした。息子が子供の時に教えられたことを思い出し，再び主イエス・キリストに信頼を寄せるようになると，信じ続けたのです。そして家族と友人たちの愛のこもった助けによって彼は教会に再び戻ったのです。もう一度彼の手紙から読みたいと思います。

「私はひとつのことを学びました。それは，どれほど遠く道から迷い出たと感じ，どれほど深く絶望に沈んだとしても，赦しと平安は与えられるということです。同時に，主から遠くなればなるほど，主と主の教えに戻ることがむずかしくなることも学びました。しかしひとたび心を開き，御子イエス・キリストのみ名によって助けを求めて天父に祈ってからは，悔い改めの力と神の戒めに従順であることによる祝福がわかるようになりました。」

兄弟姉妹，私は皆さんがその日神殿にいて，希望がかなった喜びを分かち合えたならと思います。私の友であるこの兄弟の母親は，結び固めの部屋で4人の息子とそれぞれの妻や子供たちに囲まれていました。皆さんも，私と同じように，彼女の胸を満たした神への新たなる愛と崇高な幸福をきっと感じ取ることができたに違いないと思います。

使徒パウロは神聖な3つの原則が私たちの生活の基盤となると教えました。それは信仰と希望と愛の3つです。(Iコリント13：13参照)三脚いすの脚のようにこの3つは私たちを支える土台となります。一つ一つの原則はそれ自体重要なものですが，同時に互いを支え合う大切な働きもしています。それぞれはほかのものなしでは不完全です。希望は信仰をはぐくみ，真の信仰は希望を生み出します。希望を失い始めると信仰も弱まります。信仰と希望の原則が共に作用するときには，3つの中で一番大切な愛も伴わなければなりません。モルモンによると「この愛はキリストの純粋な愛であって永遠につずくもの」です。(モロナイ7：47)愛は信仰と希望が完全な形をとったものです。

これら3つの永遠の原則はひとつとなって働き，永遠にわたる広い視野を私たちに与えてくれます。それは予言によって終わりの日に来るとされる艱難を含め，人生の最も困難なチャレンジに直面するときに必要となります。真の信仰によって将来に対する希望がはぐくまれ，自分自身や目の前の煩い事を超えた立場で物事を見られるようになります。私たちは，希望によって強められるとき，日々のクリスチャンとしての奉仕と神への従順さを通して，キリストの純粋な愛を実践できるようになります。

兄弟姉妹，私は天父が私たちを個人として，またひとつの民としても知っておられることを皆さんにはっきりと申しあげます。神は今日この世で私たちが直面する霊的，肉体的，精神的な困難についてご存じです。事実それらは，私たちの永遠の成長と発展のために神が計画されたことの一部なのです。「信仰して堪え忍びわが意を行う者は勝利を得〔る〕」(教義と聖約63：20)という神の約束は必ず果たされます。

救い主は「汝に反抗せんとして造る武器は一つも役に立たず。……こはすなわち主の僕らの受くる祝福なり」(IIIニーファイ22：17)と約束されました。

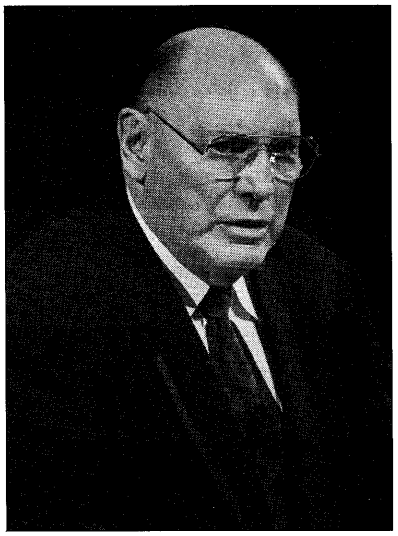
愛，信仰，希望によってのみ見いだせる「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安」(ピリピ4：7)を私たちも皆見いだせますように願っています。

私は，主イエス・キリストが生きておられることを証いたします。主は予言者ジョセフ・スミスを通してこの地上にイエス・キリストの教会を回復されました。神を愛し，神の戒めを守ることによって，私たちは永遠の生命を与えられます。この知識は私に希望と信仰を与えてくれます。皆さん一人一人もそのようになりますように，イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。アーメン。

証という霊のかがり火

十二使徒定員会会員
ジョセフ・B・ワースリン

個人の証をさらに赤々と燃え立たせておくための方法を，３つ提案したいと思います。霊性を脅かそうと辺りをうろつく邪悪なおおかみから身を守るための提案です。



何年も前のことですが，ロシアのウクライナの人里離れた地域には，おおかみがいくつもの大きな群れを成してうろついていて，その地方を行く旅人にはきわめて危険な場所となっていました。このおおかみの群れは恐れを知らず，たとえ相手が人であっても，あるいは当時入手し得るどんな武器であったとしても，ひるむことなく向かってきました。たったひとつだけ恐れていたものがあったとすれば，それは火でした。そのため，町から離れた場所で野宿する旅人にとって，大きなかがり火をたいて，一晩中火を絶やさずにおくことは，ごく普通の習慣になっていました。火が赤々と燃えている限り，おおかみたちは決して近づこうとはしませんでした。しかし，ひとたび火が消えかかったり，また消えたりすると，直ちに襲いかかってきました。旅人たちは，火をおこし，赤々とした火を絶やさずにおくことが，ただ単にあれば便利だし暖かいといったたぐいのものではなく，命を守るために不可欠であることをよく理解していました。（メアリー・プラット・パリッシュ『契約を守る者』「聖徒の道」1973年３月号，pp. 128—131参照）

私たちも，今日人生という道を旅するとき，おおかみの群れから自分自身を守る必要があります。霊的な意味で，私たちの前には，サタンという悪質なおおかみの群れが，誘惑や悪事，罪という姿を借りて，待ち構えています。現代は危険な時代です。そうした貪欲なおおかみたちが，信仰の弱い者や確信を持てずにいる者を求めて，霊的に人里離れた所でうろついているからです。使徒ペテロはその第１の手紙の中で，「あなたがたの敵である悪魔が，ほえたけるししのように，食いつくすべきものを求めて歩き回っている」（Ⅰペテロ５：８）と書いています。主はまた予言者ジョセフ・スミスに，「周囲には汝の敵子羊の血に渇きたる狼の如くにはいかいす」（教義と聖約122：６）と言われました。私たちは皆，襲われる危険性があります。しかしながら，私たちは，熱く燃える証によって自分の身を守ることができます。その証は，適切に点火され，注意深く絶やさぬように燃やし続けてきたあのかがり火と同じです。

残念なことですが，教会員の中には，自分の証が実際には風前のともしびのような状態であるにもかかわらず，それに気づかず，赤々と燃えているかがり火のようだと単純に思い込んでいる人々がいます。そうした人々が忠実でいるのは，神に対する献身のためというよりも，むしろ習慣のためです。ですから正しい生活をするよう求められても，ほとんど例外なく，個人の興味や楽しみの方を優先させます。自分を守る証の火がそれほど弱ければ，人生という高速道路を進むこのような旅人たちは，簡単に悪魔というおおかみのえじきになってしまうでしょう。

救い主は，ご自分に従う者の多くが真の弟子となるためにどれほど苦しい経験を積まなければならないのか，よくご存じでした。そのため，燃えるような証を築く方法を，弟子たちに教えられました。十字架につけられる前の晩，イエスは愛する十二使徒たちと過越の祭りの食事をされました。十二使徒のほとんどは，主がみ業を開始された時から，ずっと身近で仕えてきた人人です。この聖なる夕べのひととき，主は先任使徒であり忠実な友であったペテロをご覧になって，次のように言われました。主は，ご自分が天に召された後，ペテロがどのような役割を果たさなければならないのか，よく知っておられて，こう言われたのです。「シモン，シモン，見よ，サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

しかし，わたしはあなたの信仰がなくならないように，あなたのために祈った。それで，あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい。」（ルカ22：31—32。下線付加）

しばらく自分がペテロになったと想像してみてください。３年前に見知らぬ聖者がやって来て，その方から，あなたが自分と家族を養うための手段としていた舟と網とを捨てて，ご自分に従ってくるように，と言われました。あなたはためらうことなくその言葉に従いました。そして，あなたは３年にわたって，その方に従い，愛し，支え，仕えてきました。あなたは，その方が知者を辱め，弱き者悩める者に慰めを与え，病にある者を癒し，死者をよみがえらせるのを，その目で見てきました。また，その方が悪霊を追い出し，

荒れる海を静めるのを見てきました。そして，あなたはほんのわずかの時間ですが，その方に向かって海の上を歩くことさえできました。モーセとエリヤがその方の所に現われた時にも，その方のそばにいました。そして，あなたの目の前でその方が姿を変えられた時，その光景も目撃しました。あなたは，全生涯をその方のために捧げようと決心しています。その方が，「あなたが立ち直ったとき」には，すなわちあなたが改宗したときには，あなたの兄弟たちを力づけてやりなさい，と言っておられるのです。

ペテロは驚きました。ペテロは主に向かい，「主よ，わたしは獄にでも，また死に至るまでも，あなたとご一緒に行く覚悟です」(ルカ22：33)と言いました。しかし，イエスはよくご存じでした。主は決してペテロの決意の弱さをお責めにはなりません。ペテロは，主が逮捕された時，自分の決意がどれほど固いものか，それを行動で示しさえしました。しかし，ここで救い主がペテロに向かって説かれたのは，ペテロの証がもっと確固としたものなら，どういうことをしなければならないのか，ということだったのです。

主はペテロのことをよくご存じだったように，私たちのこともよく理解しておられます。私たちの証は，自分が考え，望んでいるほど赤々とは燃えていないときもあるかもしれません。おそらく，その証の基盤そのものが賢明でない場合もあるでしょう。たとえば，個人的な啓示による確固とした岩の上にではなく，教会の社交プログラムや人との関係の上に証の築かれている場合がそうです。あるいはまた，長年にわたって証を活用しなかったり，自分の霊的な状況に自己満足していたために，次第に証の光が弱まってきているのかもしれません。

証が弱まっている理由が何であれ，救い主は主のもとに来て，主によって力を得よと愛をもって呼びかけておられます。救い主はモロナイにこう言われました。「もし人われに来らば，われはかれにその弱点を認めさせん。見よ，われは人を謙遜にするために人に



弱点を与うれど，……かれらがわが前にへりくだりわれを信ずる時にはその弱きを強きに変えん。」(イテル12：27)

信仰や証の弱い人の中には，自分が非常に危険な状態にあることに気づかずにいる人もいます。中には，人に忠告されると気分を害する人も大勢います。右の手で教会の指導者を支持しながら，自分の考え方に合わないと指導者の決定に不平不満を言い出します。神の戒めに従っていると主張しながら，日曜日に食料品店で買い物をし，その食物を祝福してくださるよう主にお願いすることにいささかも抵抗を感じていません。また，主のためなら命さえ捧げるつもりだと言いながら，初等協会の託児の教師の責任を簡単に断わってしまいます。

救い主はそのような人々について，「口をもってわたしに近づき，くちびるをもってわたしを敬うけれども，その心はわたしから遠く離れ」ている(イザヤ29：13)とはっきりと述べておられます。さらに主はこう言われました。「わたしにむかって『主よ，主よ』と言う者が，みな天国にはいるのではなく，ただ，天にいますわが父の御旨を行う者だけが，はいるのである。

その日には，多くの者が，わたしにむかって，『主よ，主よ，わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また，あなたの名によって悪霊を追い出し，あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか』と言うであろう。

そのとき，わたしは彼らにはっきり，こう言おう，『あなたがたを全く知らない。不法を働く者どもよ，行ってしまえ。』」(マタイ７：21―23)

これほど落胆させられるような言葉を主から投げかけられたいと願う人が，ひとりでもいるでしょうか。だからこそ，人は皆，全力を尽くしてあらゆることを行ない，暗やみに潜むおおかみを近づけないためにも証という霊のかがり火を確実に赤々と燃え立たせておく必要があるのです。皆さんは乾燥したまきをいつでも追加することができるのです。使徒パウロが教えているように，私たちは皆「神の栄光を受けられなくなって」(ローマ３：23)います。この世の生涯で，もはや絶えず証を強めていく必要はないと言い切れるほど進歩している人は，ひとりもいないのです。

これから，個人の証をさらに赤々と燃え立たせておくための方法を，３つ提案したいと思います。霊性を脅かそうと辺りをうろつく邪悪なおおかみから身を守るための提案です。

まず最初は，主イエス・キリストを信ずる信仰という確固たる基盤の上に，自分の証を確実に築き上げることです。たとえ聖徒たちと共に楽しく交わっていたとしても，あるいはまた，霊感を受けた教会のプログラムに深い信頼を寄せていたとしても，私たちにとって確実なよりどころとなるものは，ひとつしかないということを忘れてはなりません。それについては，予言者ヒラマンが息子たちに教えた言葉の中で，次のように言っています。

「さてわが子らよ。お前たちは神の御子でキリストである私らの贖い主の岩を基にしなくてはならないことを忘れるな。贖い主の岩を基にするならば，悪魔がその大風を吹かせて柱のように立つつむじ風をまき起すとき，また悪魔の雹と暴風雨とがお前らを打つとき，悪魔はお前らに打ち勝って不幸の淵と永遠の悲惨にお前たちをひき落す能力はない。なぜならば，お前らの立つ岩は堅固であって人がその上に立つと倒れることのできない基であるからである。」(ヒラマン５：12)

皆さんの中には，タバナクル合唱団の美しい歌声に引かれて初めて福音の教えに接し，その結果教会員になった人がいらっしゃるかもしれません。あるいは，食糧やそのほか必要な物資を貯蔵しなさいという予言者の勧告に従った結果，教会の福祉計画によって多大の祝福を受けたという人もおられるだろうと思います。そうしたことは，確かに教会の持つ，すばらしく霊感を受けた一面ではあります。皆，神の子たちがキリストのみもとに戻れるよう，神が備えてくださったものです。しかし，それは単に手段であって，それ自体が目的なのではありません。私たちが最終的に仕えるのは，私たちの天父であり，またその愛する御子イエス・キリストでなければならないのです。

ときどき，教会の指導者や教師，また会員の言動に気分を害したからという理由で，教会から離れていってしまう会員がいることを耳にします。また，教会幹部や指導者が自分の意見と反対の主張をしたために，信仰が揺らいでしまったという人の話も聞きます。そのような話を聞くと，彼らの信仰は一体どうなっているんだろう，といぶかしく思います。確実に主イエス・キリストの証に基を置いた信仰を持っているのだろうか，それとも，ただ単に，自分自身の考えに合致しているから，あるいは教会や教会員のあり方が社会の要求にうまく合致しているから教会に来ているだけなのだろうか，と考えさせられます。

聖典では次のように教えています。「心をつくして主に信頼せよ，自分の知識にたよってはならない。」（箴言3：5）ヨハネによる福音書の第17章に記録されている感動的な祈りの中で，救い主は次のように深遠な真理を教えられました。「永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ17：3）一人一人が私たちの天父やその愛する御子イエス・キリストとうそ偽りのない関係を築き上げ，それを土台とした証を持つこと。それに，おふたりを信ずる信仰を基とした証を持つこと。これ以上に最優先させなければならないことはほかにありません。

そのような信仰を基にできると，私の2番目の提案に進むことができます。証というかがり火をさらに燃え立たせることのできるまきとは，へりくだった真心からの悔い改めです。人の心の中から聖きみたまの影響力を最も速やかに取り除いてしまうものの代表が，罪でしょう。罪は人の霊的な感受性を鈍らせ，人から自信や平安を奪っていきます。罪人を救い主から遠ざけてしまいます。まだ悔い改めていない罪の重荷を背負って歩んでいる人は，往々にして次の罪を犯すときには，自分を正当化しがちです。正当化する罪が多くなればなるほど，サタンの手先であるおおかみによって滅ぼされる恐れも高くなってくるのです。

殺人や姦淫といった重大な罪を犯した場合には，霊的にかなり危険な状態となる，ということに異論を差し挟む人はあまりいないと思います。しかし，会社の勤務時間を使って，個人的な仕事を完成させようとする人はどうでしょうか。こそこそとポルノ映画を見に行く人はどうでしょうか。学校でカンニングをする生徒はどうでしょうか。根拠もないのに他人を批判する人はどうでしょうか。家庭の夕べはいいアイデアだけれど，自分の家庭には使えないと考える親たちはどうでしょうか。

簡潔に言えばこうです。私たちを神に近づけないものは，いかなるものであれ，私たちを神から遠ざけているのです。その中間はありません。霊性を落とすことなく犯せる小さな罪といった，中途半端なものは存在しません。だからこそ私たちは，自分の証のかがり火が罪によって消されることのないように，悔い改め，毎日謙遜な祈りを通してキリストのみもとへ行かなければならないのです。

私の3番目の提案は，キリストの模範に従うことです。キリストはその模範を具体的に行動で示してくださいました。

どのような行動をとるときでも，またどのような状況にあろうとも，私たちはイエスならどうされるだろうか，



と自問して，それに従って自分の取るべき道を決定することが可能です。たとえば，救い主ならどのようなホームティーチャーになっておられるだろうか。救い主なら，ときどき担当家族を訪問されないということがあるだろうか。救い主ならメッセージも準備しないで訪問されることがあるだろうか。救い主がよい羊飼いであられたように，自分も絶えず見守り，愛に満ちたやさしさを示すことによって，家族を導いているだろうか。そのように自問してみるのです。私たちは，心の奥底では，イエスならどのようなホームティーチャーになっておられたか，よく知っているはずです。同様に，イエスなら，どのような監督に，どのような教師に，どのような初等協会の指導者に，どのような書記に，どのような青少年アドバイザーになっておられたのか，よく知っているはずです。たとえ，この世では主が示してくださったすばらしい模範の域に達することができなくとも，主の模範に従おうと努力を続けている限り，いつか，そうした責任を果たせるようになる日が来るに違いないでしょう。

この原則は，ほかの分野でも同じように応用することができます。イエスならどのような親になっておられただろうか。あるいは，どのような隣人，会社の経営者，会社員，学生，友人になっておられただろうか，と考えるのです。もし私たちが生活を整えて，できる限り，救い主の示してくださった模範に従って生活しようと努めるなら

ば，私たちの証は絶えず強められ，私たちの霊のかがり火も決して残り火のようにかすかな炎になることはないでしょう。

今は苦難の時代です。サタンの影響力はとどまるところを知らず，圧倒的な勢いで迫っているように思えることがたびたびです。神の約束を思い起こしてください。私たちを脅かすおおかみの攻撃を防ぐために赤々と燃える証のかがり火を守ろうとする人々に，神は次のように約束してくださいました。「恐れてはならない，わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない，わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし，……わが勝利の右の手をもって，あなたをささえる。」（イザヤ41：10）

教会の強さは，会員一人一人がいかに深く，力強い証を持っているかにかかっています。揺るぎない確実な証があるかどうかが，忠実かどうかの分かれ目です。

私たちが幸福で，報いある，しかも霊的な生活を楽しむためには，証の基盤を，確固としたものにする必要があります。私はその基盤となるものが，主イエスを信ずる信仰であり，へりくだって真心から悔い改めることであり，そして救い主の模範に従うことであると証します。

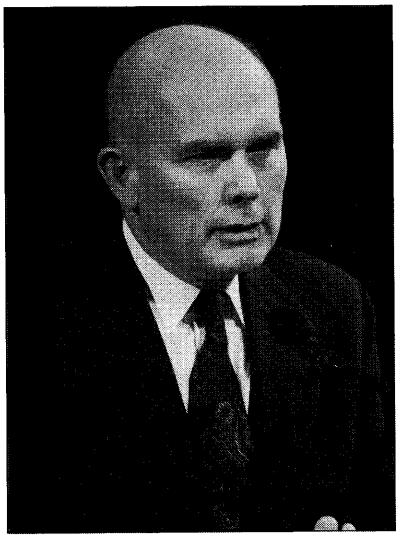
私は天父が生きておられ，神の子一人一人を愛しておられることを知っています。神の御子イエス・キリストこそ，私たちの救い主であり，贖い主です。キリストの贖いがあったために，私たちは皆，不死不滅の者となり，また条件さえ満たせば，神と同じように，永遠の生命にあずかることができるようになりました。その条件とは，自分の罪を悔い改め，忠実に戒めを守り続けることです。ジョセフ・スミスは神の予言者です。ジョセフを通して，主はこの末日にイエス・キリストの福音を回復されました。エズラ・タフト・ベンソン大管長は現代の予言者です。以上申しあげましたことが，神から賜わった真理であることを，イエス・キリストのみ名により証します。アーメン。

●1992年10月3日(土)神権部会

聖書の物語と個人的な守り

十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス

世界中の忠実な末日聖徒が悪魔とその僕たちの力から守られているのです。それは彼らが現世での使命を終えるまで続きます。



愛する兄弟たち，世界中の聖なる神権を持つ人々が，教えと霊感を求めて集うこの会は非常に重要です。

この会に出席しておられる多くの年輩の方々と同様，私の息子や孫たちも様々な所で耳を傾けています。私たちは，この会が，若い神権者にとって価値ある興味深いものとなるよう願っています。私は特に彼らに向けて話したいと思います。

私は子供のころ，夜の時間はほとんど読書で過ごしました。お気に入りは，「ハルバートの聖書物語」でした。それはあるプロテスタントの牧師が若い人々に聖書の真理を教えるための助けとして出版したもので，聖書の中から168の話を取り上げていました。

私はその本の物語が好きで，何度も読みました。いくつかを皆さんに紹介し，その教えについて，また私の人生に与えた影響についてお話ししたいと思います。

最初の話は，子供ながらに理解できていたと思っていたものですが，わかり始めたのは，後になってからのことです。

主はアブラハムに，息子イサクを連れモリヤの地の山へ行き，「燔祭（はんさい）としてささげなさい」とお命じになりました。（創世22：2）

最初読んだ時に，燔祭という言葉の意味がわかりませんでした。しかし私は農場で動物と一緒に暮らし，近くには山もあったので，ほかのところはよく理解できました。

アブラハムは朝早く起き，ろばにくらを置いて，出発しました。イサクは父親とそんな旅ができて，得意顔だったろうと，私は思いました。

3日目にアブラハムとイサクは礼拝するため，山に登りました。普通の少年と同じで，イサクは好奇心旺盛（おうせい）でした。ふたりは火と薪（たきぎ）と刃物を運びました。彼は父親に「燔祭の小羊はどこにありますか」と聞きました。（創世22：7）私は自分に子供ができてようやく，その時のアブラハムの大きな苦しみを理解できました。彼はただ「子よ，神〔が〕備えてくださるであろう」（創世22：8）と答えたのです。

示された場所に来ると，アブラハムは祭壇を築き，薪を並べました。次にアブラハムは「イサクを縛って祭壇の

たきぎの上に載」せました。(創世22：9)イサクはアブラハムのその行ないをどう思ったことでしょう。聖書には，争いめいたことは何もなかったと書かれています。イサクの沈黙は，父親への信頼と従順としか説明のしようがありません。

次に「アブラハムが手を差し伸べ，刃物を執ってその子を殺そうとした」(創世22：10)と聖書には書かれています。

皆さんご存じのように，アブラハムは試しに耐え，主はイサクをお救いになりました。天使が命じました。「わらべを手にかけてはならない。」(創世22：12)そして，やぶに角をかけている雄羊を代わりに捧げたのです。

子供の私は，イサクの従順さに感心はしましたが，これを冒険談として見ていたところがあります。もっと大きくなってから，アブラハムとイサクのこの体験は，予表と呼ばれていることを知りました。予表とは何かに似ている物，思い起こさせる物です。モルモン経の予言者ヤコブは，この時アブラハムが受けたイサクを捧げよとの戒めは，「後に神がその生みたもうた独子をいけにえになしたもうことに応じて予めこれを示すものであった」(ヤコブ4：5)と書いています。

この話には，神が愛をもってイサクを守り，彼が死ぬことのないよう代わりの羊を備えられたことが書かれています。私たちは自分の罪と肉体のゆえに必ず死にます。何の希望もない人間のために天父は神の子羊を備えてくださいました。私たちはその贖いによって救われるのです。

使徒パウロは，聖典は「神の霊感を受けて書かれたもの」であり，「人を……義に導くのに有益である」(IIテモテ3：16)と教えています。私たちは聖典に記録された様々な物語から，義に導く教えを学ぶことができます。それらは神の戒めに対する従順さの様々なケーススタディとなっています。

若人にとって特に大切なもののひとつに，エジプトに売られたヨセフの物語があります。ヨセフは奴隷の身でありながら，その能力のゆえに，主人に



強い印象を与え，主人の家と畑の全財産の管理を任せられました。(創世39：4－6参照)そして，その大任を受けていたヨセフにひとつの試しが与えられました。

主人の妻が，姦淫の罪の誘惑をしかけてきたのです。ヨセフは彼女の誘惑を拒み，主人の信頼を裏切ることはできない，また，そのような「大きな悪」(9節)を行なって罪を犯し，さらに神の大きな期待を裏切ることはできないと言いました。ヨセフは彼女の誘惑を何度も拒みました。そして，ある日，家にほかの者がだれもいない時，彼女はヨセフの着物をつかみました。聖句には，次のように真に迫った表現がなされています。「ヨセフは着物を彼女の手に残して外にのがれ出た。」(12節)

なんと力強い「義に導く」教えではないでしょうか。同じ教えが現代の啓示の中にも与えられています。「また，汝ら悪しき人々の仲間より離れよ。己れ自らを救え。汝ら，主の器をもてるものは潔くあれ。」(教義と聖約38：42)これらの言葉は私たちすべてにヨセフの模範に従うよう命じています。

私が好きなたくさんの聖書の物語に共通していたのは，主は正しく忠実な子供を守ってくださるという点でした。若いころの私が，ヨセフの物語が好きだったのは，まさしくその点でした。

皆さんも覚えておられるように，ヨセフのねたみ深い兄たちは，父ヤコブに特に愛されたヨセフを殺そうと企てました。ヨセフをつかまえ，穴に投げ入れてから，彼らはヨセフを殺さずに，奴隷として売ることに決めました。彼らが父親にヨセフは野の獣に殺されたと話していたころ，カナンの野で，商人に買われ，エジプトへ連れて行かれたヨセフの前途に待っていたのは，奴隷の境遇でした。(創世37参照)

エジプトで，ヨセフは不当にも投獄されてしまいました。しかし牢にあってもヨセフは他に抜きんでていました。主もヨセフを祝福されました。やがて彼はパロの夢を釈き明かすために召し出され，パロによって全エジプトのつかさとされました。この高い地位に就いた彼は家族をききんから救うための器となり，自分に悪を働いた兄弟たちを愛し，赦したのです。(創世40—45章参照)

若い私はヨセフの数奇な物語に心を躍らせ，主が彼を殺害，奴隷の境遇，投獄などの危機から救われたことに感動しました。最初にモルモン経を読んだ時，その初めの方に「このヨセフとは……エジプトへ売られ……主の御手によって保護されたあのヨセフである」(Iニーファイ5：14)と書かれている箇所を見つけました。後に聖典を読んでいて，私はこのような守りがすべての人に与えられることを学びました。たとえば，聖書には「主は真実な者を守られる」(詩篇31：23)また「神は彼に寄り頼む者の盾である」とも書かれています。(箴言30：5)

主のみ守りについて教えてくれる，私が好きなもうひとつの例は，羊飼いの少年ダビデです。ダビデはイスラエルの神を固く信じていました。そしてその信仰は彼に大きな勇気を与えまし

た。

ペリシテ人の軍勢がイスラエルと戦うために集結した時，ゴリアテという剛の者が進み出て，一対一の戦いをしようと挑戦の言葉を投げつけました。サウルとイスラエルのすべての人は「驚き，ひじょうに恐れ」ました。(サムエル上17：11)ゴリアテは毎日毎日戦いを挑みましたが，だれもそれにこたえる者はいませんでした。

少年ダビデは食糧をイスラエルの陣営に運んで行った時に，ゴリアテのどなり声を聞き，驚いて尋ねました。「この割礼なきペリシテびとは何者なので，生ける神の軍をいどむのか。」(サムエル上17：26)ダビデはゴリアテと戦っていいかと尋ねましたが，王は拒んで言いました。「あなたは年少だ」(33節)と。ダビデは勇気と信仰をもって答えました。「ししのつめ……からわたしを救い出された主は，またわたしを，このペリシテびとの手から救い出されるでしょう。」(37節)

ダビデが戦場に進み出ると，ゴリアテは年が若いとダビデをあざけり，自分の神々の名によってのろい，ダビデの肉を鳥や野の獣のえじきにしてやると叫びました。(42—44節参照)

この時のダビデの答えは，数ある文学的記録の中でも，信仰と勇気の証として最高のものです。彼の言葉に若い私の胸は高鳴りました。そしてそれは今も変わりません。

「おまえはつるぎと，やりと，投げやりを持って，わたしに向かってくるが，わたしは万軍の主の名，すなわち，おまえがいどんだ，イスラエルの軍のの神の名によって，おまえに立ち向かう。

きょう，主は，おまえをわたしの手にわたされるであろう。わたしは，おまえを撃って，首をはね，ペリシテびとの軍勢の死かばねを，きょう，空の鳥，地の野獣のえじきにし，イスラエルに，神がおられることを全地に知らせよう。

またこの全会衆も，主は救いを施すのに，つるぎとやりを用いられないことを知るであろう。」(サムエル上17：45—47)

この後どうなったかは皆さんご承知のとおりです。ダビデは投石器を武器にゴリアテを倒し，剣で彼の首をはねました。最強の兵士の死に驚いたペリシテ人は敗走しました。イスラエル軍は勝ちどきを上げて，彼らを追い，大勝利を収めました。

数多くの若人が「義に導く」このすばらしい教えに霊感を受けてきました。私たちはだれでもあざけり，ののしる人々の前に立たなければならないときがあります。またときにはゴリアテのように強力な，この世的な力と立ち向かう人もいるでしょう。そのようなとき，私たちは，ダビデの勇気に倣わなければなりません。ダビデが強かったのは，信仰を持ち，万軍の主のみ名によって，正しい目的のために前進したからです。

同じように，宣教師もサタンとその軍勢の武器の前には，弱く，無防備で非力に見えるかもしれません。しかし主は彼らに約束しておられます。「われは彼らの楯(たて)とならん」(教義と聖約35：14)と。そしてこの約束は，全世界の至る所で日々果たされています。主が忠実な人にくださる盾は，私たちを有害な衝動から守ってくれます。酒，たばこ，熱き飲料，そのほかの有害な物を避けるようにと，現代の聖徒を戒めた啓示は，忠実な人に対して，「さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如(ごと)く，彼らを過ぎ越して屠(ほふ)ることなかるべし」(教義と聖約89：21)と約束しています。

神のみ守りについてのもうひとつの話にはひとりの予言者とその僕(しもべ)が登場します。エリシャは，イスラエル王国がスリヤに抵抗するのを助けました。そのためスリヤ人はエリシャを捕らえようと馬と戦車の大軍を送りました。エリシャの若い僕は，町を包囲する軍勢を見，恐れて叫びました。しかしエリシャは彼を励ましてこう言いました。

「『恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから。』

そして，エリシャが祈って『主よ，どうぞ，彼の目を開いて見させてください』と言うと，主はその若者の目を開かれたので，彼が見ると，火の馬と火の戦車が山に満ちて，エリシャのまわりにあった。」(列王下6：16—17)

主はみずから手を下し，スリヤ人を混乱させ，彼らの目をくらまされました。そしてスリヤ人たちはイスラエル軍の捕虜となったのです。

子供のころにこのすばらしい話を読んだ時は，いつも自分がエリシャの若い僕になったような気がしました。もし主のみ業に働いているときに，悪の軍勢に囲まれたら，主が自分の目を開いて，敵よりも味方の力が強いことを理解する信仰をくださるように願うだろうと思いました。

しかし，聖書のこのような物語があるからといって，神の僕はすべての苦しみから解放され，必ず死から救われるということではありません。信じていても，迫害に命を落とす人もいれば，信仰の結果として大きな苦しみを受ける人もいるのです。それでも，神が忠実な僕に約束されたみ守りは，聖書の時代と同じように，今もあるのです。

世界中の忠実な末日聖徒が悪魔とその僕たちの力から守られているのです。それは彼らが現世での使命を終えるまで続きます。伝道中に命を失った勇敢なある若い宣教師たちのように，短い間にこの世での使命を終える人々もいます。しかし，ほとんどの人にとって，現世の旅は長く，天使の守りの中で道を歩み続けていくものです。

私もこれまでに，自分のなすべき事柄について導きを受けたり，危害や悪から守られた経験がいくつもあります。主のみ守りがほかの人の邪悪な行為からの盾となり，自分の弱点にくじけそうになったときの支えとなってきました。ある暑い夏の日の夜に，シカゴの街でその守りを受けたことがあります。これまでその時のことを人前で話したことはありませんが，この話のテーマの良い実例になりますので，紹介したいと思います。

私の妻のジュンはその夜，ワード部の役員会に出席していました。車で迎えに行くと，妻はある姉妹と一緒でした。私たちは途中，彼女を送っていくことにしていました。彼女は，ブラッ

クストーン・レンジャーズという一団が縄張りにしていた，ウッドローン地区の近くに住んでいました。

私はその姉妹のアパートの外のカーブに車を止め，玄関先まで行き，戸口の階段を上りました。妻は路上に止めた車の中にいました。彼女はすべてのドアをロックしました。もしもの時には妻が車を発進できるように，私はキーを差し込んだままにしておきました。それまで何年かシカゴの南地区に住んでいて，私たちはそういう用心をすることには慣れていました。

玄関を後にして，道路へ下りていく時，私は辺りを注意深く見回しました。近くの街灯に照らされた路上には，3人の若者が歩いているのが見えただけでした。私は彼らの姿が見えなくなるのを待って，足早に車へ向かいました。

運転席の所まで来て，私は彼女にドアを開けるよう合図しました。その時です。3人の若者の中のひとりが私の方へ走って来たのです。彼は右手に何かを持っていました。それが何かはすぐわかりました。彼はすぐそこまで迫っていて，私が車に乗り込み発進するのに十分な時間はありませんでした。

幸い，妻は運転席のドアを開けようとして，体を動かした拍子に銃を持った若者が車の後ろに来ているのを，リアウインドー越しに見ました。そして賢明にも，ドアのロックはそのままにしておいたのです。永遠にも思えたその後の2，3分，彼女は身震いしながら運転席の窓越しに行なわれた出来事を目撃していました。

その若者は私の胃の辺りに銃を突き付け，「金を出せ」と言いました。私はポケットから財布を取り出し，中が空であることを見せました。彼に渡せる時計もしていませんでした。ちょうどその日，バンドが壊れてしまっていたのです。ポケットからコインをいくつか出しましたが，彼は納得せず，どなり声を上げました。そして「車のキーをよこせ」と言ってきました。「車の中にある」と言うと，今度は「彼女にドアを開けさせろ」と命令してきました。ちょっとの間，私はもしドアを開けたらどうなるかを考え，それから「開けるわけにはいかない」と言いました。彼は怒り狂って，銃で私の腹をつつき，「開けさせろ。死にたいのか」と言いました。

22年も前の出来事ですが，昨日のことのようにはっきり覚えています。凶器を手にして自分の前に立ちはだかる者から，殺すと脅されることほど強烈な印象になることはないという文章を何かで読んだことがあります。

私が断わると，その若い強盗は要求を繰り返しましたが，今度は声を荒げ，銃で脅しながら，すごんできました。私は，彼には撃つ気はないようだが，腹に押し付けられた銃が，不注意で暴発しないかと考えていました。彼の銃はいかにも安物で，安全装置がどうなってるのかと冷や汗ものでした。

「金を出せ。」「一銭もない。」「車のキーを渡せ。」「車の中だ。」「車のドアを開けさせろ。」「断わる。」「それなら殺す。」「絶対開けない。」

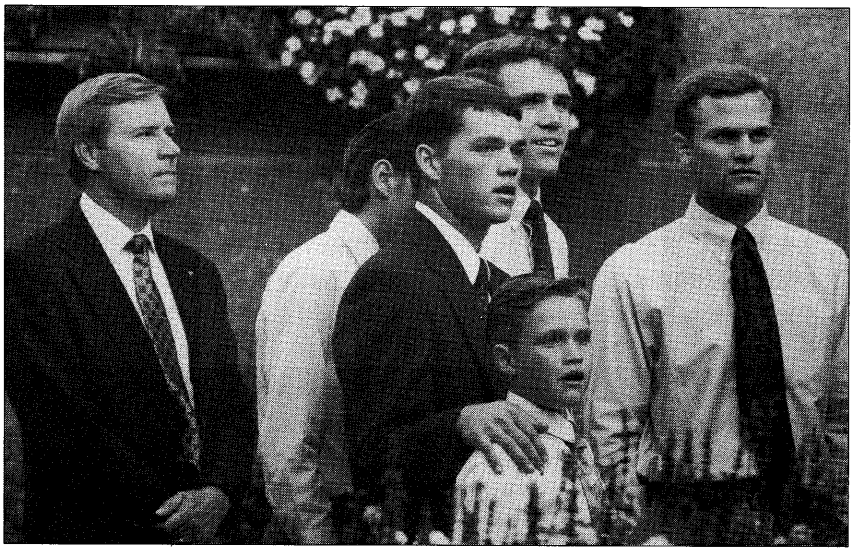
車の中の妻には，私たちの言葉のやりとりは聞こえませんでしたが，銃の動きは見えていました。彼女は，一体どうしたらいいのか考え苦しみました。ドアを開けるか，それともクラクションを鳴らすか，車を発進させるか。しかし，どの考えも事態を悪化させる危険性があり，彼女はじっと，祈るだけでした。やがて彼女の心は，平安な思いで満たされました。そして，すべてうまく収まるという感じを持ったのです。

そうしているうちに，最初の助かるチャンスがやってきました。その強盗の後方に，1台のバスがやって来たのです。数メートルの所でバスが止まりました。しかし，バスを降りた乗客は，足早に姿を消し，私の方をじっと見ていた運転手にも一向に助けようという気配がありません。

若い強盗は後ろ向きだったので，その間の様子が見えませんでしたが，さらに神経をとがらせ，気が転倒してきました。彼の銃は震えるように動いて，そのねらいは胃の所から右の方へわずかにずれていきました。私はいつでも腕を上げられる状態で，素早く動けば銃をつかみ，撃たれる恐れもなく，彼と格闘することも可能でした。私は体重，上背で彼に勝り，当時はまだ体力もありました。銃さえなんとかすれば，このレスリングはわずかな時間で自分が勝つと信じていました。

今まさに腕を動かそうとしたその時，私はかつてないひとつの経験をしました。何かを見たとか，聞いたとかいうのではありませんが，私はその時，確かに何かを知ったのです。私がその銃を奪おうとすれば，もみ合いになり，銃口が彼の胸に向き，引き金が引かれ，彼が死ぬようになるということを知ったのです。また，その若者の血を流して，生涯心を苦しめるようなことをしてはならないとも理解しました。

私は気が楽になり，バスが去って行く時には，右手を彼の肩にかけ，説教



を始めました。当時私には十代の子供が何人かいて，説教をするのには慣れていました。

私は言いました。「よく考えてみなさい。君は間違ったことをしている。次は警察の車が来るかもしれない。そうしたら君は殺されたり，牢に入れられたりするかもしれない。」

彼はそれを聞くと銃をまた私の胃の所に戻して，また自分の要求を繰り返しました。しかし，今度は声の調子が下がっていました。殺すぞと言う最後の脅しにも迫力がありません。私が要求を断わると，彼は一瞬たじろぎ，銃をポケットに突っ込み，走り去って行きました。妻がドアを開け，私たちは感謝の祈りを口にしながら，車を家に進めました。私たちは子供のころに読んだ聖書の話に書かれていたと同じような，奇跡的な守りを経験したのです。

私は，後に自分が受けた責任と関連づけて，あの事件の意義を深く考えることがよくあります。あの８月の夜の出来事から１年もたたないうちに，私はブリガム・ヤング大学の学長に選ばれました。そして今の責任に召されたのは，あの体験からおよそ14年後のことです。

主が肉の腕に頼らず，天父のみ守りに信頼しなさいという示現と力を与えてくださったことに感謝しています。モルモン経の中にある「神はその能力で必ず義人たちを守りたもう。故に義人はおそれるに及ばない」（Ｉニーファイ22：17）という末日の私たちに対する約束に感謝しています。誓約に従い，聖所で約束された祝福にふさわしい生活をする人々に与えられる守りに感謝しています。

これらをはじめとして，神の忠実な子供たちに与えられた約束はすべて，イスラエルの主なる神のみ声と力によってなされたものです。私はその主なる神，救い主イエス・キリストを証します。キリストの復活と贖いは不死不滅を確実にし，永遠の生命への道と機会を開いています。イエス・キリストのみ名によりお話ししました。アーメン。

主は義人を栄えさせる

七十人会長会
ディーン・Ｌ・ラーセン

主は絶えずこの世の富をもって主の民を栄えさせようとしておられますが，そのような祝福を受けるのは，この世で得た富を，賢明に，へりくだって，愛をもって活用していることを行動で示す人々です。



七十人会長会および同定員会会員を代表して，このたび新たに七十人に加わることになったアイリング長老とペイス長老に心から歓迎の意を表したいと思います。また先ほどヒンクレー副管長が発表されたように，新たに15人の方々が七十人定員会に加えられて，８月中旬からそれぞれの務めを果たしておられます。また，教会の管理監督会でヘイルズ監督の傍らにあって働いてくださることになったエッジリー副監督とバートン副監督も，同様に心から歓迎いたします。

また，このたびの総大会において七十人としての務めを正式に終えられることになった方々に，私たちの愛をお伝えするとともに，その働きに対して変わらぬ敬意と賛辞とを捧げるものです。

1831年にニューヨーク州フェイヤットで開催された教会の総大会で，主はジョセフ・スミスにひとつの啓示を賜わり，その中で偉大な約束をされました。そのみ言葉を読んでみましょう。「われこの世をして富ましめたれど，見よこはわが足台なり。これを以て，われ再びその上に立たん。

われは声明して，俗世の富に勝る富を汝らに与えんとす。すなわち約束の地にして，乳と蜜との流るる地なり。而してこは主の来りたもう時，呪いのその上にあらざる地なり。

汝らもし心を尽して求めなば，われ汝らにゆずりの地としてこれを与えん。

これわが汝らと立つる誓約なり。われ汝らにこれをゆずりの地として与え，またこの世のある限りいつまでも汝らの子孫のゆずりの地として与えん。また汝らとこしえにこれを保ちてもはや失うことなからん。」（教義と聖約38：17—20）

主は，この世の民が主を忘れず，その導きに従順である限り，霊的な祝福だけでなく，物質的な物も豊かに与えてくださることを，どの時代にあっても実例を通して教えてこられました。

主は絶えずこの世の富をもって主の民を栄えさせようとしておられます。聖典にはそのような実例が数多く記されています。そのような祝福を受けるのは，この世で得た富を，賢明に，へりくだって，愛をもって活用していることを行動で示す人々です。さらに彼らはその祝福がどこからもたらされるのかを絶えず念頭に置いているのです。

旧世界からアメリカ大陸に渡ってきた時，リーハイの民は，家を建てるためにも，食糧を確保するためにも，主

に頼らざるを得ない状況にあることを承知していました。ニーファイは次のように記録しています。

「私たちは何事にも……主の裁決と律法と命令とを守った。

主が私たちと共に在したので，私たちは種子を蒔き豊に刈り入れをして大そう栄えた。やがて私たちは羊の群牛の群その他あらゆる獣を飼うことを始めた。

そして私たちは非常に栄え，人の数もその地に於てふえ始めた。」（IIニーファイ５：10―11，13）

このような物質的繁栄は，いつの世でも，もろいものです。そのため，こうした形の繁栄は民の最大の試しのひとつとなってきました。繁栄をもたらすために必要とされた人格や行動を維持していくことは，決して容易ではありません。モルモン経のアルマ書第１章に記された出来事からも，それを伺い知ることができます。

これからその記録を読んでいきますが，民が物質的に繁栄するときはどのような要素が働くのか，そして，やがて滅んでいくときにはどのような要因が重なるのか，といった点に特に注意してお聞きください。

「そして祭司らが神の道を民たちに伝えるためにその仕事を休めば，民たちもまた神の道を聞くためにその仕事を休み祭司が民たちに神の道を説き終ると，民たちはみなすぐと帰ってまたその仕事にはげんだ。そして，教えを説く者はその教えを聞く者よりも偉いわけでなく，また教師はその教えを学ぶ者よりも偉いわけでないから，祭司は自分の教えを聞く者よりも偉いとは思わなかった。このようにして民たちはみな平等であって各々みなその力に応じて働き，各々みなその財産の多い少いに応じて，貧乏な者や病気にかかっている者や苦しんでいる者たちに施しをした。かれらは高価な衣服で身を飾らなかったがその服装は見ても気持ちが良く小ざっぱりした服装であった。

このようにかれらは教会の万事を整えて，……またひきつずき平和を保つようになった。

それで教会が確立したので教会員は非常に物持ちになり始め，必要な品物が豊にあって，家畜の群，いろいろな肥えた家畜，穀物，金，銀，貴重品，絹布，良いリンネルやいろいろの良い常用の織物などを多く持っていた。

そして，このように栄えていたとき，かれらは着る物のない者，飢えている者，渇いている者，病気をしている者，栄養の足らない者などを追い払わず，富に執着をせず，貧乏な者があるなら年よりと若い者，男と女，自由の民と奴隷とを区別せず，教会員であると非教会員であるとの差別なく誰にも同じように惜しまず物を施した。

このようにして教会員は栄え……た。」（アルマ１：26―31）

いつの時代でも状況は同じです。人々が主のみこころに添った生活をするときには，神がその子供たちのために用意してくださっている祝福につながる要素が，ことごとく備わってくるようです。愛と一致の精神がみなぎり，天候や気候，自然の力までもがそれにこたえてくれるようです。また，平安と静けさがいつまでも続き，勤勉と進歩が民の生活の特徴となります。その状態は，主が次のように約束されたとおりです。「もしあなたがたがわたしの定めに歩み，わたしの戒めを守って，これを行うならば，

わたしはその季節季節に，雨をあなたがたに与えるであろう。地は産物を出し，畑の木々は実を結ぶであろう。

あなたがたの麦打ちは，ぶどうの取入れの時まで続き，ぶどうの取入れは，種まきの時まで続くであろう。あなたがたは飽きるほどパンを食べ，またあなたがたの地に安らかに住むであろう。

わたしが国に平和を与えるから，あなたがたは安らかに寝ることができ，あなたがたを恐れさすものはないであろう。」（レビ26：３―６）

おそらく，あらゆる時代を通じて言える最大の悲劇は，民が約束された主の祝福を受けていながら，その豊かな生活がだれのおかげなのかを忘れてしまったときに起きているようです。モーセは，よく見受けられるこの傾向に対して警告を与えるため，イスラエルの民に次のように言っています。

「あなたは……主の命令と，おきてと，定めとを守らず，あなたの神，主を忘れることのないように慎まなければならない。

あなたは食べて飽き，麗しい家を建てて住み，

また牛や羊がふえ，金銀が増し，持ち物がみな増し加わるとき，

おそらく心にたかぶり，あなたの神，主を忘れるであろう。……

あなたは心のうちに『自分の力と自分の手の働きで，わたしはこの富を得た』と言ってはならない。」（申命８：11―14，17。下線付加）

アルマの記録に戻ってみましょう。先ほど引用した聖句にあるようなすばらしい繁栄を享受してから，民がそのような繁栄はみな自分の力で成し遂げたのだと考えるようになるまで，さほど長い時間はかかりませんでした。アルマ書には，次のような悲しい事例が記録されています。

「判事治世の八年目になって教会の会員たちは次第に慢心を起した。それはかれらが勉めはげんで得た非常に多くの富と，精良な絹布，良いリンネル，多くの家畜，金，銀，あるいはあらゆる貴重な品物などを持っていたからである。このようにしてかれらは……上に述べたような財貨を誇ってようやく高慢な心がつのった。……

教会員たちは……富や浮世の無益な物に心を寄せ，互いに侮り合っ……た。」（アルマ４：６，８）

同じことがヒラマンの時代にも起こりました。ヒラマンは自分の民について次のように記録しています。

「同じ年に，教会は非常に栄え何千人と言う人々が教会に加わって，すでに悔改めをしたしるしとしてバプテスマを受けた。

それであるから，教会の隆盛と民が受けた祝福は，大祭司たちや教師たちまでも，みな非常に驚かずにはおられないほど大きなものであった。」（ヒラマン３：24―25）

しかし，次の段階に入るまで，時間はかかりませんでした。ヒラマンは，その時の教会員の状態について次のように記録しています。先ほど引用した



時代から５年も経過していません。「判事治世の五十一年目も教会に起り始めた慢心のほかには平和を妨げるものはなかった。この慢心が神の教会に起り始めたと言ったが，本当は神の教会の中でなくて，自分から神の教会に属していると唱える人々の心の中に起ったのである。

これらの人々の慢心はようやく増長して多くの同胞兄弟を苦しめるようになった。」（ヒラマン３：33―34）

ヒラマンは人々の状態が急激に変化したことを嘆きました。

「これを以て見るに，世の中の人は二心で変り易いことが明らかである。また主がその限りない大きな恵みを以て，主を信頼する者を恵んで栄えさせたもうことも明らかである。

また主がその民を栄えさせその農作物，家畜，金，銀およびあらゆる貴い製作物，あらゆる貴い天然物とを豊にし，民の命を助けてこれを敵の手から救い……たもうことも明らかである。一言で言うと，主はその民の福利のためにすべての事をなしたもうが，同時に民は安楽で隆盛を極めているためにその心をかたくなにし，その神である主を忘れて聖者を足の下にふみにじることも明らかである。」（ヒラマン12：１―２）

これまで，歴史上の出来事を振り返ってみましたが，ここで私たちが現在生きている時代を見つめ直してみることも非常に大切です。私たちは主からある約束をいただいています。主の民がその戒めに従い，与えられている祝福の源として常に主を仰ぎ見ていれば，主がその民に祝福を賜わり，栄えさせてくださるという約束です。

しかし一方で，こうした祝福が条件付きのものであることも忘れてはならないのです。リムハイ王はその民に次のように警告しています。「見よ，主は仰せになった『われはわが民の罪を犯すときにこれを助けず，かれらの栄えぬようにその道を塞ぐ。その行いはかれらの前につまずく石の如くとならん』と。」（モーサヤ７：29）

み業のために働く指導者として，主から召されている私たち神権者は，自分自身の生活を十分に吟味してみる必要があります。また同時に，民の信仰や従順の度合についても正直に評価してみる必要があります。芳しくない評価しか得られない事例もかなりあると思います。現在，世界中の教会員のうち，什分の一を完全に納めている会員の割合はかなり低くなっています。物質的に貧しい状態にある人々にとって，貧困から逃れる唯一の方法は，この什分の一の律法に従順に従うことしかないのかもしれません。教会の各地のステーキ部を訪問してみると，教会に断食献金を納めている人々の数が，全体の50パーセントに達していない所も少なくありません。その傾向が改善される様子もありません。

メルキゼデク神権を受ける成人男性よりも，長老見込み会員でとどまってしまう男性の方が多いのが現状です。エンダウメントを受けている教会員のうち，現在有効な神殿推薦状を保持しているのはおよそ半数にすぎません。ほかにも主の律法を守っていない事例が数多く挙げられており，心配の種になっています。

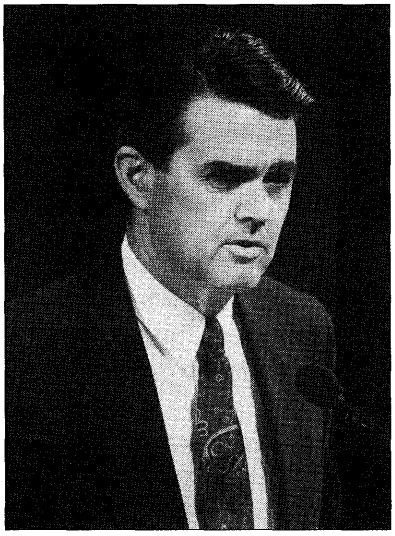
そうした事例の多くを耳にするのは，嘆かわしいことかもしれません。しかし，モルモン経の中でイノスが言っているように，ときには「包みかくさず語ること」（イノス１：23）によって強く訴えていくことも必要なのです。

世の中に悪がはびこるにつれ，私たちの生活は，世の人やその標準とはますます異なったものになっていく必要があります。それは私たちにとって大きなチャレンジです。私たちは，これまで以上に立派な民になっていかなければなりません。それが実現するとき，私たちが幸福になるためのあらゆる必要を満たしてくださるという主の約束が，確かに私たちのものとなるのです。これが私の信じるところであり，証です。しかし，それは条件付きの約束なのです。私たちが自分の生活を，そしてこの時代を，そうした約束の成就にふさわしいものとすることができますように，イエス・キリストのみ名により，心からお祈り申しあげます。アーメン。

福音の回復の要（かなめ）であるイエス・キリスト

七十人
ゲーリー・J・コールマン

回復は……私たちのこの世の旅路のすべてに影響を与えています。回復のおかげで私たちは，人生の意義を見いだそうと日々努めるとき，歩むべき道に心を向けることができるのです。



福音によって結ばれた兄弟の皆さん，今晩，皆さんに私の心の内をお話しするつもりでやって参りました。この混乱した時代にあっても，私たちの人生には平安をもたらすしっかりとしたいかりがあるということを，若い男性の皆さんに知っていただきたいと思ったのです。皆さんは末日に吹き荒れるあらしの中を導いてくれる，堅固な岩を基とすることができます。今日，私たちは福音の原則や儀式に注意を払うことによって，全（まった）き福音を楽しむことができます。これらの概念に従って生活するならば，永遠の生命へと続く旅を喜びのうちに終えることができるでしょう。

若いころの私は，この末日聖徒イエス・キリスト教会の教えとは異なった人生を歩んでいました。一見，神の教えのように見えたとしても，神に与えられた真理や権能のない，人の教義や戒めに従って生活していたのです。宗教は若いころの私にとって，生活から切り離すことのできない大切なものでした。家族にとっても，信仰深くあることが信条になっていました。それでも，私は何かむなしさを感じていました。人生の目的にかかわる何か基本的なことになると，かすみがかかったようにはっきりしなかったのです。そんな私が少し大人になった時，実に幸運なことに，親切な末日聖徒たちと知り合い，彼らは私に新たな福音の扉を開いてくれました。

回復されたイエス・キリストの福音の教義は，私に永遠の生命に続く道を指し示し，現世にあって完全な喜びをもたらしてくれました。中でも神が実在のお方であるという知識は，ほかの何よりも大切なものとなりました。私たちは文字どおり，父なる神の霊の子供なのです。神の独り子であられるイエス・キリストの生涯とその使命は，日々の生活に影響を与えています。また，毎日の聖霊の導きから，大きな慰めを受けています。

私がこの教会に入ったのは，神が末日の予言者たちにみ姿を現わされ，予言者たちが神は実在のお方であると証しているからです。この福音が真実かどうかを神に祈り求めた時，目で見るよりも力強く，言葉で聞くよりも心に響く証を受けました。聖霊の力によって温かな気持ちになり，神の福音が今日この地上に回復されたのだという確信を得たのです。この教会に改宗し，一点の疑いもないほどに，神の御子であるイエス・キリストの神性について知ったことを，大きな祝福であると感じています。この復活された完全なお方が，この教会の頭（かしら）なのです。イエス・キリストこそ私たちが基とすべきお方であり，隅のかしら石です。主は救いの岩であり，教会だけではなく，私たち個人の証もこの岩を基に築かれるのです。どのような人も，天の下のどのような名前も，この基になることはできません。予言者ヒラマンが非常に力強く，この神聖な基について語っています。

「さてわが子らよ。お前たちは神の御子でキリストである私らの贖（あがな）い主の岩を基にしなくてはならないことを忘れるな。贖い主の岩を基にするならば，悪魔がその大風を吹かせて柱のように立つつむじ風をまき起すとき，また悪魔の雹（ひょう）と暴風雨（あらし）とがお前らを打つとき，悪魔はお前らに打ち勝って不幸の淵（ふち）と永遠の悲惨にお前たちをひき落す能力（ちから）はない。なぜならば，お前らの立つ岩は堅固であって人がその上に立つと倒れることのできない基であるからである。」（ヒラマン５：12）

私たちが信仰の基盤とすべきイエス・キリストという基は，確かなものであるだけでなく，予言者ヤコブが証したように安全な基でもあります。すなわちこのかしら石は，「唯一（ただ）つの堅固な最後（さいご）の大きな基礎になるもの」（モルモン経ヤコブ４：14―16参照）なのです。

私もヤコブの証が真実であることを確信しています。使徒ペテロはキリストのことを大胆にこう語っています。「あなたこそ，生ける神の子キリストです。」すると，イエスが答えて言われました。「バルヨナ・シモン，あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは，血肉ではなく，天にいますわたしの父である。」（マタイ16：16―17）神がペテロに明らかにさ

れたのと同じ方法で，私たちもキリストに対する証が得られるのです。

私がこの教会に入ったのは，神がご自身のみ業のために末日の予言者たちを召しておられるからでもあります。ジョセフ・スミスは本当に神の予言者であるという思いに満たされたのは，何年，何月，何日のことであったかを，その瞬間に至るまで今でも覚えています。ジョセフ・スミスは，この地上に再び神のみこころを伝える器として，予言者の務めを果たしました。

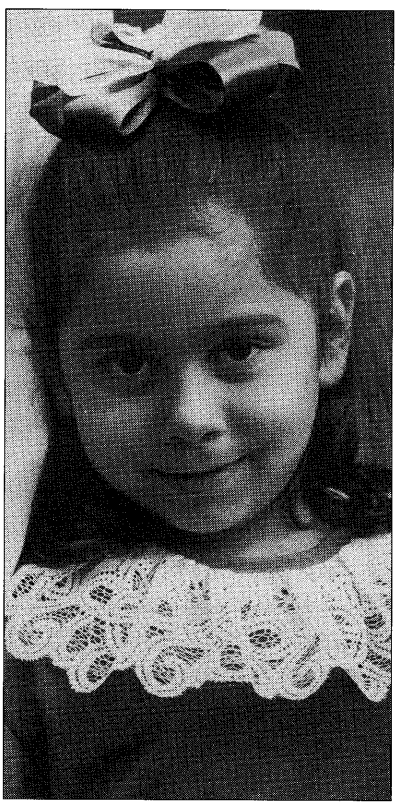
神はジョセフの後にも引き続き末日の予言者たちを召してこられました。今日の私たちに，この絶えざる啓示の原則が与えられていることに感謝しています。私たちが予言者，聖見者，啓示を受ける者として支持している大管長会と十二使徒定員会の下で働ける機会にも感謝しています。これらの方々について，主は今日の私たちにこう語っておられます。「主，われ言いたることは，われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ行くとも，わが言は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言わるるも，僕らの声にて言わるるもみな一つなり。」（教義と聖約１：38）

私たちは皆，この教会の会員として，使徒パウロが証したように「もはや異国人でも宿り人でもなく，聖徒たちと同じ国籍の者であり，神の家族なので〔す。〕また……使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって，キリスト・イエスご自身が隅のかしら石で〔す。〕」（エペソ２：19―20）

今日，聖典が回復され，私たちがそれを学んで実践できることは非常に大きな祝福です。確かにモルモン経は真実の書物です。キリストのことが語られ，キリストにあって喜びを見いだした人々のことが書かれています。また，キリストの教えが完全な形で残されており，キリストのことを予言し，私たちや子孫に，罪の赦しの源について証してくれます。このような理由で，この書物はイエス・キリストのもうひとつの証と呼ばれているのです。確かに神は，この末の世にあっても，昔と同じように人に語りかけておられます。また，確かにこの教会には絶えず啓示が与えられています。

この地上において，神の権能は，この教会の神権者たちにゆだねられています。したがって，救いと永遠の生命に至るすべての儀式が，間違いなくこの教会にはあるのです。真の神権の力によって地上で結ばれることは，天においても結ばれます。そうです，回復によってイエス・キリストの福音の真の教義と儀式とが再び地上にもたらされたのです。回復はこの世に生きるすべての者に影響を与えています。また，私たちのこの世の旅路のすべてに影響を与えています。回復のおかげで私たちは，人生の意義を見いだそうと日々努めるとき，歩むべき道に心を向けることができるのです。救い主と生ける予言者に従うことによって永遠の生命へ行く，まっすぐで狭い道を確かに見いだせるのです。霊感されたトレーナーとして彼らを受け入れ，人生というレースに挑もうではありませんか。

予言者ニーファイはこう言っています。「それであるから，あなたたちはこれからもキリストを確く信じて疑わず，完全な希望の光を抱き，神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。それであるから，この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み，終りまで堪え忍ぶならば『永遠の生命を受ける』，かくの如く天の御父が言いたもうた。



さてごらん私の兄弟たちよ。これがすなわち道である。このほかには，人を神の王国に救う道も名も天下にない。」（IIニーファイ31：20―21）

私たちにとってこの世での訓練とは，信仰をもって歩み，罪を悔い改め，日々の祈りを通して主を呼び求めることです。聖霊の導きを受けて，正しい道を歩もうとするとき，私たちは心に喜びを感じます。しかし，この世ではだれもが多くの困難にぶつかります。私たちを世の教えに染めようとする人々の，様々な叫び声があちこちから聞こえてきます。しかし，私たちの進むべき道はこの世のものとは異なっています。いろいろな障害が待ち受けており，そのために私たちは足をくじいたり，つまずいたりするかもしれません。それでも私たちは歩みを進めなければなりません。主の力を受けながら歩み続け，この人生の終わりにはそれぞれが自分のしてきた行ないについて報告をしなければなりません。私たちはパウロのように宣言すべきです。

「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき，走るべき行程を走りつくし，信仰を守りとおした。

今や，義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には，公平な審判者である主が，それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく，主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。」（IIテモテ４：７―８）

私はキリストに倣って生活している永遠の伴侶である妻と我が家の末日聖徒２世の子供たちに感謝しています。彼らもまた，イエスの望まれることを行なおうと献身的に努めています。すべての人がこの回復された完全な福音を味わうことができますように，イエス・キリストのみ名によりへりくだってお祈りいたします。アーメン。

簡単にはいかない

七十人
ジョン・B・ディクソン

専任宣教師となって働くすばらしい機会を妨げるようなことは決してしないと，……天父と約束を交わしてください。



神権者である愛する兄弟の皆さん。今晩皆さんの前に立ち，私が今感じている気持ちと感謝の念についてお話しできることは，実に大きな喜びです。神が生きておられて私たちを愛しておられることを知り，またイエス・キリストが私たちの長兄であり救い主であることを知り，さらに，この地上に「主がこのように言われた」と権威をもって宣言できる予言者がおられることを知って，私は感謝の念に満たされています。私は主から，七十人のひとりとして働き，世界の人々にイエスがキリストであることを証するように召されました。敬虔（けいけん）な思いと真にへりくだる心で，この召しに携わっていきたいと願っています。どこへ行くように命じられても，み業を前進させるために全力を尽くす覚悟です。

今晩は，神の王国で働くことがいかに重要かということと，教会の若人や年輩のご夫婦にとって，専任宣教師となって働くことがいかに大切か，ということについてお話ししたいと考えています。

自慢する気は毛頭ありませんが，アロン神権を持つ若人の皆さんに対して，私がどのようにして専任宣教師の召しを受けたのかということについて，少しだけお話ししたいと思います。1962年のことでした。私はデビッド・O・マッケイ大管長から，メキシコ伝道部で働くようにという召しをいただきました。その召しを受けてから間もなく，私は右腕が癌（がん）に冒され，長生きできる可能性がきわめて少ないことを知りました。私はすばらしい父から神権の祝福を受けました。父はその時，私が生き長らえ，伝道を無事終えて，いつか自分の家族を持ち，終生主に仕えることができる，と祝福してくれました。医師は，私が救い主に強い信仰を持っていることは褒めてくれましたが，同時に，事態がどれほど深刻か，まだわかっていないとも言いました。すでにお気づきの方もいらっしゃるように，私はその後の手術により，片腕しかありません。しかし片腕の切断手術を受けてから10カ月後，私は胸をときめかせながら，喜び勇んでメキシコ伝道部へ赴任しました。若人の皆さんに次のことを理解していただきたいと思います。私は伝道に出る何年も前に，どんなことがあっても専任宣教師として伝道に出ることと，その召しを果たせなくなるようなことは何もしないことを，主に約束していたのです。兄弟の皆さん，その医師は20年前に亡くなりましたが，私に会うたびに，まだ私が生きていることを驚いていました。そして教会にも深い関心を示すようになりました。

兄弟の皆さん，30年近く片腕だけで生活してきたことは，私の生涯で最大の祝福のひとつだったということを知っていただきたいと思います。決して最大のチャレンジだったわけではありません。むしろ，私にとっては偉大な教師でした。私が自分自身に対して我慢強くなければならなかったように，人に対しても同じように我慢強く，また忍耐強くなければならないことも，こういう境遇を通して学びました。人格を磨き，根気を養うために，人生にはチャレンジが必要なことも，おかげで理解できるようになりました。そういう経験を通して，人は最終的に主が望まれるような者となっていくのです。

チャレンジの中には，肉体的なもの，霊的なもの，経済的なもの，感情的なものなどがあります。しかし，そうしたチャレンジを，障害だとかつまずきの石だなどと考えずに，むしろ進歩するための好機，あるいは踏み石と考えることができたら，私たちの人生における成長にとってすばらしいものとなるでしょう。もちろん，チャレンジとチャレンジの間には，静かな平安の時間があることも承知しています。しかし，自分のこれまでの経験から考えて，本当の意味で成長できたのは，いつも，何か大きなチャレンジのあったときでした。

ここに無名の作家の書いた短い詩があります。問題に直面しているときに，ぜひ思い出していただければと思います。「真珠貝」という題の詩です。

「昔，貝がいた。
その話をしよう。
ある時貝の殻の中に
ひとつの砂粒が入り込んだ。
たった1粒だったが，
ひどく痛かった。
ごく単純ながらも
貝にも感覚というものがある。
この不幸な境遇を
どのようにつぶやこうか。
本当につらい

状況だったのだ。
政府をのろって
『選挙だ』と叫ぼうか。
そして，海の動物たちにも
保護が必要だと言おうか。
いや，貝は海の底に
座って考えた。
『自分で取り除けない以上，
この砂粒に磨きをかけよう。』
やがて日がたち，
時が過ぎて，
貝にも運命の時が来た。
貝のシチューとなったのだ。
だが，長い間悩ませていた
小さな砂粒は，
見事な真珠となって
光り輝いていた。
この話の教えることは
貝でさえ，小さな砂粒で
大きな業を行なったということ。
だとしたら，私たちは
どんなにつらいことが
あったとしても，
ひとたび始めさえすれば
どんなことでも
できるのではないだろうか。」

若人の皆さん，皆さんは奉仕の機会を妨げるようなチャレンジに直面したら，どう対処するつもりでしょうか。それは就職の機会かもしれません。車やガールフレンド，また様々な種類の罪や，ありとあらゆる言い訳かもしれません。年輩の兄弟たちなら，ヨットやキャンピングカーを購入したり，魚釣りに出かける計画かもしれません。あるいは，間近に迫った結婚式や出産に立ち会いたいという場合もあるでしょう。皆さんの個人的なチャレンジがどのようなものであれ，専任宣教師となって働くすばらしい機会を妨げるようなことは決してしないと，今晩ひざまずいて天父と約束を交わしてください。まだ召されていないのであれば，伝道に出たい気持ちがあることを監督に伝えてください。

主はマタイによる福音書第25章の中で，「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわち，わたしにしたのである」(マタイ25：40)と言っておられます。この聖句は，主のみ前に立つにふさわしい者となりたいと望むなら，同胞のために働くことが非常に大切である，と教えています。専任宣教師として働く召しを受けること以上に，奉仕と犠牲のすばらしい機会があるでしょうか。しかし，これと同時に，人によっては肉体的な障害や様々な事情のために，専任宣教師となって伝道に出るよりも，地元に残って様々な奉仕をした方が，効果的に働ける場合もあることは覚えておいてください。

ニール・A・マックスウェル長老は，4月の総大会の神権部会でこう言われました。「さて兄弟の皆さん，教会の歴史の中にあって，今は皆さんの時代です。」(「聖徒の道」1992年7月号p. 44。ヒラマン7：9も参照)若い兄弟の皆さん，確かに今は皆さんの時代です。平和と義と権能のよろいを身にまとい，主の軍勢の一員として，5万人，7万5,000人，10万人の宣教師の仲間と共に仕える機会が待っているのです。

1970年代の後半，伝道部長としてメキシコシティー北伝道部で働いていた時のことです。私たちはワステッカと呼ばれる地域でみ業を開始することにしました。当時，いくつかの集落と小さな町しかなかったその広大な地域には，末日聖徒は1家族しかいませんでした。しかし，2年後，教会員の数は500人となり，5つの支部で，ひとつの地方部を組織しました。このような成功は，19歳と20歳の一握りの忠実な宣教師たちと，2組のすばらしい夫婦の働きによってもたらされたものでした。天父の子供たちが，真理を知り，教えを理解できるよう，自らを捧げて働いてくれた成果です。

宣教師をワステッカに送り込んでからおよそ3週間ほど経過したころ，ひ



とりの宣教師から電話を受けました。少しがっかりした様子が感じられる声でした。彼には1通の手紙も来ず，蒸し暑い地域にあって，だれにとってもまったく未知の新しい文化に順応しなければならなかったからです。しばらく電話で話した後，私は彼に「そう簡単なことではないと話しておいたでしょう」と言いました。すると，その長老は「そうですね，伝道部長。そんなに簡単にいくわけはないですね。自分でもそんなに簡単にいくわけはないとわかっていたはずなんですが」と言いました。さて，その宣教師はその後，元気を取り戻し，最後まで熱心に伝道して，多くの成功を収め，無事に解任されて帰還していきました。2カ月後，ブリガム・ヤング大学に通っていた彼と，彼の昔の同僚たちから，メキシコシティーの伝道本部にいた私たちの所に電話がかかってきました。夜中の2時半のことで，ぐっすり眠っていた私たちは，起こされてしまいました。しばらく話をした後で，私は「声が聞けてとてもうれしいけど，こんな真夜中に電話をしてくるのは，ちょっと遅すぎないかい」と言いました。すると彼はこう言いました。「わかってますよ，伝道部長。でも，物事はそう簡単にいかないことは，伝道部長だってご存じでしょう？」

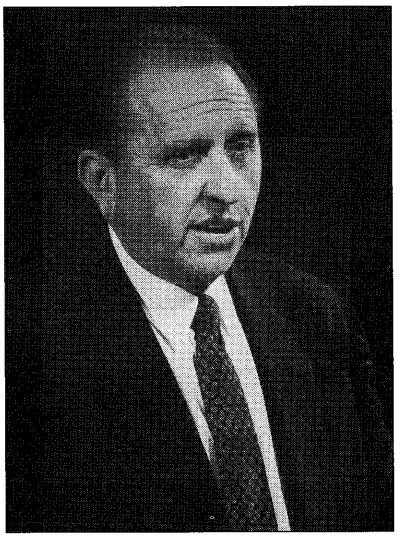
兄弟の皆さん，確かに人生はそう簡単なものではありません。しかし，私は同胞に仕えるために熱心に働いている人々や，固い決意を秘めてみたまの導きの下に適切にチャレンジを克服しようと努めている人々に約束いたします。皆さんは祝福されて，全身全霊が幸福な思いで満たされるでしょう。兄弟の皆さん，このような祝福は，人を高めるものであり，決して取り上げられるものではありません。

私は主イエス・キリストの福音が真実の教えであることを証します。また，主の聖なるみ名によって行なわれる無私の奉仕と熱心な働きに，必ず祝福が伴うことを証します。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

行動する神権者

第二副管長
トーマス・S・モンソン

皆さんは……勇気と固い決心をもって奉仕する，不屈の精神と信仰を持っているでしょうか。



皆さんを前にして，ここから見る光景は実にすばらしいものです。ここテンプルスクウェアのタバナクル，アセンブリーホール，ブリガム・ヤング大学のマリオットセンター，そして世界中の礼拝堂に力強い神権者の軍勢，主の軍勢が集っています。私たちは神権を託されています。義務に対する備えも受けてきました。そして奉仕の召しも受けてきました。

主の召しにこたえた時の少年サムエルの経験は，私の霊を鼓舞してくれます。きっと，すべての神権者もそう思っているはずです。少年サムエルはエリの元で主に仕えていました。ある夜サムエルが床に就くと，主が「サムエルよ，サムエルよ」と彼の名を呼ばれました。彼は「はい，ここにおります」と答えました。エリに呼ばれたのだと思い，サムエルはエリの所へ走って行き「ここにおります」と繰り返しました。エリは彼に帰って寝るように言いました。

主の声が3度サムエルに臨み，3度同じことが繰り返されました。そして4度目に，主は「サムエルよ，サムエルよ」と2度彼の名を呼ばれました。

この時のサムエルの答えは，前の時の答えと同じように，心に強く訴えるものです。こう答えたのです。「『しもべは聞きます。お話しください。』その時，主はサムエルに言われた，『見よ，わたしはイスラエルのうちに一つの事をする。それを聞く者はみな，耳が二つとも鳴るであろう。』」（サムエル上3：1—11参照）

若い男性の多くはいつか，伝道の召しを受けます。私は皆さんがサムエルのように，「ここにおります……しもべは聞きます。お話しください」と答えるよう心から祈っています。そうすれば，きっと皆さんの上に天の助けが与えられるでしょう。宣教師は皆，母親が思い描くような宣教師，また父親が思い描くような宣教師になります。それは主の思い描いておられる宣教師像でもあります。

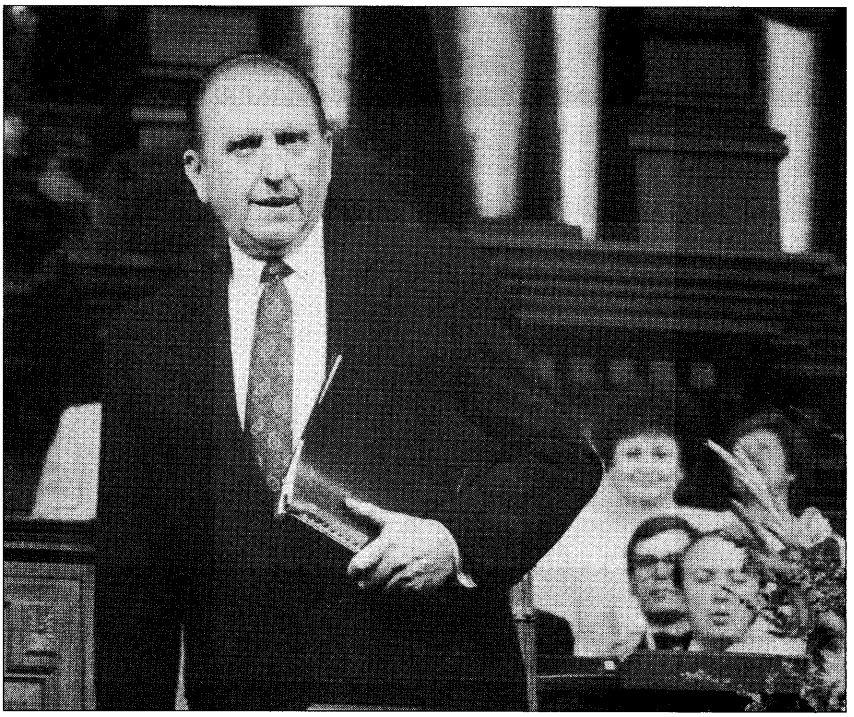
ある若い男性の宣教師推薦書のことを思い出します。監督がそれにこう書いていました。「この候補者は私がこれまで推薦した中で最高の人物です。これまでに執事，教師，祭司定員会の役員として働いてきました。高校では学業，スポーツともに優秀な生徒でした。これほどすばらしい若い男性を見たことがありません。彼の父親として誇りに思います。」当時伝道委員会の長をしていたキンボール大管長がつくづく考えてこう言いました。「彼の両

親は息子さんの伝道地に満足してくれるでしょうか。今は日の栄の王国に宣教師の欠員がないはずです。」

そうです。私たちを愛する人の期待は，私たちの能力を少し上回ることがあるのです。南アフリカに神殿ができる前，その地の聖徒が神殿に参入するには，多くの費用と時間をかけ，イギリスのロンドンか，(後には)ブラジルのサンパウロに行くしかありませんでした。私が南アフリカを訪問した時，彼らは，南アフリカに神殿を建てる霊感を求めるようキンボール大管長を促してほしいと，本当に熱意を込めて訴えてきました。私はこれは，主と予言者に伺うしかありませんと答えました。すると彼らはこう言うのです。「私たちはあなたを信じています。モンソン兄弟。どうか私たちを助けてください。」

私はソルトレークシティーへ戻って，南アフリカの神殿建設案がすでに承認され，発表を待つばかりになっていたことを知らされました。発表の後で，私は南アフリカのある会員から電報を受けました。こう書いてありました。「ありがとうございます。モンソン長老。あなたならできると信じていました。」私が提議して承認させたのではないということを，彼らに信じさせることはできませんでした。私は予言者の提議を承認しただけなのです。

どのような奉仕への召しも，それを受けた人にとっては，重大な意味を持つ出来事です。それはきょう新たに教会幹部として支持を受けた兄弟たちにとっても同じだと思います。その中のひとりジェイ・E・ジェンセン長老の経験から学べる教訓を最近の「チャーチニューズ」(1992年8月8日，pp. 6，14)の記事を基に，いくつか紹介したいと思います。ジェンセン長老は人生のいくつかの転機について語っていました。彼が霊的に目覚め始めたのは，ユタ州メイプルトンで過ごした子供のころでした。彼の両親は家庭の夕べプログラムが始まるずっと前からそれと同じことをしていました。お父さんがモルモン経を使ってレッスンをしたそうです。お母さんは読書好きな方



で，そのことは彼に良い影響を与えました。しかし，最初の示現の証を真実だと感じたのは，自分でジョセフ・スミスの物語を読んだ時でした。

高校を卒業すると，彼は伝道の召しが来るのを待たずにローナという女性と結婚することに決めました。彼はこう話しています。「それは本当に父を悲しませました。母は父が泣いていると言いました。」

その2週間後，結婚式の準備が終わる前のことでした。彼はローナと一緒に出席した聖餐(せいさん)会で，ひとりの帰還宣教師の証を聞きました。みたまがふたりの心を動かし，結婚は延ばすことにしました。彼は監督室へ行き，伝道に出たいと話しました。この後どうなったかはもう皆さんおわかりだと思います。彼は中南米伝道部で働きました。

ローナはカリフォルニアへ行って就職し，そこでステーキ部宣教師として働きました。ジェイの伝道が終わってからふたりはマンタイ神殿で結婚しました。お父さんは息子が名誉ある宣教師の務めを果たし，神殿で結婚する姿を見ることができたのです。ジェンセン姉妹は，夫となる人を伝道に送り出すのはとてもつらいことだったが，すばらしい報いがあったとよく話します。「ほかの生き方は考えられません。伝道に出ていなかったら，こんなに幸せにはなれなかったでしょう」と書いています。

今，ふたりはグアテマラで働いています。ジェンセン長老は中央アメリカ地域会長会で責任を果たしています。

ジェンセン長老夫妻の人生の転機について考えると，「小さな決心が歴史を変える。人生も同じである」という言葉が思い浮かんできます。

子供や孫をお持ちの皆さん，彼らに主のみ言葉を読んであげていますか。帰還宣教師の方々，皆さんの言動は他の人に伝道に出たいという気持ちを起こさせているでしょうか。兄弟たち，みたまに波調を合わせて，主に名を呼ばれたときに，サムエルのようにそれを聞き，「ここにおります」と答えることができるでしょうか。皆さんはどのような召しを受けても，勇気と固い決心をもって奉仕する，不屈の精神と信仰を持っているでしょうか。それがあれば，主は私たちを通して力強い奇跡を起こすことができるのです。

そのような奇跡が，かつては南部連合国と呼ばれた地域で起こっています。それは家族の歴史と神殿に関する事柄です。1860年から1865年にかけて，こ

の地域は文字どおり，アメリカの若人の血でまっ赤に染められました。おびただしい数の兵が死んだのです。今でもあちこちで，古びた軍服のボタン，ベルトの金具，薬きょうなどが見つかるそうです。しかし，人生の花の時期に死んでいったこの人々のために何がなされたでしょうか。その多くは結婚もしていませんでした。彼らの神殿の儀式をするのはだれでしょうか。彼らは永遠の儀式の祝福に，永久にあずかれないのでしょうか。

南軍，北軍のいずれにも関係を持たないウィリアム・D・テイラーというカナダ出身の人が南部に住んでいました。彼はある時突然，若くして死んだ兵士たちに心を強く引かれました。彼らのために，個人的に何かをしたいという気持ちがわいてきたのです。

テイラー兄弟は私あての，1992年7月20日付の手紙でこう書いています。「南軍の兵士の人名抄出に関する前回の報告から約1年がたちました。(この事業が開始してから約4年が経過していました)抄出は着実に進んでいます。現時点で，10万1,000人の名前を神殿に送っています。この仕事をすることができて感謝しています。かつて感じたことのない，大きな喜びを味わっています。言葉では表現できません。ひとつの連隊の調査が済んで，神殿に送付する準備ができた時は本当にうれしいものです。しかし，連隊の歴史を調べても，儀式に必要な情報が見つからない兵士がひとりでもいると心が痛みます。」

ある詩人の言葉がテイラー兄弟の気持ちをよく表わしています。

「青と灰色の軍服の彼らが，
列を成して進む。
今は再び腕を組み，
御子のもとへと上る。
誇り高き南軍と北軍の兵士が
今静かな旅に立つ。」

この抄出プログラムに携わる神権者の働きについて，ひとりの神権指導者が書いたものを紹介したいと思います。「土曜日の午後に，アロン神権の若い男性と彼らの指導者が，この戦没兵たちのバプテスマを行なうために，神殿に集まりました。若いアロン神権者が神権指導者からバプテスマを受ける姿はすばらしいものでした。彼らは14，5人分の儀式を終えると，そのたびに喜びの涙を浮かべながら，指導者と抱き合っていました。神権による真の愛と奉仕のすばらしい実例です。私は証人の責任を受けて，これらのことを目の当たりにし，さらにこの若い戦没兵たちは，アロン神権者たちのバプテスマを受け入れたという，強いみたまの証を得ました。

私たちはそのすばらしい日にバプテスマが行なわれた兵士たちの名前を書き留めておきました。若い男性たちが，その兵士たちの略歴を知ることができるようにするためです。参加した全員がこの経験を通して，いつまでも消えない良い影響を受けたに違いないと思います。」(以上がその手紙です)

死者の贖いに関するジョセフ・F・スミス大管長の次の言葉は，この業やそれに類する働きに加わる人々が味わう喜びを，実に感動的に伝えています。「私たちの働きを通して，彼らを縛る鎖が外され，彼らを取り巻くやみが払われる。そして光が彼らの上に輝き，彼らは地上の子孫が自分たちのためにしたことを霊界で聞き，あなたがこれらの義務を果たしてくれたことを，あなたと共に喜ぶであろう。」

ウィリアム・テイラー兄弟，戦没兵に永遠の祝福を与える業の中であなたが果たしている働きをたたえたいと思います。彼らもあなたの名をたたえることでしょう。

神権を受けても，自分の奉仕の時がいつ来るかは決してわかりません。必要なのは，いつでも奉仕できるよう備えておくことです。8月24日にハリケーンがマイアミ南部の海岸地帯を襲いました。想像もできない速さで進んだこのハリケーンは，合衆国史上未曾有の災害をもたらしました。8万7,000戸の家屋が破壊され，15万人が住む家を失いました。被害総額は300億ドルと見積もられています。教会員の被害状況は，損壊家屋が178戸，うち46戸が全壊しています。

あらしが襲ってくる前に，アトランタの教会の福祉施設から緊急援助物資が運び出され，あらしが収まるとすぐに，被災地に届けられました。食糧，水，毛布，工具，医薬品などの救急物資がトラックで送られました。

地元の神権指導者や扶助協会指導者は，負傷者の有無や被害状況を調べたり，復旧作業援助のために結束して事に当たりました。3次にわたり延べ5,000人以上の教会員がボランティアとして，被災者と協力して働き，3,000戸の家屋またユダヤ教の会堂，ペンテコステ教会，ふたつの学校の修復を援助しました。フロリダの伝道部からは46人の宣教師が出て，2週間にわたりフルタイムで，トラックからの荷降ろし，通訳，保安，交通整理，復旧作業の援助などに協力しました。

行動する神権者のすばらしい実例について，いくつか心温まる報告を紹介します。

1．ある日の朝，ケンドールの教会にひとりの婦人から電話がかかってきました。彼女はこの教会に屋根や窓の修理をするグループがあるということを聞いていました。電話で聞くと確かにそうでした。そして自分の住所を伝えました。ボランティアをすぐ派遣して，できる限りの援助をするということになりました。彼女はその時，教会に行ってまず支払いをしなければならないのか，まただれに支払うのかを聞きました。ところが，支払いは不要だと聞かされると大きな声で泣き，最後に声を振り絞るようにして，「皆さんのことを神様に感謝します。私には1ドルのお金もないのです」と話したそうです。

2．ザックという19歳の若い男性の話です。彼は今，宣教師訓練センターにいます。彼はジョージア州の教会員からの食糧や衣類などをトラックで運びました。出発の時に，母親から彼女が大事にしていた人形をいくつか預かりました。おもちゃを失った無邪気な少女たちにそれらの人形を配る時，ザックは特別な喜びを感じたと言います。

3．アイダホ州のある兄弟たちは，南フロリダの人々が，テレビで伝えられていたとおりの惨状の中にいるのを

目の当たりにしました。彼らは被災者を助けるために，何かをしなければならないと強く感じました。アイダホポテトを積んだ大型トラックを送ることで，話はすぐに決まりました。箱や袋に詰めたじゃがいもがトラックに積み込まれ，さっそく被災地に届けられました。

じゃがいもは，良い状態で現地に着き，宣教師たちが荷降ろしをしてすぐに分配しました。南フロリダの人々はこのじゃがいもをことのほか喜んでくれました。非常食に食べ飽きていて，じゃがいもがデザートのように思えたということです。3日もしないうちに，じゃがいもはすべて教会員だけでなく多くの人々に分配されました。じゃがいもを送ったすばらしい教会員たちの思いやりは人々の心を慰め，体を温めたのです。

4．自分のことは後回しにして兄弟姉妹の援助に駆けつけた人々の思いがアラバマ州ハンツビルのある夫婦の手紙によく言い表わされています。

「〔ハリケーンの被災地での〕2日目は日曜日でしたが，悲惨を極めた手車の開拓者を救うため日曜日にソルトレーク峡谷を出発した人々の場合と同じように，とにかく急いで作業を進めることが第一だと思いました。私たちがキャンプ地にしていたある高校のグランドで，各ステーキ部のグループごとに聖餐会と証会を持ちました。知っている歌を歌い，作業着のままの神権者が，聖餐の祝福とパスを行ないました。パンはフライパンに，水はピクニック用のコップに入っていました。それでもそこにはみたまがありました。集会時間が1時間に制限されていたので，希望者全員が証をすることはできませんでした。閉会の歌『神の子です』は，神様の子供を助けるために一生懸命働く必要があることを思い起こさせてくれました。」

5．スペイン語を話すある夫婦が，北アメリカ南東地域の地域会長アレクサンダー・モリソン長老の所に来て，次のように言いました。「私たちは家も，農場も失いました。作物は全滅でした。何も残りませんでした。」それからにっこり笑ってこう言ったそうです。「でも，ないものは何もありません。イエス・キリストの福音がありますから。」

モリソン長老，またその副会長，そしてすべての神権指導者，宣教師，惜しみなくすばらしい働きをした何千人もの人々の上に神の祝福がありますように。確かに彼らはサムエルのように，「私はここにいます」と答えたのです。

ハリケーンの復旧作業は今も続いています。同じようにハワイのカウアイ島でもハリケーン後の復旧作業がなお続いています。

これらの災害の現場や，各人の生活のチャレンジの中で，確かに神権が働いています。落胆しないでください。私たちが進めているのは，主のみ業です。主は私たちが重荷に耐えられるよう，力を強めてくださいます。次の主の勧告は，神権の権能をすでに受けている人にも，またこれから神権の奉仕を期待されている人にも平安と慰めを与えてくれます。

「重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから，わたしのくびきを負うて，わたしに学びなさい。

そうすれば，あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく，わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11：28—30)これらの聖なる真理を，イエス・キリストのみ名により証します。アーメン。



手持ちの工具で屋根の応急修理や周辺のがれきを片付ける教会員たち。教会はトレーラー8台分の建築資材を提供し，教会員は1,200軒以上の家屋の屋根を修理した。
「チャーチニューズ」1992年9月12日付，p. 9に掲載

あなたのタバナクルを築きなさい

第一副管長
ゴードン・B・ヒンクレー

私たちの肉体や心は，霊の宿るタバナクルです。霊の御父は，そのタバナクルを強め，徳をもって飾るよう私たちに望んでおられます。



兄弟の皆さん，このようなすばらしい神権者の集いに出席するたびに，いつも霊感を覚えます。世界中の至る所で，いろいろな大会や会議が開かれていますが，この神権者の集いに匹敵するものは，どこにもありません。衛星中継という奇跡により，何十万もの人々が，何百という集会場に，心をひとつにして集えるようになったのです。一人一人異なった個性を持ちながら，全員が心と目的，信仰においてひとつとなり，永遠の父なる神より授かった神権と権能に聖任されているのです。

今晩，神権部会はこのタバナクルで行なわれていますが，ソルトレークシティー以外の集会所にはここにお集まりの皆さんよりもはるかに大勢の神権者の方々が集っておられます。私たちの声と映像は，このテンプルスクウェアの由緒あるタバナクルから皆さんの元へ届きます。神権者の皆さんが，ひとり残らず，ほかに類を見ないこのすばらしい建物に集えたらと思います。

このタバナクルは，なるほど，世界一大きな集会場ではありません。収容能力は6,000人ほどです。現在，この10倍もの収容力を有する会場がいくつもあります。ただ，この建物にはほかの建物には見られない特徴があるのです。その起源，構造，質のすべてが違います。

ここで，この建物についてお話しするのは，きょうがこの建物の竣工記念日だからです。このタバナクルは今から125年前に完成し，きょうのような10月の大会で聖徒たちの集会所として初めて使用されました。以来，教会の総大会はこの会場で行なわれるようになったのです。

ブリガム・ヤングが125年前に初めてこの壇上に立った時，これほど長い年月にわたって頻繁に使用されると思ったでしょうか。

これはユニークな建物です。ほかに同じような建造物を見たことがありません。個性的で独特の雰囲気を持つ建物です。この円形の天井の下に座る人は，そのことを感じるようです。

つい最近，米軍の将校や指揮官たちをここに迎えた時のことです。ソルトレークシティーで軍人の大会が行なわれ，タバナクル合唱団の歌声を聞きたいという要望があったのです。

すがすがしい安息日の朝，ここに彼らが集いました。私は短い説教を依頼され，このタバナクルとその建築にまつわる話をしました。そして合唱団が，陸軍第23部隊のバンド演奏と共に，簡単なコンサートを披露しました。コンサートの最後に，合唱団が『リパブリック賛歌』（賛美歌30番）を声高らかに歌いました。

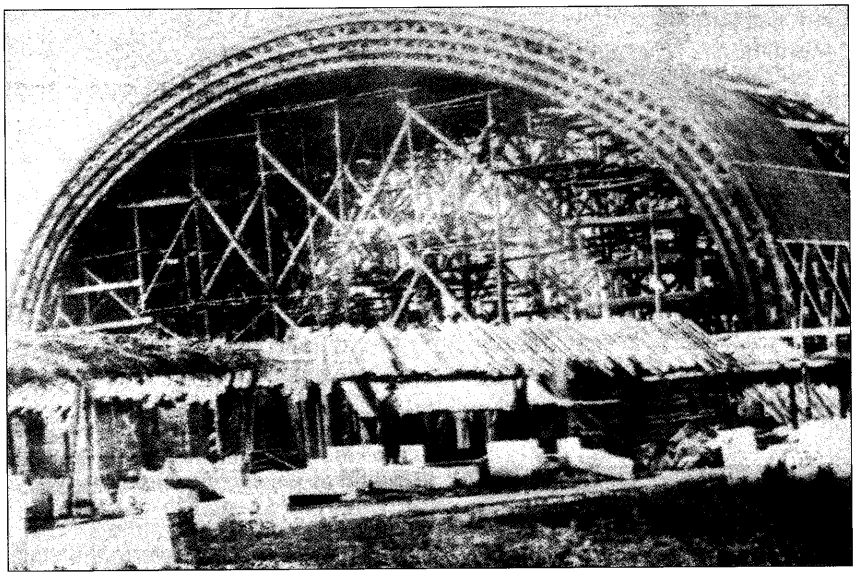
われら主の輝くみ栄え見ぬ
主は怒りのさかぶね踏みたもう
主の報いの剣　光放ち
真理は進む

タバナクルの中を見渡すと，円熟した軍人の方々が，そのほほに涙を流しています。感激せずにはいられないすばらしい経験でした。確かにこの建物には，ほかに類を見ないすばらしい特質があります。

1847年にこの盆地へ開拓者が足を踏み入れて4日後に，ブリガム・ヤングは，この乾ききった地をつえで指し，「ここに神の神殿を築くのだ」と宣言しました。現在神殿がそびえ建つこの10エーカーの土地は，テンプルスクウェアとして世に知られるようになりました。最初に建ったのは仮小屋のようなもので，組み立てが簡単な当座の集会所でした。建物の主要な部分は柱になる丸太が立っているだけで，それがにわか造りの屋根を支えて暑い日差しを遮るという簡単なものでした。そしてその後このちょうど南側に，当時は「タバナクル」として知られ，後に「旧タバナクル」と呼ばれるようになった建物が建ちます。これには切妻屋根できちんと壁もあり，冬も夏もしのぎやすくなっていました。

この荒野に生活する人々には，壮大なビジョンがありました。自分たちはこの地上に神の王国を打ち立てているのだと，だれもが一点の疑いもなく信じていました。ビジョンも大きければ，信仰もそれに劣りません。彼らは何千人も集える，さらに大きな集会場を造ろうと決心したのです。

外枠が幅約45メートル，長さ約76メ



建築中のソルトレークシティのタバナクル。屋根を支える格子状の骨組みが見える。設計はヘンリー・グロー。設計には橋の建築技術が生かされている。「チャーチニューズ」1992年10月3日付，p.8より転載

ートルと定まりましたが，当時の状況で，どのようにしてそれほど大きな建築物を建てることができるというのでしょう。支柱を造る鋼鉄はありません。くぎも，ねじも，ボルトもほとんどないといってよい状態でした。1864年のことですから，鉄道がこの地に敷設されるまで，あと5年の歳月を待たなければなりません。

レミントンデザインと呼ばれる円形の橋が，東部やこの辺りでも造られていました。このデザインを屋根に応用するなどといった突飛な想像をした人はおそらくいなかったでしょう。それでもまさにこの方法で建築は進められたのです。

タバナクルの建つ場所は，当時工事中だった神殿の真西と決まりました。その設計によると，砂岩でできた44本の柱が立つことになっていました。この柱はだ円形に並べ，強い土台の上に打ち込み，柱と柱の間はドアと壁で埋めるようになっていました。

市の東方にある山々から砂岩を運び，寸法どおりに裁断しました。同じように，石灰岩を運び，焼いて，しっくいやモルタルを作りました。一番苦心したのは，この砂岩の柱の上に，どのようにして屋根を造って載せるかということです。木造の足場を組むために，山からたくさんの原木を運んできて，木材を作りました。この木材は重みに耐えられるよう，格子状に組み立てられました。木材が交差する所は，一方に穴を開け，木のくぎで固定しました。穴があまり大きくなかったので，木のくぎを打つたびに，割れてしまう木材も少なくありませんでした。そこで，緑の生皮のひもで木材を縛りました。生皮は乾けば縮んで，木材が割れても，固く縛りつけてくれるのです。屋根と天井の間の3メートルほどの空間にこの木造の橋梁（きょうりょう）があります。このような仕組みはだれも目にしたことがなかったでしょう。この大きな集会場の中に柱が1本もないのは，その橋梁のおかげなのです。

いつの時代にも不信仰な人はたくさんいるものですが，その当時も，中の工事用の足場を取ってしまえば，屋根が崩れて落ちて来ると疑う人がいました。

しかし足場を取っても，屋根はびくともせず，この125年間，いまだにこうして残っているのです。定期的に点検する技師さえ，まったく弱まることのないしっかりとした構造に驚いています。

この建物ははるかかなた，つまり，ミシシッピ川沿いの辺境の町から2,000キロ以上，西海岸の町から1,200キロ以上も離れた所に建てられました。だからこそ，私はこれを奇跡の建物と呼ぶのです。これを設計した人々の技術を思うたびに，必ずやその陰に霊感があったのだろうと思います。建築当時の状況をよくよく考えるならば，信仰なくして不可能な工事でした。確かに，荒野に造られ，全世界へ向けて主の僕（しもべ）の声が発信されるにふさわしいタバナクル，つまり幕屋なのです。

これこそ世にふたつとない建物です。私たちが普通に「タバナクル」と言うときは，この建物を指しています。ソルトレークシティーのテンプルスクウェアにあるモルモン教徒のタバナクル，これは世界中の何百万もの人々が63年以上も耳を傾けてきたあの合唱団の放送の発信地です。

私たちの同胞が，貧困の時代に現代の機械や建築技術もなしに設計建造した木造の建物であるにもかかわらず，125年の間，ほかに例のないすばらしい礼拝と文化の殿堂としてここに建っているのです。

木材を組み合わせて働く兄弟たちを見上げ，「頑丈に組んでください，頑丈に」と励ますブリガム・ヤング大管長の姿が目に浮かぶようです。

愛する兄弟の皆さん，私たちの肉体や心は，霊の宿るタバナクル(幕屋)です。この霊の御父は，そのタバナクルを強め，徳をもって飾るよう私たちに望んでおられます。そのような強さがあってこそ，安心感や成長，幸福があります。タバナクルを築き上げた人々が残した絶えることのない偉大なメッセージがあるとすれば，それは「強くありなさい！」のひと言に尽きると思います。

これは聖典の中に現われる多くの予言者や指導者の残したメッセージでもあります。たとえば偉大な王ダビデは，途方もない強さを備えた王でした。しかし，悲しいことに弱点がありました。彼はそれを知っており，「死ぬ日が近づいた……彼はその子ソロモンに命じて言った，

『わたしは世のすべての人の行く道を行こうとしている。あなたは強く，男らしくなければならない。

あなたの神，主のさとしを守り，その道に歩み，その定めと戒めと，おきてとあかしとを，モーセの律法にしるされているとおりに守らなければならない。そうすれば，あなたがするすべての事と，あなたの向かうすべての所で，あなたは栄えるであろう。』」（列王上２：１－３）

これは神権を有するすべての男性に与えられた正しい教訓です。

自らを訓練するに当たって，強くなりなさい。この世には，善良でありながら克己心がないために能力を無駄にし，力を発揮できず，文字どおり自分の人生を台なしにしてしまう男性がいかに多いことでしょう。羞恥の念から無記名で送られてきたひとりの兄弟の手紙を読ませてもらいます。

「私は35歳の男性で，10年ほど前に改宗しました。大人になってからずっとポルノグラフィーに煩わされてきました。まったく恥ずかしいことですが，本当です。私のこの病気は，アルコール中毒や麻薬中毒と，まったく同じようなものです。

ポルノグラフィーは子供の時に初めて目にしました。年上のいとこに乱暴され，興味を引くためにポルノグラフィーが使われたのです。年若くして誤った性関係やポルノグラフィーを知ったことが，今の中毒の原因ではないかと思います。皮肉なもので，ポルノグラフィーを商売にしている人々は，ポルノグラフィーは表現の自由だなどと主張していますが，私にはその自由がありません。自分の自由意志を見失い，克服できないからです。わなにかかったようで，抜け出せそうにありません。どうか，どうかお願いですから，教会の兄弟たちに，このような物を避けるのはもちろんのこと，生活の中からあらゆるいかがわしいものを取り除くよう勧めてください。……

また，最後になりましたが，ヒンクレー副管長，私や私と同じような悩みを持つ教会の兄弟たちが，勇気をもってこの恐ろしい問題に打ち勝つことができるように祈ってください。」

兄弟の皆さん，このように人を卑しめ，滅ぼす力のあるものにふけり，自らの弱さに負けるなら，幸せや平安を得ることはできません。テレビでそのような場面が出てきたら，すぐに消してください。テレビを前にして弱虫になってはいけません。汚らわしい病気を避けるように，いかがわしいビデオには近づかないことです。両方とも同じようなものです。ポルノ雑誌や身を滅ぼす書籍から遠ざかりましょう。この世の中には，見るべき物，読むべき物がいくらでもあるのです。このようなくだらない物で時間を浪費したり，人格を破壊し，意志を弱めたりすることほど惜しまれることはありません。

正義を守る強さを示してください。現在私たちの住む世界は，妥協と譲歩に満ちた世界です。日常遭遇するいろいろな状況の中で，正しいと知っていながら仲間や私たちを説き伏せようとする偽りの声に負けて，妥協したり譲歩したり悪を黙認したりしてしまい，自分に対して恥ずかしい思いをすることがあります。神権者として，信ずるところに従って生きる精神力をはぐくまなければなりません。

今月は，クリストファー・コロンブスのアメリカ大陸発見500年を記念して，世界中でいろいろな行事が催されています。その伝記を書いたサミュエル・エリオット・モリソン提督は，「1492年，10月11日から12日にかけての夜は，歴史上きわめて重要な夜であった。地球上のどこに浮かぶ船も経験したことのないような，きわめて意義のある晩だった。」（「海洋の提督，コロンブスの生涯」p. 223）

私も個人的にこの出来事を祝って，モルモン経の大切な予言の聖句とコロンブスの長い伝記を読みました。

ニーファイが示現を受けて語った箇所に，こうあります。「眺めると，私の兄弟たちの子孫と大海をへだてている異邦人の中に一人の男が見えた。すると神の『みたま』が降りたもうてこの男に霊感を与えたもうたから，この男は大海を渡って約束の地にいる私の兄弟たちの子孫のところへ行った。」（Ｉニーファイ13：12）

これはコロンブスのことを指していると，私たちは解釈しています。神のみたまがこの男に霊感を与えた，と書かれているところが興味深いと思います。私は40年前のピューリッツァー賞受賞作品「海洋の提督」という長編の伝記を読み終えて，クリストファー・コロンブスは，確かに強い信仰，揺るがぬ決心の持ち主だったと感じます。

この500年祭を迎えて，コロンブスをあしざまに言う評論家が大勢いることは知っています。なるほど，この西半球に彼より先にたどり着いた人たちがいることについては，異論がありません。しかし，コロンブスこそが信仰のたいまつを掲げ，中国への新しい航路を探し求める途中でアメリカを発見した，その人なのです。彼は，当時未知の大海原を越えて，西へ西へと航海するという，とてつもない大冒険を企てたのです。彼こそ，まさに，全能の神に幾度となく導きを祈り求めながら，未知の世界に対する恐れにめげず，乗組員の不平や反対を押し切って，航海を続けたその人なのです。彼は，スペイン国王にあてた報告の中で，神の栄光とキリスト教の布教のためにこの航海を行なうのだ，と繰り返し主張しています。予測のつかない危険な世界に直面しながらも，何物にも屈しない力を示した彼の功績を褒めたたえようではありませんか。

深い慈悲を示す強さを持ってください。家庭や職場で言行共に暴君になるのはたやすいことです。この病める世は親切と愛，そして慈悲に飢え渇いています。このような美徳は，神の神権者には，弱さではなく強さの表現なのです。イザヤが言ったように強くなってください。「あなたがたは弱った手を強くし，よろめくひざを健やかにせよ。

心おののく者に言え，『強くあれ，恐れてはならない。見よ，あなたがたの神は報復をもって臨み，神の報いをもってこられる。神は来て，あなたがたを救われる』と。」（イザヤ35：３－４）

主は近代の啓示の中で，次のように語っておられます。「これらのことを

為して，汝は汝の同胞に最上の善を行いまた汝の主の栄光をいや増さん。

これを以て汝忠実なれ。而してわれに命ぜられたる職務に服し，弱きを扶け，垂れたる腕を挙げ，かよわきひざを強うすべし。」（教義と聖約81：4—5）

正直になる強さを持ってください。「少々偽を言い，人の言葉につけ込んで欺き，隣人をおとし入れる穴を堀」る（IIニーファイ28：8）のは非常に容易なことです。

ニーファイは当時の人々を描きながら，今日の私たちについて述べているところが，数多くあります。「われらは，正直，真実，貞潔，慈善……を信ず」（信仰箇条第13条）と口で言うのは本当に簡単です。しかし，少しだけならと言って誘惑に負け，うそをついたり，ごまかしたり，盗んだり，人のうわさをして偽りを言ったりしてしまう人は少なくありません。皆さん，そのような誘惑に打ち勝ってください。正直という美徳を示す強さを持ってください。

自分が歩む信仰の道と自分の所属する教会のために，強くなってください。これは，全能の神のみ業です。これほど価値ある業はありません。このみ業は，皆さんの力を必要としています。

エペソ人の聖徒にあてて書いたパウロの力強くすばらしい聖句を読みましょう。「最後に言う。主にあって，その偉大な力によって，強くなりなさい。

悪魔の策略に対抗して立ちうるために，神の武具で身を固めなさい。

わたしたちの戦いは，血肉に対するものではなく，……やみの世の主権者，また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

……立って真理の帯を腰にしめ，正義の胸当を胸につけ，平和の福音の備えを足にはき，その上に，信仰のたてを手に取りなさい。それをもって，悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。」（エペソ6：10—12，14—16）

私たちが集い，125年もの間，末日聖徒のタバナクルとして使用されてきたこの偉大な建物を見るたびに，神の賜であり，神の創造物であるこの世のタバナクル，幕屋を授かっている私たち一人一人も，自らの内にはぐくむべき力を思い起こすことができるように願ってます。

兄弟の皆さん，神の御子イエス・キリストに対する証を強めてください。主こそ，この偉大なみ業のかしら石です。主が神性を有し，実在されるお方であることを，厳粛に証します。主こそこの世のあらゆる罪のために，犠牲として捧げられた無傷の子羊なのです。主の苦しみがあったからこそ，恵みにより，永遠の生命にあずかれるようになったのです。主こそ私の教師であり，模範であり，友人であり，世の贖い主として私の礼拝する救い主なのです。主の聖なるみ名により申しあげます。アーメン。



●1992年10月4日(日)午前の部会

教会は正しい方向に進んでいます

第一副管長
ゴードン・B・ヒンクレー

いざ非常事態が発生したときに主のみ業が滞ることのないよう，主はご自身の王国……を備えてこられました。



数週間前，地区大会からの帰りに強く心に残る経験をしました。乗っていた飛行機が空港に近づいた時です。機内放送から抗し難い威厳のある機長の声が聞こえてきました。「緊急事態の発生です。皆様に申しあげます。緊急事態が発生いたしました。乗員が皆様に指示をいたします。安全のため，乗員が申しあげる指示のとおりに行動してください。」乗員は直ちに行動に移りました。まさにこの瞬間のために，訓練を受け備えてきたのです。一人一人が自分の役割をはっきり知っていました。食器類は素早く鍵のかかる戸棚に片付けられました。

各非常口の近くに屈強な男性を配するために，乗客の座席が替えられました。

私たちは眼鏡を外し，頭を下げて，足首をしっかり握るように言われました。

私のすぐ後ろで，赤ん坊を抱いて座っている女性が泣いていました。ほかにもすすり泣きが聞こえてきます。だれもがこれは練習ではなく，現実の，しかも深刻な事態であることを悟っていたのです。

前の扉が開き，ひとりの男性が出てきました。彼は私に気がつくと，かがみ込んでこう言いました。「私はパイロットのひとりです。主要コントロールシステムが故障したのですが，だいじょうぶだと思います。着陸用の車輪を降ろして，フラップ(飛行機の下げ翼)も下げることができましたから。」

不思議なことに，私はまったく恐怖を感じませんでした。長年飛行機に乗っているうちには，怖いと感じたこともありました。しかし，今回はまったく落ち着いていたのです。その理由は，こうした非常事態を想定した予備システムが備えられていることと，乗員たちが非常によく訓練されていることを知っていたからです。

また，この予備システムの効力はそれから1，2分して，タイヤが滑走路に触れる瞬間に判明することも承知していました。

その瞬間はあっという間にやって来ました。幸運にも，飛行機は滑らかに着地し，着陸用の車輪はその衝撃に耐えてくれました。エンジンが逆噴射され，機体は止まりました。

消防車が何台も待機している中を，機体はゲートへけん引されていきました。乗員は称賛の拍手を受け，私を含めた数人は主に感謝の祈りを捧げたのでした。

この時の経験を私たちが属するこの教会に置き換えて考えてみました。この教会の頭は主イエス・キリストです。これは主の教会なのです。しかしこの地上での頭は予言者です。予言者とは，神からその神聖な召しを授けられた方です。その召しは神から来るものですが，予言者自身は人間であって，人間としての制約や様々な問題にも遭遇します。

私たちは現在の予言者エズラ・タフト・ベンソン大管長を敬愛し，尊び，心からの信頼を寄せています。大管長は長い間有能で偉大な指導者として働き，その声は主のみ業を世界中に証してきました。大管長こそ，今日この地上で神権のすべての鍵を握るただひとりの方なのです。しかし，大管長はお年を召され，以前のようには多くのことはできなくなりました。かといって，それは，大管長の予言者としての召しの貴さを損なうものではありません。ただ，肉体的な活動には限度が出てきたということです。

過去にも似たような状況がいくつかありました。ウイルフォード・ウッドラフ大管長も高齢になるまでその責務を果たされましたし，ヒーバー・J・グラント大管長，デビッド・O・マッケイ大管長，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長，そして最近ではスペンサー・W・キンボール大管長もそうでした。

中には，明らかに教会の組織のあり方を知らずに，大管長が高齢なために，教会が危機にひんしているのではないかと心配する人たちがいます。彼らは，教会にも予備システムがあるのを知らないのです。教会という飛行機の予備システムの特徴は，こういう表現を許していただけるなら，常によく訓練された乗員が乗り組んでいることです。彼らは，教会という飛行機の運行手順を完全に把握しています。そして最も大切なことは，彼らも永遠の神権の鍵

を持っているということです。彼らも主によって召された人たちなのです。

いざ非常事態が発生したときに主のみ業が滞ることのないよう，主はご自身の王国にどんなことにも対処できる，画期的ですばらしい予備システムを備えてくださったことをせん越ながら思い起こしていただきたいと思います。私にとって，このシステムは驚きであり，絶えることなく繰り返されている奇跡です。

昨日の午後，私たちは予言者，聖見者，啓示を受ける者，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として，エズラ・タフト・ベンソンを支持しました。

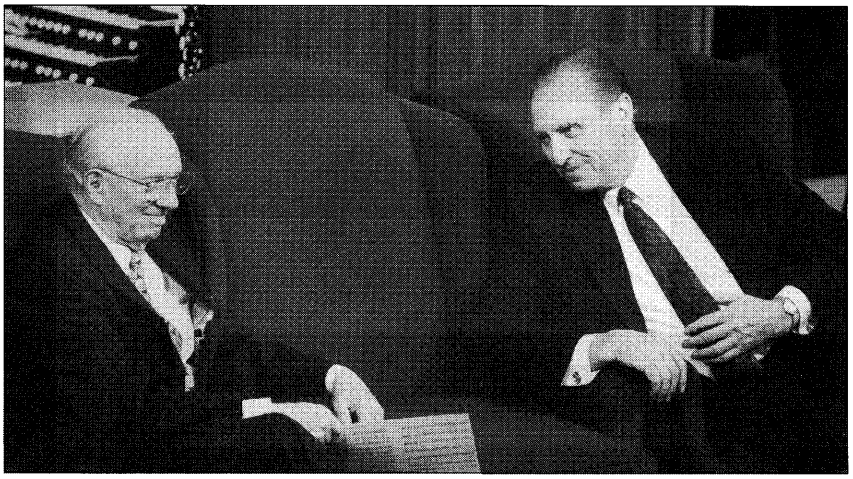
次に副管長，またその次に十二使徒評議員会会員を予言者，聖見者，啓示を受ける者として支持しました。このように，先に挙げた15人もの兄弟たちが召され，支持されるのを見ると，教会をよく知らない人は「混乱しないのだろうか」と危ぶむかもしれません。しかし，主の王国は秩序の王国です。その指導体制に混乱はありません。

人が使徒職に聖任され，十二使徒評議員会会員に任命されるとき，神権の鍵を授かります。その職に聖任された現在生きている15人の一人一人が，鍵を受けているのです。しかし，その鍵を完全に行使する権限を持つのは大管長だけです。大管長は，様々な鍵の運営をひとりあるいは複数の上記の指導者たちに委任することができます。指導者一人一人は鍵を持ってはいるものの，主の予言者が委任した範囲に限ってその行使が許されているのです。

ベンソン大管長は，ふたりの副管長と十二使徒に，彼らが委任されている様々な責任に応じて，その鍵を行使する力を授けておられます。

主の啓示によると，「メルケゼデク神権を有てる者の中三人の管理大祭司あり，当団体によりて選ばれ，その職に任命して按手聖任され，教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ，当教会の大管長会なる定員会を構成す」る(教義と聖約107：22)とあります。

この「メルケゼデクの神権の大神権



の大管長会は，当教会に於ける一切の職務を行う権能を有す」る(教義と聖約107 ： 9)のです。

この原則に関して，さらにこう書かれています。「而してこの大管長，教会の評議員会を統轄するはその職務上の威厳の然らしむるところにして，自己と同様にして任命せられたる他の二人の管理者の補佐を受くる特権を有す。而して，この補佐の任命を受けたる者の一人もしくは二人不在の時は，補佐なしに自己一人にてこの評議員会を統轄する権能を有す。また，この大管長自身不在なる時は，補佐たる管理者の二人もしくは何れか一人，彼に代りてこの評議員会を統轄する権能あり。」(教義と聖約102：10—12)

副管長として働く私たちふたりは，この権能と責任の範囲を承知しています。私たちの望みは，大管長の職の激務にある愛する指導者，ベンソン大管長をお助けすることだけです。教会は成長し続け，今や会員は800万人を超えています。教会は世界の隅々まで広まっています。また，教会のプログラムは非常に多岐にわたっていて，様々な要素を含んだ複雑なものになっています。そのため私たちの責任は多く，かつ広範囲なのです。

しかし，状況がどうであれ，主のみ業は秩序正しく，感嘆すべき方法で前進を続けるとはっきり申しあげることができます。キンボール大管長が病床にあった時と同様，私たちは，確立された方針がすでに存在する場合には，それに従って迷うことなく速やかに決断を下しています。方針が確立されていない場合は，大管長と話し合い，行動に移る前に承認を受けます。私たちに与えられた権能を不当に用いたり，主によって選ばれ，その職にある大管長の望みと一致しないことを言ったり，行なったり，教えたりすることは決してないと明言します。私たちは，大管長の忠実な僕でありたいと願っています。自分のために何の栄誉も求めようとは思いません。私たちの望みは，すべきことを，必要なときに，大管長の意思が反映された方針に従って行なうことだけです。

さて，使徒職の鍵はほかにも12人に授けられていると申しあげました。その職は，啓示によって次のように説明されています。「十二人の巡回評議員は召されて十二使徒となる，すなわち全世界に於けるキリストの御名の特別の証人となるべき者なり。すなわち，かくの如く彼らは当教会に於ける他の職員とは，その天職に就ける義務を異にす。

またこの十二人は，前記の三人の管理大祭司と権威と権能とを同じくせる定員会を構成す。」(教義と聖約107：23—24)

同じ権能を持つ定員会がふたつあって，混乱が生じるのではないかと思われるかもしれません。混乱はまったくありません。主は，このことに関してこう答えておられます。「十二使徒会は，巡回管理高等評議員会にして，教会の大管長会の指揮下に於て，……主の御名によりて職務を行う。」(教義と

聖約107：33)

この件についてジョセフ・F・スミス大管長は，次のように話しています。「当教会の十二使徒の義務は，福音を全世界に宣べ伝え，世の人々に福音を送り，神の御子イエス・キリストの神聖な使命を，生きた証人として証することである。これが十二使徒の特別な召しであって，彼らは大管長会が完全である限り，いつも末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会の指示の下に働く。この教会は決して一時にふたりの頭はいない。主は決してそのようなことを定められなかったし，また意図されたこともない。教会の長は常にただひとりである。死亡かその他の理由で大管長が解任された場合，再び大管長の職を果たす権利を持った3人の管理大祭司からなる大管長会が組織されるまで，十二使徒会が頭に立つのである。」(「福音の教義」p. 171)

兄弟姉妹の皆さん，これこそ主が地上の主の王国を管理する，驚くべき方式なのです。王国を管理するこの権能は，主が地上におられた時に任命されたペテロ，ヤコブ，ヨハネの手によって，この神権時代に回復されました。そして，これまで見てきたようにその権能の行使には秩序があります。

さて，この大管長会と十二使徒定員会の会員について少しお話ししたいと思います。私は，現在これらの職に召されている方たちを皆知っています。また，過去60年間この席を占めてきた方たちもすべて知っています。その上で，彼らのだれひとりとしてこの職をみずから望んだ人はいなかったと確信をもって言うことができます。選挙運動をした人もいませんでした。自分がその職にふさわしいと思った人は，ひとりもいなかったと思います。これはまさに驚くべきことではありませんか。

アメリカ合衆国では，現在ふさわしい候補者を公職に選出するため，選挙活動が行なわれています。何百万ドルもの選挙資金がその過程で費やされ，数十万人もの人々が各々支持する候補者の選挙運動に参加しています。

これは主のみ業とはまったく異なっています。この教会の忠実な会員であれば，自分から教会の召しに立候補するなど考えもしないでしょう。むしろ，「われらは，福音を宣べ，且つその儀式を執り行うためには，啓示と，権威ある者の按手により，神によりて其任に召されねばならぬことを信ず」と言うはずです。(信仰箇条第5条)



主は，ご自身でお選びになった十二使徒についてこうおっしゃっています。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして，あなたがたを立てた。」(ヨハネ15：16)

教会幹部に召された人のうち，ひざまずいて己の弱さを主に告白し，誘惑や過ちから守られるように嘆願し，召された職務を十分に果たす強さと，知恵と，霊感を請い願わなかった人はいなかったはずです。少なくとも，私の知る限りはいませんでした。

私は幹部の兄弟たちをよく知っています。指導者であるベンソン大管長もよく知っています。共にひざまずき，その祈りの言葉も聞きました。大管長の思いを知っていますし，その思いの善良さも証できます。大管長の愛の深さも知っていますし，その愛は真実であると証します。予言者としての嘆願の数々も知っていますし，それが誠実なものであることも証します。

大管長会で共に働くトーマス・S・モンソン副管長と，彼の強さや，天父の王国のみ業を推し進めようという熱意をよく知っています。

十二使徒の一人一人も，その召された順に，ハワード・W・ハンター会長からリチャード・G・スコット長老までよく知っています。

彼らは，この全能の神のみ業に共に働く私の同僚たちです。前に述べたように，だれひとりとしてこの職を自分から求めた人はいません。各々が主から召されたのです。その召しを受けるに当たって多大な犠牲を払った人もいます。私たちは共に祈ります。また，主の宮居での厳粛な会合にも出席します。定期的に主の晩餐である聖餐も共にいただきます。そこで神との誓約を

新たにし，私たちが証するように召されたお方，すなわち主ご自身のみ名を，改めてこの身に受けるのです。

私たちは，提出された様々な問題について一緒に話し合います。私たち一人一人は違う人間であり，様々な背景や経験から意見を述べ合います。み業を推し進めるうえで改善し，強めるべき点を話し合うのです。この会議の始めには様々な意見が出ることもあります。しかし，会議が終わるとき，意見は完全に一致しています。また，そうでなければ，何事も実行に移されることはありません。主ご自身も，そのような一致こそ必要不可欠であると明言しておられます。

これはごく特殊な管理方式なのでしょうか。いや，これこそ，地上における神の王国の管理方式なのです。この方式はほかに類がなく，そのシステムの下では，ひとりの人が機能を十分果たせなくなったとしても，み業が滞ったり，危険にさらされたりすることはありません。先のたとえに戻るならば，この飛行機には，長い間周到な訓練を受けてきた乗員たちが乗り込んでいるのです。そこには神の定められたシステムがあり，教会の指導者たちにどんな困難が降りかかろうと，予備システムが速やかに作動して，世界中の教会を管理し，み業を推し進めていくのです。

これまで話してきた幹部の兄弟たちは，主イエス・キリストの使徒です。彼らは高潔な人です。信仰の人です。一人一人が，確かに霊感と啓示によって，その職に召されたことを証します。皆それぞれ，試練を経て強さを証明してきました。しかし，彼らの最大の強さは，神の導きと祝福なしにはその職をふさわしく務めることができないと認めているところにあるのです。

最後に，皆さんにお尋ねしたいと思います。この兄弟たちが教会を誤った方向に導くことがあるとお思いになるでしょうか。どうか，この教会がどなたの教会か思い起こしてください。この教会は，その頭である主イエス・キリストのみ名をいただいています。彼らの中に，責任を怠ったり，神聖な主のみこころに添わない事柄を教えたりしている人々がいれば，彼らは主ご自身の権能によってその職を解かれるでしょう。

私は，これらの兄弟たちを代表して申しあげます。私たちは個人の意思ではなく，主のみこころに従っているのです。私たちが勧告や警告を発するとき，批判する人々が中にはいます。どうぞ，私たちの嘆願の言葉が利己的な気持ちから出たものでないことをわかっていただきたいと思います。また，私たちの警告には十分な目的と理由があることを理解していただきたいのです。様々な問題についての決定が発表される際には，必ず熟考と討議と，祈りによって決められていることもわかっていただきたいと思います。私たちのただひとつの望みは，皆さん一人一人の問題や困難，家族や生活をお助けすることです。

個人的な証として申しあげますが，私は１世紀の３分の１以上の間，教会幹部として働いてきました。そのうちの20年は，十二使徒定員会の一員として過ごしてきました。11年余りは，大管長会の副管長として働いてきました。私は，教会のシステムがどう働くかよく知っています。このシステムこそ，神によって計画され，権能を与えられたものです。主ご自身が教えられたであろうこと以外の事柄を，教えようとする人はだれもいません。主はこう言われました。「これらの定員会またはその何れか一つの為す決議は，全くの正義，神聖，謙遜，柔和，堅忍，信仰，善徳，知識，節制，忍耐，敬虔，同情，仁愛などによりて為されざるべからず。」（教義と聖約107：30）私たちはこの精神で働こうと日々努力しています。

主はまた，主の僕たちが教える事柄に関してこう言われました。「信仰をしてこれを受け入れ義しき行為をなす人々は永遠の生命の栄冠を受くべし。

されど信ぜずして心を頑固にし，これを受けいれざる人々はこのこと己れらが罪せらるる所以となるべし。」（教義と聖約20：14―15）

私たちが安息日を守って買い物の日としないようにと懇願するのは，昔主が定められ，近代にも啓示を通して再確認されたことを繰り返しているにすぎません。同様に，ギャンブルへの反対も，今まで予言者たちが繰り返し教えてきたことです。堅固な家庭を築くようにと言い続けるのも，家族の幸福を切に願っているからです。什分の一の律法を守るよう強調するのは，主が古代において教えられ，この神権時代にも民の祝福のために再確認されたことを繰り返しているにすぎないのです。私たちがポルノグラフィーや不道徳，麻薬などについて警告するのも，予言者たちがこれまで絶えず教えてきたことです。

私たちの責任はエゼキエルの言葉に要約されています。「人の子よ，わたしはあなたをイスラエルの家のために見守る者とした。あなたはわたしの口から言葉を聞くたびに，わたしに代って彼らを戒めなさい。」（エゼキエル３：17）

私たちの様々な勧めの言葉に，私心はまったくありません。私たちの望みは，愛する兄弟姉妹が幸福であり，家庭に愛と平安がとどまること，そして全能の神のみ力によって皆さんが，その義にかなった多くの行ないに対して祝福を受けることだけです。

挙手と寛大な心で，私たちをこの責任に支持してくださるすべての方々に感謝します。

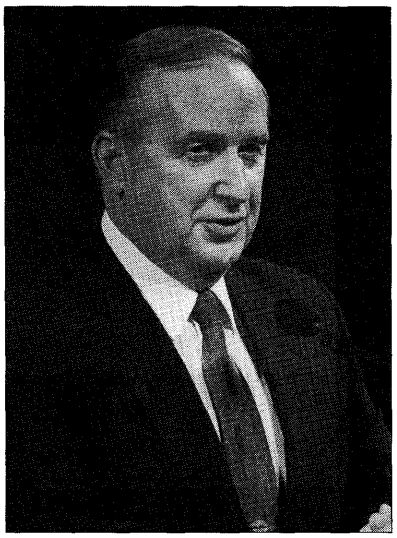
愛する兄弟姉妹，神が皆さんを祝福してくださいますように。この業は，宇宙をその住まいとし支配しておられる，永遠の父なる神のみ業です。また，私たちの救い主，贖い主であられる生ける神の子，主イエス・キリストのみ業なのです。この業は神聖な権能によってこの地上に打ち立てられました。しかも予言者や指導者が啓示の声によって召され，長年の働きを通して訓練されているのです。このみ業に失敗はあり得ません。成功し続けるのみです。

この業を支持し，信仰と祈りによって教えに従う努力を続けているすべての方々に，この世にあっては幸福と成功を，来るべき世では喜びと永遠の生命を得ることができるとお約束します。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

罪深い生活を改める

十二使徒定員会会員
リチャード・G・スコット

サタンは，何をしても構わないとささやいて，私たちを真理から遠ざけようとやっきになっているのです。



子供のころの美しい思い出のひとつですが，時折，夏から秋にかけて，兄や弟たちと一緒に，バージニア州の郊外にあるジーンおじさんの農場で過ごしました。自然の花々の香りが心地よい森を散歩し，美しい鳥やすばしこいリス，ときにはキツネやキジさえも目にしました。曲がりくねった小川に入って魚を追い，冷たく透き通ったわき水は，私たちののどを潤してくれました。ホットドッグやポテトサラダ，ピクルス，アップルパイ，手作りのアイスクリームを持って出かけました。その特製アイスクリームができ上がるのを，私たちはわくわくして待ったものでした。しかし，何と言っても一番楽しかったのは，ジーンおじさんが美しい小川のほとりにある背の高い木の枝に，縄をつるして作ってくれたブランコでした。大きな弧を描いて揺れるブランコに，時のたつのも忘れて遊びました。背中を反らせ，足を伸ばしては，だれが一番早く，高くこげるか競争したものです。それは実に楽しい思い出です。

ある時，もっとおもしろいことをしようと，兄のジェラルドが私をブランコに乗せ，長いブランコの縄に二重こぶができるほどぐるぐるとねじりました。そして，兄が力いっぱい押すと，私は勢いよく回り始めました。最初はスリルを味わっていましたが，それもつかのま，だんだん早くなると，目が回って気分が悪くなり，やがて恐ろしくなってきました。やっとブランコが止まっても，私は立ち上がれず，頭がぐらぐらして，吐き気がしました。

その間中，ジェラルドは飛び上がって大はしゃぎです。ようやくの思いでブランコから降りた私に，彼は「おもしろかっただろう」と叫んだのです。

私は「兄さんは頭がどうかしてるよ」と思いながらも，口では「うん，最高さ。兄さんもやったらわかるよ」と言ってしまいました。

生活の中で，これに似たようなことをしている人はいないでしょうか。数々のすばらしい経験や，温かい人間関係，主が私たちの幸福のために与えてくださった美しい自然などを楽しむ代わりに，主が定められた限度を超えたスリルを追い求めたりしてはいないでしょうか。必ず後に続く強い不快感を知りながらも，一時的な刺激を求めてはいないでしょうか。ちょっとした誘惑に心を許すと，さらに強い刺激を求めるようになるのではないでしょうか。その欲求は，罪から逃れさせようとする良心よりも強くなっていないでしょうか。きわめて不幸な結果を余儀なくされるとわかっていながら，誘惑にのめり込み，欲望を満たそうとしてはいないでしょうか。いつ，どうやって止めようかと迷ったことはないでしょうか。

そのような人は，対外的に自分の行動をどんなに正当化してみても，ひとりになって落ち着いて考えると，直面する大きな問題に頭を抱えずにはいられません。外面上は自分自身の問題を他人のせいにしていますが，心の中では，誘惑に負け，戒めを破って真理から遠ざかり，ますます身動きがとれなくなってきていることに気づいているのです。このままでは，どんどんわなの深みに陥ってしまいます。最終的には逃れる道もなくなり，希望さえも断たれてしまうのです。

そのような方々の助けになりたいと望む私の言葉を聞いてくださいませんでしょうか。考え方を根本的に変える必要のある人もいると思いますが，しばらく耳を傾けていただきたいのです。

他人からとやかく言われることに，飽き飽きしているかもしれません。確かに，最終的に選ぶのは皆さんです。それは間違いありません。皆さんにはその権利があります。それは自由意志ですから。しかし，この永遠に存続する自由意志と真理の関係を正しく理解し行動することに，人生の問題を解く鍵(かぎ)が隠されているのです。

主は言われました。「彼の誡命(いましめ)を守る人は真理と光とを受け，……

光明と真理はかの悪魔を棄(す)つ。……

然(しか)るにかの悪魔来りて，不従順により，……人の子らより光明と真理を取り去りぬ。」（教義と聖約93：28，37，39。下線付加）

主はまた言われました。「人ことごとくわれより与えられたる良心に従い，……教義と原理に適(かな)う行(おこな)いを為(な)し，かくて審判(さばき)の日に至りて自己の罪を負うべきなり。」（教義と聖101：78。下線付加）

これらの聖句は，うそ，盗み，かけ事，アルコール，麻薬，不道徳，暴力など，様々な誤った選択がもたらす苦しみを克服する方法を教えています。

自由意志を正しく用い，真理に従うようにとはっきり書かれているのです。

ほかの人から受けた忠告に，「それは君の標準や原則だろう。私には関係ない。私には私のやり方があるんだ」と答えたことはないでしょうか。おわかりいただきたいのですが，だれも真理を変えることはできません。正当化も利己主義も，どんな論争や怒り，野望も，真理を変えることはできないのです。サタンもそれを知っているので，巧妙な手段で，人は自らの行動を選べるだけでなく，善悪の基準まで自分で決められると思い込ませようとします。サタンは，何をしても構わないとささやいて，私たちを真理から遠ざけようとやっきになっているのです。

しかし，私たちの天父は創世の前から善と悪を確立し，真理を定められました。主はまた真理に対して従順な場合と不従順な場合の結果も定められました。成長し，幸福を得られるように，私たちには人生の様々な場面で選択権が与えられています。しかし，私たちには，自分の行ないに対する結果まで選ぶ権利はありません。主の戒めに故意に従わない者たちは，その報いを間違いなく味わうことになるのです。ジョセフ・スミスはこう記しています。「われら何にても神より祝福を受くる時は，この祝福の基く律法(おきて)に従うによりて然るなり。」(教義と聖約130：21)

理解していただきたいのは，善悪を決める権利はだれにもないということです。神ご自身が，それを定められるのです。いずれの道を選ぶかは確かに自由ですが，それに伴う結果まで選ぶ特権は与えられていません。その権利は神が有しておられるからです。後悔するような結果に陥ってしまったら，そこから抜け出す方法は，悔い改め以外にはありません。

天父は真理を示されました。いくつかの真理については，それに従う理由やその祝福についても明らかにされました。それは戒めと呼ばれており，私たちに幸福をもたらすものです。主はサタンの誘惑をご存じです。サタンは，私たちが正しい標準から外れ，従うのがいかにも簡単で，都合のよさそうな



現代の流行を基準に決断を下すよう仕向けているのです。そうしてサタンは，人々から真理の力を取り去り，その魂をとりこにしてしまうのです。

わなに陥り，もう抜け出すことができないと思っている人がいましたら，詩人ロバート・フロストの言葉を思い起こしてください。「必要な過程を経ずして，抜け出す道はない。」(「仕える者となる」)あなたは問題に立ち向かい，乗り越えなければなりません。その過程とは，イエス・キリストを信じ，戒めを守ることにあります。それが，誤った行ないにより傷ついた心と霊を完全に癒(いや)す唯一の道なのです。さらに，罪によって汚れた肉体を，永遠のおきてにより清める方法なのです。

素直に理解するのはむずかしいかもしれませんが，確かなことです。主の方法に従うとき，主は必ず助けてくださいます。ある予言者は言いました。「人はどうしてまだ仕えたこともなく，見も知らず思いもかけない主人を知ることができようか。」(モーサヤ５：13。下線付加)救い主を知ることができるように，聖典を学び，そして主を信頼してください。

行ないを改めるのは大変なことかもしれません。しかし，やれば必ずできるのです。不従順を改め，誠実に真理の道を歩もうとしているのに，それを信じてもらえないことがあるかもしれません。人を欺いたり，傷つけたりした場合，過去の誤った行ないを精算し，再び信用を勝ち得るには長い時間がかかります。しかし，それだけの価値があることなのです。

コンピュータは，どんなに慎重に計画しても，またいかに正確に手順を踏んだとしても，ほんのわずかな間違いがひとつでもあるとまったく機能しないことは，皆さんもご存じだと思います。すべての努力が水の泡となるのです。主のみ業はそのようなものではありません。戒めは決して難解なものではないのです。主は皆さんの幸福を願っておられます。そして，純粋な心と誠実さを心に留められます。真理に従い，自由意志を正しく行使すれば，天の窓が開かれ，主の神聖な力を得ることができます。このような心からの努力は，最初は自分自身と主にしかわからないかもしれません。しかし，前向きに進むならば，真の喜びを感じられるでしょう。やがて，人々もそのたゆまぬ誠実な行ないを認め，支持してくれることでしょう。

多くの人々から助言を受けると思いますが，ときどき，それらが互いに矛盾していると感じられることもあるでしょう。そんなとき，いったいだれを信じればよいのでしょうか。以下の質問について自問してみてください。

●その人が助言してくれる動機は何だろうか。

●それは良識に照らしてみて正しいことだろうか。もしそうであれば，主の教えとも一致するはずです。

●その人自身が，その助言と矛盾しない生活をし，自らの生活を高めているだろうか。

これらの質問に添って正しく評価することにより，その助言があなたにとって有益なものか，それとも相手の利己心から出たものかがわかるでしょう。真の友とは，したいことをするように勧めてくれるだけの人ではありません。なすべき正しい選択ができるように助けてくれる人なのです。

自らの正しくない行ないがもたらし

た結果をいつも他人に弁護してもらい，生活を改めようとしないならば，助け手となるはずの真理の力はうせてしまいます。真理を遠ざけると，誤った考え方にとらわれるようになり，悔い改めは必要ないとさえ思うようになってしまいます。そうして，さらに真理から遠ざかる悪循環に入り込み，抜け出せない状態に陥ってしまうのです。

罪に陥っている人にどんなときに助けの手を差し伸べ，どんなときに厳しい現実と直面させて教訓を得させるべきか，この点についてどのような決断を下したらよいでしょうか。この問いに対しても，主は答えておられます。人が良心の呵責を感じてへりくだり，真心から悔い改めようとして正しい方向に向かっているならば，いくばくかの間違いが認められたとしても，助けることが必要であり，それには大きな意義があります。しかし，誤った行ないを人のせいにしたり，人を利己的に利用したり，罪を正当化して隠し続けるなら，その人は誤った原則に従ったことになり，深刻な結果を味わうことになります。

傷ついた人生を修復する方法を知るのと，実際に行なうのとはまったく別です。それによって永遠の幸福がもたらされることを理解しなければ，生活を改めることはできません。戒めを破っても何の益もなく，自分自身も周りの人も悲しむ結果を招くことを，深く心に留めておく必要があります。最悪の事態になるまで手をこまねいていてはいけません。それは苦痛に満ちた，癒すことができないほどの傷跡を残してしまうからです。

皆さんを信じようとする人々の目はごまかせても，主を欺くことはできないのです。主の正義の要求に基づき，悔い改めていない行ないの報いと直面する時が，必ずやって来るのです。だれもそれを望んではいません。罪の縄目が非常に強く，ほかの人の助けなしには克服の一歩を踏み出せないかもしれません。そのようなとき，助けを求めてください。正しく自由意志を行使し，真理に従って歩み続けようとするとき，救い主によって清められるのです。どうか相談相手として，自由意志と真理について正しく理解した，信頼の置ける人を見つけてください。友達や家族，専門のカウンセラー，またはしっかりした教会員の中から選んでください。勇気を得たら，監督に会ってください。監督はあなたを助ける鍵を握っているのです。今すぐに始め，あなたが救い主の教えを理解し，それに従い，主の力によって清められるまであきらめないでください。そうしなければ，完全に赦されることはないのです。

次に，適切な助けを得て主に立ち返った人々の言葉を，承諾を得て2，3ご紹介したいと思います。ここには，神権指導者が霊感を受けた主の代理人として働くとき，彼らを通して主がどのように人を癒されるかが示されています。

「あなたの温かい賢明な言葉に心から感謝しています。私は，主の強い力を感じ，証は日ごとに強まっています。」

「まだ心が痛むことがあります。しかしそれは私にとって必要なことだと感じています。そして行く手には希望の光が見えています。あなたが聖霊の導きを受けて祝福を授けてくださり，私は生活を完全に改めることができました。そしてついに希望を得，どんな困難をも乗り越えられる自信が持てました。本当に，喜びに満ちた毎日を過ごせるようになりました。」

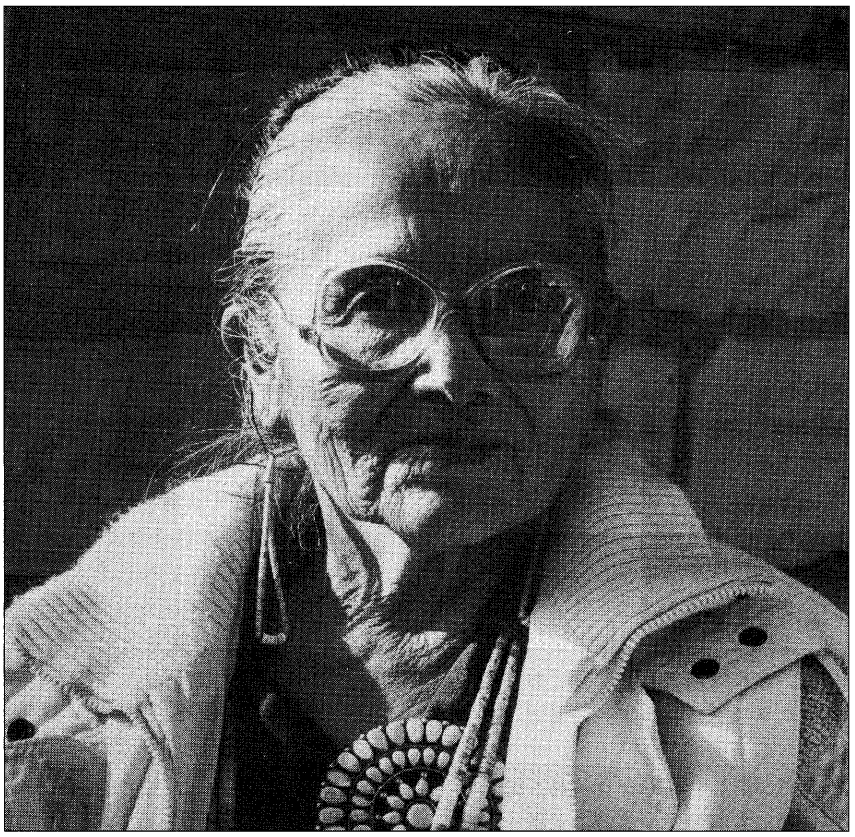
救い主の癒しは永続するものであることを証いたします。主はこう言われました。「汝らの中にて今病める者あるか。その者たちをここに連れ来れ。……これらの者を医さんとす。

〔なぜならば，〕汝らの信仰われが汝らを充分医すに足ると認む……。

イエスは……みなこれを医したもうた。」（IIIニーファイ17：7－9。下線付加）

主の勧告に従い，自由意志を正しく行使し，真理の道を選ぶならば，主の癒しの力が与えられることを証します。

主のみたまが皆さんの心に響き，これらのことが真実であると知ることができますように。主から力と勇気が与えられ，今すぐ立ち上がることできますように，イエス・キリストのみ名によりお祈りいたします。アーメン。



愛をもって人と語る神

名誉教会幹部
マリオン・D・ハンクス

キリストは入り口で扉をたたいておられます。だれでもキリストを招き入れ……たいと願う人は，……「戸をあける」必要があります。



私たちのように，主に仕えることができるのは，身に余る光栄です。私たちはそれを自覚し，感謝しています。

聖書には，神は全人類の霊の御父であり，ただひとりの神であることが明らかに記されています。(民数16：22；ヘブル12：9参照)使徒パウロはアテネの人々に，私たちは神の「子孫」であると教え，ローマ人には「御霊みずから，わたしたちの霊と共に，わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。もし子であれば，相続人でもある。神の相続人であって……キリストと共同の相続人なのである」と述べています。(使徒17：28—29；ローマ8：16—17)

天父はその子らに大いなる愛を示し，子らのために選択の自由を約束してくださいました。そこで人類には世の初めから自分で選ぶ機会が与えられてきました。ヨハネはその福音書の冒頭の数節で，キリストは「すべての人を照すまことの光があって，世にきた」と述べています。(ヨハネ1：9)また，聖典には「すべての人々はみな善悪の区別を弁えるためにキリストの『みたま』を授かる」と記されています。(モロナイ7：16。教義と聖約84：45—46参照)さらに，すべての人が光によって歩むわけでも，悪を退けて善を選ぶわけでもないのはなぜかを説明する聖句もあります。「『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照すなり。」(教義と聖約84：46。下線付加)

天父はすべての人が光に導かれることを望んでおられますが，その祝福をすべての人に強いられることはありません。キリストは入り口で扉をたたいておられます。だれでもキリストを招き入れ，共に食事をしたいと願う人は，キリストのみ声を聞いて「戸をあける」必要があります。(黙示3：20)ここに福音の中心となるふたつの偉大な原則，愛と自由意志が明確に示されています。人は皆現世で，愛し，与え，みたまの声に耳を傾け，天父のみこころを選んで行なうことを学ばなければなりません。神はその子孫であり相続人である私たち全員が自らの可能性を引き出して，受け継ぎを得るにふさわしい者となるよう望んでおられます。しかし，私たちは選ばなくてはなりません。決定を下すのは私たちであって，その責任が私たちからなくなることはありません。すでに申命記の中で，この点が明らかにされています。

「……わたしは，きょう，命とさいわい，および死と災をあなたの前に置いた。……あなたは命を選ばなければならない。そうすればあなたとあなたの子孫は生きながらえることができるであろう。すなわちあなたの神，主を愛して，その声を聞き，主につき従わなければならない。」(申命30：15，19—20)

真理の幾分かは主の光を通して，あらゆる地域，分野，階層の人々に行き届いています。様々な場所でいろいろな所から善きものを見いだすことは，私にとってずっと大きな喜びでした。ジョセフ・F・スミス大管長は，神会のお三方が真理の源であると述べ，次のように語りました。

「この泉から古代の博識な哲学者たちは霊感と知恵を得，あらゆる知識を受けた。歴史が残した様々な資料の中から真理を見いだすことができるとしたら，真理はこの泉からわきだし，神の霊感によって哲学者，発明家，愛国者，改革家，予言者に与えられたことを明白な事実として認められるであろう。」(「インプルーブメント・エラ」1907年6月号，p. 629)

初期の時代から，その後も，教会の指導者たちは同様の証を述べています。これまでに携わった活動を通して，私は同じような価値観を持つ，徳高い人々と交流する機会に恵まれました。敬愛するクエーカー教の教師であり，作家でもあるルーファス・ジョーンズ氏のすばらしい知恵の一例を紹介しましょう。

「神が人と交わられたのは遠い過去の時代だけであり，神が生きておられ，啓示を与え，人と言葉を交わされる証拠は聖書だけであるとする教義の中では，活力のある宗教は育たない。かつて神が語られたのであれば，今も語っておられるはずである。神は『わたしは有る』というお方であって，『わたしは有った』というお方ではない。(出エジプト3：14参照)」(「永遠の世界のひらめき」)

この言葉は根本的な真理をよく表わしています。私たち自身がこの原則について理解しているところは，神はその子供たちに語りかけ，神の王国に関

する偉大で重要な事柄についてこれまでも，現在も，そして将来も啓示されるということです。

ユダヤ人は，イスラエルの民の歴史的なエジプト脱出と紅海の横断を記念する過越の祭りで，詩篇を朗読する美しい習慣を持っています。このユダヤ人の伝統により，私たちは神の本質をうかがい知ることができます。イスラエル人は紅海のほとりにたどり着いた時，後続のエジプト軍に追いつかれてしまいました。神はモーセを通して海を分け，「イスラエルの人々は海の中のかわいた地を行った」のです。(出エジプト14：22)エジプト人も彼らの後を追って海の中に入りました。その時モーセが再び手を海に向かって差し伸べると，海の流れが戻ったのです。イスラエル人は助かり，エジプト軍は海中に沈みました。民は勝利に酔って主を賛美する歌を歌い始めました。ところが全能の神は民をたしなめて言われました。「私の子らが大勢海に沈んでしまったのに，なぜ喜びと賛美の歌など歌えるのか。」

この出来事を記念して，ユダヤ人は過越の祭りの後半に，祝いのひとつとして要約した短い詩篇を朗読します。

確かに，神から出る光は全世界を照らしてきました。私たちはそれを喜び，へりくだって証します。すなわち，神は今もなお生きておられ，啓示を与え，人と言葉を交わされる御父なのです。

古代の予言者や聖書の記録者たちが残した豊かな教えと，それらを裏付け，深めた，末日の聖典に見られる真理を合わせると，混然一体となった教えは数々の重要な疑問に対して明らかな光明と知識を与えてくれます。それらの疑問は，人類が長い間答えを探し求めてきたもので，現在も問われ，人口の増加と解釈の多様化に伴って，将来も一層深刻に問い続けられるでしょう。それらの疑問とは，神とキリストと聖霊による神会，人間，現世の生活とその意味，目的，永遠とその約束についてです。

こうした重要でより大きな光明は，人類，すなわち個人，組織，国家，文明などの増大する諸問題に答える意味で与えられています。詩篇の作者は何千年も前にこう嘆願しました。「主よ，わたしをあわれんでください。わたしは悩み苦しんでいます。」(詩篇31：9)そして彼は数々の問題について語りましたが，それらのいくつかはなぜか現代の私たちにもなじみのあるものでした。今まさにこの瞬間にも混乱したこの世界では災難，破壊，恐れ，飢え，紛争が地球を取り巻き，艱難や逆境が多くの人々を苦しめています。個人，家族，社会の問題を取り上げた書籍の数は増加しています。そうした書籍のどれを見ても一致しているように思えるのは次の点です。それは，なぜ善良な人々が試練を受けるかと問うのではなく，善良な人々が試練に遭った場合それにどう立ち向かうかを問うべきである，という点です。聖典はいくつかの重要な質問に答えるうえで，役立ちます。

●神はその子供たちに苦難や艱難に遭うことはないと約束されただろうか。

●艱難は神の不興の表われであろうか。

●古代の予言者，キリスト，そして使徒たちは逆境に遭わなかったのだろうか。

●主はご自分に従う者は困難から救われると約束されただろうか。

聖典はこれらの質問に答えを与えています。山上の垂訓で主は，悲しんでいる者，心の貧しい者，ののしられ迫害される者，様々な悪口を受ける者について語っています。(マタイ５：３－４，11参照)

右のほおを打たれたら，ほかのほおも向けてやりなさい。１マイル行くよう強いられたら２マイル一緒に行きなさい。これが教えです。苦しめる者，敵対する者，ののしる者，忌み嫌う者，罪のない人々を虐待する者たちについても記されています。悪い者の上にも良い者の上にも太陽は昇り，正しい者にも正しくない者にも雨は降ります。(マタイ５：39－45参照)

教会の初期の指導者にはこのような訓戒が与えられました。「苦しみを忍べ。汝は数多の苦しみを受くべければなり。」(教義と聖約24：８)

神は私たちが地上で受けるはずの経験を止められることはありません。神は艱難を私たちから遠ざけたり，苦難から免れられると保証したりもされません。

私たちが味わう苦しみや，必然的に人に負わせてしまう苦しみは，自分の誤った判断や選択によって招く場合が少なくありません。

そのような場合には，助けが得られます。悔いる精神を持った罪人には，神は赦し，忘れ，真に悔い改めた罪を二度と思い起こされることはないという確信が訪れます。

しかし，この人生では自分の力ではどうにもならないことも数多く起きます。私たちはそれらをただ受け入れるだけです。神の約束を知れば，必要な勇気と信仰が持てます。主は苦しんでいる人々を訪れるということを，聖典から確かに知ることができます。(モーサヤ24：13－14参照)また「すべて神に頼る者は，苦しみ悩み禍に逢う時に助けられてこれらを忍ぶことができ，また終りの日に高く挙げられる」(アルマ36：３)ことも，確かに知ることができます。

愛する者を失い，悲しんでいる人々に対して，イエスはこう言われました。「このように，あなたがたにも今は不安がある。しかし，わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして，あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない。」(ヨハネ16：22)

また，孤独な人々，絶望のふちにいる人々，恐れのある人々に対して，イエスは次のように言われました。「わたしは，決してあなたを離れず，あなたを捨てない。」(ヘブル13：５)

つまり次のような約束なのです。悲しみや苦しみの時に，もし耐え忍んで忠実であり，主を信頼して勇気を持つならば，主は苦しみの中にある私たちを訪れ，重荷に耐えられるように強め，試練の時に支えてくださいます。主は終わりまで私たちと共にいてくださり，終わりの日に私たちを高く上げてさらに大きな奉仕の機会を与え，再会した愛する人々や主と共に昇栄させ，艱難

を神聖にして私たちの利益に変えてくださるのです。

何年か前に，ある経験を通して深い感銘を受けました。ひとりの立派な監督が最愛の妻を癌で亡くし，その思いをある集会で語るのを聞いたのです。この監督と同じような経験を持つ夫や妻や家族の方々は大勢いらっしゃると思います。

それより20年前に，この監督の母親はとても苦しんだ末に他界しました。彼は母親が苦しまなければならなかったことを，ずっと恨み続けていました。妻の試練は，本人にとって，そしてある意味では家族にとっても，過酷ではありましたが，彼の怒りはかえって主との一層親密な霊的関係へと昇華し，やさしい気持ちで彼は妻の重荷を分かち合えたのです。

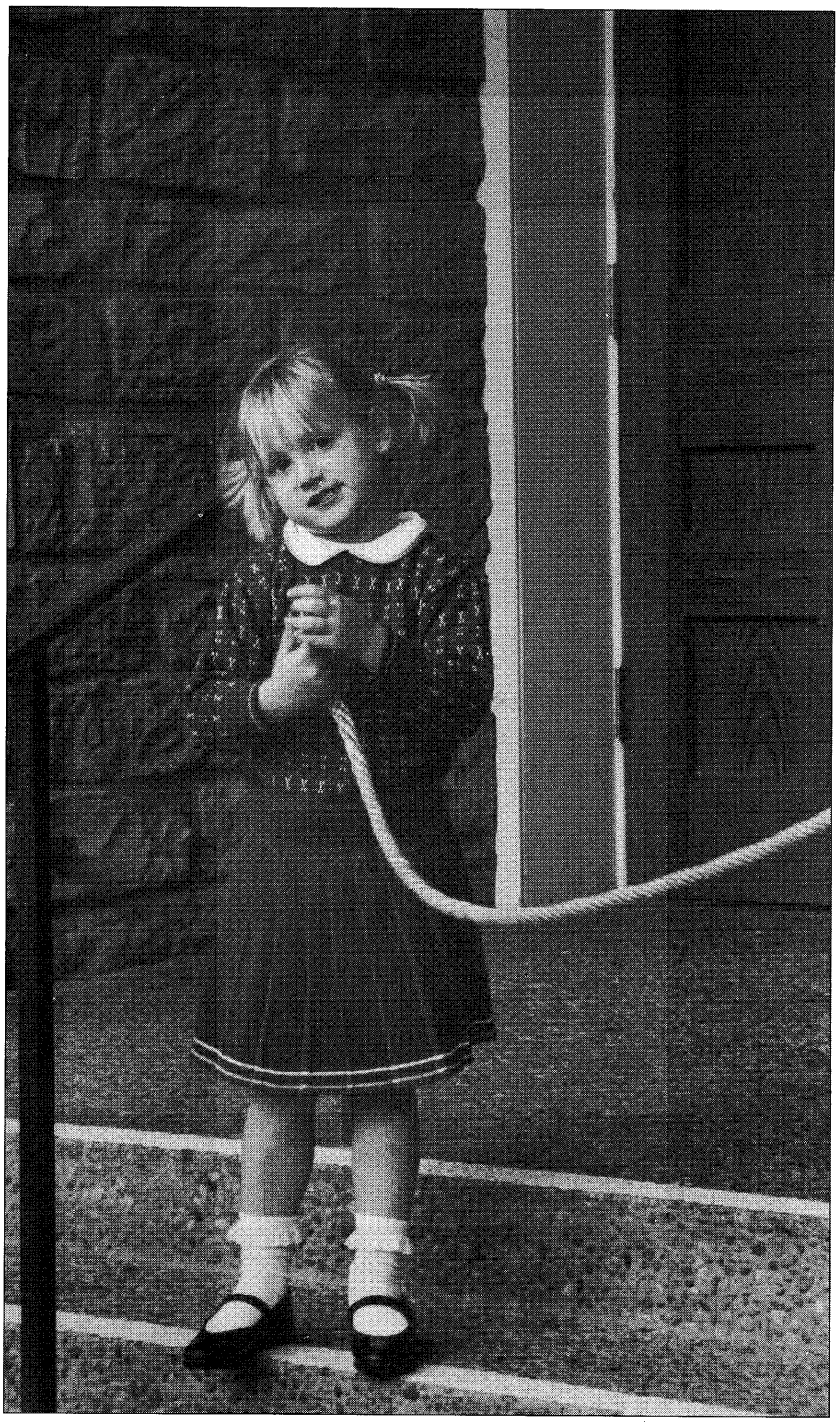
彼女は亡くなる直前に，劇痛が和らげられるよう夫に祝福を求めました。夫の手が妻の頭の上に置かれ，夫が主に語り始めると，ふたりとも涙をこらえることができませんでした。監督はこう語りました。「そして天父がそこにおられるのを感じました。私たちと共に涙を流しているお方がいらっしゃることを強く感じたのです。」最期の時が近づくと，肉体的には大変弱っていた彼女ですが，「今ほど完成に近づけたことはないわ」と語りました。

主がその場に来られ「共に涙を流された」と強く感じたと言います。それは現実に起きることではありませんか。イエスはラザロの墓で涙を流され，エルサレムに差し迫る艱難を思って涙を流され，アメリカ大陸では人々と共にひざまずき，特に「小さい子供たちを一人一人近よせてこれに祝福を与え，かれらのために御父に祈りたもうた」時にもやはり涙を流されました。(IIIニーファイ17：21。同22節；ヨハネ11：35；ルカ19：41参照)

昨晩，集会を終えて家に帰ると，ある末日聖徒の母親から手紙が届いていました。彼女は2年前に事故で夫を亡くしていました。その手紙には，私の事務所の壁に額に入れて掛けてある次の言葉から，彼女と家族が慰めを受けたと書かれてありました。

「神を信じるとは，すべての戒めの正しいことが証明され，想像もできなかったすばらしい報いが待っている，ということを知ることである。」

私は神の愛と御子の愛について，主に感謝します。私たちのように，御子のみ名を引き受ける者は，御子が残された受け継ぎを担う必要があります。私たちが担うべき受け継ぎとは，愛と慈悲と奉仕であり，希望を持って有意義な働きをするという末日聖徒の伝統を受け入れることであり，人類を病と苦しみから救うこのみ業をなすうえで，信仰と行ないを一致させることなのです。その決意を実行に移すときに神の助けがありますように。イエス・キリストのみ名によりへりくだってお祈りいたします。アーメン。



「心に決めなさい」

十二使徒定員会会員
ニール・A・マックスウェル

献身だけが，勝利を伴う降伏です。……高慢と呼ばれる暗い監獄からの解放をもたらすのが，この献身なのです。



この機会に，ハンクス長老から長年にわたって数々の影響を受けてきたことに，心から感謝を申しあげます。

18年前，私はこの同じ説教壇から，教会の「玄関」で思い迷っている人々に向かい，ドアを開けて入って来るように呼びかけました。(『なぜ引き延ばすのか』「聖徒の道」1975年4月号，pp. 184—186参照)きょう私は，もうすでにドアの中に入っている会員のうち，主の弟子としての献身が十分でない人々，つまり私たちが愛し，その才能と能力が主の王国の建設のため大いに必要とされている人々に向けて呼びかけたいと思います。

もちろん，さらに大きな献身が求められているのは，実は私たちすべての会員です。しかし，きょうの話は絶えず努力して誠実に神の戒めを守ろうとしていながら，ときどき失敗してしまう人たちに向けたものではありません。(教義と聖約46：9参照)また，新しいスリルを求めて考え方や行動に特定の主張をしながらも，昔からよくある異端や罪に陥ってしまう人たちがいますが，そういう人たちも含め，意図的に不従順な少数の会員に向けられたものでもありません。

それよりも，より良い弟子であろうと努力せずに見せかけの弟子に甘んじていたり，「努めて……従」うよりはおざなりに従っていたりする，基本的には「正しき」会員たちに向けられたものです。(教義と聖約58：27；76：75)うわべは普通に教会の活動に参加しているようでも，彼らのためらいや煩いはすぐ明らかになります。聖なる神殿にも参入しているかもしれませんが，聖なる神殿を心の中で受け止めてはいません。

そのような会員は召しを受けはするものの，召しに伴うすべての責任を全うしようとしません。彼らに託された教会の責任は，「努めて……従」っている人々が代わって行なわなければならないことが往々にしてあります。次の召しまでの間休んでいるだけだ，と思っている人たちもいます。しかし，私たちにとって「次までの間」はあり得ません。イエスの気高い呼びかけを思い出してください。「汝らはいかなる人物にてあるべきか。まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず。」(IIIニーファイ27：27。マタイ5：48；IIIニーファイ12：48参照)このような呼びかけを受けていながら休むなど，まったく危険なことです！　実際，キリストの証し人として「雄々し」くある(教義と聖約76：79)ということは，思いと心と態度において，主と似た者になることでもあるのです。このような人になることは，男性にとっても女性にとっても，真の信仰を表わす究極の方法といえるでしょう。

もちろん選択は自由ですし，自由意志による選択こそ私たちが望むものです。しかし残念なのは，信仰において怠惰であることを選ぶとき，その影響は単に自分だけにとどまらず，次の世代やその次の世代にまで及ぶということです。親のほんのちょっとしたあいまいな言葉が，子供たちを大きく迷わせる結果を生むことがあるのです！　前の世代が献身的な信仰を守り抜いた家族でも，現在生きている世代の人々があいまいな信仰生活を送っていることもあります。そして悲しいことに，浸食作用が現われて，さらに次の世代は教会に異議を唱えるようになるかもしれません。

怠惰な会員は不正を行なっているわけではありません。しかし，実際よりも熱心でないように見せかけて，極端な義人に見えないようにしている人たちがいます。皮肉なことですが，これも偽善のひとつなのです。

ほかの点では立派な会員であるこのような人たちの中には，教会を神の王国というよりは組織だと誤解している人がいます。彼らは王国の教義を字面では知っているものの，その真の理解に欠けているのです。

表面的な会員は，信仰深いアミュレクがかつてそうだったように，世事に心を奪われている場合が多いものです。幾度となく呼ばれていながら，彼は聞き従おうとしませんでした。また，福音の真理について多くを知りながら，それを認めようとはしませんでした。(アルマ10：4—6参照)

立派ではあるけれども怠惰な人たちの特徴のひとつは，一見おもしろみのない弟子としての務め，たとえば毎日の祈り，定期的な聖典学習，聖餐会への出席，什分の一を完全に納めること，神殿への参入などをないがしろにしていることです。相対主義が猛威を振るい，官能主義が幅をきかせて，神のみ

名が口に上っても憧憬の思いではなく単なる言葉の区切りや感嘆詞の代わりでしかない，という今日の世の中にあって，そのような怠惰な傾向は大変危険です。

反対に，さらに献身しようと心から努力している人たちは，責任から逃れたり，聖なるガーメントを脱ぎ捨てたりはしません。また，みだらなことを避け，純潔の律法を守り，什分の一を納めて伴侶と子供を愛し，彼らに仕えます。善き隣人として「互いに苦難を軽くするために喜んで助け合」い，「悲しむ者を思いやって共に悲し」み，「慰めが要る者を慰め」て，「いついかなる時でも，どのような所に居ても，どんなことについても，死に至るまでも神の証し人にな」ろうとするのです。(モーサヤ18：8－9)

霊的な安定を得ようと決心したときに，その決心を揺るがす弱さが私たちにはあります。その第1は，過去を断ち切ることのむずかしさです。しかしいったん始めてみると，霊的な成長を妨害しようとする友達は良い友達とはいえないことがわかります。そのような友達は，見捨てられることへのうらみや無意識の心配から文句を言うのです。どうにか彼らを説得しようと試みても，私たちの口が語れるのは「万分の一」にすぎません。(アルマ26：16)私たちは彼らを愛し続けますが，それ以上に神への義務を重んじているのです。ブリガム・ヤングは端的にこう教えています。「自然のままの思いや感情とは一致しない責務があることを理解できない人たちがいる。……感情よりも優先させなければならない責務がある。」(「説教集」7：65)

同様に，私たちがもっと献身しようと決意すると，すぐに，まだ自分に欠けているものがあると思い知らされることを警告しておきましょう。これはつらいことながら，必要なことなのです。イエスに「あなたに足りないことが一つある」と言われた義人で資産家の青年を思い出してください。(マルコ10：21)また，アナニヤと妻サッピラは，ほかの点では申し分のない教会員であったにもかかわらず，全部を捧げずに一部を「ごまかし」たとあります。(使徒5：1—11)ある人たちはイエスを銀貨30枚で売り渡そうとは決してしませんが，主にすべてを捧げようともしないのです！



残念なことですが，捧げるという言葉を聞くと，私たちはすぐ財産やお金のことだけを考えます。しかし，私たちが「ごまか」すのは財産やお金とは限りません。お金や時間を捧げても，最上の物を隠している人もいます。公には才能を捧げているように見えるものの，特定のプライドを内に残したままの人もいます。また，神の王座にひざまずくことは躊躇するのに，仲間内では追従をよしとする人たちもいます。教会の召しを受けても，この世での役割を果たすことの方に心を奪われている人たちもいるのです。

さらに，思いを変えるよりは屈服してしまう方が楽だと考える人たちも多くいます。地道な福音の実践より教義の詮索に胸を躍らせる方を好み，献身よりは憶測がおもしろく，固い教義に従うよりはそれを柔軟な教えに変える方が楽しいと感じる人たちです。悪いことに，従順でないためにこの少数の会員たちは本当の知識に欠けているのです。(ヨハネ7：17参照)そして，本当の知識に欠けているために自分の信仰を守ることができず，信仰の擁護者どころか批判者になってしまうのです！

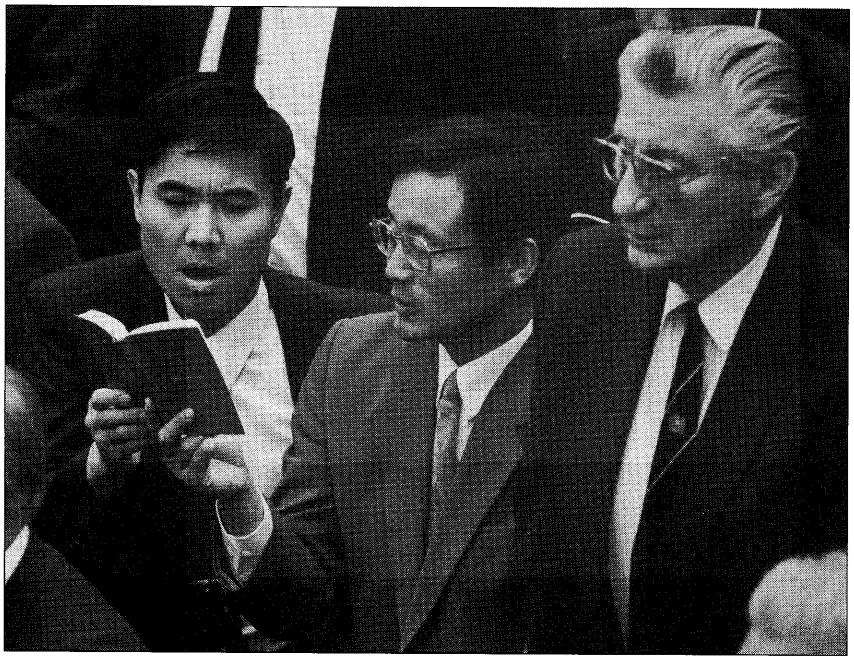
そのような人々の中には自分の説を擁護し自己陶酔に陥って，教会の中で，いわば自由な戸外演説場として有名なロンドンのハイドパークのような一角に行き着く人たちがいます。彼らは，ハイドパークの一角をまるで国会議事堂や官庁街のホワイトホール，バッキンガム宮殿やイギリス全体であるかのように錯覚している人のように，その場所を教会のすべてと錯覚しているのです。

私たちの中にある不安定な心の状態やいい加減さを克服できるのは，献身の度を増す意外にありません！　すでに指摘したように，献身の度を増すことによって経験する試練は厳しいものかもしれません。しかし，それは学びの過程に欠くべからざるもので，より高いレベルの献身を引き出すのに必要な神の慈悲を表わしているといえるかもしれません。(ヒラマン12：3参照)これまで怠惰に慣れてきたのなら，今こそ困難を経験しなければならない時かもしれません。慣れ親しんできたものを取り去られることは，考えただけで身がすくみますが，それは人をより献身できる状態に備えてくれるかもしれません。安易な状態で満足してしまうタイプなら，神は不満足という薬を処方してくださるかもしれません。このように，天父の長い忍耐心は，私たちが自由意志を最大限に発揮し成長するために必要なのです。しかし，神は甘やかす父ではありません。

私たちは「いますべての事に堪うる能わず」と言われていますが，日々の忙しいスケジュールと心の思いの中に「受け入れる」芽を育て，罪を「捨てる」ならば，主は「汝らを導きて行」くとも約束してくださっています。(教義と聖約78：18；50：4；アルマ32：27；22：18)

私たち一人一人は，イエスのために部屋があるかどうか決めなければならない宿の主人のようなものです！

献身だけが勝利を伴う降伏です。利己心という名の，騒がしく，過密な牢獄と，高慢と呼ばれる暗い監獄からの解放をもたらすのが，この献身なので



す。しかし一層自分を捧げるよりは，まるで「ゴルフカートに乗ってパラダイス」まで行こうとでもしているかのように(ヘンリー・フェアリー「七つの大罪」p. 125)，気乗りのしない調子でのんびりと信仰生活を送る方が楽なのは確かです。

しかし，自分を捧げ「全く……従」うと個性が失われるということはないでしょうか。(モーサヤ15：7)決してそのようなことはありません！　天父は，新しい本当の自分を見つけるために古い自分を捨てるよう望んでいらっしゃるだけなのです。個性を失うのではなく，むしろ新しい自分を発見するのです！

私たちは正しい道に戻って来さえすれば，どんな世間のあざけりにも耐えることができます。自分がどなたに属しているかを知っていると，ほかのものに属することの価値はなくなるからです。同様に，自分の生活にイエスを迎えるようになると，世の中における地位を失うことは何とも思わなくなります。私たちがイエスの贖(あがな)いの重要性を真に理解するときには，私たちをがんじがらめにしていたこの世の支配が緩むのです。(アルマ36：18参照)

献身の度を増すとは，教会の務めにもっと長い時間を費やすというより，このみ業がどなたのみ業であるかをもっとよく知ることなのです。差し当たって献身によって物質的な所有物を捧げることは求められていません。むしろ，財産への執着心を減らすように求められているのです。

「まごころもて」(教義と聖約４：５)見てすべての焦点が合い始めたときにだけ，物事を「ありのまま」に見ることができるようになります。(モルモン経ヤコブ４：13)そのときにはなんと周囲が美しく見えることでしょう！　誘惑を受けても「心に留めたまわ」なかったイエスの模範に従い，人生の誘惑に対処できるレベルに応じて，私たちも「自由」に，やっと自由になれるのです。(教義と聖約20：22；ヨハネ８：32)

信仰に忠実に生きることは，このように安全と至福をもたらします。単に正しいだけではなく，幸せな生活です。正統派の信仰という言葉を聞くだけで不興を覚える人がいるとは，不思議ではありませんか。社会がますます奇妙になっていくと，正統派の信仰に甲高い声で攻撃を加える人たちも中には出てくるようになります。

パロの怒り狂う軍勢が迫って来た時，いにしえのイスラエルの民がどのようにして主の指示に従ったか覚えているでしょうか。モーセが手を差し伸べると，紅海はふたつに分かれました。そびえ立つ水の壁を両側に見ながら，イスラエルの民は従順に狭い道を歩いて行きました。もちろん大急ぎで渡ったのは間違いないでしょう。その日には，従うか否かの議論や警告は必要なかったに違いないでしょう。

予言者たちが「キリストに従う男女」をまっすぐで狭い道に導くときに，同じような従順さを必要とする道が私たちの前にもあるのです。

思いと行ないにおいてイエスのようになることは，骨の折れることでも抑圧されることでもありません。むしろ，私たちを解放し，新しいものを発見させてくれます。正道を外れた行動や考え方は逆の効果をもたらします。ほんの少しのポルノグラフィーでも妻子の虐待につながる恐れがあるだけでなく，少しずつその人の自尊心をむしばんでしまいます。また，ほんのうわさ話をする癖がある人は，いつか重大な偽証をするようになるかもしれませんし，悪意に満ちたささやきが残念なことに「人の記憶には大きな叫びとして残ってしまう」ことも多いのです。(C・S・ルイス「ルイス名言集」オーウェン・バーフィールド，ジェリー・ルート共編，p. 425)教会指導者に対するほんのちょっとした批判は，それ自体何の害もないようでいて，ほかの会員たちに害を及ぼしたり，自分自身を「世の光」の代役に祭り上げてしまうことさえあるのです。(IIニーファイ26：29)そのような過ちを犯した放蕩(ほうとう)者が悔い改めて家に帰って来るとき，かつて自分たちを迷わせた仲間を連れて来たりはしません。身の回りをきれいにして，皆ひとりで帰って来るのです。

イエスは弟子たちにこう忠告されました。「それであるから，わたしが教え命じたことを行なうように，この事をよく心に決めなさい。」(ジョセフ・スミス訳ルカ14：28)献身するためには，まず心を定めなければなりません。予言者ジョセフ・スミスは福音の知識は「やみや不安，疑いを取り除く」と言い，「不安の苦しみほどつらいものはない」とも言っています。(「ジョセフ・スミスの教え」p. 288)決心する

ことで，小さなさざ波のような意見の違いに，まるで津波に対するような反応を示すことがなくなります。私たちは「風に揺らぐ葦」のように動揺する者ではなく(マタイ11：７)弟子であることを求められているのです。もっと多くの会員が，「決心する」ことから得られる計り知れない安堵感と平安を味わう必要があります。そうしなければ，「静まることができない」「波の荒い海」のようになってしまうでしょう。(イザヤ57：20)

決心するのには，もうひとつ特別な理由があります。それは，私たちが「あらゆるもの皆立騒」ぐ時代に向かっているからです。(教義と聖約88：91；45：26)今日の世の中の不確かさ，動乱，混乱の中にあって，ごまかしたり迷ったりしている人たちは，ひどい乱気流に飲まれて転げ回ることになるでしょう。

終わりに，より深い献身をしりごみする人は，私たちのために贖いの苦悶に耐え抜いて「しりごみ」なさらなかった主にふさわしくないと申しあげます。(教義と聖約19：18)しりごみするどころか，イエスは務めにまい進し，すべてを捧げ尽くして，そのすばらしい「人の子らの為〔の〕準備」を成し遂げられたのです。(教義と聖約19：19)

もし，イエスのこの世における救世主としての務めが，優れた説教を残すだけだったとしたらどうでしょうか。また，説教に加えて癒しとほかの奇跡を行なったけれども，ゲツセマネやカルバリの苦悩に満ちた，しかし聖なる贖いの時がなかったらどうでしょう。私たちはイエスの使命をどう思うでしょうか。また人類はどうなっているでしょうか。

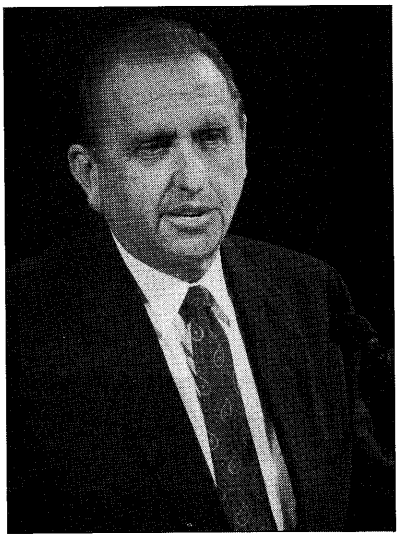
兄弟姉妹の皆さん，イエスとそのみ業を受け入れようとせずに，ほかの何を受け入れても，私たちが神の王国に入って主に受け入れられることはないのです。(モルモン６：17参照)

今こそ決心し，神の王国に導き入れられる，その比類なくすばらしい瞬間に備えることができますように。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

奇跡――今も昔も

第二副管長
トーマス・S・モンソン

私たちはひとりではありません。天父の助けは，すぐ近くにあるのです。



およそ40年前のことです。私は，高名な政治家であり，世界的に高い評価を受けた学者でもあった当時の副管長，J・ルーベン・クラークJr.長老にお会いしたことがあります。そのころ，私は出版印刷業を営んでいました。クラーク副管長は，私を自分のオフィスに招き入れ，蛇腹式のふたの付いた古い机の中から手書きの原稿の束を取り出して見せました。その原稿の多くは，法律を学んでいたころに書かれた随分昔のものでした。そして副管長は，４つの福音書の注釈書を出版したいと，詳しく説明してくださいました。その望みは，「福音書の救い主」という題の不朽の名著として，世に出ることになったのです。

先日私は，ナザレのイエスの生涯をたどったこのすばらしい本を，書斎の本棚から取り出してみました。特別に皮装丁され，著者の署名が入ったものです。じっくりと読み進めていくうちに，「イエス・キリストの奇跡」という章が目を引きました。すると，当時クラーク副管長がその奇跡の数々を読むように私に頼み，大きな皮のいすに背をもたせながら聞き入っていたことを，まるで昨日のことのように思い出しました。それは私の人生の中で，決して忘れることのできない一日でした。

クラーク長老は，全身にハンセン病を患っていた人に関する聖句を，ルカ伝から音読してくれないかと言いました。私は請われるままに読み始めました。

「イエスがある町におられた時，全身らい病になっている人がそこにいた。イエスを見ると，顔を地に伏せて願って言った，『主よ，みこころでしたら，きよめていただけるのですが。』

イエスは手を伸ばして彼にさわり，『そうしてあげよう，きよくなれ』と言われた。すると，らい病がただちに去ってしまった。」(ルカ５：12―13)

次に長老は，中風に苦しむ人がどのようにイエスの元に連れて来られたかを，同じルカ伝から読むように言いました。

「その時，ある人々が，ひとりの中風をわずらっている人を床にのせたまま連れてきて，家の中に運び入れ，イエスの前に置こうとした。

ところが，群衆のためにどうしても運び入れる方法がなかったので，屋根にのぼり，瓦をはいで，病人を床ごと群衆のまん中につりおろして，イエスの前においた。

イエスは彼らの信仰を見て，『人よ，あなたの罪はゆるされた』と言われ

た。」(18—20節)

それを聞いたパリサイ人たちは，だれに罪を赦す権利があるのかと意地悪く論じ始めました。その時，イエスはこう言って彼らの論争を鎮めたのです。「『あなたの罪はゆるされたと言うのと，起きて歩けと言うのと，どちらがたやすいか。

しかし，人の子は地上で罪をゆるす権威を持っていることが，あなたがたにわかるために』と〔言うと〕，中風の者にむかって，『あなたに命じる。起きよ，床を取り上げて家に帰れ』と言われた。

すると病人は即座にみんなの前で起きあがり，寝ていた床を取りあげて，神をあがめながら家に帰って行った。」(23—25節)

クラーク副管長は，「年を取ると涙もろくなってね」と言いながらポケットからハンカチを取り出して涙をふきました。短く別れのあいさつを交わすと，私は副管長がひとり思いにふけり，涙を流すことができるようにオフィスを後にしたのでした。

この経験を思い起こすとき，私の胸は，神の力によって私たちの苦しみを和らげ，病気の人を癒し，死人を生き返らせてくださる主への感謝の気持ちでいっぱいになります。しかしながら，同じように苦しんでいても，主を見いだすことなく，その教えも学ばず，その権威の受益者になる方法も知らない人々が数多くいます。こうした人々を思うとき，私は深い悲しみを覚えます。クラーク副管長自身も，真珠湾で娘婿のメルビン・S・ベニオン兄弟が悲劇的な戦死を遂げて，深い悲しみと心痛を経験しました。ベニオン兄弟は戦艦ウエストバージニアの船長だったのです。その日，やぶには身代わりの雄羊はいませんでした。(創世22：13参照)さくれつした爆弾の破片を止めてくれる鋼鉄も，戦争で受けた傷を癒してくれる奇跡もなかったのです。しかし，副管長の信仰が揺らぐことはありませんでした。主が祈りにこたえられ，それが耐えていく勇気を与えてくれたのです。

今日も同じことが言えます。私たちの人生には，愛する者が病気に倒れたり，事故に遭って残酷な傷跡が残ったり，かつては元気に走り回っていた小さな足が，車いすを使う境遇になったりすることもあります。

かわいい子供の誕生を心待ちにしていた両親が，生まれたばかりの我が子に障害があると知らされることもあります。四肢に欠損があったり，目が見えなかったり，脳に損傷があったり，ダウン症が宣告されることもあります。どの場合も，両親は困惑し，悲しみ，一縷の望みにすがる思いになります。

そして人は必ず，自分と自分の不注意を責め，絶え間なく自分にこう問いかけるのです。「こんな悲劇がどうして我が家に起ったのだろう。」「どうしてあの子を家に置いておかなかったのだろう。」「あの子があのパーティにさえ行かなかったら。」「どうしてこんなことが起こったのだろう。」「神は一体どこにいらっしゃったのか。」「守護天使はどこにいたのか。」このもし，なぜ，どこに，どうしてという言葉が幾度繰り返されても，亡くなった息子や，完全な体，砕かれた両親の期待や若者の夢を取り戻すことはできません。自己憐憫に明け暮れたり，殻に閉じこもったり，絶望にさいなまれたりしても，決して必要な心の平安と自信を取り戻すことも助けを得ることもありません。むしろ，前向きに，頭を上げて，天に向かって進み続けることこそ必要なのです。

決して忘れてならないのは，私たちの身に降りかかったのと同じことを経験した人たちが必ずいるということです。彼らはなんとか現実を乗り越えてきたのです。同じように私たちも現実に対処していかなければならないのです。私たちはひとりではありません。天父の助けは，すぐ近くにあるのです。

ヨブほどの苦しみに遭った人はおそらくいないでしょう。ヨブは「全く，かつ正しく，神を恐れ，悪に遠ざかった」と書かれています。(ヨブ１：１)彼は，申し分のない恵まれた生活をしていました。言葉を換えれば，何不自由ない暮らしをしていたのです。そして，彼が文字どおりすべてを失う時が来ました。富も家族も，健康すらも失ってしまったのです。ある時には，「神をのろって死になさい」(ヨブ２：９)とまで言われました。しかし，たぐいまれな苦しみを経験しても，ヨブの信仰は揺らぐことなく，終わりまで真理を証し，勇気を示し，神への信頼を表明し続けました。

「どうか，わたしの言葉が，書きとめられるように。どうか，わたしの言葉が，書物にしるされるように。

鉄の筆と鉛とをもって，ながく岩に刻みつけられるように。

わたしは知る，わたしをあがなう者は生きておられる，後の日に彼は必ず地の上に立たれる。

わたしの皮がこのように滅ぼされたのち，わたしは肉を離れて神を見るであろう。

しかもわたしの味方として見るであろう。わたしの見る者はこれ以外のものではない。」(ヨブ19：23—27)

ここで，苦しみを経験した人たちの人生の一端を皆さんと一緒にかいま見ることによって，悲嘆の涙に暮れ，悲しみで眠れぬ夜を過ごした後には，必ず「朝と共に喜びが来る」(詩篇30：５)ことを知っていただきたいと思います。

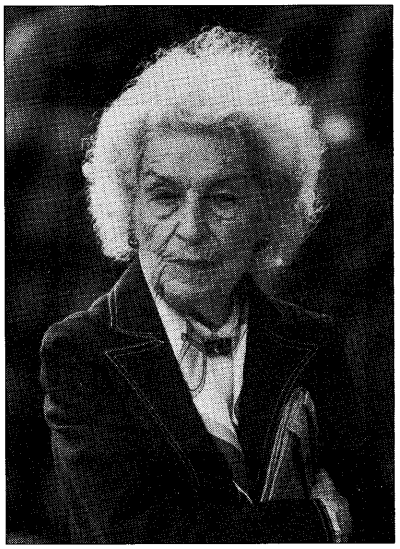
２年前のことです。私は，オレゴン・リーズポートワード部のイヴ・ゲール・マクダニエル姉妹と両親のジェリー・リー・マクダニエル監督ご夫妻の訪問を受けました。彼らは，３冊の大きなバインダーに収められたイヴの手書きのモルモン経を，教会歴史部へ贈呈してくださったのです。当時イヴは28歳でした。1962年９月18日に生まれた彼女は，赤ん坊の時にかかった脳膜炎のため，脳に障害が残りました。イヴは字が読めません。それにもかかわらず，18カ月をかけて一字一字モルモン経を全部写し終えたのです。その作業の過程で，繰り返し出てくる「命令」や「さりながら」などの単語は，見てわかるようにもなりました。イヴは一番好きな言葉は「過ぎ去った」だと話してくれました。その言葉を繰り返し語る彼女の顔は，輝いて見えました。目標を達成した成功の喜びがその

笑顔にあふれていたからです。イヴの両親も，彼女の喜びとその高揚した心を感じて，共に喜んでおられました。天国がとても身近に感じられました。

また，クリスマスの近づいたある日，教会本部ビルで障害を持つ子供たちと会う機会がありました。60人ぐらいいたでしょう。この子供たちと親しく会えたことがとてもうれしく，感動に包まれました。子供たちは，『神の子です』『赤鼻のトナカイ』『共に愛し合え』の3曲を私のために歌ってくれました。子供たちの天使のような表情を見，素朴な信頼に満ちた言葉を聞きながら，まるで聖地に立っているような思いにとらわれました。子供たちは，1冊のきれいな本をプレゼントしてくれました。そこには，クリスマスの時期にあって自分たちの一番感謝している祝福についての絵が，ひとり1ページを使って描かれていました。このすばらしい子供たちに安らぎと目標，喜びを与えるために，陰で働いておられる多くの教師と家族に心からの称賛の言葉を送りたいと思います。この子供たちのおかげで，一日中明るい気持ちで過ごすことができました。

数年前，ブリガム・ヤング大学はこの時代の傑出した女性としてサラ・バグレー・シャムウェーを学長表彰し，その栄誉をたたえました。表彰状にはこのような言葉がありました。「永遠の見地からは重要であるけれども，往々にして見過ごされがちな日常生活のドラマは，家庭の中で起こることが多いものです。そのような素朴ながらも重要な場所にいる人々こそ，今の世を安定させ，より良い未来を約束してくれるのです。劇や映画，ニュースの台本に収めきれないほどの状況に直面しながら，人は苦難と重苦しい気持ちに満ちた人生を送っているのです。しかし，そんな人々の人生における勝利が，たとえどんなに小さな勝利であっても，その生き方に倣おうとする次の世代の人々を強めてくれることは間違いありません。」

サラが「9年来の友人であり，恋人であった」H・スミス・シャムウェーと結婚したのは，1948年のことでした。



ふたりが結婚するまで時間がかかったのは，第二次世界大戦中，歩兵部隊の将校として従軍していた彼が，フランスのパリへ進攻中に地雷で重傷を負い，視力を失ったからです。彼が長期のリハビリに取り組んでいる間，サラはふたりだけで手紙がやり取りできるように，点字を勉強しました。愛する人に書いた自分の手紙をだれかが声に出して読むことなど，彼女には我慢できなかったのです。

スミス・シャムウェーの素朴で実直なプロポーズの言葉を聞いただけで，このふたりのきずなが伝わってくる思いがします。戦後ようやく故郷のワイオミングに戻った彼は，サラにこう言ったのです。「君が車の運転と，洗濯した靴下の分類をして，郵便を読んでくれたら，あとはぼくがするよ。」サラは，この申し出を喜んで受け入れました。

何年も勉学に励んだ結果，仕事にも成功し，ふたりは8人の立派な子供と多くの孫に恵まれて奉仕の人生を歩んできました。しかし，シャムウェーご夫妻も様々な問題を経験してきたのです。重い聴覚障害を持った子供や，伝道中に癌に冒された息子もいましたし，生まれた時に負傷した双子の孫娘もいました。

1年前，私は家族とユタ州で開催されたアスペングローブ(訳注――ブリガム・ヤング大学主催の家族キャンプ)で，勢ぞろいしたシャムウェー一家に会う機会がありました。本当に楽しいひとときでした。一族全員が着ているTシャツには，全員の名前と住んでいる町を記した地図がプリントしてありました。シャムウェー兄弟は，誇らしげにシャツに書いてある愛する人々の名前の辺りを指さして，満面の笑みを浮かべていました。ちょうどその時，この兄弟は子供の顔も孫の顔も見たことがないのだという思いが私の頭をよぎりました。でも，本当にそうでしょうか。実際，彼はその目で愛する者たちを見たことはありませんが，彼の心は確かに彼らを知っていて，深く愛しているのです。

夜の娯楽の時間になって，シャムウェー家族はアスペングローブの舞台に上がりました。「目の見えない父親のいる家庭に育つというのは，どんなものですか」という質問に，娘のひとりがほほえみながら答えました。「小さかったころ，晩ご飯の後のデザートをたくさん食べるのはお父さんにはよくないと考えて，私たちはときどきこっそりお父さんの大きいデザートと自分たちの小さいのとを取り替えたことがありました。お父さんは気づいていたでしょうが，一度もしかったりしませんでした。」

もうひとりの娘の話は私たちを感動させました。「私が5歳ぐらいの時だったと思います。父が私の手を取って，ふたりで近所を散歩したことを思い出します。父は小鳥のことや，いろいろと話しながら歩いてくれたので，私は父の目が見えないなんて思いもしませんでした。いつも，父が私の手を握るのは，ほかのお父さんたちよりも私をもっともっと愛しているからだと思っていたのです。」

現在，シャムウェー兄弟は祝福師として召されています。彼が授けるたくさんの祝福文を清書できるように，タイプを習ったのはだれだと思いますか。そのとおりです。最愛の妻のサラです。

スミス・シャムウェー兄弟と妻のサラ姉妹，そしてそのご家族は，不運と悲しみから立ち直り，戦争の残した障害という悲劇を克服して，人生のより高き道を勇敢に歩み続けているよい模

範といえるでしょう。

詩人エラ・ホイーラー・ウィルコックスはこう書いています。

人生が歌のように流れているとき，
人はだれでも陽気でいられる。
しかし，何ひとつうまくいかないとき，
ほほえむことのできる人こそ
価値ある人。
なぜなら，心の試しは苦しく，
時と共に必ずだれにもやって来る。
そして人々の誉れを受けるに、
ふさわしいほほえみは，
涙をこらえて輝かせるほほえみ。
（「価値ある人」）

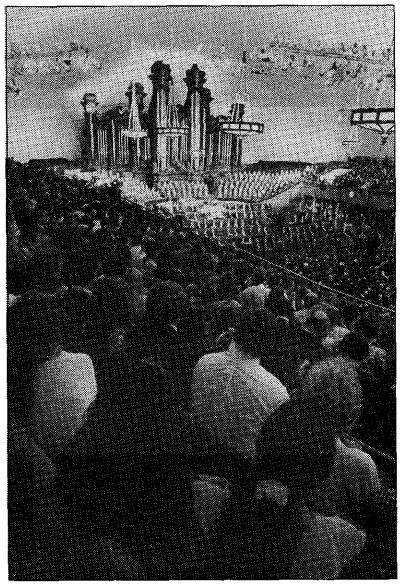
最後に，ユタ州ウエストバレーのメリッサ・イーグル姉妹の勇気づけられる例をお話ししましょう。メリッサ姉妹は，1992年8月号の「ニューエラ」に特集されています。これは彼女自身の言葉です。

「生まれた時，私の右手には親指しかありませんでした。へその緒が指に固く巻き付き，〔切断されてしまったのです。〕父は，右手を鍛えて使えるようにするために何かできることはないか探してくれました。そして，フルートのように両方の手の指を必要としない，バイオリンを弾くのが最適だということになったのです。

バイオリンを弾き始めて，もう8年になります。個人レッスンを受けているので，レッスン料の足しにするために新聞配達などをしています。レッスンにはバスで通っています。……

〔これまでの生涯の〕ハイライトは，ミシガン州の湖畔にあるインターロッヘンで開かれた世界で最も定評のある〔青少年対象の〕音楽キャンプに参加した時でした。8週間の集中的な音楽の訓練が受けられるこの音楽キャンプに願書を送ってみると，信じられないことに合格したのです。

問題はお金でした。何千ドルもかかるのです。支払い期限までにそれだけの金額を作るのは……不可能でした。私は熱心に祈り続けました。そして，費用の払い込み期限の1週間前になって，芸術を勉強している障害者に奨学



金を送っているという人に招かれ，面接を受けたのです。私にとってこれは奇跡でした。……心から感謝しています。」（「ニューエラ」1992年8月号，pp. 30—31）

メリッサの母親はそれまで，娘ががっかりするのを恐れて，あまり期待しすぎないように彼女の気持ちを抑えようとしていました。奨学金を受け取ったメリッサは，母親に向かって言いました。「お母さん，天のお父様は必ずお祈りにこたえてくださるって，私が言ったとおりでしょ。ほら，私のお祈りには，こんなふうにこたえてくださったわ。」

地に落ちるすずめにお気づきになる天父（マタイ10：29—30参照）が，子供の祈りにこたえて，夢をかなえてくださったのです。

静かに病に耐えてきた皆さん，そして身体的，精神的な障害を持つ人々を世話してこられた皆さん，日ごと，年ごと黙々と重荷を負い続けている皆さん，そしてすばらしい母親，献身的な父親である皆さんに申しあげます。皆さんに心からの賛辞を送り，神の恵みがいつも皆さんと共にありますようにと祈ります。子供たち，特に走り回って遊ぶことのできない子供たちには，次のような元気の出る言葉を送りたいと思います。「子供よ，夜昼神守ります」（旧賛美歌156番）

そして，モルモン経にある貴い約束が成就する日が必ず来るのです。

「霊は再び体にかえり，体は再び霊にかえり，手足も骨の関節もみな元の自然の完全な身体のものにかえり，髪の毛一筋もなくならず，身体のどの部分もみな元の自然の完全な形に復るのである。……

この回復の時が来ると義人は神の王国で栄光を得て輝きを放つ。」（アルマ40：23，25）

詩篇にも同じような約束があります。

「わが助けは，天と地を造られた主から来る。

……あなたを守る者はまどろむことがない。

見よ，イスラエルを守る者はまどろむこともなく，眠ることもない。」（詩篇121：2—4）

末日聖徒は長年にわたって，次の慣れ親しんだ賛美歌に慰められてきました。

この世の嵐にもまれ
希望の失せしときには
かつて受けし主の恵み
数えてみなば驚かん

苦しみの荷を背負うか
十字架汝れに重きか
恵み数えみて，日々を
疑いはらしてうたわん

いかなる苦と戦うとも
たわむなかれ，神在ます
み恵み数えよ天使は
汝が旅を守りたまわん
（『み恵み数えあげ』賛美歌153番）

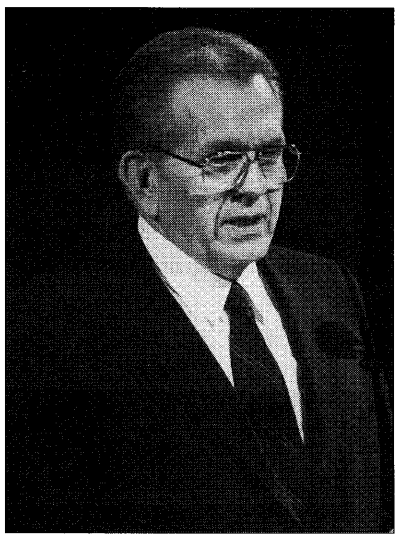
皆さんの中に，胸の痛みと悲しさに耐えかねて，無言のうちに「天のお父様，本当にいらっしゃるのですか。……私たちの祈りにみなこたえてくださるのですか」と尋ねる人がいるなら，確かに神はおられると証します。神は確かに一つ一つの祈りを聞き，おこたえになるのです。神の独り子キリストは，この世の獄の縄目を解き放ってくださいます。天の祝福は皆さんを待っているのです。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

●1992年10月4日(日)午後の部会

「もしも神の訓戒に従うならば，学問のあるのも善いことである」

十二使徒定員会会員
ボイド・K・パッカー

勉強は一生続くものです。たとえ世俗的な事柄を学ぶには終わりがあるとしても，霊的な事柄を学ぶには決して終わりはありません。



敬虔な礼拝の精神を会場に満たしてくれる聖歌隊の美しい音楽に感謝しています。

私たちは次のように勧告されています。「汝ら努めて求め，互いに智恵ある言葉を教うべし。然り，汝ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし。」(教義と聖約88：118)

「研究」と「信仰」という言葉は，それぞれどのような教育が必要かを説明しています。まず第1に，私たちは「互いにこの王国の教義を」教え合うように命じられています。「またわれ汝らに一つの誡命を与う。すなわち，汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし。汝ら熱心に教えよ，さらばわが恩恵は汝らに伴い，かくして汝らの理解する必要ある理論と原理と，教義と福音の律法と，神の王国に就けるすべての事は更に完全に教えらる。」(教義と聖約88：77—78)

また私たちは「歴史の知識，諸国の知識，王国の知識，神と人の律法の知識を得，而してこれらをすべてシオンの救いのため得」なくてはなりません。(教義と聖約93：53。88：79も参照)

教会は道徳的霊的な教育を重視し，世俗的な教育を奨励することはあっても，必ずしもその機会を与えるわけではないのです。

集合のみたま

聖典には聖徒の集合について多くのことが言われています。教会初期のころには世界中の改宗者にシオンに集合するようにと呼びかけられました。そして，最初は少しずつ，その後は大勢の人々がやって来ました。シオンは恐ろしい迫害の下にありましたが，多くの会員たちのおかげで大いに強められました。

当時公立の学校がなかったために，教会が学校を開きました。現代ですらまだ学校のない所があり，そのような所に教会が学校を建ててきました。

教会の学校には集合のみたまがいくらか宿っています。私はセミナリーのスーパーバイザーとして，教会幹部と共にステーキ部大会に出席し，教会経営の学校に入学する生徒を募ったことをよく覚えています。

1972年にメキシコシティーで開かれた地域大会で，ブルース・R・マッコンキー長老はこのように述べました。「啓示された言葉によれば，主が再びおいでになる時には主と誓約を交わした『あらゆる国民，あらゆる国語の民，あらゆる人々』が集合するといわれています。……

メキシコの聖徒たちの集合場所はメキシコであり，グアテマラの聖徒たちの集合場所はグアテマラであり，ブラジルの聖徒たちの集合場所はブラジルです。……それは全世界の隅々まで同じで，それぞれの国がそれぞれの国民の集合地となります。」(「メキシコおよび中央アメリカ地域大会」1972年8月26日，p. 45)

翌年4月，ハロルド・B・リー大管長は総大会で上記の言葉を引用し，事実上集合の開拓時代は終了したことを発表しました。現在，聖徒の集合は世界中の各国の教会で行なわれています。(『シオンのステーキ部を堅くせよ』「聖徒の道」1973年10月，pp. 465—469参照)

その後，公立の学校が建てられるにつれて，教会の学校はほとんど閉鎖されました。それと同時に，多くの国でセミナリーとインスティテュートの宗教講座が開かれました。

開拓者の時代から残っているごくわずかの学校としては，ブリガム・ヤング大学とリックス・カレッジがあります。

現在，ブリガム・ヤング大学は満員で，入学できない学生があふれています。教会員の青年の中で入学できる人の比率が低下し，学生ひとり当たりの経費が年々増加しています。毎年，入

学資格のある非常に多くの学生が，ただ大学側に収容力がないために入学を断わられています。

私たちは各地の指導者や会員たちからこうした学校を増やすようにという嘆願を受けています。しかし私たちは，世界中の教会員に世俗的な教育の機会を与えることはできないし，またすべきでもありません。教会の青年たちはほかの学校へ行く以外ありません。

教会の学校へ行けない人々は宗教講座に出席するようにと大管長会は勧めています。インスティテュートのプログラムは皆さんのために大変役立つことでしょう。

皆さんの中には，教育を受けることが比較的たやすい国に住んでいる方もいらっしゃるでしょう。反対に，学校自体が少なかったり，学校に出席するための手段がなかったりするために，読み書きを学ぶことにすら苦労している方もいらっしゃるでしょう。

あるいは，学習機能に障害があったり，目や耳や手足が不自由なために，特殊な教育を必要とする方もおられるでしょう。

大抵の場合は，金銭的な問題です。家族や国家の経済的な状況のために，教育を受けることが現実には不可能な場合もあります。

人を偏り見ないお方

教育をたやすく受けることのできる人は，「神は人をかたよりみないかたで，神を敬い義を行う者はどの国民でも受けいれて下さる」(使徒10：34―35。モロナイ８：12；教義と聖約１：35；38：16参照)ということを忘れてはなりません。

実務的な分野の技能を身につけようとする人や，教育をわずかしか，あるいはまったく受けていない人に比べ，専門的な学位を取得できる人をひいき目に見るようなことは，主はなさらないし，教会もそのような態度を認めることはできません。

世界中の教会員が絶えず増え続けていくという見通しを持てば，教会の経営する学校に関してなぜ幹部がこのような決定を下すのかを理解できるでしょう。

伝統の終わり

今年の夏，私の家の親族が集まった時，パッカー姉妹と私は家族の伝統を終わらせることを発表しました。私たちの10人の子供と孫の数人はブリガム・ヤング大学に通いました。けれどももう，孫たちが全員その伝統を守ることはできなくなるでしょう。

私たちは彼らに幹部の勧告に従うように助言しました。もし教会の学校に通えなければ――その可能性は高いのですが――宗教講座の開かれている学校でほかの教会員と共に勉強すべきです。そうすれば，一般的な科目を勉強すると同時に，聖典の中で命じられているように，「誓約と教会の信条」を学ぶことができるのです。(教義と聖約42：13)

最後の裁きの時には，学位をいくつ持っているとか，どれほど広範囲の教育を受けているかということではなく，永遠の価値に関する事柄においてどれほど修養を積んだかによって裁かれるのです。

私たちは家族に，学位を必要とするような職業と同じように技術を身につけるのも立派なことであり，また専門学校へ行き，手先を動かして生計を立てるのも同じように良いと話しました。

結局のところ，勉強は一生続くものです。たとえ世俗的な事柄を学ぶには終わりがあるとしても，霊的な事柄を学ぶには決して終わりはありません。

主のみ業は平凡な日常生活の中で働く人々，すなわち見習い工，職人，労働者，事務員，ウエートレス，そして各家庭の主婦の働きによって前進しているのです。

警　告

私たちはモルモン経に書かれた次のような警告を無視してはなりません。「民はついにその財産と学問を修める便宜の多少とによって階級に差別をつけ始めた。国民の中のある者は貧乏のために学問がなく，また他の者は富があるから多くの学問を修めた。

また高ぶる者とへりくだる者とがあり……。

このように全国に大きな不平等ができてそのために教会はつぶれ始めた。」(IIIニーファイ６：12―14)

ニーファイは次のような人々について警告しています。「学問があると自分は賢いと思って神の訓戒に耳をかさず，自分独りで解(わか)ると思って神の訓戒をうち捨てるから，その智恵は愚(おろか)であって何の益にもならず，かれらはついに亡びるのである。」さらにニーファイはこのようにも述べています。「しかし，人間がもしも神の訓戒に従うならば，学問のあるのも善(よ)いことである。」(IIニーファイ９：28―29。下線付加)

第２の授業料

教会の学校に通う特権を与えられた者には，金銭以外にも要求される授業料があります。それは行動と生活態度という授業料です。教会の学校に入学する学生は事前に監督の面接を受けますが，今年からステーキ部長との面接も受けます。彼らは忠実な教会員としてふさわしい教会の標準に添った行動をとると約束しなくてはなりません。

ときどき監督は学業面では十分に資格があるが，教会の標準を守っていない人を面接することがあります。そしておそらくこう考えることでしょう。「教会の学校の雰囲気がこの人を変えることだろう。」監督はこのような判断をしてはなりません。忠実さの点で非の打ち所がないにもかかわらず，学校側に受け入れる余地がないために入学できない文字どおり何千人もの人々にとって，それは公平ではありません。

またもしも，在学中に学生が罪を犯したり，入学時に守ると誓った標準を守らない場合には，監督や本人，親にとってどんなにつらいことであっても，在席し続けるべきかどうかを再検討しなくてはなりません。

献身的な教職員

教会の学校の教職員は皆すばらしい人たちです。最高の学位を持ち，その多くが立派な業績を収めた男女です。それと同時に謙虚で信仰のあつい人々です。

私たちは，学生に高度な学問を身につけるよう鼓舞し，証を弱めさせたり教会や神の王国の進歩を何らかの方法で妨げたりしようとは思いも寄らない教師たちに，感謝しています。

このような優れた教師たちのおかげで，私たちの学校は公の学校認定基準を満たすことにおいて他をしのいでいるのです。しかも独自の使命を持ち，年々多くの資格ある学生が入学できなくなっているにもかかわらず，教会に多大な貢献をしています。

教職員の給料は教会の什分の一から支払われているために，教職員としても守るべき標準があります。教会の大学が設立されたのは，教職員に雇用の機会を与えるためでもなく，個人的な学問研究のためでもありません。

キンボール大管長が述べた「教育の灯台」には，教職員が優れているだけでは到達できません。(「チャーチニュース」1980年11月22日付，p. 4 参照) 学生の業績によって到達できるのです。

目　的

私たちが目指すのは，この世での一流の教育を受けながらも，なおかつ主に対する信仰を持ち，主が啓示された教義に関する知識とそれらが真実であるという証を持った学生を育てることです。

この世の教育を重視する環境では不自由だと感じる学生や教師には，現在アメリカ合衆国とカナダだけでも，彼らが価値を置く自由を見いだせる大学が3,500以上もあります。私たちとしては教会の什分の一を納めている人々の信頼を大切にしようと考えています。

教会外の学校に通う学生は入学すると間もなく，教授の中には故意に自分たちの信仰を弱らせ，道徳的霊的な価値観に挑戦しようとする人がいることがわかるでしょう。教会の学校の中であっても，そうした挑戦に立ち向かい，神を信じ，バプテスマで交わし，聖餐を通して新たにする誓約を守る権利を擁護するかどうかは個人の自由なのです。

追い求める価値のある夢

たとえ絶望的に思えるような場合でも，私たちはどの国の青少年にも教育を受けるように奨励しています。固い決心と主に対する信仰を持てば，祝福されて成功することができます。それは追い求める価値のある夢です。

ある時私は，高校を中退して軍隊に入った青年と少し話をしました。彼は自分の人生をどのように過ごしたらよいか決めようとしていました。私は高校へ戻って卒業するように勧めました。

私は彼にお金を与えませんでした。教会には彼を入れてくれる学校もありませんでしたし，奨学金すらありません。話をしたのはほんのわずかな時間でしたが，私は彼に自立がいかに大切な生き方であるかを教えました。すると彼はほかの生徒より年上でしたが，高校へ戻って卒業し，現在は家族を養い，子供たちに真理を求めるように励ましています。

指導者に従う

先に聖徒の集合について述べましたので，教義と聖約の一節を引用したいと思います。「またわれ汝らに告ぐ。およそ誰か権威ある者より聖職に按手任命され，またその者の権威を有てることと，教会の長たる者たちより正式の按手聖任を受けたることとが教会員の知る所にあらざれば，何人といえどもわが福音を宣べんために出で行くこと，または教会を創立することを許されざるべし。」(教義と聖約42：11)

私たちの中には，教会の長たる者たちより正式に按手聖任を受けずに，政治的経済的な混乱や世の終わりが迫っていると言う者がいます。黒雲におびえた鶏が，雨が降ってくるのを空が落ちてくると大騒ぎしたという童話と似たようなものです。彼らは教会員を誤った方へ導き，隔離された居留地や教団へ集めようとしています。

人を欺くそうした者たちは，幹部たちは世の中で起きていることを知らないとか，自分たちの教えを承認はしているが説教壇の上からそれを公にしたくないのだとか言っています。どちらも真実ではありません。幹部たちはいつも世界中を訪問しているので，どのようなことが起きているかをよく知っており，予言者としての洞察力により時のしるしを見分けることができます。

人を欺く者たちにだまされてはなりません。何らかの会合が開かれる場合には，正式に按手聖任を受けており，正しい権能を持っていることが明らかな人により，必ず公に発表されます。

それ以外の場合には近づかないようにしてください。正しく按手聖任され，公に支持された指導者にのみ従ってください。そうすれば道に迷うことはありません。

主はこのように述べておられます。「神の栄光は英智なり。すなわち，光明と真理なり。光明と真理はかの悪魔を棄つ。

……われは汝らの小児たちを光明と真理の中に導き来れと汝らに命じたり。」(教義と聖約93：36—40)

私たちが教会や家族，個人として子供や青少年を光と真理の中で育て，彼らが証を受けて贖い主，救い主イエス・キリストを証できるように，神が祝福してくださることを，イエス・キリストのみ名によりお祈りいたします。アーメン。



福音の原則を生かす

十二使徒定員会会員
デビッド・B・ヘイト

「人は何者なのか」という点で，私たちの標準，信仰には疑いを差し挟む余地がありません。



今もそうですが，主の祝福に対する私の心からの感謝の思いは永遠に変わることがありません。神の求めに従い，私たちは「王なる万軍の主を拝み」(ゼカリヤ14：16参照)信仰と義を望む思いを強めるためにここに集いました。私たちは互いに主を証し，地上の神の王国を管理する責任に任ぜられた人々から勧告を受けます。

この教会の総大会は，様々な意見を交わし，挙手によって方針の採択を行なうというような場ではありません。主の僕(しもべ)を通して，主の思いとみこころが示される場です。この教会は民主主義によって運営されているのではありません。王国なのです。

末日聖徒だけでなく，世界の様々な地域，国家の思慮深い人々は，社会的道徳，宗教的価値観，倫理観などを低下させる好ましからざる風潮が，その圧力と影響力を増し加えていることを懸念しています。若人の間では，キリストを基とする理想や価値観が次第に顧みられなくなってきています。

シカゴ・トリビューン紙のマイケル・ハースリー氏は最近，「アメリカの宗教の将来を予測するのは困難である。反キリスト教的偏見が広く受け入れられている」と書いています。

この時代の時のしるしは，不吉な兆候を示しています。はたして，これからどのようなことになるのでしょうか。私は非常に心配しています。

道徳的退廃があった過去の時代に，神は民に警告をお与えになりました。今と同じように神の予言者が警告の声を発したのです。主はエゼキエルにこう言われました。「わたしはあなたをイスラエルの家のために見守る者とした。あなたはわたしの……言葉を聞くたびに，わたしに代って彼らを戒めなさい。」(エゼキエル３：17)

私たちを取り巻く世の中を見ていると，悔い改めを通して人々を主の大いなる日(教義と聖約１：11―12参照)に備えさせるため，今警告の声を上げる必要があると強く感じます。

私もダリン・オークス長老に倣って現代的なひとつのたとえ話をしたいと思います。それはリスと木，犬の話で，私が心配していることをよく表わしています。

ふたりの人がある大学の構内を歩いていた時に，かえでの大木の周りに人が群がっているのを目にしました。近づいてみると，１匹のリスがその木を何度も繰り返し，登ったり降りたりするのを，多くの人がおもしろそうに見ているところでした。近くに１匹の犬がうずくまって，そのリスの動きをじっと見つめていました。リスが上に登って見えなくなるたびに，その犬は静かにかえでの木に忍び寄りました。リスは，犬が忍耐しながら少しずつ近づいていることにまったく気づいていませんでした。その様子を見ていた人々は，それから先どうなるかを知っていましたが，何もしませんでした。そしてとうとうそのリスは，あっという間に犬のきばにかかってしまったのです。

人々は血相を変えて犬に駆け寄り，その口を開けてリスを救おうとしましたが，すでに時遅しでした。リスは死んでいました。だれかそのリスに警告したり，犬を押さえておくことができたはずでした。しかし，彼らは一時の楽しみにそれを忘れ，犬がリスに忍び寄るのを何もせずに眺めていたのです。気がついて駆け寄った時はすでに遅く，リスは死んでいました。

これと同じようなことが，毎日私たちの周りで起きています。冒瀆(ぼうとく)的な言葉，またみだらな言葉，人を侮る行ない，正しい原則や理想をあざけるような考えが，ありとあらゆるメディアを通して，私たちの家庭や生活に忍び込み，子供たちに誤った価値観，不道徳な事柄を教えているのに，多くの人が手をこまねいて見過ごしにしています。そういう親は子供が望ましくない行動に走ったときに動揺するようになります。そして社会的な行動も悪化の一途をたどっていくのです。

ある新聞が「勝敗の別れ目……アメリカ社会の精神文化をかけた戦い」という見出しで，次のような記事を掲載していました。「我々の生活規範を決めるのは，だれなのだろうか。善悪，道徳と不道徳，美醜などの判断基準はだれが決めるのだろうか。だれの考えが，法の根本原理になっているのだろうか。

我々の社会が直面しているのは，『我々が何者であり，何を信じているのか』という問題なのである。」(パトリック・J・ブキャナン「ソルトレーク・トリビューン」1992年９月13日，A15)

「ロサンゼルス・タイムズ」のカ

ル・トーマス氏は次のように述べています。「ある人々は，人間の実生活に関することについては，国家は神と対等，あるいはそれより上位の立場にあると考えている。彼らの神はまさしく疎外された神である。人々に望まれれば恵みを与えるが，人々に何かを求めても，彼らの意に添わなければ，その戒めは無視されるのである。

しかし我々の法律は，共通の利益すなわち公衆の福祉を増進すると見なされていた義の標準を基としているのである。……国家が永遠不変の真理に対立的な態度をとったために，人々が聖書を読まなくなるに従い，この標準は忘れられてきている。

ウィリアム・ペンはこう警告している。『神による統治がないと，私たちは暴君の支配を受けるようになる。』神と神の戒めをどう考えるかによって，社会生活における政府の役割に対する考えも決まる……。

ベンジャミン・フランクリンは……神の許しがなければ，1羽のすずめも地に落ちることがないとすれば，神の助けなくして，国を興すことができようかと言った。

哲学者であり神学者でもあった故フランシス・シェイファーはこう書いている。『神はひとつの代理機関として国家を制定された。国家自体は自立的なものではない。国家は正義の代行者であり，悪を抑えるために，悪事を働く者を罰し，良い市民を守る。その逆を行なう国家は，正当な権威を持っているとはいえない。それはもはや権威なき権威であり，不法な独裁である。……

これが我々の社会が直面する戦いの争点である。……これは宇宙の秩序，国家の目的，個人の生活の指針を説く実在の神を認める人々と，『それらの考えは不明確で，解釈は自由である。また神が立ち入るべき問題ではない』あるいは『神は存在しないし，人間は自由な存在である』と主張する人々との戦いである。……

〔30年前〕子供たちはまだ学校で祈り，聖書を読むことができ，中絶は違法であった。ゲイの権利といっても，



幸福になる権利というほどの意味しかなかった。……しかし現在の問題は，我々が自分自身を神とするかどうか，ということである。」（カル・トーマス「ソルトレーク・トリビューン」1992年9月18日，A18）

イザヤの次の言葉は，確かに霊感によるものです。「わが道は，あなたがたの道とは異なっている。」（イザヤ55：8）

合衆国憲法の制定者たちが取り入れた神を基とする不変の原則と理想は，自由の基であるだけでなく，それを固くつなぎ合わせるリベットです。不変の原則と，人の意志による選択の間には大きな違いがあります。

「人は何者なのか」という点で，私たちの標準，信仰には疑いを差し挟む余地がありません。

開拓者に関する様々な記録がありますが，それは開拓者の信仰と勇気を高らかに宣言しています。彼らは家族や財産を捨て，アメリカ，スコットランド，スウェーデンなどから集合したのです。それは，ジョセフ・スミスが語ったシオンをブリガム・ヤングや多くの聖徒と共に，西部の地に築き上げるためでした。彼らの予言者，教師，そして友であったジョセフ・スミスは，神にまみえたのです。彼は生けるキリストを見ました。そのような示現を受けた人は．ペテロ，ヤコブ，ヨハネ，モーセ，アブラハム，アダムなど，ごくわずかしかいません。ジョセフ・スミスは試されて信頼を受け，忠実であると認められたえり抜きのひとりでした。アブラハムが「高貴にして偉大なるもの」（アブラハム3：22）と述べ，地上で主に選ばれた僕となったひとりだったのです。

数多くの勇敢で忠実な人々が，よりよい人生への新たな望みを説く輝かしいメッセージを聞き，信じました。彼らはその新たに見つけたにじの果てに，富があると期待していたのでしょうか。安楽な生活を期待していたのでしょうか。まったく逆です。そこにあったのは悲しみ，寒さ，苦痛，飢え，そして辱め，不法な暴力，悲劇的な死などでした。そのような苦痛に耐え得るまでに，彼らの信仰を強めたのは，神の教えに対する確信でした。

肉体的な力と霊的な力を備えたこれらの人々は荒野を征服し，イザヤがキリスト降誕の700年前に予見し，記録したものを築いたのです。「終りの日に次のことが起る。主の家の山は，もろもろの山のかしらとして堅く立ち，もろもろの峰よりも高くそびえ，すべて国はこれに流れてき，多くの民は来

て言う，『さあ，われわれは主の山に登り，ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる，われわれはその道に歩もう』と。律法はシオンから出，主の言葉はエルサレムから出るからである。」（イザヤ２：２―３）

彼らの目標は何だったのでしょうか。何が彼らの原動力だったのでしょうか。カリフォルニアの金ではありませんでした。自らの良心の命ずるままに全能の神を礼拝することだったのです。それが，主の教会を築き，予言者ジョセフ・スミスに啓示された永遠の原則を守り抜き，教えた動機でした。彼らは自分たちのすべてをかけ，進んですべての苦しみに耐えたのです。彼らの旅とソルトレーク峡谷の開拓初期の歴史記録は，人間が成し得た偉大な業績のひとつを指し示しています。

信仰を除けばこの地は決して魅力的な場所ではありませんでした。実際彼らは，ここは何も育たない不毛の地と警告されていたのです。しかし今では農場，そして市，町が花咲いています。彼らは建設者でした。破壊者ではありません。彼らは家，畑，神殿，集会場，学校，大学を作るという，壮大な夢と高い理想を持っていました。実現するには大変な努力を必要としました。しかし一人一人の熱心な働きが実を結んだのです。彼らは優れた開拓者となり，この国と人類社会に多くの恩恵をもたらしたのです。彼らは勤労の価値を教え，その祝福を示しました。それは，より良い生き方をしたいという望みと信仰に結び付いていました。その生ける神への強い信仰と忠実さ，従順さは，彼らの堅固な義の基とあいまって，現代の私たちを鼓舞します。彼らは，自分たちは生涯をかけて熱心に探求すべき完成への道に足を踏み入れたのだと信じていました。スペンサー・W・キンボール大管長は，「一人一人に道が示されている。人は苦しみの中で従順を学び，従順によって全き者となる」と宣言しています。（「スペンサー・W・キンボールの教え」p. 168）

彼らの道はまっすぐで，確固としていました。それは，神の戒めに従い，最後まで耐え忍ぶということでした。私たちも，どう生きるべきかを知っています。善悪の区別もできます。

私たちは主の教えに従って，子供を教え，訓練しなければなりません。放任してはいけません。親として人格や家族の大切さを教えてください。俗悪な音楽，テレビ，映画によって，子供たちの人生観が左右されることのないようにしてください。

主は両親に対して，善を行なうよう子供に教えよとはっきり命じておられます。「子供八才の時，悔改め，生ける神の子キリストの信仰，バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば，罪その両親の頭に留るべし。」（教義と聖約68：25）

「また両親はその子供たちに祈ることと，主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」（教義と聖約68：28）

「またお前たちは，自分の子供らを飢えさせたりはだかのまま置いたりはしないであろう。また……子供らが神の律法に背〔く〕ことを許さ〔ないであろう。〕

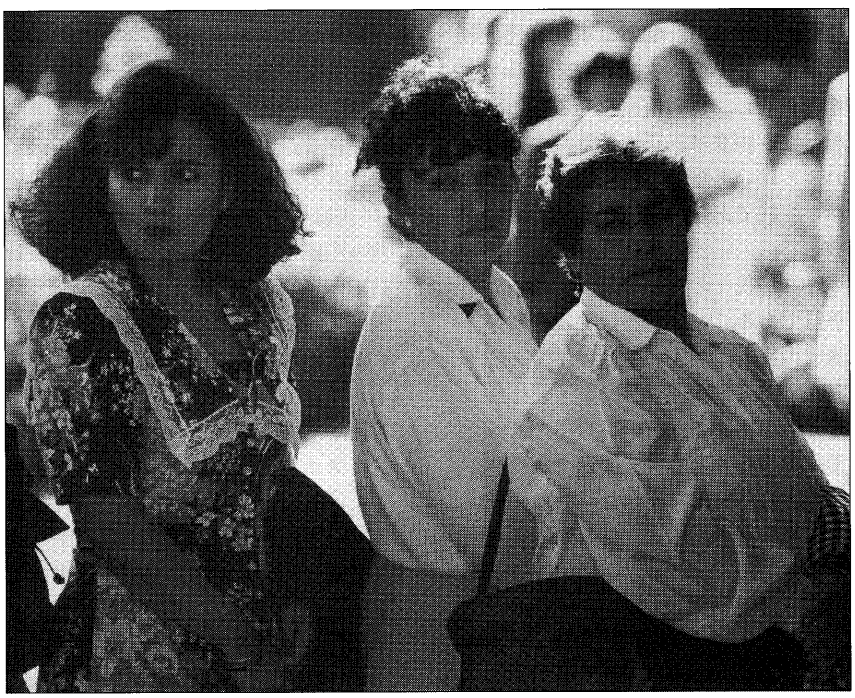
お前たちは自分の子供らに真の道を行う事と真面目でなければならぬ事と互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教え」よと命じておられます。（モーサヤ４：14―15）

愛の神は，ご自分の指で，石の板に十戒をお書きになりました。十戒は全能者による基本的律法の典型であり，それ以来宗教的，政治的法制度の基となってきました。

主ご自身から与えられた山上の説教には，天に源を発する原則と教えが詳細に語られています。

これらの神聖な教えは，モルモン経と聖書の中でさらに深く原則が説かれています。これらの教えに従う親と子供はさらに強められることでしょう。男女，長幼の別を問わず，私たちは等しく聖典を学び，永遠の事柄に関する知識と力を身につける責任を負っています。

この世的な攻撃から自分自身と家族を守る唯一の道は，神の戒めを守る決心をすることです。教会の集会に出席し，福音を学び，証を強め，聖餐を受け，契約を更新してください。ふさわしい状態で神殿に参入するよう自らを備えてください。皆さんはそこでこの世からの避け所，また世の罪悪に立ち向かう力を新たにする場所を見いだすことができるでしょう。これらのことをイエス・キリストのみ名によって証します。アーメン。



「人を導く」
(アルマ5：62)

中央初等協会会長会第一副会長
ベティー・ジョー・N・ジェプセン

主の真の教会の会員である私たちは，霊的な事柄に関して新しいことを学ぼうとするよりは，すでに知っていることを思い起こそうと努める必要があります。



ある母親が日曜日の朝，集会に遅れないように子供たちをせき立てていました。「マシュー急いで。」すると家のどこかで「すぐ行くよ，すぐ」という声がしました。母親は「そのうちクリスマスが来ちゃうわよ」と答えました。3歳のマシューがやっと姿を現わして「わーい，ぼく，クリスマス大好き」と言いました。きょうは私も大好きなクリスマスについてお話ししたいと思います。末日聖徒イエス・キリスト教会のすばらしさはクリスマスにキリストの降誕を祝う気持ちを私たちが日々の生活の一部としている点にあります。

救い主の降誕の話を読むたびに，星に導かれた博士たちと同じ経験ができたら，と思います。また天使の歌声に導かれてベツレヘムへ行った羊飼いと同じ経験をしてみたくなります。飼い葉おけの前にひざまずき，わらのにおいを感じながら，マリヤの腕に抱かれた幼な子を見，その奇跡をこの目で見たいと思うのです。すべての人は，キリストのみもとに行きたいという本能的ともいえる願いを持っていると思います。つまり，私たち人間は，基本的に必要なもののひとつとして霊的なものを求めているのではないでしょうか。なぜなら私たちは神の子供だからです。そして一人一人ができる限りその霊的な必要を満たそうとしています。

主の真の教会の会員である私たちは，霊的な事柄に関して新しいことを学ぼうとするよりは，すでに知っていることを思い起こそうと努める必要があります。そのために，救い主の降誕が私たちにとってどのような意味があったのかについて思い巡らすのもよいでしょう。深く考えることにより，霊がすでに知っていることを肉体を得た心に思い起こさせるのです。

この末日において私たちは数々のすばらしい出来事を目にしてきました。末日聖徒イエス・キリスト教会が述べている「キリストのみもとに来なさい」「戻って来なさい」という言葉はすべての神の子に向けられたものです。これはイエスが「わたしについてきなさい」(マタイ4：19)と弟子たちに言われて以来続いています。同じようにあらゆる神権時代を通して，予言者たちは聴く心のあるすべての人々に言い続けてきました。

アルマの息子である予言者アルマは，主を思い起こすべき状況にあったゼラヘムラに住む会員たちにこの大切なメッセージを次のように伝えました。「ごらん，神はすべての人を招いて憐(あわれ)みに満ちた手をかれらの方へ伸し『悔い改めよ，さらばわれ汝(なんじ)らを受けん』と仰せになる。

『われに来て義を行え……』と。」(アルマ5：33，35)

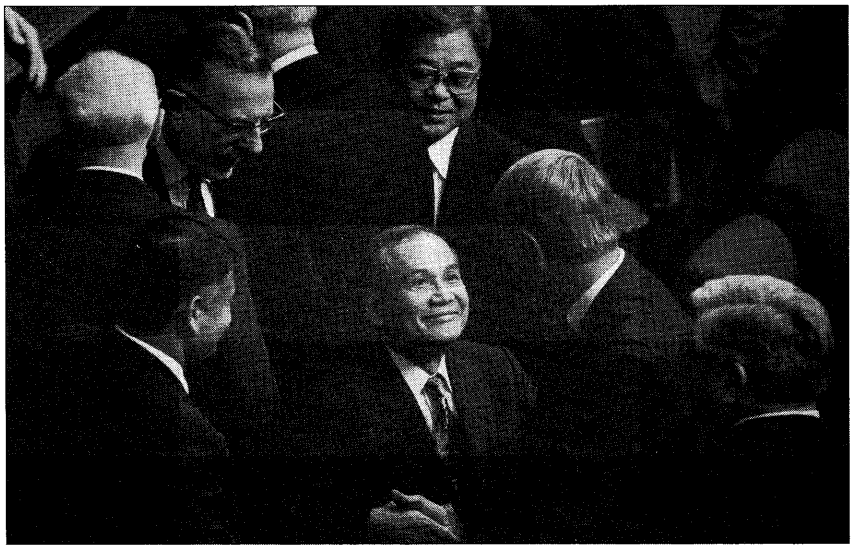
バプテスマを受けた会員として私は主の招きに従いたいと思います。しかし，主のみもとへ行くにはどうしたらよいのでしょうか。すべての人を招いておられる主に対し，小さいマシューのように私も「すぐ行きます」と答えたいのです。それでは私は何をしたらよいのでしょう。アルマは，「われに来て義を行え」(アルマ5：35)という大切な言葉をもって，ゼラヘムラの民にその義務を思い起こさせました。(アルマ4：3参照)アルマの勧告を私たちの指針とし，主の招きにこたえるにはどうしたらよいかを考えてみましょう。

神のみ言葉を研究する

聖典と末日の予言者の言葉を研究し，熟考することにより，キリストのみ言葉を味わい，何をすべきかをすべて知ることができます。(IIニーファイ32：3参照)さらに私たちは，その言葉を養い育て，根を下ろすように努めなければなりません。(アルマ32：41—43参照)私たちはみ言葉を聞いてこれを固く守るならば，悪魔の誘惑やその火矢に滅ぼされることはないと約束されているからです。(Iニーファイ15：24参照)羊飼いや博士たちに救い主の降誕が告げられた時のように，私たちもみ言葉が真理であると知ることができます。聖典は神のみ言葉であり，私たちにとっても，世にとっても光となるものです。私たちを導く星としてこの光に従うことができるのです。

祈　る

私たちは主のみ名によって天父に祈



り求めることができます。祈りは感謝を表わす機会となります。こうして受けている祝福を数え上げるならば，心が希望で満たされるでしょう。「この愛で自分たちの胸を満すためにありたけの心をつくして御父に祈れ。」（モロナイ７：48）

私たちはいつでも必要なものを祈り求めることができます。ひざまずいてイエス・キリストのみ名を通して祈ることにより，天父と個人的に話すことができるのです。ちょうど，飼い葉おけの傍らにひざまずいてそこに救い主を見ているかのように，確かに主を身近に感じられるでしょう。

救いの儀式にあずかる

私たちは聖餐を受けることによって，バプテスマの誓約を思い起こします。聖餐の祈りは主イエスとその愛を思い出させてくれます。また神殿の儀式を受けるにふさわしい生活をすることができます。これらの儀式は，死すべき人間の改宗にとってこの上なく大切なものであり，天よりの知識に従って，地上で忠実に生きていくうえで必要とされるものです。羊飼いたちがあの粗末な飼い葉おけを目指した時のように，私たちも神殿に行くことを自分にとって聖なる場所への巡礼と考えることができます。

才能を伸ばす

才能は天のお父様が与えてくださった賜です。私たちは，神を敬うために才能を伸ばしてそれを神にお返ししなければなりません。だれでも，養い，伸ばし，人のために役立てられる何らかの才能を持っています。定期的に才能を伸ばす努力をしていらっしゃるでしょうか。親切心やすべてのことに感謝する心という才能をお持ちの方もおられるでしょう。性格が明るい，よく気がつく，私心がないというのも才能です。愛嬌のある笑顔もそうです。博士たちは黄金，乳香，没薬などの贈り物を捧げましたが，私たちは才能を捧げることができます。

奉仕する

どのような方法であっても，人に仕えることは「われに来れ」という主の招きにこたえようという望みを表わすことになります。自分がどのように人に仕えているか考えてみましょう。体が弱くて外に出られない人を訪問しようとしているでしょうか。真理を擁護し，証するために口を開こうとしているでしょうか。だれかの物質的な必要を満たそうとしているでしょうか。子供と楽しく，生産的な時間を過ごしているでしょうか。教会の召しを喜んで果たしているでしょうか。

私はときとして教会の責任に押しつぶされそうに感じることがありますが，主のみこころを行なえるように，主が勇気と助けを与えてくださると信じています。おそらく私たちのほとんどは自分が住み慣れた環境の中で安全に穏やかに生活したいと望んでいることでしょう。しかし，新しい経験と，奉仕というチャレンジに満ちた召しに伴う恐れを克服しなければ，成長もせず，主の王国を築くというみ業の助けをすることもできません。羊飼いたちが新しい経験をするために，暗い夜，住み慣れた土地を離れたように，私たちも仕え，新しい経験をするために住み慣れた安全な環境を後にするよう召されるのです。

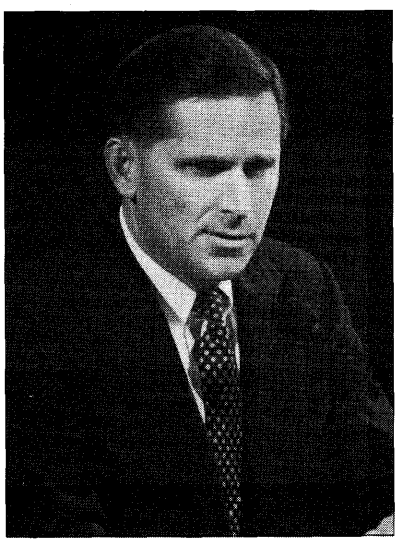
私たちはあのベツレヘムにおける降誕の場面を各々自分の生活の中で再現することができると思います。博士たちと同じように私たちにも星が与えられます。「あなたのみ言葉はわが足のともしび，わが道の光です。」（詩篇119：105）聖典は私たちの光となって道を照らし，証は内なる光となります。み使いたちの声は愛する予言者や主の僕たちの声です。ちょうど羊飼いや博士たちと同じように，主のみもとにひざまずくことができます。私たちは祈りによってそうするのです。携えてゆく贈り物は私たちの才能です。証を述べることによって，み使いたちのように「ホザナ」と叫び，よきおとずれを広めることができます。一日一日は，自分が真実と知っていることに従って行動する決意をする機会となります。（教義と聖約43：８参照）正しい業を行なうことによって，つえと贈り物を手に持ちベツレヘムへの岩だらけの道を歩むのと同じように，日々神に近づくことができるのです。

天父の助けがあって，私たちが主の招きに応じ，み言葉を養い，「永遠に尽きぬ幸福へ行く真すぐな道」（アルマ37：44）を進むのに必要な賢明さを身につけられますようにお祈りいたします。「すぐに行きます」と私たち皆が元気に答えられますように。「人がもしも善い行いをするならば，その人は良い羊飼の声を聞いてこれに従う」（アルマ５：41）ことを証します。「これまでも呼び現在まだ呼んで居たもう」（アルマ５：37）羊飼いイエス・キリストのみ名によってお話しします。アーメン。

救いに至る知恵を得る

七十人
ジョン・E・ファウラー

私たちは，聖典に記され，生ける予言者，使徒……によって語られた光と真理の泉の源に来るよう，皆さんに切にお勧めいたします。



この召しを果たすに当たり，皆さんの支持と，永遠の伴侶である妻，子供たち，両親，そして親族からの絶え間ない愛と支持があることを，心より感謝いたします。

このタバナクルが奉献された1875年10月９日，ジョン・テイラー長老が，ブリガム・ヤング大管長の準備した霊感あふれる祈りにある，次のような嘆願と奉献の言葉を読み上げました。

「われらは大管長と汝の僕たちが今集うこの聖なる建物を，清く神聖な場所となし，汝の僕たちが出で行きて汝のみ言葉を宣べ伝え，御子のみ名によって永遠に汝の民に仕える場所となすために，奉献し聖別し奉る。……

汝の聖なるみ使いと仕える霊たちがこの建物の内外にとどまり，汝の僕たちが汝の民に導きと恵みを施すため，この聖なる場所に立つよう召されたときは，僕らの上に永遠の示現が開かれ，みたま，ならびに聖霊からの霊感，神の力と賜を注ぎたまわんことを。然して汝の僕らの言葉に耳を傾ける汝の民をして，命の水の泉から自由に飲ましめ，かくして汝の民に救いに至る知恵を得さしめたまわんことを。」（「ミレニアル・スター」1875年11月15日，p. 724）

末日のみ業の初めから，聖徒に語る目的でこの壇上に立つ人々は，周到な思索を重ね，考えを深め，断食と祈りを重ねた後に，語ってきました。確かにどの話者も，「みたま，ならびに聖霊からの霊感，神の力と賜」が注がれるように，「永遠の示現」を得ることに腐心してきました。そうした指導者一人一人の心にあった願いは，きょうの私の願いと同じように，耳を傾ける人々が「救いに至る知恵」を得ようと奮い立つような言葉を語って，彼らの生活を祝福することでした。

私たち教会員は，このタバナクルで開かれる総大会やそのほかの特別な集会で話されるメッセージの重大さを本当に理解しているでしょうか。私たちは神の僕たちの声を通して「主の声」（教義と聖約１：14）を聞くという責任があることをわかっているでしょうか。「わが声にて言わるるも，僕らの声にて言わるるもみな一つ」だからです。（教義と聖約１：38）

私たちは教会の指導者たちによって語られる霊感された説教や教えは，「この世に住める人々に襲い来るべき」（教義と聖約１：17）数々の災いを知っておられる，慈悲ある天父の警告のみ声であることを，承知しているでしょうか。聖典には「主の怒りは燃え，主の剣は天にてうるおいたれば，今やこの世に住む人々の頭に下されん」とあります。（教義と聖約１：13）

また「この故に，主の声は耳ありて聞かんとするすべての人々に聞かれんため地の果にまで及ぶ」のです。（教義と聖約１：11）

「真理のある所を知らざるが故に」（教義と聖約123：12），世の人々の多くは，主の僕によって語られるはっきりとしたわかりやすい神のみ言葉，主の弟子たちが従順な心で実践したみ言葉に飢え渇いています。霊的な破産状態にある個人や家族こそ，今日の社会で予言者や使徒によって語られる天父からの啓示された導きなしには生きられないことを，無言のうちに物語っています。もし世の人々が，この説教台から語られる教会指導者の霊感あふれる教えに耳を傾けていたら，どれほど多くの悪が，どれほど多くの苦しみ，悲惨，悲しみが減ることでしょう。

私たちは，今日予言者のみ言葉を聞ける状態にありながら，どちらかといえば霊的な暗やみにいる多くの人々のことを心配しています。予言者の語るこれらのみ言葉は，天父のみ言葉に進んで耳を傾け，啓示された真理に従って生きようとする天父の子供たちの「足のともしび，……道の光」となります。（詩篇119：105）

ベンソン大管長は次のように教えています。「正義にかなった成功，まやかしを避け誘惑に打ち勝つ力，日々の生活における導き，心の癒し，――これらは主の言葉を守る者に与えられた約束のほんの一部にしかすぎません。」（『み言葉の力』「聖徒の道」1986年７月号，p. 82）

したがって，聖典に記され，生ける予言者，使徒，そのほかの教会幹部によって語られた光と真理の泉の源に来るよう，皆さんに切にお勧めいたします。この大会や最近の大会で伝えられたメッセージに耳を傾けるよう，すべての人々にお勧めします。

この点に関するベンソン大管長の次の教えは，いつの時代にも当てはまるものです。

「これからの６カ月間，『聖徒の道』

の今回の大会の特集号は標準聖典とともに頻繁に参照していただきたいと思います。私の親愛なる友人であり兄弟であるハロルド・B・リー大管長が言われたように，大会の説教は『これからの6カ月間，生活や話題のうえで導きとなるものです。それらはすべて，主が今日の私たちに必要なこととして示された大切な事柄です。』」(『キリストの御許に来てキリストによって全くなれ』「聖徒の道」1988年6月号，p. 89)

また，マリオン・G・ロムニー長老が語った霊感あふれる3つの大会説教を聞いてください。

「この大会で雄弁な話を時折大いに楽しませていただいた。また偉大な教師たちに教えを受けた。もし従うならば神のみもとに戻れる真理と導きを十分に聞いた。私たちは霊的な山の頂に連れて行かれ，大いなる栄光を見せられた。しかし私たちのうちで何人がその約束に自分があずかれるという言葉を聞いただろうか。」(「大会報告」1954年4月，pp. 132—133)

「主が私たちの注意を引くために，現在の教会の指導者に霊感された福音の特定の原則や戒めに耳を傾けるなら，私たちは自らの霊を高めることができる。これが大会を通して得られるものである。主は理由があって話者の口を借りて私たちに語りかけておられる。したがって主がここにおられたら語られることを，これらの人々から聞けるのは尊い特権であるといえる。もし話者の言っていることに同意できなければ，それは私たちの側に主のみたまと調和できないものがあるからである。」(「大会報告」1950年10月，pp. 126—127)

「今日主は，今起きている問題に対して，大管長会をその頭とする予言者たちを通して地のすべての民に，特に主の教会員に主のみこころを表わしておられる。大管長会が語る言葉は，主がこの場におられたならば語られるはずの言葉とまったく同じなのである。これがモルモニズムの土台となる岩である。……繰り返そう。大管長会が大管長会の名のもとに語るところは，主がその場におられたらそのように語られるであろうまさにその言葉であり，聖典の言葉なのである。そして教義と聖約をはじめほかの聖典に記されている啓示と同じように，研究し，理解し，従わなければならない。このような道を歩む者は，大管長会の語る事柄を政治的偏見や利己心によるものだとは言わないであろう。また，幹部は自らの勧告が人々に与える影響についてあまりにも知らなすぎるとは言わないであろうし，彼らは『主，かくの如く言いたもう』と前置きして語っていないから，その勧告には耳を傾ける必要はない，と言うこともないであろう。

……たゆまぬ祈りと熱心な研究によってみずからこれら生ける予言者の言葉に耳を傾け，またその言葉どおりに行動する人は，主のみたまのおとずれを受ける。そして啓示のみたまによって，予言者が主のみこころとみ旨を語っていることを知るのである。」(「大会報告」1945年4月，p. 90)

愛する予言者，エズラ・タフト・ベンソン大管長はなんと多くの教えを授けてこられたことでしょうか。ベンソン大管長は主イエス・キリストの特別な証人として50年目を迎えています。大管長の手はモーセのように長年の務めから幾分重くなってはいますが(出エジプト17：11—12参照)，そのみたまに導かれた務めの間，終始，ベンソン大管長の言葉はこの説教台から信仰深い人々の生活を祝福し続けることでしょう。

教会歴史をさかのぼって霊感あふれる話をひもとくと，ウイルフォード・ウッドラフ大管長が，教会の頭として立つ人の説教に対して次のように述べています。

「予言者が予言の力を受けて語る言葉は，教会の啓示全体に増し加えられる。その教えは世の惑わしから私たちを正しく導いてくれる。どの予言者も……過去の啓示と新しい啓示をその時代の人々の必要に応じて用いる。これらの説教は……この世と来るべき世における幸福へ導くための霊感されたメッセージとして見なされ，読まれなければならない。」(「ウイルフォード・ウッドラフ説教集」pp. 11—12)

ですから私たちは繰り返し教会員にお勧めいたします。教会員も教会員でない人々も，愛する予言者の言葉に心を向けてください。私たちはその教えを読み，注意を向ける必要があります。それらの教えに耳を傾け，この説教台から語られる生ける予言者や指導者たちの言葉を心に留めるとき，私たちが「救いに至る知恵」を得られますように。

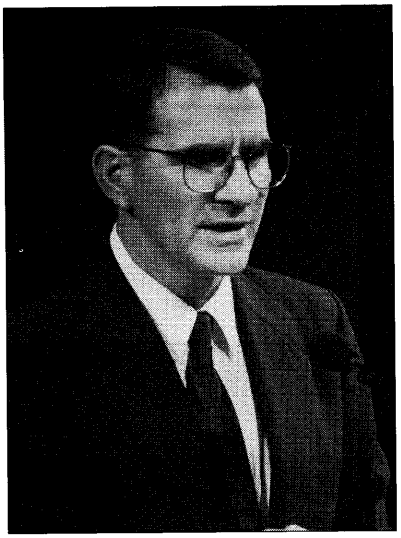
エズラ・タフト・ベンソン大管長と副管長，ならびに十二使徒評議員会会員が神の子羊の使徒であり，予言者であると証いたします。この教会と，人々をキリストのみもとに連れ来るというみ業が，生ける使徒と予言者の善良さ，信仰，一致という土台の上に築かれていることを，また，イエス・キリストが生きておられ，この救いのみ業のまさに隅のかしら石であられることを，イエス・キリストのみ名によって証申しあげます。アーメン。



神の約束をまた想い見よ

七十人
ジェイ・E・ジェンセン

主は，聖典を読み，研究する者に祝福を与えると約束しておられます。そのひとつは昇栄です。しかし驚いたことに，その約束の大部分は現世での生活に関するものです。



妻と子供たちに大変感謝しています。妻や子供たちの愛と信頼，支持を受けることは，私にとって最も大きな祝福といえます。福音を愛し，福音に生きた両親，多くを教えてくれた私の兄弟姉妹にも心から感謝しています。また，親切に愛を込めて指導してくださる教会幹部の兄弟たちにも感謝しております。長年にわたり共に働いてくださった方々，このたびの新しい召しを受けるに当たり，愛と支持を示してくださった方々に感謝いたします。予任されていない召しを受けることはないという主の約束を頼りに，主と指導者を信じて努力していきたいと思います。

み言葉の力を試す

私は聖典を心から大切に思っています。聖典は神のみ言葉であると証します。アルマ書の1節を自分の生活になぞらえてみると，こんなふうにいえるかと思います。「聖典は私に正しいことを行なわせるのに非常に効があって，剣やそのほかこれまでに用いたことのあるすべての方法よりも強く私の心を感化するから，私は神のみ言葉の力を用いてみた」と。(アルマ31：5参照)

ベンソン大管長は，「毎日聖典に親しみ，みたまの力を受けて……ください」(「聖徒の道」1986年7月号，p. 82)と勧告しておられます。

また，キンボール大管長はこのように述べています。「私は自分が神と密接な関係になくなったと感じるとき，また自分の祈りが神の耳に達せず，神のみ声が聞こえないように思われるとき，私は神からはるか遠く離れていることを知る。そのようなとき，一生懸命に聖典を読むと，その距離は縮まり，霊性が回復してくる。」(「スペンサー・W・キンボールの教え」エドワード・L・キンボール編，p.135)

神の約束をまた想い見る

南米の伝道部長をしていた時でした。宣教師と面接し，ゾーン大会を開き，地方部大会を管理するため，私は伝道本部から遠く離れたある町へ出かけました。そこで宣教師の中に問題があることに気づきました。さらに地方部大会でも，会員と指導者の深刻な問題が明らかになったのです。宣教師と会員の双方に対してどうしても否定的な思いの方が募り，私は暗く，絶望的な気持ちになりましたが，ともかく4日間面接と集会を終え，沈んだ思いで帰りの飛行機に乗り込みました。

私は旅行中よく聖典を読むのですが，この時も慰めと導きを求めて聖典を開いて好きな聖句を2，3読みました。ページをめくりながら，ふと教義と聖約の第3章が目に留まりました。最初の5節が自分の悩みにぴったりなので，とても心を動かされました。

私は聖句を読むとき，自分の名前をその中に当てはめてみることがよくあります。第5節でも同様にしていると，ようやく暗澹とした気持ちを取り除くための手掛かりを見いだしました。「見よ，今やこれらのことジェイ・ジェンセンに委せられたるが，汝の受けし誡命はいかに厳しかりしぞ。されど……ジェイ・ジェンセンに為されたる神の約束をまた想い見よ。」

「神の約束をまた想い見よ」という言葉が，この時ほど心に力強く迫ってきたことはありませんでした。予言者ジョセフ・スミスがヤコブの手紙第1章5節を読んだ時のような気持ちになったのです。「神の約束をまた想い見よ」という言葉が，「私の心の底と言う底を大きな力で貫き通すような気がし〔まし〕た。私はこの言葉を再三再四思いめぐらし〔ました。〕」(ジョセフ・スミス2：12参照)振り返ってみればその4日間，私は問題にばかりとらわれていて神の約束については何ひとつ考えていませんでした。

その時はちょうど自分の祝福師の祝福文を持っていたので，読みながら，いくつかのすばらしい約束があるのに注目しました。伝道部長に任命された時に与えられた約束も思い起こしてみました。ほかの聖句にも当たり，それぞれの中で約束されていることについて考えてみました。その時わかったのは，聖典を調べるときに「これらは真実確なる誡命にして，その中に言われたる予言も約束もすべて成就さ〔れ〕る」(教義と聖約1：37)という



ことです。その後，私は何度もこの確信を強めてきました。

現世での約束と来世での約束

主は，聖典を読み，研究する者に祝福を与えると約束しておられます。この約束が何であるか見極めるために，私は次のような方法を取っています。まず紙を用意して，片側に「現世での約束」，もう一方に「来世での約束」と書きます。そして約束を見つけるたびに，このふたつの欄のどちらか該当する方に参照聖句と約束を書き留めるのです。

私はこの方法を通じて，聖典の随所に，聖典を読み，研究するときに与えられるふたつの大きな約束が，繰り返し出てくることに気づきました。どちらも来世に関するものですが，ひとつは昇栄であり，もうひとつは永遠の生命です。たとえば，ニーファイはこう言っています。「それであるから，この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み，終りまで堪え忍ぶならば『永遠の生命を受ける。』」（IIニーファイ31：20）

それにしても意外だったのは，聖典を読み，研究するときに与えられる多くの約束の大部分が現世に関するものだったということです。この現世に関する約束は3つに分けられます。力が与えられるという約束，あるものが増すという約束，そのほかの約束の3つですが，時間が限られていますので，少しだけ触れてみたいと思います。

力が与えられるという約束

次の5つの約束について考えてみましょう。

1．悪に打ち勝つ力　ニーファイは，「誰でも神の言葉を聞いてこれを固く守る者は……悪魔の誘惑やその火矢もかれらをうち破って盲目と」することはないと教えています。（Iニーファイ15：24。詩篇17：4；119：98—101，104；ヒラマン3：29—30も参照）

2．正しい生活をする力　アルマは「神の道を民に宣べ伝え，民にその義務を思い起させてふるい立たせ」ました。（アルマ4：19）詩篇の作者も，「あなたのみ言葉はわが足のともしび，わが道の光です」と述べています。（詩篇119：105。IIテモテ3：15—17；ヒラマン15：7—8も参照）

3．説得力をもって教える力　アルマとモーサヤの息子たちは，「熱心に聖文を研究したから……その教えを宣べるときには神に授かった権能と威勢とによって教えた。」（アルマ17：2—3。IIテモテ3：16も参照）ハイラム・スミスに主は言われました。「まずわが言を得んことを求めよ。……それより汝願わばわれわが『みたま』とわが言とを与えん。すなわち人々を説得する神の能力を与うべし。」（教義と聖約11：21。IIテモテ3：15—17；アルマ4：19；31：5；教義と聖約84：85も参照）

4．主のみ名により天の力を呼ぶ力　ヤコブはこのように記しています。「私たちは予言者の書いた聖文を研究し〔ているので〕私たちの信仰は固くなる。まことにその信仰は，私たちがもしもイエスの御名によって命ずれば，実際木も山も海の波もその命令に従うほどに強い。」（モルモン経ヤコブ4：6。ヒラマン10：4—5も参照）

5．心や性質を変える力　サミュエルはニーファイ人に，「聖文……を信ずる」レーマン人は，「主を信じて悔い改め，その信仰と悔改めによってかれらの心を新にされた」と説いています。（ヒラマン15：7。Iニーファイ15：20も参照）

あるものが増すという約束

さて今度は，あるものが増すという約束について考えてみましょう。

1．希望と喜びが増す　使徒パウロは，「聖書の与える忍耐と慰めとによって，望みをいだ」くと教えました。（ローマ15：4。Iニーファイ11：25；モルモン経ヤコブ2：8；4：6；アルマ44：5；教義と聖約19：23も参照）

2．霊性が増す　「神の道を宣べ伝えるのは民に正しいことを行わせるのに非常に効があっ〔た。〕」（アルマ31：5。IIニーファイ4：15—16；モロナイ6：4も参照）

3．知識と理解力が増す　ニーファ

イは，「キリストの言葉は，あなたたちのしなくてはならないことをみな教える」と教えています。(IIニーファイ32：3)また，主はジョセフ・スミスに対して，「聖典……は，われより教えのために汝らに与えらる」と言っておられます。(教義と聖約33：16。詩篇19：7；119：98—101；IIテモテ3：15—17；アルマ12：10；17：2—3；教義と聖約18：34—36も参照)

4．識別の力が増す　「神の御言葉は生命があり力があって，悪魔の狡猾な謀ごと，わな，誘惑をことごとく破〔る。〕」(ヒラマン3：29)「誰にてもわが言を宝とする者は騙さるることなからん。」(ジョセフ・スミス1：37。ヘブル12：4も参照)

5．証が強まる　教義と聖約には，「汝らわが声を聞きわが言を知るを証するを得べし」とあります。(教義と聖約18：36。詩篇19：7も参照)

そのほかの約束

これまで述べてきた，力が与えられる，あるものが増すといった約束のほかにも，「あなたの道は栄え，あなたは勝利を得るであろう」(ヨシュア1：8)，あるいは「信仰は神のみ言葉を聞くことによって得られる」(ジョセフ・スミス「教会歴史」3：379)といった約束があります。

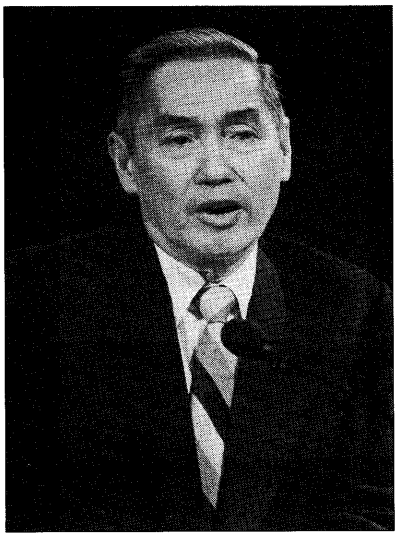
ハワード・W・ハンター長老はこう語っています。「聖典を読み，勉強する時，様々な恩恵や祝福がある。それは私たちが行なう学習の中で最も有益なものである。」(「聖徒の道」1980年3月号，p.87)

私たちが「神の約束をまた想い見る」ことができるように願っています。聖典は神のみ言葉であることを証します。私は聖典を愛しています。神は生きておられ，私たちの御父であられます。イエス・キリストは神の御子です。予言者ジョセフ・スミスの言葉どおり，御父と御子はジョセフにみ姿を現わされました。エズラ・タフト・ベンソン大管長は今日の予言者です。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

フィリピンの伝道活動

七十人
アウグスト・A・リム

〔フィリピン人の〕信仰，献身，福音の真の原則に従った生活は，霊的な面ばかりではなく，この世的な生活の向上にも貢献しているのです。



この教会の会員として過ごした歳月の間，私を心から支持し，愛してくれた永遠の伴侶に，愛と感謝を述べたいと思います。多くの方がすでにご存じかと思いますが，私はフィリピンの出身です。人口約6,700万人の「東洋の真珠」と呼ばれる国ですが，近年は多発する地震や台風，洪水，火山の噴火などに悩まされ続けています。しかし，きょうは多くの苦難をもたらし，フィリピン人の信仰を試す災害についてではなく，この地に福音が広められるとともにあちこちで見られるようになった，すばらしい霊的な祝福について話したいと思います。

回復された福音が最初にフィリピンで伝えられたのは，第二次世界大戦の終わりごろ，末日聖徒の軍人や女性たちによってでした。しかし南部極東伝道部の記録によると，正式に伝道活動が開始されたのは1961年4月28日，当時十二使徒評議員会の一員であったゴードン・B・ヒンクレー長老がマニラの郊外で少数の教会員と集会を開き，フィリピンの伝道活動に主の祝福があるように奉献の祈りを捧げた時からです。

祈りの前にヒンクレー副管長は短い話をして，こう予言しました。「ここで私たちの始めることは，この共和国に住む何千何万という人々の生活に影響を与えるようになるでしょう。その影響は世代を越え，偉大な良き実を永遠に結ぶでしょう。」(「1975年8月，フィリピン諸島地域大会」p.20)

話の後，ヒンクレー長老は次のような祈りを捧げました。

「父よ，願わくば，この地に遣わされる宣教師たちの上に祝福がとどまり，汝のみたまが彼らの心に触れ，彼らが清く徳高き者となり，その模範が人々の心にすばらしい印象を残し，異言の賜を授かってこの民の言葉を語り，汝のみ名の誉れと栄光のために真心から忠実に働き，恐れることなく出で行き，彼らを押しとどめる者のないように，また汝の子供たちの祝福となるよう教えと証をもって汝の聖なるみ業の回復を宣言できますように。父よ，彼らに喜びと勇気，信仰を与え，彼らがその働きに満ち足り，豊かに実を結べるようになしたまえ。

また，この地の民の上に汝の祝福があらんことを祈り奉る。彼らが友好的かつ親切で，訪れる人々をよくもてなし，この『よきおとずれ』をたくさんの人々が受け入れ，それによって祝福

されるように祈り奉る。主が彼らに，素直な心と理解力，福音の原則を受け入れる信仰とそれに従って生きる勇気，み恵みを分かち合う望みをもって，この地の民を祝福したもうように。信仰あつく善良で徳高く誠実な人々が多く教会に加わり，神権の祝福にあずかり，召しを受け入れて指導力を身につけ，そして，この地における汝のみ業が教会の律法と秩序にのっとり，この時代に神権の鍵を持つ指導者の指示の下で，地元の兄弟たちの手によって行なわれるようになしたまえ。」（ゴードン・B・ヒンクレー「フィリピンの伝道活動の開始」）

この歴史的な集会の数日後，最初の4人の専任宣教師が，香港に拠点を置く南部極東伝道部から到着しました。1961年にはほんの一握りの改宗者しかいなかったフィリピンの教会も，現在は月に2,000人を超える人々がバプテスマを受けるほどの勢いで成長しています。専任宣教師と教会員との緊密な調整によって，現在，会員数は30万人に上り，48のステーキ部，65の地方部，13の伝道部に分割されています。13人の伝道部長のうち5人が，そして地区代表8人全員とステーキ部長，地方部長全員が地元の教会員です。また2,000人以上いる専任宣教師の60パーセントから70パーセントがフィリピン人です。そして現在では，人口が密集するマニラ中心部のくぼ地を見下ろす高台に，フィリピン・マニラ神殿が堂々たる偉容を見せています。

確かに，ヒンクレー副管長の祈りは成就されつつあります。たくさんの若人，年輩の夫婦が主のラッパの呼び声にこたえています。「汝国より国に町より町を経廻りて，わが福音のいまだ宣べられざるこの周りの地方にこれを宣ぶることはわが意なり。」（教義と聖約66：5）

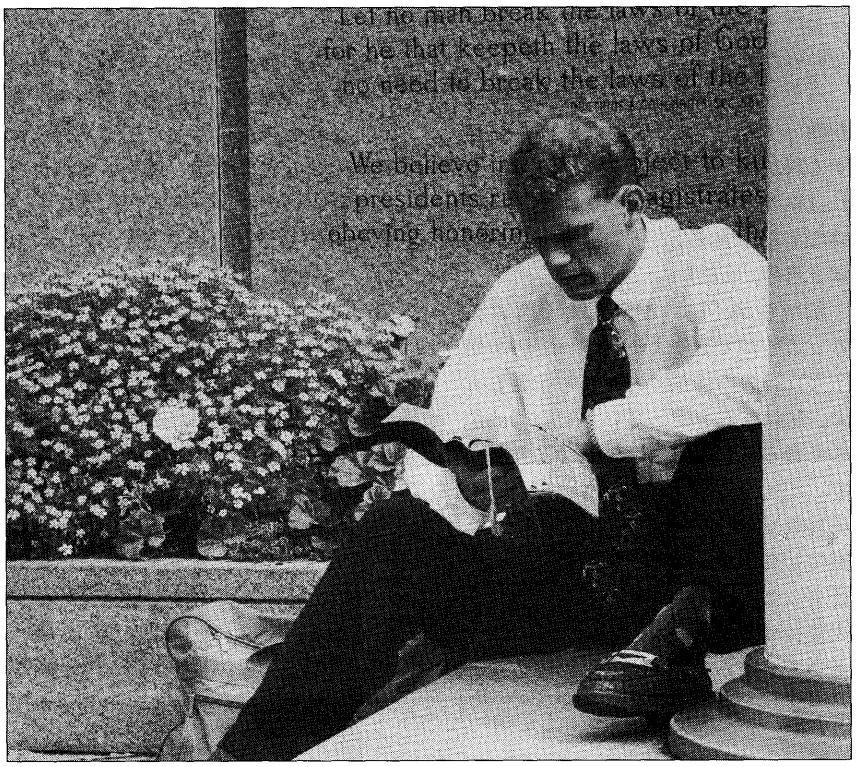
私は伝道部長の3年間の召しを通じて，若く献身的で高潔な徳高い宣教師たちと共に働く機会に恵まれ，彼らのすばらしい行ないを見て，へりくだり，感謝しています。この若い主の大使たちは，居心地の良い家庭を離れ，愛する人々と別れて，異国の地や故郷から遠い場所で救い主を証し，信仰と真理への確かな知識をもって，人々に福音を教えているのです。宣教師たちの努力を見て私の証は強められました。彼らは福音を世に広めたいという崇高な望みによって，ホームシックに打ち勝ち，新しい環境や習慣，母親が作るのとはまるで違う食べ物に慣れ，新しい言語を学ぼうと努めているのです。

私はこれらの宣教師たちが日々払っている犠牲を知っています。彼らは，灼熱の太陽の下，あるいは冷たいモンスーンの雨の中を，何キロも徒歩や自転車で移動したり，ほこりっぽいガタガタの道を高速で走る，満員のジープニーという乗り物に揺られたりしながら，困難にも陽気に耐え，約束した時間に間に合うようにレッスンに赴いているのです。

確かに，フィリピンやほかの国々で働いている現代の真理の告知者たちは，主のふさわしい器となり，悔い改めとバプテスマによって主に来るよう人々に証し，チャレンジして，「あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ」（マタイ28：20）という主の戒めに従おうと熱心に努め，絶えず祈っています。

彼らはモーサヤの息子たちのように，「神の道を知るために熱心に聖文を研究し」（アルマ17：2），「非常に熱心に祈りと断食とをしたから『予言のみたま』と『啓示のみたま』とを受け，その教えを宣べるときには神に授かった権能と威勢とによって教え」（同3節）ています。特に「かれらは多くの艱難に逢って肉体上にも精神上にも大いに悩み苦しみ，ある時は飢えある時は渇きある時は疲れて精神上の苦労も少くな」い（同5節）のです。しかし，誉れある伝道のみ業を全うしたとき，モーサヤの息子のひとり，アンモンのように，彼らはこう言うでしょう。「私は喜びが満ち充ちて心に溢れるばかりであるから，私の神がましますことを喜ぼう。」（アルマ26：11）

私たちはまた，1961年4月のあの麗しい朝に，ヒンクレー副管長がフィリピン国民のために述べてくださった祈りと祝福が文字どおり成就していることを，目の当たりにしています。教会が与えてくれる祝福を喜んで分かち合おうと望む会員たちの助けを得て，固い決意を持った宣教師がたくさんの家庭に福音のおとずれを伝えるに従い，何千何万という人々がみたまに触れて



います。私たちはよく，なぜこのように目を見張るほど多くの改宗者が誕生するのかと尋ねられます。私見によれば，第1に，アジアの中で唯一のキリスト教国であることが過去数世紀にわたって福音の到来への備えになったこと，第2に，フィリピンが英語を公用語とする世界で3番目に大きな国であるために，福音の教えが理解しやすく，教会員の指導力を伸ばすことにも貢献している，という点かと思われます。

しかし，もっと大切な点は，人々の謙遜な性質と必要なことを主に頼る姿勢が，みたまの導きを受け入れやすくしていることです。フィリピンの経験している経済的な問題の下で，福音はまさに，より良い生活を求める人々への答えとなっています。福音を中心として生活している多くの聖徒たちが変わっていく姿を見て，ほかの人々も希望を持つようになりました。会員たちの住んでいる家は土や竹でできた質素なものですが，福音の計画に対する積極的な対応と，主の戒めに対する従順さを通して，約束された祝福を受けています。その結果，彼らは以前よりも衛生的な場所に住み，健康的で，より良い教育を受けています。また，いつでもすぐに喜んで人々を助け，どんなに質素でも与えられた物に感謝し，一般に以前よりも幸福を味わっています。彼らは，「われに就きて学び，わが言を聴き，わが『みたま』の柔和なる道を歩め。さらば，汝われに在りて安きを得ん」（教義と聖約19：23）という主の勧告に従っています。そして一般に，会員たちの信仰，献身，福音の真の原則に従った生活は，霊的な面ばかりではなく，この世的な生活の向上にも貢献しているのです。確かに主はこう約束されました。「喜びて従順に従う者たちは，この末の世に於てシオンの地の善きものを食わん。」（教義と聖約64：34）

私たちの民が，逆境の中にあっても主の戒めや教会の指導者の勧告に従うとき，引き続き主の祝福があって，喜びと心の平安が与えられますように，へりくだり，イエス・キリストのみ名によりお祈りいたします。アーメン。

貴重な受け継ぎ

十二使徒定員会会員
ジェームズ・E・ファウスト

心に傷を負ったり関心を失ったり，何らかの理由で教会に背を向けたりしている兄弟姉妹の皆さん，私たちは皆さん一人一人に，もう一度主の群れに立ち返るようお勧めします。



今大会も終わりに近づきました。私は貴重な受け継ぎについて話したいと思います。世界中の様々な国々で，信仰深い聖徒たちの手により，教会の土台が築かれてきました。第1世代の会員たちはまさに開拓者です。彼らは皆，強い信仰を持ち，献身的な努力をしています。私はきょう，すべての開拓者の子孫が誇りとする貴重な受け継ぎについて話したいと思いますが，特に，ソルトレーク盆地やユタ州をはじめとするアメリカ西部に移住した開拓者たちについて触れるつもりです。

今年の7月24日の開拓者記念日に，私たちは，ワイオミング州のリバートンステーキ部の記念行事に参加しました。ロバート・ロリマーステーキ部長をはじめとするステーキ部長会の指導の下に，青少年とその指導者たちで，1856年の手車隊の行程の一部をたどったのです。朝早く4輪駆動の車で出発して最初にインデペンデンスロックに行き，そこからモルモン道（訳注――1847年に開拓者が開いた道。1859年まで使用された）に入りました。そこから数キロの所に，デビルゲートと呼ばれる峡谷があります。マーチンコーブの聖地に着いた時，私たちは沈んだ気持ちになりました。なぜなら，その場所はマーチン手車隊が，飢えや寒さと戦いながらソルトレークシティーからの救援隊を待った場所だからです。ここで，マーチン手車隊のうち56人ほどが飢えと寒さのため死にました。

スイートウォーター川の横断点を見た時は，胸を打たれる思いがしました。そこでは，3人の勇敢な若者が，約500人から成る手車隊員のほとんどを，氷のように冷たい川の対岸に運びました。その後，長時間冷水の中に浸り無理を重ねたことが原因で，3人は亡くなりました。この勇敢な行為の報告を受けたブリガム・ヤング大管長は，子供のように泣きじゃくり，後日，こう宣言しました。「この行為だけでも，C・アレン・ハンチントン，ジョージ・W・グラント，デビッド・P・キンボールは神の日の光栄の王国で，永遠の救いを世々限りなく受けるであろう。」（ソロモン・F・キンボール『1856年の遅れてきた移住者たち』「インプルーブメント・エラ」1914年2月号，p.288）

それからもう少し先へ進むと，ウイリー手車隊が救援された場所に着きました。私たちは聖地に立っているよう

な気持ちになりました。手車隊の開拓者，21人がここで飢えと寒さのため命を落としたからです。私たちは，標高約2,200メートルのロッキーリッジという峠を越えて旅を続けました。この峠はモルモン道の中で最も高い地点です。ロッキーリッジに至る登り坂は3.2キロに及び，高度差は210メートル以上に及ぶ険しいものです。この峠はどの開拓者にとっても難所でしたが，特にウイリー手車隊には苦闘を強いられる場所になりました。1856年の秋にこの峠に差しかかったウイリー手車隊は，大吹雪に見舞われたからです。大半の開拓者たちの履物はすり減り，荒い岩肌のせいで足の皮膚が破れ，雪を真っ赤な血に染めながら前進したのです。

ロッキーリッジに来た時，私たちは2本のくぎと昔風のボタンを見つけました。それは開拓者たちが険しい岩の上を越える時に，ゆるんで落ちた物なのでしょう。私はこの歴史的な場所に立って，厳粛な思いにかられました。私の先祖も何人かは，手車隊にこそ加わってはいませんでしたが，この峠を越えたのです。西部への偉大な移住の旅に出た私の先祖の全員が，このロッキーリッジを越えたわけではありません。ふたりは，それ以前のウインタークォーターズで亡くなっています。

この峠を越えながら，私は自分がどれだけ犠牲を払っているか考えました。これほど大勢の人が，これほど大きな犠牲を払った出来事を，今までに見たことがありません。このみ業を発展させるため，今までにどんなことをなすべきだったのか，これから先どう生きるべきなのか，私は考えました。

それから数キロ先の地点，ラジウムスプリングスで，実際に手車を引いて手車隊のたどった道のりをもう一度たどろうとする，リバートンステーキ部の185人の青少年とその指導者たちに追いつきました。そこで，136年前に苦難を越えてこの道をたどった人々の信仰や英雄的行為について，互いに証を述べました。

私たちはそこからさらにロッククリーク盆地へ行きました。ロッククリーク盆地はウイリー隊が宿営した場所です。寒さ，疲労，飢えによって絶命した13人が，ここの共同墓地に埋葬されています。夜間に亡くなったふたりも，近くに埋葬されています。ロッククリーク盆地に埋葬された人々のうちふたりは，まだ子供でした。デンマークから移住してきた9歳になる女の子のボーディル・モーティンセンと，スコットランド出身の11歳のジェームズ・カークウッドです。

ボーディルはロッキーリッジを越える時，明らかに，ほかの幼い子供たちの世話役を言い付かっていました。宿営地に着くと，彼女は薪(たきぎ)を集めに行かされたのでしょう。発見された時は，たき物に使うよもぎを抱えたまま，手押し車の車輪にもたれて凍死していました。

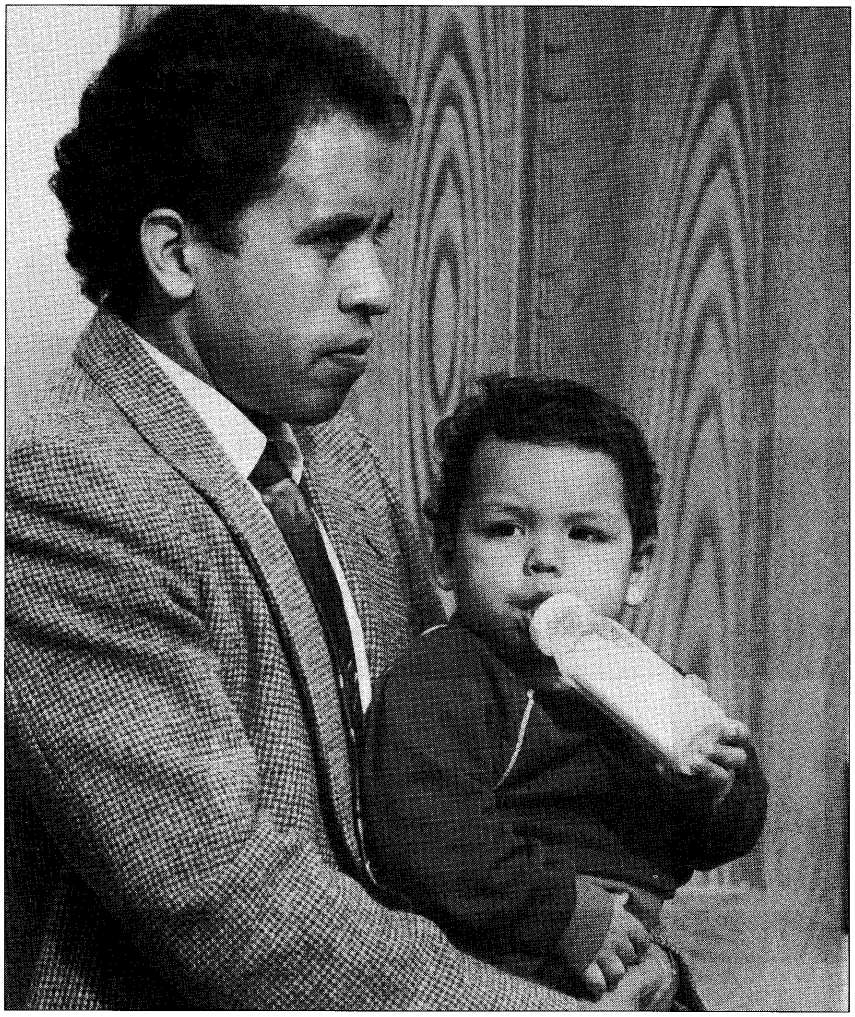
ジェームズ・カークウッドの話も紹介しましょう。ジェームズはスコットランドのグラスゴーから来ました。父親はなく，母親と3人の兄弟と一緒に西へ向かったのです。兄弟3人のうちのひとりトーマスは19歳でしたが，足が不自由で手押し車に乗らなければなりませんでした。母親と長男のロバートが手押し車を引き，ジェームズには4つになる弟ジョセフの面倒を見る責任が与えられました。彼らがロッキーリッジに差しかかると，身を切るような冷たい吹雪に遭いました。手車隊全員が24キロの道のりを進むのに，なんと27時間もかかりました。幼いジョセフが疲れきって歩けなくなると，ジェームズが背負って歩く以外に方法はありません。手車隊から次第に引き離されながらも，ジェームズは遅い歩みで宿営地に進んで行きました。やっとのことで宿営地の火にあたったとき，ジェームズは「責任を忠実に果たしてきたのに，疲れがひどく長い間寒気にさらされていたせいで，そこで倒れ，そのまま息を引き取った」のでした。(ロバート・ロリマーあてのドン・H・スミスによる個人書簡，1990年2月20日のドン・キスレットによる話の中での引用)

1856年10月の大会で，ブリガム・ヤング大管長の呼びかけにこたえて救援隊が派遣されましたが，彼らにも英雄的な話が残っています。ヤング大管長は40人の青年，馬やロバに引かせた60台から65台の幌(ほろ)馬車，10トン以上の小麦粉を集めて救援隊を組織し，「今荒野で遭難している人々を連れて来るために」(リロイ・R・ヘイフェン他共著「シオンに向かう手車隊」p.121) 2，3日のうちに出発させました。救援隊は速やかに悩める旅人たちの救済に向かったのです。

助けられた開拓者たちがソルトレーク盆地に近づくと，ブリガム・ヤング大管長はこのタバナクルで集会を招集し，疲弊した開拓者たちを家庭に迎えてくつろがせ，食物と衣服を与えるよう，この盆地の聖徒たちに指示したのです。ヤング大管長はこう言いました。「足首まで凍傷を負った者，ひざまで凍傷に冒された者，手が凍傷にかかった者もいるであろう。……彼らを自分の子供だと思って，同じ気持ちで受け入れていただきたい。」(ヘイフェン「シオンに向かう手車隊」p.139)

救援隊がウイリー手車隊を連れてソルトレークに入って来た時の様子を，ウイリー隊長は次のように記録しました。「ソルトレークに着くやいなや，いろいろなワード部の監督が行くあてのない人々全員を，暖かい宿舎へ連れて行ってくれた。手足にひどい凍傷を負っている者もいたが，その苦痛を取り除くためにできるすべての努力が払われた。……何百人もの出迎えが馬車の周りを囲みながら市内に入った。こうして手車隊の兄弟姉妹たちはこの山間の故郷へ温かく迎えられた。」(ジェームズ・E・ウイリー「歴史記録」1856年11月9日，p.15)

こうした苦難の結果，開拓者たちは神に対する揺るぎない信仰を築きました。エリザベス・ホロックス・ジャクソン・キングスフォードは次のように語りました。「しかし天使は私の苦しみを天の記録に書き留め，福音のために払った犠牲を聖(きよ)めて利益に変えてくださると信じています。」(「エリザベス・ホロックス・ジャクソン・キングスフォードの生涯を巡る思い出」p.7)



荒野を渡った人々は信仰の模範を残したばかりでなく，神への愛，人類への愛という偉大な受け継ぎを残してくれました。それは，まじめさ，独立心，勤勉，高徳，同胞愛という受け継ぎでもあります。また，主の戒めに対する従順，民を導くために神によって召された指導者への忠誠心，完全に悪を断ち切る伝統ともいえます。不道徳，同性愛，かけ事，利己心，不正直，不親切，アルコールや麻薬の中毒といったものは，イエス・キリストの福音とは無縁なのです。

さて，ここユタ州ではかけ事の是非を決める選挙を数週間後に控えています。かけ事に関する教会の立場は不変です。しかし，これに関する議論が白熱するにつれ，私たちは教会員に寛容と理解の精神を持つように勧告いたします。人には皆自由意志が与えられていますが，その自由意志を愚かに行使すれば，代償を払うことになります。J・ルーベン・クラークJr．副管長はこう語りました。「私たちには従うか否かを選ぶ権利がある。しかし従わなければ，罰を免れることはできない。」（「教会福祉計画の基盤――監督集会での説教」1944年10月6日，p.3）

私はなぜこのような勇敢な開拓者たちが，信仰のためにあのような苦痛や苦難を経験しなければならなかったのか，不思議に思います。彼らの深い苦悩を救うために，なぜもっと穏やかな天候が用意されなかったのでしょう。彼らは苦しみを通してより高い目的のために聖別されたと私は考えています。彼らの心の奥底に燃えていた救い主への愛は，その子供たちに受け継がれ，孫たちにも浸透していきました。彼らを動かしたものは心の奥底からの真の改宗の精神だったのです。ゴードン・B・ヒンクレー副管長が言われたように「末日聖徒一人一人の心にこのみ業が真実であるという強い証が生まれるなら，各自は教会にあって自らの責務を悟るでしょう。」（「地区代表セミナー」1984年4月6日）

開拓者たちはこうした歴史的な出来事の一端を担うと同時に，自分の人生に対する指針も得ていました。つまり，人生の意義と目的を見いだしていたのです。マーチン手車隊とウイリー手車隊はその苦難に満ちた旅路の途中，背教して西部から東部に戻ろうとする人々に出会いました。背教者たちは手車隊の人々に，東部に戻るよう勧めました。実際，その勧めを受け入れた人も幾人かはいました。しかし大部分の開拓者は旅を続け，この世で偉大な業績を達成し，来世での永遠の生命に向かって行ったのです。マーチン手車隊のひとり，フランシス・ウェブスターは次のように述べています。「私たちは皆，神が生きておられるという完全な知識を得ました。苦難のさなかにあって神を知るようになったからです。」（デビッド・O・マッケイ『開拓者の女性』「扶助協会誌」1948年1月号，p.8）開拓者たちが残してくれた信仰というこの貴重な受け継ぎに霊感されて，私たち全員が，人の子らに不死不滅と永遠の生命をもたらす救い主のみ業にもっと献身できるよう，私は願っています。

この高貴な開拓者の子孫である皆さんは，信仰と勇気という貴重な受け継ぎを得ています。皆さんの中に，イエス・キリストの福音を受け入れて教会に来ていない人々がいるなら，なぜ皆さんの先祖があれほど強い信仰を持ち得たのか，なぜ教会員としての資格を守るためにあれほどの犠牲を払ったのか，考えていただきたいと思います。心に傷を負ったり関心を失ったり，何らかの理由で教会に背を向けたりしている兄弟姉妹の皆さん，私たちは皆さん一人一人に，もう一度主の群れに立ち返るようお勧めします。世界中の信仰深い教会員たちが，欠点や弱点を持ちながらも，謙遜（けんそん）になって神の聖なるみ業を推し進めているのです。今日の世にはびこるやみの力を防ぐ戦いの中

で，私たちは皆さんの助けを必要としています。このみ業に加わるなら，皆さん全員が心の飢えを癒すことができます。神につける清く神聖な事柄を求めるときに得られる個人的な慰めを得ることができます。聖なる宮居で祝福を受け，誓約を交わすことができます。この堕落した世にあってさえ，人生に大いなる目的と意義を見いだし，周囲の影響に左右されず自分で行動する人格的な強さを培うことができるのです。(IIニーファイ2：26参照)

数年前，大管長会はすべてのお休み会員に教会に戻るよう呼びかけました。「教会の中には活発でない人や，他の人に対して批判的な目を向け，あら捜しをする人，また重大な罪によって会員資格の制限や破門等の処分を受けている人もいます。

私たちはそのようなすべての人々に向かって手を差し伸べ，『主なるわれは，その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる』(教義と聖約64：10)という主の精神をもって赦しを与えたいと思います。

私たちは教会員に対して，自分に罪を犯した人々を赦すように勧告します。また教会に活発でなくなり，他の人々に対して批判的になっている人々には，『立ち返りなさい。そして主が備えられたテーブルにつき，聖徒の交わりという甘く，心を満たしてくれる木の実を再び味わいなさい』と呼びかけるものです。

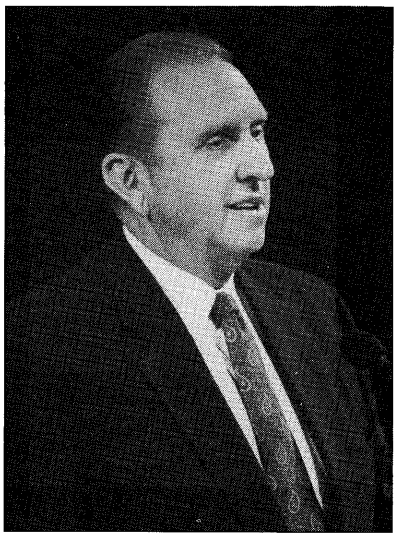
私たちは，戻りたいと望みながらも，きまり悪さを感じてそうできないでいる人々が多くいると確信しています。しかし，そのような人々に申しあげたいと思います。私たちは両手を広げて皆さんを歓迎し，喜んでお助けしたいと願っているのです。」(大管長会からの手紙，1985年12月23日付)

このすばらしい大会を終えるに当たり，教会幹部を代表して，今一度心から，またへりくだってその呼びかけを繰り返したいと思います。私たちは皆さんに向かって手を広げています。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

閉会に当たって

第二副管長
トーマス・S・モンソン

ベンソン大管長がこの場におられたなら，戒めを守り，家庭を聖め，生活を全きものとしていくように強く勧められることでしょう。



慣例では，主の予言者，聖見者，啓示を受ける者であられる教会の大管長が，総大会の締めくくりのあいさつをされ，祝福を与えられるところですが，今回は私が大管長に代わり，へりくだってその責任を務めさせていただきます。

すばらしい大会でした。心からの祈りが捧げられ，音楽や歌は私たちをはるか天に届くほどにまで高めてくれました。教会幹部の兄弟たちやジェプセン姉妹の語られた神のみ言葉は，その霊感にあふれたメッセージによって私たちの心に感動を与えてくれました。私たちは皆，この大会によって，より良い人になれたと思います。

大会中，ベンソン大管長のご出席がかなわなかったことは，寂しいことでした。大管長の笑顔や，手を振るご様子が見られなかったこと，また語られる真理を耳にできなかったのは残念でしたが，大管長，あなたがテレビを通してこの大会をご覧になったことをうれしく思います。愛する永遠の伴侶，フローラ姉妹を亡くされたことについて，皆，大管長に心を寄せています。おふたりを永遠にわたって結ぶ神聖な聖約があることに，皆どんなに感謝していることでしょうか。大管長が主のみ手にあって，必要な，また主の目的にかなった祝福をお受けになるよう，教会員一同は，心をひとつにして力強い祈りを捧げています。私たちは，予言者であられるあなたに従い，あなたを支持し，また愛しています。

何十年も前，ベンソン大管長が尊敬しておられたデビッド・O・マッケイ大管長は，かつて英国で伝道していたベンソン長老の伝道活動を指導されたことがありました。マッケイ大管長は大会の終わりに当たり，次のように話されました。「お別れに当たり，主の教えとその生涯が美しいものであり，人の幸福にとって必要であり，また適切なものであることを，皆さんがこれまで以上に感じられるように願っています。……私にとって，主は，贖い主，救い主であり，主の福音は救いの計画，そして人に幸福と平安をもたらす唯一の完全な道です。」[1]

ベンソン大管長がこよなく愛されたジョセフ・フィールディング・スミス大管長は，やはり大会の終わりに次のように語られました。「ここで私は，天父が主の民を豊かに祝福したもうよう，最大の祝福を与えたもうよう祈る。願わくは，聖徒たちが世の圧力や誘惑にもめげずに固く立ち，神の王国につける事柄を第一に考えて生活し，あら

ゆる信頼にこたえ，あらゆる誓約を守るように。」[2]

ベンソン大管長の幼なじみであり，友であり，後に互いに尊敬をもって主のみ業に携わっておられたハロルド・B・リー大管長はこのように宣言されました。「この大会を終わる前に，ぜひ皆さんに申しあげておきたいことがある。この大会は主が不在のまま行なわれてきたのではないということである。これは主の教会である。……主は人をなおざりにされるようなお方ではない。いつも私たちに関心を寄せておられる。そして私たちが主の導きに従うよう望んでおられる。」[3]

ベンソン大管長と同時期に，使徒として，すなわち十二使徒評議員会会員としての召しを受けられたスペンサー・W・キンボール大管長は，大会を終えるに当たって次のように話されました。「すばらしい説教の一つ一つに，私はよく耳を傾けることができた。また，家に帰ったら，前にも増して立派な人間になろうと決心をすることができた。」[4]

ベンソン大管長，以上はあなたの人生に今も影響を与え続けている４人の方々の言葉です。あなたご自身もまた，同じように大会を締めくくっておいでです。「今回の大会において見事に打ち出された神聖な教会の使命に対して，新たな献身の気持ちを持って，お帰りいただきたいと思います。その使命とは，すなわち，『キリストに来る様すべての人々を勧誘』する(教義と聖約20：59)ことであり，『キリストの御許に来てキリストによって全く』なる(モロナイ10：32)ことです。」[5]

兄弟姉妹の皆さん，ベンソン大管長は皆さんに対して，また主や主のみ業に対して深い愛を抱いておられます。ベンソン大管長がこの場におられたなら，戒めを守り，家庭を聖め，生活を全きものとしていくように強く勧められることでしょう。私たちが末日聖徒イエス・キリスト教会の会員としてひとつとなり，この３つの目標を達成することができますように。そうするならば，私たちの心は喜びで満たされ，予言者の心には平安が訪れ，主は私たちの努力を笑みをもって受け入れてくださるでしょう。

「わかれにまた　天の父に
楽しき賛美　いざうたわん
み守り思い　愛思い
安息日に響かせん」[6]

このみ業は真実であり，イエスはキリストであり，エズラ・タフト・ベンソン大管長は神の予言者であることを証し，天の祝福が私たちすべての上にとどまるよう，イエス・キリストのみ名によりお祈りいたします。アーメン。

注

1．「大会報告」1965年10月３日，p.144
2．「大会報告」1971年４月
3．「大会報告」1972年10月
4．「大会報告」1977年10月
5．「大会報告」1988年４月
6．『わかれにまた』賛美歌88番



●1992年9月26日(土)女性の大会

改宗を通して得られる自信

中央扶助協会会長会第二副会長
アイリーン・H・クライド

大切なのは，心を開いて，モーセが目にしたように，小さい存在でありながら大いなる価値を持つという，一見相反したもののように思える事柄を理解しようとすることです。



扶助協会と若い女性の皆さん，そして初等協会の子供たちの指導者である皆さんが一堂に会する，この大きな集会に出席でき，とてもうれしく思います。今晩，恵まれて，ヒンクレー副管長，モンソン副管長，ハンター長老をはじめ，多くの神権指導者の方々が，私たちと共に集ってくださっています。

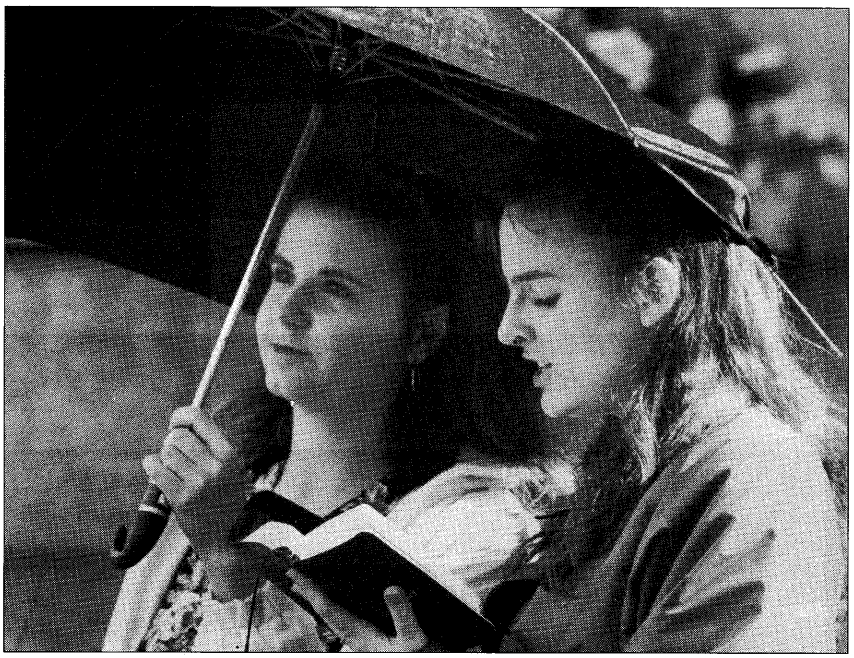
私たちは，「すばらしい」時代に生きていると思います。「すばらしい」と呼べるのは，私たち一人一人が個人として，自信に満ちた，正しい，そして何よりも幸福な人生を送るために必要な知識を与えられているからです。いつの時代の男女もそうであったように，確かに私たちは複雑で，うつろいやすく，またときには腐敗した社会に生活しています。しかし，回復された福音のおかげで，心の平安や成長を脅かすような不安定な状況にあっても，生きていくための，さらには勝利を得るための知識を，私たち一人一人が学び，身につけていくことができます。

はるか昔，モーセは山上で主と言葉を交わしました。主はモーセに，現在私たちが住んでいる世界をお見せになりました。それはたぐいまれな示現でした。私はこのような記録をほかに見たことがありません。「モーセこの世と，この世の極と，創らるるすべての人の子らと嘗て創られしすべての人の子らとを見て，これらのことをいたく驚き怪しめり。」(モーセ1：8)この地上にかつて存在し，またこれから存在するであろうすべての人や物を目にするというのはどのようなものか，想像できるでしょうか。畏敬の念に満たされたモーセは，このように言いました。「さてこれを以てわれ知る，人は物の数にもあらざるを。この事を嘗てわれ考えたることもなかりき。」(モーセ1：10)その後，主はモーセに，最も重要な真理をお教えになりました。主はこのように言われたのです。「これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ1：39)私はこれに，「すべての男女に」と付け加えたいと思います。私たちは，広大な宇宙に比べて自分は取るに足りない存在だと感じるものです。その私たちのために，宇宙や地球が創造されたというのです。これは，モーセだけでなく私たちにとっても，まさに驚嘆すべき事実です。

大切なのは，私たちが心を開いて，モーセが目にしたように，小さい存在でありながら大いなる価値を持つという，一見相反したもののように思える事柄を理解しようとすることです。聖典は，私たちが特別で，永遠の存在であることに気づかせてくれます。私たちはこの世に生を受けるずっと以前からひとりの人として存在していました。その時にも選択の自由があり，危険や困難が待ち受けていると知りながらも地球に来ることを選びました。私たちはその時，イエス・キリストの計画に従うことを選ぶだけの確かな確信を持っていたのです。私たちが正しい生活を送れるように，また互いに愛し助け合い，悪を断ち切って善を求めるように，主が道を示してくださることも知っていました。

その後，私たちはこの地上にやって来ました。そして，モーセが見たあの大いなるパノラマの中の一部，すなわち真砂のような多くの人々のひとりとなったのです。今では，一人一人がかつては理解していた自分の価値，そしてかつて抱いていた目的意識や天の家族との一体感を見いだそうと必死になっています。この地上で再び一から学び直して福音の知識を得るとき，私たちは前世において自分の選びによって偉大な指導者であられるキリストに従ったのだという，かけがえのない真理を知ることができます。主はご自分の使命を果たしてくださいました。私たちも主と契約を交わし，主にパートナーとなっていただくために，自分の責任を果たすのです。これについて，モルモン経の中でベンジャミン王が次のように記しています。

「お前たちの結んだ誓約のためにお前たちはキリストの子と呼ばれ，キリストの息子や娘と呼ばれる。それは今日キリストがお前たちの精神を新に生みたもうたからである。お前たちはキリストの御名を信ずるから自分の心が改まったと言う。従って，お前たちは



キリストにより生れてその息子や娘となった。

お前たちはキリストと言う頭の下にあって自由を得た。このほかにはどこにもお前たちを自由にすることのできる頭はなく，救いを与える名前はない。それであるから，私は生涯の終りまで従順でなくてはならない誓約を神と結んだお前たちが喜んでキリストの御名を引き受けるように望む。」（モーサヤ5：7－8）

天父や救い主にとって私たち一人一人が大切な存在であるということをお話しするのは，皆さんがこの福音の知識によって，正しい選びをするための自分の力に自信を築き，霊的に成長していけるよう，切に願っているからです。中には強い命令口調で「これをしなさい，あれをしなさい」と言ってほしいと思う人もいるでしょう。また，何をするにも，前もってどうすべきかはっきりとした神様からの答えを望む人もいるかもしれません。最近，ブリガム・ヤング大学でのファイヤサイドの説教でダリン・H・オークス長老はこのように話されました。「個人的な決断は，私たちが現世で経験するように意図された，成長の源のひとつです。すべての決断を主にゆだね，あらゆる選びについて啓示を求める人は，祈っても導きが得られないことに，やがて気づくでしょう。例を挙げるなら，ささいなことについての選びである場合や，どれを選んでもよい場合などです。私たちは，創り主から与えられた判断力を用い，心の中によく思い計る必要があります。それから導きを祈り求め，導きを受けたなら，それに従って行動します。

しかし，もしも導きを受けなかったならば，自分の最良の判断に従うのです。」（「己の力は破滅をもたらすこともある」ブリガム・ヤング大学ステーキ部におけるファイヤサイド，1992年6月7日，pp.3－4）

私たちがイエス・キリストの福音に改宗すると，謙遜になるとともに勇敢にもなります。改宗によって，決断するための大きな力を得るからです。善良な人々がこの世で実際に直面する状況を示す良い例が，旧約聖書の中のルツ記に記されています。〔英文で〕わずか5ページという大変短いものですが，読むたびに新しい発見があります。最近は，改宗，勇気，そして決断の物語としてとらえるようになりました。時代や文化は異なっていますが，私たちにも当てはまることが書かれているのです。

ナオミは，夫エリメレクとふたりの息子と共に，敵国であるモアブの地に移りました。彼らの祖国イスラエルにひどいききんが起こったからです。しばらくして息子たちは，オルパとルツというモアブ人の妻をめとりました。それから10年の間に，夫と息子たちはこの世を去りました。ユダからききんが去ったことを耳にしたナオミは，祖国に帰りたいと思いました。彼女はふたりの嫁に，それぞれの母の家に帰るように勧めます。ナオミはふたりを娘と呼び，口づけをします。ナオミを愛するふたりは涙を流しました。（これは実に注目すべきことです。これまで気づきませんでしたが，この明確で有名な記録が役立てられれば，世の中によくある嫁しゅうとめについての笑えない冗談も影を潜めるのではないでしょうか）しかし，結局オルパはモアブに残ることにしました。そしてナオミはもう一度ルツに「ごらんなさい。あなたの相嫁は自分の民と自分の神々のもとへ帰って行きました。あなたも相嫁のあとについて帰りなさい」と言いました。（ルツ1：15）

ここでルツは，自分の決意を，威厳に満ち，美しい響きを持つヘブライの言葉で語り，その改宗が堅固なものであることを示しました。「あなたを捨て，あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き，またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民，あなたの神はわたしの神です。」（ルツ1：16）

現実的で賢明なナオミは，ルツの固い決心を知り，「その上言うことをやめ」ました。（ルツ1：18参照）これはルツに話すことをやめたというのではなく，イスラエルで経験するであろう困難についてルツにわからせようとするのをやめたということです。モアブ人であるルツが，よそ者扱いをするかたくなな人々や，飢え，多くの危険に遭遇するのは目に見えていました。しかし彼女は改宗していました。決心していたのです。彼女はナオミと一致協力して，やって来る問題に立ち向かうだけでなく，与えられるチャンスも前向きに受け止めていったのです。

やがてルツはボアズと結婚し，ふたりに子供が生まれました。「そのとき，

女たちはナオミに言った，『主はほむべきかな，……あなたを愛するあなたの嫁，七人のむすこにもまさる彼女が〔その子〕を産んだのですから。』

そこでナオミはその子をとり，……養い育てた。近所の女たちは『ナオミに男の子が生れた』と言って，彼に名をつけ，その名をオベデと呼んだ。彼はダビデの父であるエッサイの父となった。」（ルツ 4：14—17）

このような予言こそ，私たちにとって大変重要なのです。女性がリーダーシップを取ることをよしとしない社会にあって，このふたりの女性，ナオミとルツがもたらした結果を，聖典の筆者は注意深く強調しています。オベデはダビデの父であるエッサイの父となったのですが，マタイによる福音書第１章に詳細に記されているように，このダビデの系統からキリストと呼ばれるイエスが生まれたのです。短いルツ記が，このような大いなる出来事を予言しているなどと考えたことがあるでしょうか。

ルツは，愛する人の死，新しい土地での孤独感，糧を得るために必死に働くことなど，私たちの時代にもあるような困難に，自信を持って立ち向かいました。彼女の数々の小さな努力が，後の偉大な出来事に結びついたのです。私はこのルツの行ないを通して，私たち一人一人にとっての日々の生活の価値とともに，神に従う選びをすることの大切さを学びました。

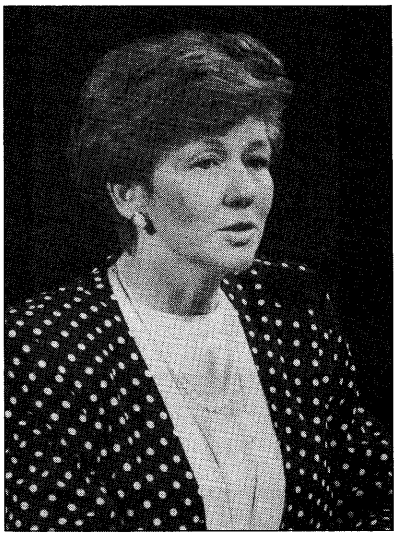
今晩私が皆さんにお話ししたことは，私の個人的な証です。私は自分が，選択の自由についていくらか理解していることと，天父と天父が与えてくださる導きを信頼していることに感謝しています。救い主の贖い（あがない）に感謝しています。主は，そのためにどのような目に遭うかを完全に理解しておられました。信仰と愛がもたらす祝福に感謝しています。これによって私の胸は喜びに満たされ，私たちは確かに「すばらしい」時代に生きていると感じることができるのです。

イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

恐れ

中央若い女性会長会第一副会長
バージニア・H・ピアス

私たちは恐れる気持ちを天父にゆだね，天父を信頼し，その指示を仰ぐことを選ばなければなりません。



今私はこの大きな責任に，皆さん，特に若い女性の皆さんへの尊敬と愛の気持ちをもって臨んでいます。皆さんの一人一人がそれぞれの思いで私の話を聞いてくださることと思います。今この時に皆さんが必要としていることは一人一人違うからです。こうした公式の場においても，私は多くの皆さんが，音楽を通じ，話を通じて，また友達の友情を通じて，前進していくために必要な答えと勇気を得られると確信しています。そして私の話がその一部となれば，と心から願っています。

皆さんの人生と直接結びついたお話をするために，だれもが経験するある事柄について考えてみたいと思います。普通私たちが否定的なものだと受け止め，できれば避けたいと考えているものについてです。私たちはしばしばこれについてこんなつらい思いをするのは自分しかいないのだと言ったり，これをコントロールしようとしたり，またはこれを経験したことはないと言ったりします。それは恐れと呼ばれているものです。

私はたくさんの若い女性に何を怖いと思うか尋ねてみました。すると次のような返事が返ってきました。

「新しい学校に転校した時，友達ができるかどうか心配でした。」

「去年弟が病気になった時，もしかしたら死んでしまうのではないかと心配でした。」

「両親が言い争っていると，離婚するんじゃないかと心配になります。」

「私はとても大きな過ちを犯しました。それが見つかって家族が不面目で恥ずかしい思いをするんじゃないかとびくびくしていました。恥をかくのを恐れて，中絶まで考えました。」

「いろいろなことが心配になります。何を言ったらいいのか，どう行動すればいいのか，何を着ればいいのかなどです。人にどう思われるかが心配で，友達を作って楽しむこともできないんです。」

「小さい時のことが原因で，男の人が怖いんです。監督の部屋でふたりきりになるときでさえ，びくびくしてしまいます。それに，幼い時のその経験を知ったら，みんな私のことが嫌いになるんじゃないかと恐れています。」

「受験に失敗して希望の学校に行けないのではないかと心配になります。」

「一生結婚できないかもしれないと心配になります。」

「両親には私に学校の制服を買う余裕などないのではないかと心配になり

ます。」

本当に恐ろしいことばかりです。

聖典を読むと，この世が創られた時から恐れはいつも人間の歴史の一部だったことがわかります。前世でふたつの計画が提案された時，ルシフェルの計画を選んだ人がいたのは，必ず帰ってこられるという保障もなく天父のみもとを離れるのが恐かったからではないか，とも思えます。ルシフェルは，自分の計画に従えば全員が帰ってこられると約束することで，こうした恐れを利用したのでしょう。

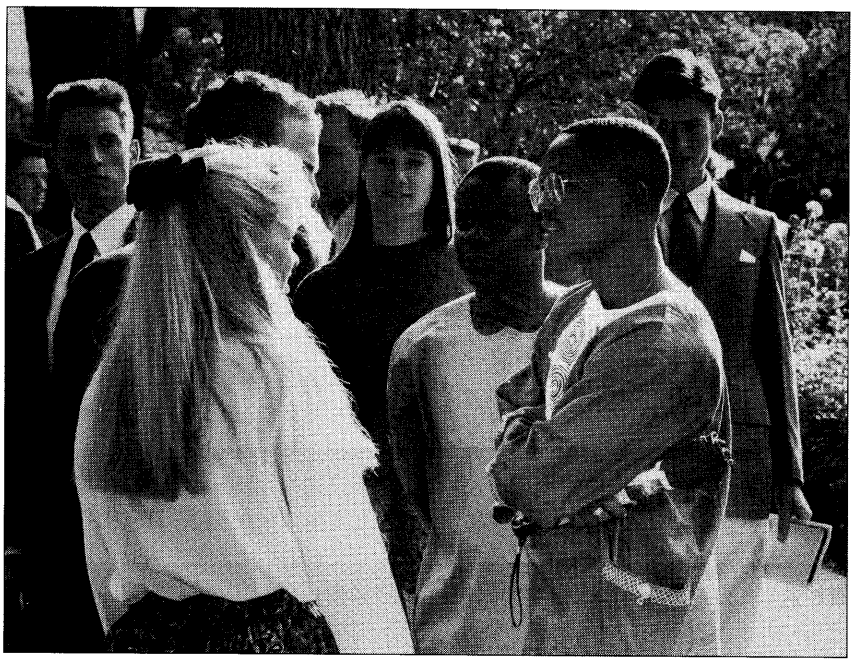
私はまたアダムとイヴがどんなに怖い思いをしたかも察することができます。ふたりはまったく安全な場所に，かわいい動物たちと共に，豊富な食物に恵まれ，自然の脅威を経験することもなく暮らしていました。ところが突然，生き残ること自体が常に恐れを伴う世界に追放されたのです。

なぜこの世の人生には恐れがつきものなのでしょうか。

天父は，私たちが恐れの気持ちに起因して，天父に心を向けるようになるのを願っておられるのではないでしょうか。この世の不確実さは，私たちが天父に依存していることをいつも思い出させてくれます。しかしこれは自然に思い出せるものではなく，意志を必要とするものです。私たちは恐れる気持ちを天父にゆだね，天父を信頼し，その指示を仰ぐことを選ばなければなりません。恐れによって動揺し，ゆがめられた思いにどんどんとらわれていくときにこそ，こうした選択をしなければならないのです。

戒めを守り，主に祈り求めるならば，天父は恐れを静めるためにとるべき行動を示してくださいます。こうした行動には，しばしば聖霊がもたらす勇気と導きが必要となります。聖霊はいつだれに私たちの抱える恐れを話せばいいかを教えてくれます。また私たちが恐れに直面しつつ，今までに経験したことのない事柄に取り組むときにも，聖霊は私たちを支えてくれます。

私自身が恐れる気持ちを克服するのに役立ててきた考え方をふたつ，皆さんにご紹介したいと思います。ひとつ



は中央初等協会会長会会長のマイカリーン・グラスリ姉妹から受けたアドバイスによるものです。私は彼女の下で中央初等協会管理会の一員として働きました。私たちが共に訓練集会に参加した時，地元の指導者が，前年その地域を訪問した補助組織の指導者たちの良かった点を詳細に話し始めました。彼女がその指導者たちとのすばらしい経験を話し，私たちにも同じようなことを期待していると言うにつれ，少しずつ気分が重くなってきました。その夜私たちの世話をしてくれた人が帰った後，私は自分の恐れをグラスリ姉妹に伝えました。昨年ここに来た人たちのようにうまく責任を果たせないのではないかと心配なこと，また人々をがっかりさせたり，先ほどの姉妹や教会にも恥をかかせてしまうのではないかということを話しました。彼女は「私も同じ気持ちになったことがあるわ。でも本当に心配すべきことは，自分の言葉と行ないが主に喜んでいただけるかどうかなんだと考えるとずっと気持ちが楽になるのよ」と言いました。この彼女の言葉は私の心にたちまち平安をもたらしました。それ以来私は，事あるごとにこの言葉を何度も心の中で繰り返しています。

女性として，私たちはいつもほかの人を喜ばせようとします。ときには周りの人に認めてもらうことにとらわれすぎて，自分の必要と周囲の人々の必要が相反してしまい，戸惑うこともあります。しかし，天父に喜んでいただくことだけを考えれば，恐れや心配から解放されて平安が訪れます。若い女性の皆さん，この次に教会で何かの割り当てを受けたときや，教会を休んでいる友達を訪問するとき，また活動の計画を立てるときなど，この言葉をぜひ思い出してください。「主に喜んでいただけるかどうかだけを心配すればいいんだ。」そうすれば恐れのいくつかは消え去ることでしょう。予言者ダビデはこう言いました。「主はわたしの光，わたしの救だ，わたしはだれを恐れよう。主はわたしの命のとりでだ。わたしはだれをおじ恐れよう。」（詩篇27：1）

私が役立ててきたもうひとつの考え方は，有名な画家であるビンセント・バン・ゴッホの言葉です。彼はこう言いました。「今うまくできなければ，できるようになるまでやってみることだ。」日々の生活の中で恐れを克服するには，まだうまくできなくても，とにかくやってみることが大いに役立つということです。

皆さんは，うまくできなくてもとりあえずやっていることが何かありますか。随分ぎこちなく感じてもミューチ

ャルの活動で若い男性と会話をしてみるというのはどうでしょう。くじけそうになっても，一生懸命勉強してみるというのはどうでしょう。私は中央若い女性会長会会長のジャネット・ヘイルズ姉妹が若い人たちに一生懸命働きなさいと言っているのをよく耳にします。彼女は「働くことで能力が伸び，能力が伸びたのを感じると自分にもっと自信を持てるようになります」と言っています。

最近私は，エレナー・ルーズベルトの自伝を読み終えました。彼女の夫はアメリカ合衆国の大統領でしたが，彼女の与えた影響は政治や地位にとどまりません。彼女の生き方は人々への奉仕を通して自分自身の才能を立派に伸ばしていったという点で，すべての女性の指針となります。彼女は恐れと自信のなさに悩みながら，青春時代を送りました。彼女は若かったころの自分を，不格好で，背が高いだけで魅力がなく，歯並びや洋服の着こなしまで悪い女の子だったと記しています。同年代の人たちといると落ち着かず，パーティーやダンスは大の苦手であったとも述べています。そんな彼女がどうしてあの自信に満ちた大きな影響を与える存在になれたのでしょう。

ルーズベルト夫人はこう述べています。「恐れを忘れさせるような経験をするたびに，強さと勇気，自信を身につけることができます。……自分にはできないと思うことこそ，やってみるべきです。」（「エレナー・ルーズベルト」カレン・マクオーリー編，p.105）

ほかの人ではなく主に喜んでいただくことだけを考え，一生懸命働き，うまくできなくてもまずやってみるとき，私たちは成長できます。天父と御子イエス・キリストへの信頼をさらに深められます。この信仰が，最後には何とかなるだけでなく，確かに大きな喜びと幸福をももたらすのです。

キリストの死後，パウロは真の改宗をして偉大な宣教師となりました。パウロには若い同僚で，自分の息子のように愛した人がいました。ふたりについて書かれたテモテへの第二の手紙を見てみましょう。ふたりは人々に奉仕するために離ればなれになっています。テモテは寂しくまた恐れていました。宣教師をしていると，ときには恐ろしい目に遭うものです。パウロはローマの牢獄（ろうごく）にいました。「愛する子テモテへ」という書き出しで彼はテモテに手紙を書いています。

「わたしは，日夜，祈（いのり）の中で，絶えずあなたのことを思い出しては，……神に感謝している。

わたしは，あなたの涙をおぼえており，あなたに会って喜びで満たされたいと，切に願っている。」（IIテモテ1：3－4）

なんとやさしい手紙でしょう。この手紙を，皆さんの涙をおぼえているだれかから皆さんにあてられた手紙だと考えてみてください。

その後，パウロはテモテに彼自身の強さを思い出させています。「また，あなたがいだいている偽りのない信仰を思い起している。」（5節）パウロはテモテに彼の祖母や母親が信仰の女性であったことを思い出させています。

皆さんも自分のおばあちゃんやお母さんから受け継いだ強さを考えてみてください。

その後パウロはテモテに聖霊の賜（たまもの）を使うことを忘れないようにと言っています。「わたしの按手（あんしゅ）によって内にいただいた神の賜物を，再び燃えたたせなさい。」（6節）

皆さんの頭にも手が置かれ，聖霊の賜をいただいたことを思い出してください。そして恐れを克服するためにこの賜を使ってください。

次はこの手紙の中でも私が一番好きな部分です。「というのは，神がわたしたちに下さったのは，臆する霊ではなく，力と愛と慎みとの霊なのである。」（7節）

力と愛と，そして正しく物事を見極める判断力。何かを恐れているときに必要となるのはこのようなものではないでしょうか。

パウロは手紙のひとつを次の言葉で締めくくっています。「わたしと共にいる一同の者から，あなたによろしく。わたしたちを愛している信徒たちに，よろしく。恵みが，あなたがた一同と共にあるように。」（テトス3：15）

わたしも，共にいる一同の者から，皆さんへの称賛の気持ちを伝えたいと思います。私たちは皆さんを愛し，あなたの恐れも信仰もよくわかっています。イエス・キリストが救い主であり，私を，そして皆さん一人一人を愛しておられること，恐れを信仰に変える力を与えてくださることを証します。これらのことをイエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。



「汝らの子供たちを見よ」

中央初等協会会長会会長
マイカリーン・P・グラスリ

覚える速さにしても，記憶の深さにしても，教会の中で子供たち以上に敏感に真理に反応する年代はありません。



ある監督から，ワード部のひとりの女性に召しを与えた時の話を聞きました。一緒にモルモン経のニーファイ第三書第17章を読んだそうです。

救い主がニーファイ人の子供たちをご自分のみもとに連れて来るように命じられたこと，イエスが子供たちのために祈り祝福を与えられたこと，天使が火に囲まれて天下り子供たちに祝福を施したことが，そこには記されていました。親しみのあるそれらの言葉は，力に満ち，詩的な調べを持っていました。

次いでこの監督は，興味深いことを語りました。「ブレインホルト姉妹，毎週日曜日ごとに救い主がみずから親しくこのワード部に来られることはありませんが，私たちが天父からの霊感を得てあなたを召したのは，もし救い主がここにおられたら行なわれたであろう事柄を，代わってあなたがワード部の子供たちのために行なってほしいからなのです。私たちはあなたを初等協会の教師に召しました。」

このすばらしい話を聞いて，私もこの章をもう一度読み直し，救い主がニーファイ人の子供たちになされた事柄，救い主がもしここにおられたら現代の子供たちのために行なわれたであろう事柄に対して，理解を深めたいと思いました。子供たちに愛を示し，その必要にこたえる場所が家庭であろうと教会であろうと，あるいは隣人として友人としてそのようにするのであろうと，いずれにもかかわりなく，救い主の模範とこの監督の訓戒は私たち全員に適用できるものです。子供たちは私たち全員の宝なのですから。

この点を心に留めながら，ニーファイ第三書第17章の何節かを一緒に見てみましょう。救い主が私たちに残された従うべき行動規範を一緒に見つけてみたいと思います。

11節にある救い主の招きは，気まぐれでも，無視してよいものでもありません。「それからイエスは人々にその小さい子たちを連れて来よと仰せになった。」(11節)主はこれを命じられたのです。11節の中で記されていないことにも注意する必要があります。そこには，まだ責任の取れる年齢になってはいないのだから小さい子供たちを心に留める必要はない，とは書かれていません。じゃまにならないように子供たちを別の場所に連れて行きなさい，とも書かれてはいません。子供たちは何も理解できない，とも記されていません。むしろ，子供たちは王国の重要な事柄を知る必要があると教えています。

神に属する子供たちは，成人と同じように，霊的な教えを受ける神聖な権利を持っているのです。

「そこで人々はその小さい子たちを連れて来てイエスをとりまいて地上にすわらせた。イエスはその真中(まんなか)に立っていたもうた。」(12節)子供に仕えるのは卑しいことだ，などと考えたことのある人はいないでしょうか。救い主は，ニーファイ人の子供たちがご自分のみ前に出て来るのをふさわしいと考えられたばかりか，ご自分の時間を用いて心を向けられるのにふさわしいと考えられたことも明白です。子供たちは主を必要としていたので，主は子供たちの真ん中に立たれたのです。

12節を見ると，「子供たちをみなイエスのところへ連れてくるまで」イエスが待っておられたこともわかります。代表する子供をひとりだけお招きになったのでもなければ，何人かの子供たちだけで満足されたのでもありません。全部の子供たちが集まるのを望まれ，全員に祝福を施されたのでした。

そしてイエスは天父に力強い祈りを捧(ささ)げられ，それは「口で言いあらわせる者もなく，筆で書きあらわせる者もなく，……また人間の心で想像できぬほど偉大で驚嘆すべきもの」(17節)でした。子供たちはその場に居合わせたのです！　子供たちはその祈りを聞き，その出来事を目にし，感動を覚えました。子供たちは理解力を持ち，驚嘆すべき出来事を見る必要があるのです。そうした出来事とは，神権の祝福であり，ワード部や家族で行なう特別な断食であり，親や指導者の証や祈りであり，愛する人々との福音についての話し合いなどです。

「イエスは……かれらの小さい子供たちを一人一人近よせてこれに祝福を与え，かれらのために御父に祈りたもうた。」(21節)イエスは2,500人余りの

男女，子供から成る集団に祝福を与えておられたのです。子供たち「一人一人」のために祝福を与え，祈っていたら，どれだけの時間を必要とされたか考えてみてください。イエスは大勢の子供たちをひざの上に乗せ，抱き寄せられたはずです。そして喜びが胸に満ちあふれ，涙を流されました。

「イエスが群集に『汝らの子供たちを見よ』と仰せになった。」(23節)イエスは群衆の注意を特に子供たちの方へ向けられました。私にとって，この「見よ」という言葉は，意義深いものです。そこには「顔を向けて，目を注げ」という意味以上のものがあります。主が子供たちを「見よ」とニーファイ人たちに仰せられた時，主が意図されたのは，子供たちに心を向け，彼らのことを深く考え，現在の状態だけにとらわれずその永遠の可能性を見なさい，ということだったと私は考えています。

「群集がこれを見ようと顔を上げる……と，天が開けて天使らが火の中に取り巻かれているような有様で天降り，子供たちを取りかこんだので子供たちもまた火に取りかこまれ，天使らは子供たちに祝福を与えた。」(24節)

ここで群衆が顔を上げるだけで，霊の目で見ようとしなかったら，どんなことが起きただろうかと，私は考えずにはいられません。群衆は天使が天下るのを目撃できたでしょうか。子供たちが火に囲まれるのを見守れたでしょうか。天使が子供たちに祝福を与えるのを観察できたでしょうか。その後，救い主は最も聖い教えを子供たちにだけ聞かされ，群衆に教えを伝えられるように，子供たちの口を緩められたことは，私にとってきわめて大切な点です。(IIIニーファイ26：14参照)

救い主がニーファイ人を訪れられた後，200年間，民が平和と正義のうちに暮らしたことは何の不思議もありません。奇跡的な教えと数々の祝福を受け，主が民と民の子供たちへ関心を向けられたために，彼らの子供，孫に至るまで何代にもわたって正義が確立されました。

正義を確立する現代の子供たちの能力や可能性を，低く評価しないようにしましょう。覚える速さにしても，記憶の深さにしても，教会の中で子供たち以上に敏感に真理に反応する年代はありません。同時に，誤った教えにこれほど無抵抗で，軽視や虐待によって傷つく世代もありません。子供たちは自分で自分の世話をすることができません。この世の大人である私たちが，彼らのために道を開く義務があります。世界中の子供たちが「忘れてなおざりにせず，神の善い教えで……養いたえず善い道をふませ」(モロナイ６：４)るに値する存在なのです。

イエスは，子供たちを養い教えるという責任を果たすときに従うべき，明確な模範を示されました。ニーファイ人の時代とは異なった時代に生きる私たちの課題は，ニーファイ人たちのそれと同じではありません。しかし，主の方法は時を超えて不変です。主の教会では，それ以外の道はあり得ません。主が示されたように，家庭，教会，地域社会のいずれにおいてもきわめて大切なのは，私たちが子供たちのそばにいて，心を向けることなのです。私たちが子供たちと一緒に時間を過ごしていれば，子供たちの必要を知り，子供たちに祝福を与えることができます。さらに，永遠の観点の中で子供たちの姿をとらえることができ，どの子供たちも救い主を知り，福音の重要な真理を学ぶ力がある，ということがわかります。私たちには，子供たちが驚嘆すべき霊的な出来事を見られるように，助けることができるのです。子供たちは，彼らのために捧げる私たちの熱心な祈りがわかります。主の模範に従えば，私たち自身が地上における子供たちの仕える天使となるのです。

忙しいある日曜日のことでした。集会所の廊下にはたくさんの人でいっぱいです。監督は床にひとりの少年がかがみこんで泣いているのを見つけました。いっぱいのスケジュールをわきに置いて，この監督は泣きじゃくる子供にすぐに心を向けました。彼は床にしゃがんで，この幼い男の子の涙が止まるまで，手を回して抱き寄せていました。こうして男の子は，何が悪かったのか説明できました。そして慰めを受け，この地上の仕える天使に手を引かれてその場を離れていきました。

私は救い主もそれと同じことをされたであろうと思いました。

ひとりの若い末日聖徒の母親がいます。出身はアラスカ州ですが，今は一時的に，ロシアに滞在しています。彼女がふたりの小さな息子を持つ会員の家庭を訪問しました。子供たちは聖典を読むのが好きで，もっと知りたいという願いを持っていることに，彼女は気づきました。その後，彼女は小さな支部に集い，やはり子供たちが聖典を知りたがっていることを知りました。教会が組織されたばかりで，日曜日に教会で子供たちを教えた経験のある人がいなかったのです。

彼女はこう語りました。「子供たちが何を求めているのかわかっていたので，私が助けるべきであると強い気持ちを感じました。もし私がそれをしなければ，後に責任を問われることになるだろうと思いました。」そして，そのようにしたのです。ほどなくして彼女は地方部の初等協会会長に召され，その子供たちに地上で仕える天使になったのです。

私の友人が神殿結婚に参列するための招待状を受け取りました。結婚するその若い男性は初等協会でのかつての教え子だったのです。彼女は結婚式に参列してこう尋ねました。「デビッド，あなたが引っ越してから長い間会っていなかったのに，どうして私を呼んでくれたの？」

「マクマリン姉妹，神権を受けるために清くふさわしくなければいけないって，教えてくれましたよね。聖餐を配るときには，手を洗って清潔な服を着るようにも教えてくれました。同じように，内側も清潔じゃなきゃいけないって言っていましたよね。私が誘惑に遭ったとき，将来の伴侶を決めなければならなかった時期に，マクマリン姉妹の声が聞こえたんですよ。『執事は内側も外側も清くなくてはいけません』ってね。私がふさわしい状態で神殿に参入できたのはあなたのおかげです。だから結婚式に来てほしかったんですよ。」

ニューギニアでご主人と共に伝道しているある姉妹宣教師が，手紙を送ってくれました。大きなココナツ農園の木の下で，彼女は小さな子供たちに福音を教えているそうです。レッスンが終わると子供たちは一列に並んで，プラスチックの水差しに入った，冷たくて，その辺りでは貴重な「水」をもらって飲みます。それは，そこに来る前に，この地上の仕える天使たちが用意して冷やしておいたものなのです。

救い主もそれを認められるだろうと私は思いました。

置かれている環境は違っても，私たちは皆，ほかのだれにもできない特別な大切な方法で，子供を助けることができるのです。私たちは彼らに，生存に必要な水，食物，愛，慰め，そしてさらに重要なのは，福音の「生ける水」を与えることができます。(ヨハネ４：10—14参照)

救い主が示された同じ熱意と献身をもって接するとき，愛，安心感，信仰，証，悪に抵抗する勇気を子供たちに与えることができます。それらは，現代社会に疫病のように広がる不道徳を食い止めるための，予防手段となります。福音を，現代に生きる彼らの生活様式にすることができますし，またそうでなければなりません。今いる子供たちの必要を満たすなら，明日の教会がどのような状態になっているか想像してみてください。逆に，私たちが彼らの必要を満たさなければどうなるでしょう。

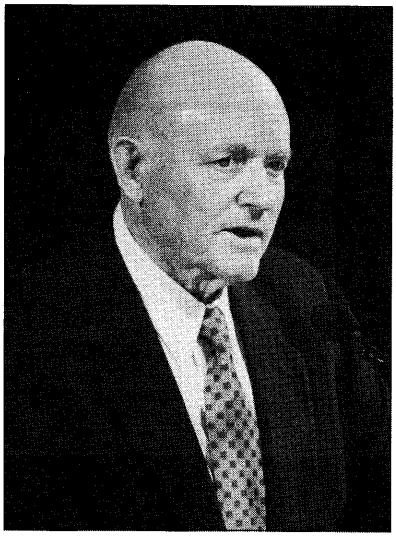
姉妹の皆さん。子供たちに祝福を与えることで，私たちも，何世代にもわたって福音が受け継がれるようにすることができるのです。なぜなら，きわめて尊く，きわめてもろい素材，つまり子供たちが私たちの手に託されているからです。このことを，イエス・キリストのみ名によって証いたします。アーメン。



教会の姉妹たちへ

十二使徒定員会会長
ハワード・W・ハンター

現代の世の中を取り巻く悪の潮流を食い止め，救い主のみ業を推し進めるために，教会幹部の同胞として働く教会の女性の力を結集する必要が大いにある，と私は感じるのです。



愛する姉妹の皆さん。皆さんは天父の娘であり，一人一人が内に秘めた可能性を持っておられます。そのような皆さんを愛し，尊敬し，歓迎したいと思います。

教会幹部を代表して，教会や家庭，あるいは地域社会で奉仕しておられる姉妹の皆さんに感謝いたします。皆さんが愛にあふれた無私の奉仕を行なっても，だれにも知られず，伝えられず，ときには感謝されないことすらあります。私はそのことを承知しております。

聖典の中に次のような勧告があります。「この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつつあればなり。」(教義と聖約64：33)天父は隠れた所で行なう私たちの親切な行ないを見ておられ，いつの日か公然と報いてくださる，と救い主の約束の中にあることを忘れないでください。(マタイ６：３－６，16－18参照)主は，皆さんのことを心にかけておられるのです。教会幹部一同，皆さんの幸せを祈っています。皆さんが，奉仕，犠牲，愛ある行ない，美しく気高いものの探究などを通して，この世を清める働きをしてくださっていることを，神に感謝します。

皆さんの模範によって，私たちの生活が大いに改善されていることを感謝します。皆さんの堅実で義にかなった模範は，この世の中にあって際立った位置を占めています。

私たちを取り巻くこの社会には，数多くの混乱が見られます。いろいろな主義主張を擁護する声，自分たちの考え方に転向するよう騒ぎ立てる声が，あちこちから聞こえてきます。現代の状況は，この点で，ジョセフ・スミスが当時の記録に書き残したものと大差ありません。ジョセフ・スミスは，「『ここを見よ』と叫ぶ者もあれば，『かしこを見よ』と叫ぶ者もあり」と記しています。(ジョセフ・スミス２：５)今日，多くの人々が人生の数々のチャレンジに苦しみあえいでいます。様々な難題と混乱，そして悪に取り巻かれるとき，人は自分に助けの手を差し出してくれる人を探し求めるものです。寄る辺なく思えるときは，心を慰め，傷を癒し，信頼するに足る進路を指し示してくれる霊感を切望する女性もいます。

しかし，私たちは慰めのないままに放り出されているわけではありません。私たちには，聖典が与えられています。聖典には，愛にあふれる天父の変わることのないみ言葉が記されています。天父はその中で，私たちをほかの何よりも愛しておられると語っておられます。「見よ，これわが業にしてわが栄光，すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ１：39)ここで言う「人」が男女双方を指すことは言うまでもありません。

愛あふれる天父のみ言葉に加えて，アルマが記録している救い主を，私たちはいただいています。

「この男の子は世の中へ出て苦難とあらゆる誘惑である試みとを受けたもう。これは，この方が自分でその民の苦しみと病いとを引き受けると言いたもう言葉が成就するためである。

この御方はその民を縛る死の縄目を解くために甘んじて死を受けたまい，また肉体をもつ者として慈悲の心に富みたまい，虚弱の度に応じてその民を救う方法を知るために民と同じく虚弱を受けたもう。」(アルマ７：11－12)

贖罪を通して救い主となられたこのイエスが，新約時代の女性に愛と関心を示されたことを思い起こすとき，主の教会に籍を置く姉妹の皆さんも慰めを受けるに違いないはずです。主は女性と共におられることを喜ばれました。親しい友人もそのような女性の中にいました。主の偉大なたとえ話の中に10人のおとめの話があります。主は子供を祝福されました。レプタふたつを差し出した貧しいやもめをお褒めになりました。サマリヤの女性に説教をされ，ご自身がほかならぬメシヤであることを明かされました。マグダラのマリヤから７つの悪霊を追い払い，姦淫の罪で捕らえられた女性を赦されました。さらに，ギリシア人女性の娘，18年間腰の曲がっていた女性を癒され，高熱に冒されたペテロの母親も癒されました。

主は死者を蘇生させることすらされました。亡くなったはずの息子を母親に，ヤイロの娘を両親に，主にとって最も親しい友人のひとりであったラザロを悲しみに暮れていた姉妹たちに，それぞれお返しになったのです。十字架におかかりになっている時，主はご自身の母親を気遣われ，その世話を愛

弟子のヨハネに託されました。主の遺体の埋葬準備をしたのは女性たちでした。主が復活体で最初にそのみ姿を現わされたのはマリヤでした。この女性こそ，主の復活という栄光に満ちたメッセージの伝言を主に託された人物だったのです。

ところで，主は今日の女性に対して，当時ほどの関心を持っておられないと考えるのは理にかなっているでしょうか。主は昇天される前に，弟子たちにこのような約束をされました。「わたしは父にお願いしよう。そうすれば，父は別に助け主を送って……下さるであろう。……わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。」(ヨハネ14：16，18)主に仕える女性の弟子も，ここで言われる別の慰め主，すなわち聖霊の賜(たまもの)を授かる特権を有しているのです。

主の特別な証人として，私たちは，主の教会と王国にまつわる諸事を執行し，地球上のどこであれ，全世界に住む主の娘，息子を管理するというおそれ多い責任を託されています。証し，管理し，導きと恵みを施すという召しのゆえに，私たちは年齢，弱点，疲労，不適切ではないかという危惧(きぐ)を乗り越えて，主が定めたもうたみ業を，命ある限り最後まで，成し遂げなければならないのです。

私たちの主，救い主が，ご自身の時代に生きた女性たちの慰めの手，聴く耳，信じる心，親切なまなざし，励ます言葉，忠誠心を，屈辱，苦痛，死の時すら必要とされたのと同じように，全教会の僕(しもべ)である私たちも，教会の女性たちを必要としています。私たちを今にも飲み込んでしまいそうな悪の潮流を食い止めるために，同胞として働く女性を必要としているのです。私たちは，ひとつとなって，堅固な信仰の上に立ち，数の上では勝っている敵に対抗するのです。現代の世の中を取り巻く悪の潮流を食い止め，救い主のみ業を推し進めるために，教会幹部の同胞として働く教会の女性の力を結集する必要が大いにある，と私は感じるのです。「それであるから，あなたたちはこれからもキリストを確(かた)く信じて疑わず，完全な希望の光を抱き，神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。」(IIニーファイ31：20)主に従う私たちは，多数派です。しかし，力を合わせてこそ，主に託されたみ業を成し遂げることができ，主にまみえる日の備えができるのです。



主が愛をもってご自身の時代の女性たちの必要を満たされたように，私たちも皆さんの必要を満たすべく全力を尽くしています。そこでお願いですが，皆さんにもその力強い影響力を発揮して善のために奉仕し，家庭と教会と地域社会を強めていただきたいのです。

善(よ)きことの多くは，悪弊に満ちた社会に救済の手を差し伸べる個人や組織から出てくるものです。皆さんが聖典に記された助言どおり，教会，隣近所，地域社会で，さらには全世界で，積極的に喜んで善き業に従事してくださるよう，チャレンジします。(教義と聖約58：27参照)ただしひと言付け加えたいのは，もしキリストへの信仰を生活の中に取り入れず，福音を受け入れないならば，また福音がもたらす救いの儀式と誓約にあずからないならば，この現世，あるいは来世における真の可能性の実現はできないということです。

主に従う人は，主の模範に従います。主が私たちの罪や弱点，悲しみや病のために苦しまれたことを知るとき，自分も主と同じように，周囲の人々に対して慈善の手を差し伸べたいと思うようになるはずです。世界で最も長く機能している女性の組織，末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会は，「愛はいつまでも絶えることがない」というモットーを掲げていますが，これほど扶助協会に似つかわしいモットーはないでしょう。

姉妹の皆さん，どうぞ続けて奉仕の機会を見つけてください。地位に対して意識過剰にならないでください。「上座(じょうざ)」や「上席」(マタイ23：6)を好んだ人々に対して主がどのような助言をお与えになったかを思い出してください。「あなたがたのうちでいちばん偉い者は，仕える人でなければならない。」(マタイ23：11)感謝を受けることも大切ですが，私たちの関心は義を行なうこと，奉仕することになければなりません。人に認められ，地位を得ることへ関心が注がれてはなりません。毎月毎月，黙々とその責任を果たしている訪問教師がいますが，主のみ業という観点から見れば，彼女たちは一部の人々が教会でより高いと考えている地位にある人々と，重要であることに何ら変わりはないのです。目に見える物が価値を決定するわけではないのです。

以前に開かれた教会の女性の大会で，キンボール大管長は次のような勧告を述べました。「愛する姉妹の皆さん，どうぞこのことを心に留めてください。皆さんは，これから将来にわたっていろいろな祝福を受けるでしょうが，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることから得られる永遠の祝福は，そのいずれにも勝って偉大な祝福となるでしょう。この世の中で，神の女性と呼ばれることほど大きな評価はあり

ません。最も偉大な地位は，真の姉妹，真の妻，真の母親となった神の娘，生活を善へと変化させる務めを経験した神の娘にしか授けられません。」（「エンサイン」1972年11月号，p.102）

皆さんは，下品，陰口，わがまま，わいせつ，そのほかあらゆる罪深い行ないの蔓延する現代の世にあって，神に忠実に従う女性となるように選ばれたのです。

天父の娘として受け継いだ特権の意味をよく理解してください。手だけでなく，言葉を用いて助ける人になってください。日々の生活において主のみこころを尋ね求めてください。そして，偉大な模範を示したイエスの母マリヤのように，こう言ってください。「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。」（ルカ1：38）

最後に，無名の詩人が書いた意味深い次の詩を読ませてください。

人は女性の影響力について語る，
あたかも限界があるかのように。
しかし，地球上であれ天上であれ，
人に与えられたいかなる仕事であれ，
いかなる祝福，災いであれ，
「然り」「否」というささやきであれ，
生と死，また誕生といった
ものであれ，
鳥の羽ほどの価値しかない
ものであれ，
あらゆる所に女性の影響力は及ぶ。

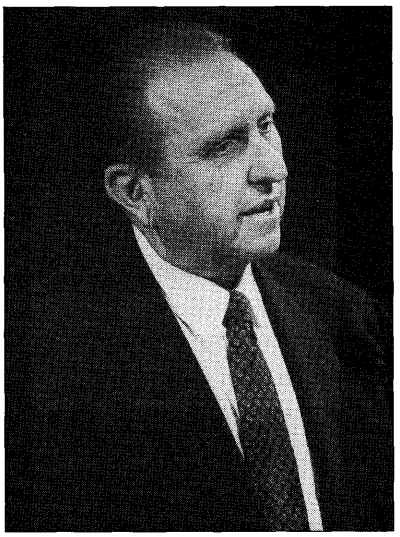
愛する姉妹の皆さん，私は神が生きておられること，イエスが神の独り子，世の救い主であられることを知っています。この教会がイエス・キリストの教会であることを知っています。イエス・キリストが，この教会の頭なのです。女性としての皆さんの立派な立場は，真実かつ永遠であることを証します。

皆さんがたゆまず隣人に奉仕することで主に仕えるとき，また，神に授かった可能性に到達しようと努力するときに，主の祝福が得られますように，イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

「信者の模範」

第二副管長
トーマス・S・モンソン

真実の愛は人の生活や性格を変えるのです。



本当にすばらしく有意義な集会でした。ハワード・W・ハンター長老をはじめ姉妹たち一人一人の勧告を私も支持いたします。今晩ここに集まった非常に多くの方々を前にして，私はヒーバー・J・グラント大管長が次のように述べた言葉を思い出します。「知性的で神々しい顔をした愛する姉妹たちの写真は，聖徒たちの誠実さを全世界に示す証である，と感じたことがたびたびあります。」[1]

もちろん皆さん全員を1枚の写真に収めるには，最大の広角レンズが必要です。私たちがそのような物を手に入れることはできませんが，万能の神にあっては可能です。無限に広い視野を持っておられる神は，文字どおり私たち全員をごらんになり，すべての人を祝福してくださいます。私たちがしなければならないことは，神の戒めに対する忠実さに基づいて与えられる祝福にふさわしい生活を送ることです。

ジョージ・アルバート・スミス大管長はこのように述べています。「神の娘である皆さん，心に深く刻み込んでいただきたいと思います。……この世を長く続くものとするためには，信仰を持たなくてはなりません。この世を幸福なものとするためには，そのような幸福が訪れるよう，率先して歩んでいかなくてはなりません。……そしてもし私たちが肉体的，精神的な力と霊的な喜びを維持したいならば，主に従わなくてはなりません。」ある若い女性が次のように心からの強い思いを語った時，おそらくスミス大管長と同様の考えを持っていたのだと思います。「私たちが本当に必要としているのは批判ではなく模範です。」

私たちはすぐに人を批判したり裁いたりしがちです。相手を助け励まし，さらには救う機会を放棄してしまうこともよくあります。不従順な人や不幸な状況にある人に後ろ指を差してあざけり，「彼女は絶対に変わらないわ。いつだって悪かったもの」などと言うのです。外見にとらわれずに心の奥にある真実の価値を認める人はほとんどいません。ところが，もしスミス大管長が言われたように行なうならば，奇跡が起きます。虐げられ失望した無力な人が，「異国人でも宿り人でもなく，聖徒たちと同じ国籍の者であり，神の家族」（エペソ2：19）になるのです。真実の愛は人の生活や性格を変えるのです。

このような真実が「マイフェアレディー」の舞台に大変美しく描かれています。花売り娘イライザ・ドゥーリトルは大切に思っている人に向かってこう語ります。「服装やちゃんとした話

し方のようにだれが見てもわかるものは別として，レディーと花売り娘の違いは，その子がどう振る舞うかではなく，どう扱われるかではないかしら。ヒギンズ先生の前では，私はいつでも花売り娘です。それは彼がいつも私を花売り娘として扱うからです。でも，あなたの前では私はレディーでいられます。あなたが私をいつもレディーとして扱ってくださるからです。」

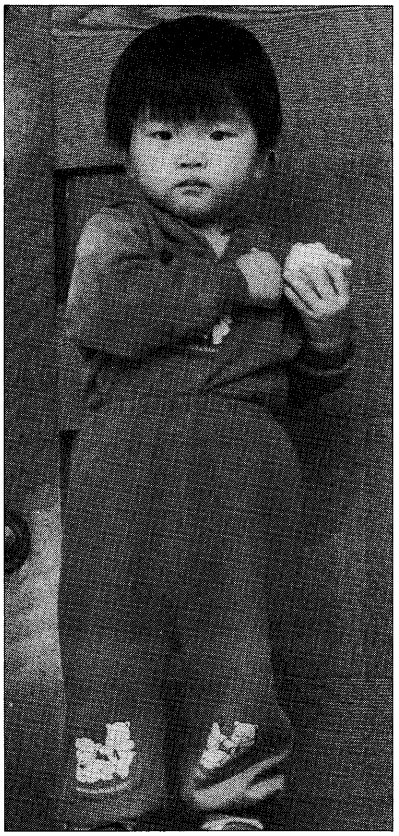
使徒パウロは愛する同僚テモテに手紙を書き，次のような霊感に満ちた勧告を述べています。それはテモテと同様今日の私たちにも当てはまるので，よく注意してその言葉に耳を傾けてください。「あなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を，軽視してはならない。」「むしろ，言葉にも，行状にも，愛にも，信仰にも，純潔にも，信者の模範になりなさい。」(Iテモテ4：14，12)

人々に手本を示し，模範となるには，私たちの住んでいる世界に天変地異や何か劇的な出来事が起きたり，特別な召しを受けたりするのを待つ必要はありません。模範となる機会はどこにでもありますが，すぐにつかまないと見失ってしまいます。そうした機会は家の中にも，また日常生活の中にもあります。私たちの主，救い主が道を示してくださいました。「〔主は〕よい働きをしながら……巡回されました。」(使徒10：38)主はまさしく行ないを通して手本を示し，信者の模範となられたのです。

私たちはどうでしょうか。

互いに心から尊敬し合うとき，私たちは皆幸福になります。妻は夫と一層親密な関係を築き，夫は妻の働きに一層感謝するようになります。そして子供たちは本来あるべき幸福な姿になります。家の中に尊敬の気持ちがあると，子供にとって家は，親から関心を示されず，適切な指導を受けられないあの恐ろしい「否定と拒否の国」ではなくなるのです。

まだ結婚していない方々に私はこう助言したいと思います。永遠に続く結婚生活を送りたいと望んで結婚する人は，ある技術と考え方を身につける必



要があります。相手に合わせることが上手にならなくてはなりません。お互いの問題を解決する力も必要です。また，調和を求め，互いに与え合う精神を持たなくてはなりません。できる限り利己心を捨て，自分の願いよりも相手のことを考えるのも必要です。

以前私は大学の学位授与式で卒業生を前に話をする機会がありました。式の司会をすることになっていたヒュー・B・ブラウン長老の家に立ち寄り，一緒に大学へ行くことになりました。ブラウン長老は私の車に乗ると，「ちょっと待ってください」と言って自分の家の大きな張り出し窓の方を見ていました。やがて彼が何を探していたのかがわかりました。カーテンが開くと，50年以上も連れ添った愛する伴侶(はんりょ)のジーナ・ブラウン姉妹が窓際に姿を見せ，車いすから身を乗り出して小さな白いハンカチを振ったのです。ブラウン長老もコートの内ポケットから白いハンカチを取り出し，彼女に振り返しました。そしてにっこりと笑うと，私に「では行きましょう」と言いました。

運転しながら私はブラウン長老に，白いハンカチは何のサインかと尋ねました。すると彼は次のような話をしてくれました。「ブラウン姉妹と私が結婚して迎えた最初の日，仕事に行こうとすると窓をたたく音がしました。振り向くと，ジーナが白いハンカチを振っていました。そこで私も自分のハンカチを出して振り返したのです。その日以来，私は家を出るときは必ず妻とその小さな愛の交換をします。それは互いへの愛のシンボルなのです。夕方再び会うまで何事もありませんようにという思いの表われでもあります。」そうです。これこそ私たちの手本であり，「信者の模範」です。

今晩ここにお集まりの若い女性の皆さん，皆さんもまた手本に，さらには模範になれるのです。皆さんご存じのように，今日の世の中には徳をあざける人，芸術や文化に見せかけてポルノグラフィーで商売をする人，イエスの教えや道徳の標準に見向きもせず耳を貸そうともしない心のかたくなな人がいます。多くの若人が間違った方向に引きずられ，世の罪に染まるように誘惑されています。そのような人々は，確固として真理を守る力を備えた強い人を探し求めています。正しい生活を送り，助けの手を差し伸べ思いやりを示すことにより，そのような人を助け救うことができるのです。そうすれば，どんなに大きな喜びを味わえることでしょう。あなたが与える祝福は永遠に続くのです。

姉妹たちの中には，病気になったり，身の回りのことができなくなったりする人がいます。寝たきりになる人もいます。そのようなときにさえ，苦難を乗り越え，信仰と愛，奉仕の真の模範になる特権が残されているのです。バージニア・ジェレスニックと夫のユージンの夫婦愛はまさしくそのような模範です。ふたりは長年，何千人もの軍人や女性たちに歌の贈り物をし，世界中の舞台から聴衆に音楽の喜びを伝えてきました。ところが，バージニアは病気と老齢のために寝たきりになってしまったのです。しかし，彼女の精神は弱くなった体に閉じ込められたままになってはいませんでした。夫を励ま

し続け，絶えず鼓舞し支えとなったのです。ユージンのコミュニティー・コンサートや地域での奉仕の恩恵にあずかった人は皆，彼の精力と熱意，親切に感嘆しますが，彼がそうした多くの務めを果たした力の源はバージニアにあったのです。

使徒パウロは私たちに信者の模範になるように勧めましたが，奉仕の範囲を限定したり，私たちの力の及ぶ範囲を制約したりはしませんでした。

今年の７月，妻と私は，名声や私益を求めずに人々の生活を高めるために，陰で無私の奉仕をした人々を表彰する晩餐会に出席しました。あるインディアンの婦人は彼女の種族の少年少女たちに，生活の仕方や人を愛し奉仕する方法を教えることに文字どおり人生の大半を捧げてきました。そうした業績が認められた時の彼女の反応は，彼女の謙遜さをよく表わしていました。静かにそして誠実に，たったひと言「ありがとうございます」と言ったのです。

温かい思いやりと奉仕，指導力が認められたもうひとりの美しい婦人がいます。彼女は看護婦として第二次大戦で負傷者を慰めました。妻としてまた夫の良き協力者として世界的な事業を興し，多くの人々の生活を祝福しました。そして夫に先立たれた現在でも，国や地域社会のために毎日働いています。彼女はいつも笑っているように見えます。それはたぶん幸福の鍵を知っているからなのでしょう。彼女は常に宣教師であり，必要とされる所には必ず出かけて行ったのです。

さらに，虐待された子供たちの権利を守るために，愛の精神をもって静かに，しかし力強く働いた人もいます。

晩餐会には，このような人々がほかにもたくさんいました。皆，開拓者，すなわち「先に立って道を示す人」と呼ばれる資格のある人たちです。

その晩餐会のプログラムの間，私は有名なフリップ・ハーノンと妻のルイスの隣りに座りました。フリップは43年間，開拓者祭(訳注――1847年７月24日に，開拓者がソルトレーク盆地に着いた日を祝う祭)の指導に当たってきましたが，これは７月24日にソルトレークシティーで行なわれる恒例の活動となっています。フリップがいろいろな責任を果たすために会場をあちこち動き回っている間，私はルイスと話す特権にあずかりました。開拓者祭のハイライトのひとつである有名なロデオが行なわれるたびに彼女は家族と一緒に見に行くのだそうです。「もちろんロデオはたまに見ると楽しいですが，毎晩ですか。それは随分忍耐がいることではないですか」と尋ねると，次のような誠実な答えが返ってきました。「開拓者祭はフリップの人生そのものなんです。ですから私もそれを共有したいのです。それに彼も私が来るのを当てにしてくれていますから。」その晩私は妻と95歳になるおばのブランチェ，そして孫たちとロデオを見に行きました。ルイスは自分の子供や孫に囲まれ，幸福そのものでした。昼食時の会話の中で，今度はルイスの方からご主人についていろいろと話してくれました。フリップにはやさしい母親がいて，戦争中軍隊に行った息子たちのために熱心に祈ってくれたそうです。フリップは家へ戻るとルイスと結婚し，子供たちが生まれて忙しい生活が始まりました。毎年結婚記念日が近づくと，いつもフリップはルイスにこう聞きました。「結婚記念日のプレゼントは何がいいかな。」毎年答えは同じでした。「神殿の結び固めがいいわ。」しかし，いつもそのプレゼントはもらえませんでした。

そしてある年，例年のように質問されました。「ルイス，結婚記念日のプレゼントは何がいいかな。」そこでまた同じように答えました。「ふたりで一緒に神様の神殿へ行くことよ。」すると，思いがけない答えが返ってきました。「よし，そのために準備をしよう。」こうしてふたりは29回目の結婚記念日に，神聖な神の宮居でこの世と永遠にわたる結び固めを受けたのです。その後フリップは監督の召しを果たし，互いに対し，また主に対して忠実な生活を送っています。

話し続けるルイスの目には涙があふれていました。「フリップはいつもカウボーイブーツをはいているんです。毎晩家に帰ってきて暖炉の前のいすに座ると，ブーツを脱いで新聞を読むんですが，私がいくら言っても，ブーツを片付けようとしないのです。何年も前はそれが我慢できませんでした。でも今は少しも気になりません。むしろそのブーツが大好きです。やさしい気持ちで胸がいっぱいになりながら，私は毎晩そのブーツを拾い上げて片付けるのです。」

今度は私の目に涙があふれてきました。思いがけず，ルイス・ハーノンが演壇に招かれ，静かな奉仕が注目に値する名誉ある功績として認められたのです。美しい赤いバラの花束が贈られ，フリップがひと言述べるように頼まれました。彼の言葉は心からあふれたものでした。あたかもふたりだけで広いホテルの食堂にいるかのようです。「ルイスは私の人生の光です。彼女は永遠の伴侶です。」(伴侶という言葉は，いつもペアで一足のブーツにぴったりの表現です)「私たちはいつまでも一緒です。」忍耐が報われました。愛が伝わり，天国が近づいたのです。

愛する姉妹の皆さん，年齢や置かれた環境，与えられた機会の違いにかかわらず，皆さんは人々の手本となり，「信者の模範」となれるのです。

ソルトレークシティーのテンプルスクウェアにあるこのタバナクルのすぐ東側にある神聖な神殿の中の出来事です。託児の部屋で奉仕しているふたりの姉妹に心からの感謝の言葉が述べられました。もちろんふたりは，その晩両親に結び固められた子供たちと同様，白いドレスを着ていました。ふたりが子供たちに別れのあいさつをすると，ひとりの小さな女の子が信仰に満ちた心で言いました。「おやすみなさい，天使さん。」私もこの女の子の言葉を借りて，全世界の姉妹たちに言いたいと思います。「おやすみなさい，天使さん。」イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

注

1．「福音の標準」G・ホーマー・ダラム編，p.150

七十人，管理監督会の異動

このたびの第162回半期総大会で，大管長会はふたりの七十人第一定員会会員と管理監督会副監督を新たに召したことを発表し，その支持を取った。

さらに，ふたりの七十人第一定員会会員が名誉会員に任命され，第二定員会の6人が5年の任期を終えて解任された。また大管長会は，中央日曜学校会長会および中央若い男性会長会の変更を発表し，すでに発表のあった七十人会長会の新たなふたりが支持を受けた。また，すでに召されていた七十人第二定員会の15人の新会員も支持を受けた。

七十人第一定員会に召されたのは，これまで管理監督会で第一副監督および第二副監督として働いてきたヘンリー・B・アイリング長老とグレン・L・ペイス長老である。

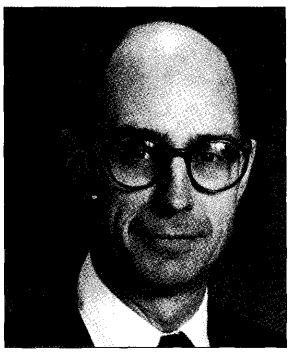
アイリング長老は先般，教会教育部の理事長に任命されていたが，引き続きこの職にとどまることになる。アイリング長老は1985年4月6日，管理監督会に召されるまで，教会教育部の副理事長および理事長，リックスカレッジ学長を務めていた。

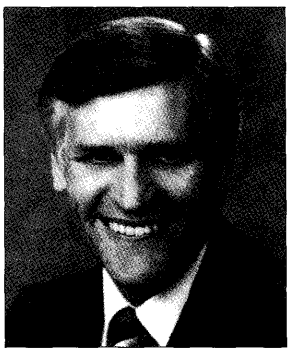
ペイス長老も1985年4月6日，管理監督会に召され伝道管理評議会で働いてきた。監督会に召される以前の9年間は教会福祉事業部に勤めていた。

ロバート・D・ヘイルズ管理監督の副監督に召されたのは，H・デビッド・バートン長老ならびにリチャード・C・エッジリー長老である。

マリオン・D・ハンクス長老，ロバート・L・バックマン長老は名誉会員に任命された。ハンクス長老は1953年10月4日，31歳で七十人最高評議員会に召された。これまでソルトレーク神殿神殿長，英国伝道部伝道部長として働き，七十人会長会を2期，また近年は神権管理部部長を務めた。

バックマン長老は1978年4月1日，七十人第一定員会に支持され，1985年

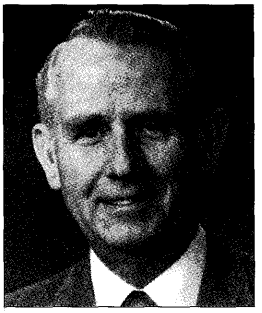

ヘンリー・B・アイリング長老

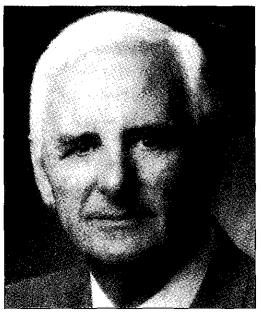

グレン・L・ペイス長老


マリオン・D・ハンクス長老

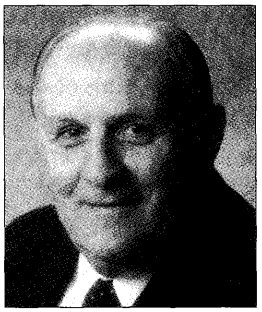

ロバート・L・バックマン長老

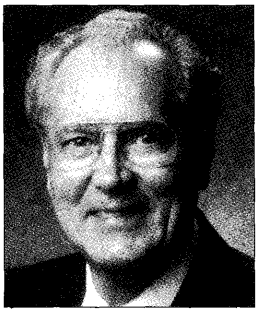

ジョージ・R・ヒル III 長老


ジョン・R・ラサター長老


ダグラス・J・マーティン長老


グレン・L・ラッド長老


ダグラス・H・スミス長老


リン・A・ソレンセン長老

10月には七十人会長会に召された。これまで，中央若い男性会長会会長および副会長，また，北西部諸州伝道部の伝道部長として働き，近年は伝道管理部部長を務めていた。

任期を終えて七十人第二定員会から解任されたのは，ジョージ・R・ヒルIII長老，ジョン・R・ラサター長老，ダグラス・J・マーティン長老，グレン・L・ラッド長老，ダグラス・H・スミス長老，リン・A・ソレンセン長老である。この6人の兄弟は1987年4月4日，七十人に召された。マーティン長老は現在，ニュージーランド神殿の神殿長として働いている。

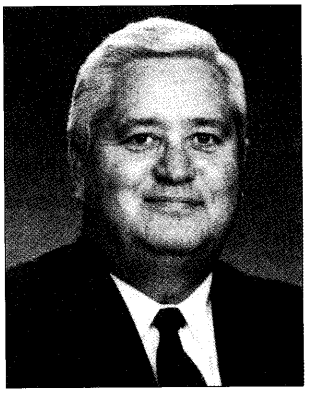
ハンクス長老，バックマン長老の後任として，七十人会長会に支持を受けたのは，チャールズ・ディディエ長老とL・アルディン・ポーター長老である。

新たに七十人第二定員会に支持されたのは，リノ・アルバレス長老，ダラス・N・アーチボルド長老，メリル・J・ベイトマン長老，C・マックス・コールドウェル長老，ゲーリー・J・コールマン長老，ジョン・B・ディクソン長老，ジョン・E・ファウラー長老，ジェイ・E・ジェンセン長老，アウグスト・A・リム長老，ジョン・M・マドセン長老，V・ダラス・メリル長老，デビッド・E・ソレンセン長老，F・デビッド・スタンレー長老，戴 國 源（タイクオツクユン）長老，ローウェル・D・ウッド長老である。

中央日曜学校会長会から，ヒュー・W・ピノック長老，ハートマン・レクターJr.長老，クリントン・L・カトラー長老が解任され，新たに，会長としてマーリン・R・リバート長老，第一副会長，第二副会長としてそれぞれクリントン・L・カトラー長老，ロナルド・E・ポールマン長老が召された。

中央若い男性会長会から，第一副会長のロバート・K・デレンバック長老と第二副会長のスチーブン・D・ナドール長老が解任された。会長であるジャック・H・ゴーズリンド長老の第一副会長にはスチーブン・D・ナドール長老，第二副会長にはL・ライオネル・ケンドリック長老が召された。

H・デビッド・バートン副監督



教会活動は，バートン家の生き方そのものです。H・デビッド・バートン長老は，父親と祖父が指導者として長年奉仕していたのを覚えています。さらに，高祖父のロバート・テイラー・バートン兄弟も管理監督会の一員でした。このたび管理監督会の第一副監督に召されたバートン長老は，家族の伝統を継ぎ，高祖父の足跡をたどっているのです。「私の人生で本当に優先するものはふたつだけです」とバートン長老は語っています。「それは家族と教会です。人生の様々な事柄は，大抵これに集約されると思います。」

1938年4月25日，ソルトレークシティーで生まれたH・デビッド・バートン兄弟は，8年生（訳注――日本の中学2年生に相当する）の時に将来の妻バーバラ・マチスン姉妹と出会いました。長老が南オーストラリア伝道部での2年の伝道を終えた後，1960年9月にふたりは結婚しました。夫妻は5人の子供に恵まれ，そのうち3人は結婚して孫が6人います。

ユタ大学を卒業したバートン長老の専攻は経済学でした。州の税務機関で働いた後，ソルトレークシティーに本拠を置くケネコット・コッパー社に就職しました。バートン長老が修士号を得るためミシガン州に短期間滞在した以外は，バートン家はずっとソルトレーク盆地に住んできました。

1977年に教会の予算委員会顧問としての職を得，1年半後には管理監督会の秘書となり，現在に至っています。

「おそらく伝道の経験こそが，私の証を強めてくれた一番の要素だったと思います。わずか2カ月で先輩になり，泳がなければ沈むだけ，とにかくやるしかないという状況でした。ときどきおぼれかけながら，それでも同僚と私は働きました。

証を述べるのが伝道活動で最も大切な事柄だということも学びました。証を述べれば，みたまが改宗させてくれるのです。」

伝道後もバートン長老は，みたまに頼りながら，福音の教義クラスの教師，結び固めの儀式執行者，監督，高等評議員として働いてきました。過去14年間，管理監督会の幹部書記として働いた時も，みたまは彼を導いてきました。

管理監督会に召される以前，ステーキ部長であった時，彼はステーキ部の教会員に，みたまに近づき，神殿に参入するようにと繰り返し勧めてきました。「夫婦仲を良くして，証をはぐくみ，信仰を堅固に保つうえで，神殿はとても大事です」とバートン兄弟は言っています。

リチャード・C・エッジリー副監督



11年前，リチャード・C・エッジリー長老はゼネラル・ミルズ社の副社長であり，ステーキ部長会で働いていました。彼は，教会から教会財政部部長として働くよう勧誘を受けた時は驚きました。

「決心するのにしばらく時間がかかりました。一生のうちで一番むずかしい決定だったと思います」と，新たに召された管理監督会第二副監督は語っています。「しかし，このことにより，本当に大切なものは何かがはっきりとわかり，優先順位を今一度見直す機会となりました。その決定を後悔したことは一度もありません。」

決心がむずかしかった理由のひとつは，エッジリー長老のゼネラル・ミルズ社での勤務年数が19年にも及んでいたことでした。政治学と政治史の学士号を得てブリガム・ヤング大学を卒業した後，インディアナ州立大学で修士号を得，ゼネラル・ミルズ社に入社しました。カナダのオンタリオ州トロントで4年，マサチューセッツ州ボストンで4年を過ごし，以来ミネソタ州ミネアポリスの本社勤務となったのです。

ソルトレークシティーに移ることは，何が重要かをはっきり知る足がかりとなったうえに，エッジリー兄弟と妻のポーリン・ニールセン姉妹，そして6人の子供たちに祝福をもたらしました。子供たちのうち，ふたりはすでに結婚しています。「私たちはすばらしい友達を見つけました」と言うエッジリー長老は，友の大切さを理解しています。彼は，十代のある夏をアイダホの農場で働いて過ごしましたが，価値観を同じくする友達がほとんどいませんでした。「孤独な毎日で，あまり楽しくありませんでした。でもそれが，後には大きな祝福になったのです。その夏は聖典の勉強に打ち込みました。福音を肌で感じるようになったのは，その時でした。」その後間もなく，彼は合衆国東部で伝道しました。

1936年2月6日，アイダホ州プレストンで生まれたエッジリー長老は，両親のフェノイ・エッジリー，オナ・クロケット・エッジリー夫妻を，自分の人生に一番の影響を与えた人たちと呼んでいます。「亡くなってもう10年たちましたが，私はいまだに両親の影響を受けています。こんなときに，父なら私にどうさせただろうと，よく考えるのです。」

教会の指導者もエッジリー長老の人生に影響を及ぼしました。この10年以上，教会幹部と共に働いてきて，彼は指導者に従うことの大切さを学び，霊感によって主のみ業が行なわれるのを目にしてきました。

「教会幹部に召されて以来，私にとって特別な意味を持つようになった聖句が，教義と聖約第84章88節です」とエッジリー長老は言います。「主は僕(しもべ)を遣わして，その右にも，左にもいてくださる。みたまが彼らの心の中にあって，天使が支えるとあります。最近はよく，この約束について考えることが多いですね。」

4つの神殿の建築計画が発表される

香港(ホンコン)，コネチカット州ハートフォード，ユタ州ユタ郡に，新しい神殿の建設用地が選定された。ゴードン・B・ヒンクレー副管長は第162回半期総大会で，新しい神殿の発表に伴い，ハートフォードの神殿は「ニューヨーク，ボストンをはじめ，ニューイングランド地方から訪れる教会員に対応する」と説明した。

また，ユタ郡の神殿については，「収容力をはるかに上回る業務が行なわれているプロボ神殿の問題を緩和するであろう」と述べた。

そして，「以上申しあげた以外にも神殿建築の予定がありますが，その場所については，後日ご報告いたします」と，ヒンクレー長老は述べた。

そのひとつが，総大会の2週間後に発表された。10月18日から20日にわたって行なわれたロンドン神殿の再献堂式の席上，ヒンクレー長老は，英国で2番目の神殿の建設用地が決まったと述べた。プレストン神殿と呼ばれる新しい神殿は，イギリス北部，スコットランド，アイルランドの20のステーキ部の聖徒たちが使用することになる。着工日は未発表である。

アフリカの4カ国が奉献される

十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老，リチャード・G・スコット長老は，5日間でザンビア，ボツワナ，ナミビア，コンゴのアフリカ4カ国を奉献した。

最初の国ザンビアは，8月20日，首都ルサカの大学敷地内にある池に近い丘陵の閑静な場所で，ネルソン長老により奉献された。

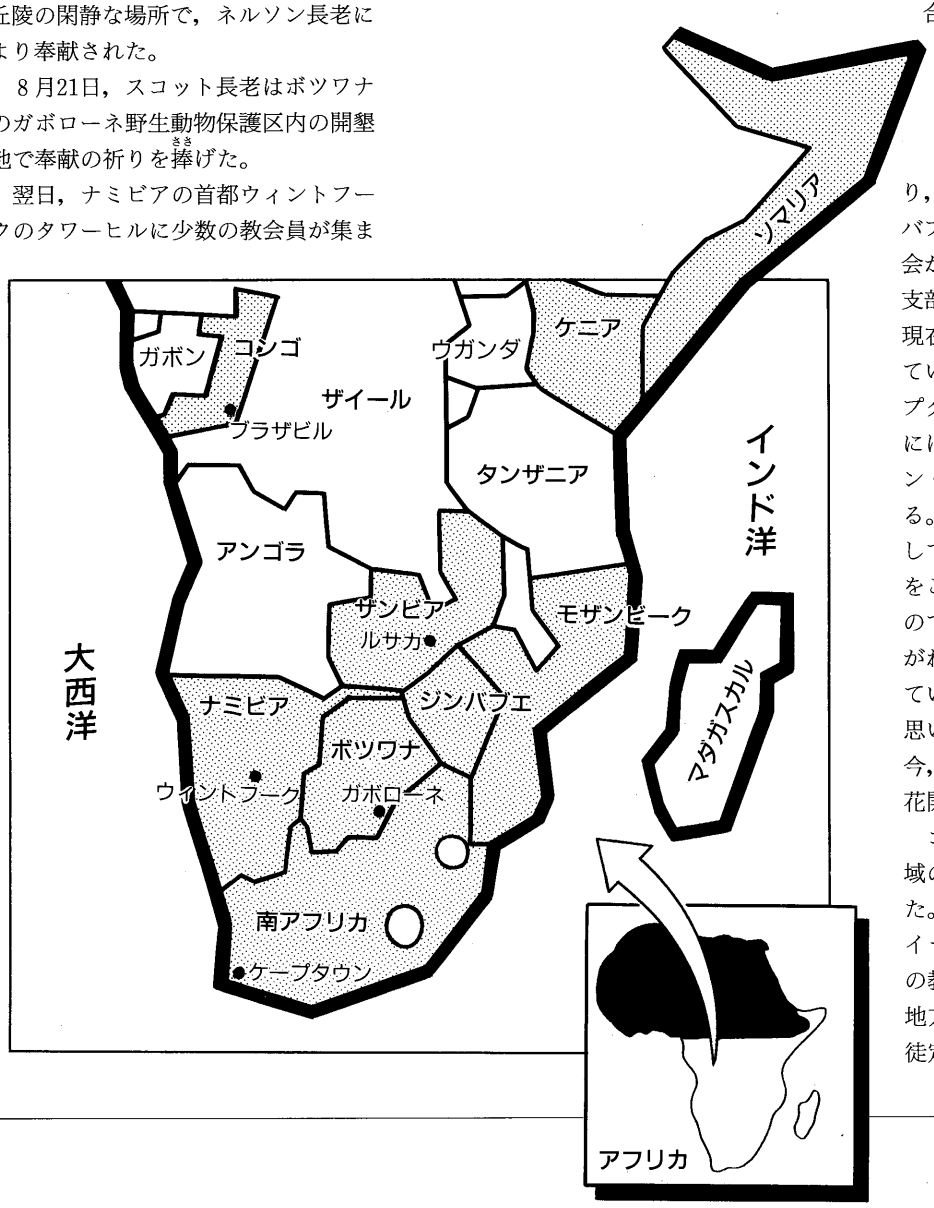
8月21日，スコット長老はボツワナのガボローネ野生動物保護区内の開墾地で奉献の祈りを捧げた。

翌日，ナミビアの首都ウィントフークのタワーヒルに少数の教会員が集まり，ネルソン長老が奉献の祈りを捧げた。さらにスコット長老は，8月24日，コンゴの首都ブラザビルからコンゴ川を16キロほど下ったある山腹の奥まった場所で，同国を奉献した。

ザンビアでは，ほぼ全員の教会員が祈りに参加した。ザンビアの教会は，この国で働く移住者のために，クウェクウェにできた支部を発端として始まった。1992年4月に最初の夫婦宣教師が到着し，同年7月10日に教会は正式に承認された。4月以来，26人がバプテスマを受け，54人が毎週聖餐会に出席している。

合衆国でバプテスマを受け，砂漠の国ボツワナに戻った教会員の消息を尋ねる目的で最初の夫婦宣教師が送られたのは，1990年6月であった。5人の所在がわかり，この年の9月には，ほかの人々もバプテスマを受けた。1991年8月，教会が承認され，1992年3月には最初の支部がふたつのユニットに分割された。現在，この国の会員数は160人に達している。ナミビアは南アフリカ・ケープタウン伝道部の一部である。奉献式には少数の教会員が集まった。ブレイン・ハドソン伝道部長はこう語っている。「主が公職に就く人々の心を動かして，末日聖徒イエス・キリスト教会をこの新国家に迎え入れてくださったのです。私たちの小さな群れの中に注がれるみたまは，自分たちは忘れられていない，主に覚えられているという思いを深めてくれました。……教会は今，広大で人家もまばらなこの土地に花開こうとしています。」

コンゴでは，65人ほどの教会員と地域の教会指導者が奉献の祈りに加わった。その後，ブラザビルで特別なファイヤサイドが行なわれ，およそ250人の教会員と訪問者が出席した。伝道部，地方部の指導者と共にふたりの十二使徒定員会会員もこの集会に出席した。





アフリカの干ばつで，ジンバブエ南東部は文字どおり枯渇状態に陥っている。ジンバブエ最大の貯水池のひとつも，干からびようとしている。

アフリカ各国に救援食糧を送る



Photos courtesy LDS Church and Interaid International

ケニア北東部の食糧配給所に集まるソマリア人の母子。ここでは，教会の基金と配給食糧が，彼らの生命を支えるのに役立っている。

教会はソマリアをはじめとする，干ばつに見舞われたアフリカ各国に，救援のため約450トン分の主要食糧を送った。これらの食糧や物資は世界各地の教会員から寄せられた善意の寄付によるものである。

さらに，教会福祉事業部救援事業課関係者によれば，教会は水源確保と農業推進のためのいくつかの計画を資金援助する予定である。

一定の援助団体を通じてのアフリカ諸国に対する食糧と物資の供給は，1992年6月，教会のアフリカ地域会長会からの援助の要請が承認されて以来続いている。

輸送食糧はおもに粉ミルク，小麦粉，トウモロコシ粉，豆類である。これらの食糧は5歳以下の栄養不良児と授乳婦，妊婦を対象とした栄養補給活動に充てられている。

現在教会が提供している食糧は，1万3,000人の子供たちの3カ月分の栄養補給および健康維持に役立つと見積もられている。

配給食糧はすべて，すぐに利用できるように加工され，包装されている。配給地点は10カ所である。

そのほかに医療器具，運搬車，せっけん，7万2,000キロ分の衣料も提供された。

教会が救援物資を託している団体は，大量のソマリア難民が集中するケニア北東部にある救援組織の国際相互援助協会，モザンビークとジンバブエの合衆国児童救済協会，およびジンバブエの全米黒人女性評議会である。

1,900番目のステーキ部が組織される

このたびフロリダ州オーランドで開かれたステーキ部大会には歴史的な意義があった。フロリダ州オーランドステーキ部の分割により，教会に1,900番目のステーキ部が誕生したのである。

十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老は，フロリダ州オーランド南ステーキ部を創設した際，次のように述べた。「きょうの出来事は，この地域のみならず教会全体にとっても，歴史の1ページとなります。……

皆さんも教会の統計上の数字を目にすることがあると思いますが，それは教会の兄弟姉妹，子供たちの立派な驚嘆すべき業績の表われなのです。私は，歴史上重要なこの出来事について，皆さんにお祝いの気持ちを伝えるとともに，すべての教会員の方々に敬意を捧げるものです。」

1958年2月23日に創設されたフロリダ州オーランドステーキ部は，フロリダ州で2番目のステーキ部であった。

新設されたステーキ部は，1958年創設当初のステーキ部境界内に創設されたステーキ部のうち7番目に当たる。

モンゴルにおける宣教師

モンゴル政府の要請を受けて，教会は同国の高等教育制度の発展を助成するため，12人の宣教師を派遣することになった。

モンゴルに赴く6組の夫婦は経験と教育的背景を基準に選ばれたと，アジア北地域会長会会長で七十人のモンテ・J・ブラフ長老は述べている。彼らは方針，政策，カリキュラム，そのほかの関連課題について，政府とモンゴルの5大学およびいくつかの科学技術研究所の指導者を援助する。「私たちの知る限り，彼らがモンゴルに入る最初の宣教師だと思います」とブラフ長老は語る。「彼らは宣教師として赴き，人々に私たちの信仰について教え，教会の集会を開くことを認められています。」

全員が首都のウランバートルを拠点に，アジア地域会長会の指示の下で働くことになる。アラスカ州とほぼ同面積のモンゴルは，人口210万人で，そのうちの半数は18歳以下である。90パーセントという国の識字率は，世界の最高水準である。

ソビエト連邦の崩壊後モンゴル政府は，高等教育制度の運営指導など，従来ソビエトに依存していた多くの活動に，支援を求めていた。

モンゴルに派遣される夫婦宣教師は，ビジネスカレッジの元校長，大学医療センターで研修医の指導に携わってきた医学博士，電算科学の教授，経営学教授，カリキュラム作成と管理の教授，教育行政担当者，という経験豊富な教育者である。

各地のニュース

シンガポール——合衆国の新大使にジョン・ハンツマンJr. 兄弟が就任した。ソルトレーク・マウント・オリンパスステーキ部マウント・オリンパス第2ワード部に所属する，32歳のハンツマン兄弟は，これにより最年少の合衆国大使となった。彼は台湾で伝道し，北京語といくつかの地方語を話す。これまでは，東アジア担当の合衆国商務次補代理官であった。

ワシントンD.C.——以前にブリガム・ヤング大学のバスケットボール部に所属し，ユーゴスラビアのオリンピック・バスケットボール選手であったクレシミル・チョスィッチ兄弟は，新国家クロアチアの合衆国大使代理に指名された。ブリガム・ヤング大学の学生だった時に教会員となったチョスィッチ兄弟は，合衆国事情に精通しているため，首都ワシントンに派遣された。

ローカルニューズ

グラスリ姉妹，岡崎姉妹による訓練集会開催される

昨年10月22日から29日にかけて，沖縄，福岡，大阪，名古屋，仙台，札幌地域で中央初等協会会長会会長マイカリーン・P・グラスリ姉妹と中央扶助協会会長第二副会長チエコ・N・岡崎姉妹とを迎えて，初等協会・扶助協会指導者訓練集会が開催された。その締めくくりとして，10月30日，アジア北地域会長会第二副会長サム・K・島袋長老管理の下に，東京ステーキ部吉祥寺ワード部で同様の集会が開かれた。

関東周辺の10ステーキ部2地方部の指導者が出席したこの会は，午後1時半から9時半まで，初等協会・扶助協会指導者会，ファイヤサイド，神権指導者会の3部に分かれて行なわれた。



分科会で指導するグラスリ姉妹

1部の指導者会は，グラスリ姉妹と岡崎姉妹がそれぞれの分科会を担当し，各会とも白熱した質疑応答や指導が行なわれた。グラスリ姉妹は，問題を解決する方法についてアルマ書第60章から61章を引用し，①補助組織会長会と神権指導者の意思疎通を図り，②行動を起こすための計画を立て，③すべての人に役割を担ってもらい，④皆が同じ方向を一致して進むという4段階を実践するよう教えた。岡崎姉妹は，救い主の生活の中から原則を見いだして生活や教会の責任に応用するよう提案し，①理想ではなく自分にも人にも現実に実行できる目標を立て，②推測や思い込みではなく正確な情報を得て，③神権指導者と協力して働くことが大切であると説いた。

午後7時からのファイヤサイドでは，グラスリ姉妹は，子供に福音を教える大切さを，岡崎姉妹は私たちが仕えるのはプログラムではなく個人であることを強調した。

午後9時から行なわれた神権指導者会では，①神権指導者と補助組織指導者間の意思疎通の重要性，②手引きの研究と地域の事情を踏まえた応用についての話があり，個人の救いに焦点を当てた指導を行なうよう助言があった。

新輸入品の紹介



日本語の聖書とモルモン経，教義と聖約／高価なる真珠の四大聖典が入る聖典カバー(手提げ付き)が入荷しました。中型聖書(B６判)と各末日聖典(あるいは合本)が収められます。色をご指定のうえご注文ください。

1．四大聖典カバー(合成皮革)
価格 1,300円　カタログ番号 80001(写真右のデザイン)
カラー５種——黒，茶，えんじ，白，青

2．四大聖典カバー(コンビ)
価格 2,000円　カタログ番号 80002(写真左のデザイン)
カラー５種——黒，灰，こげ茶，紺，青
布と皮革のコンビネーション

1993年度「クモラの丘霊園」分譲のお知らせ

所在地：
埼玉県入間郡毛呂山町長瀬1313
武蔵野霊園内
(池袋駅から東武鉄上・越生(まごせ)線で約１時間，武州長瀬駅下車，徒歩７分)

「クモラの丘霊園」分譲の今年度募集の締め切りは，1993年12月31日です。永代使用料は毎年値上がりいたします。分譲希望者は，早目にお申し込みください。

1．墓地永代使用料	１区画300,000円
支払い方法	一括または分割払い。分割払いの場合は，初回金5,000円，以降毎月5,000円59回払いの無利子分割払いとなります。
2．墓地管理料	年間3,000円(初回金とともに１年分を前納し，以降毎年定められた期日までに支払うものとします)
3．申し込み方法	以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。 (1)クモラの丘霊園使用申し込み書 (2)住民票 (3)クモラの丘霊園永代使用契約書　　２通 (4)銀行自動振替手続き書類
4．今年度申し込み[illegible]	1993年12月31日
5．墓所の指定	申し込み書類受領確認の後，順番に行ないます。
6．初回金および管理料の振込先	三和銀行青山支店　　普通預金口座　219499 クモラの丘霊園　　代表　岡本　亮
7．お問い合わせ先	〒106 東京都港区南麻布５－10－30 東日聖徒イエス・キリスト教会内 クモラの丘霊園事務局　　電話03(3440)2351(代)
8．その他の情報	分譲開始年月日：1982年９月19日 分譲数：1,600墓所中，518墓所が分譲済み。(1992年10月31日現在) 他霊園との比較：永代使用料は他霊園の５分の１から８分の１。

役員の任命

1992年９月30日から11月10日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

●東京北ステーキ部
新ステーキ部長：大石知香男
(前任者：杉澤廣行)
●神戸伝道部福知山地方部
新地方部長：門脇保文
(前任者：玉屋晃生)
●仙台伝道部青森地方部八戸支部
新支部長：今野稔
(前任者：小泉隆司)
●仙台ステーキ部塩釜支部
新支部長：寺井隆
(前任者：永井栄一)
●東京北伝道部宇都宮地方部小山支部
新支部長：高山佳巳(よしみ)
(前任者：高坂洋一)
●東京北ステーキ部浦和ワード部
新監督：井上親太郎
(前任者：松本勝己)
●東京北ステーキ部川越ワード部
新監督：伊東文敏
(前任者：上村星輝)
●東京北伝道部長野地方部長野支部
新支部長：山岸武浩
(前任者：高瀬満)
●名古屋伝道部石川地方部兼六園支部
新支部長：中村朋行

（前任者：松本浩）
●大阪東ステーキ部茨木第２ワード部
新監督：講崎元清
（前任者：津田信男）
●大阪ステーキ部大阪ワード部
新監督：高地保正
（前任者：河野達広）
●大阪伝道部御坊支部
新支部長：林和彦
（前任者：水口淳規）
●神戸伝道部福知山地方部西脇支部
新支部長：磯貝 斉
（前任者：井上孝）
●沖縄那覇ステーキ部那覇ワード部
新監督：武富良行
（前任者：金城正幸）

新ユニット

●東京北伝道部宇都宮地方部
地方部長：長谷川充豊
（1992年11月８日，高崎ステーキ部より分割）
●神戸伝道部関西支部（英語）
支部長：Dan Willis
（1992年10月18日，創設）

名称変更

●札幌西ステーキ部函館支部
支部長：篠原英彦
（札幌伝道部函館支部より名称変更）
●高崎ステーキ部熊谷ワード部
監督：大橋正弘
（熊谷支部より名称変更）
●東京南ステーキ部東京第１ワード部（英語）
監督：Stephen Bigelow Gasser
（東京イングリッシュ 1st ワード部より名称変更）
●東京南ステーキ部東京第２ワード部（英語）
監督：Ronald Grimshaw Felt
（東京イングリッシュ 2nd ワード部より名称変更）

JMTC

11月に召された専任宣教師

第161期生　14人



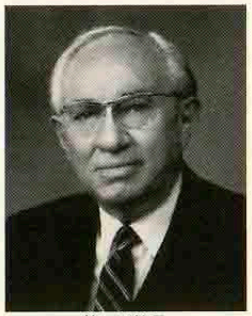
後列左から１－８，前列左から９－14

	〈名　前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1.	小野田昭	仙台S／山形W	名古屋伝道部
2.	松浦利伊子	札幌西S／小樽W	東京北伝道部
3.	平﨑実和子	神戸S／明石W	札幌伝道部
4.	橋本美幸	岡山S／鳥取B	東京南伝道部
5.	池上陽子	福岡M／熊本D／大牟田B	名古屋伝道部
6.	高橋美春	大阪東S／茨木第１W	札幌伝道部
7.	鴨川明子	東京南S／渋谷W	岡山伝道部
8.	吉田純子	東京北S／川越W	福岡伝道部
9.	高橋大志	高崎S／熊谷W	仙台伝道部
10.	安齋儀幸	町田S／町田第１W	仙台伝道部
11.	佐々木恵	札幌西S／小樽W	神戸伝道部
12.	前野宏恵	大阪北S／池田W	東京北伝道部
13.	奥村幸子	名古屋西S／一宮W	沖縄伝道部
14.	武蔵野ゆり	横浜S／横浜第１W	札幌伝道部

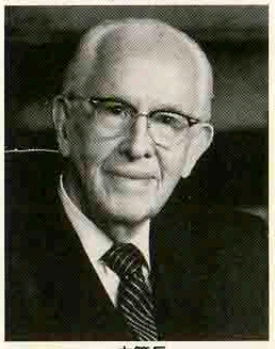
S：ステーキ部，M：伝道部，D：地方部，W：ワード部，B：支部

末日聖徒イエス・キリスト教会幹部 (1992年10月3日現在)

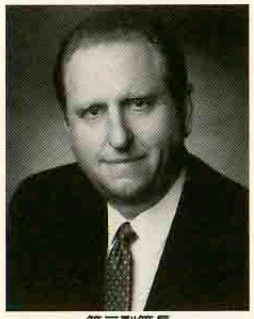
大管長会



第一副管長
ゴードン・B・ヒンクレー



大管長
エズラ・タフト・ベンソン



第二副管長
トーマス・S・モンソン

十二使徒定員会



ハワード・W・ハンター



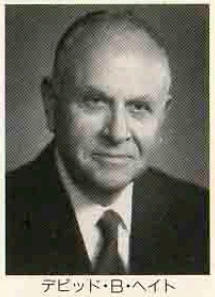
ボイド・K・パッカー



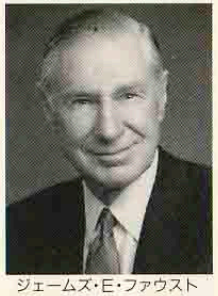
マービン・J・アシュトン



L・トム・ペリー



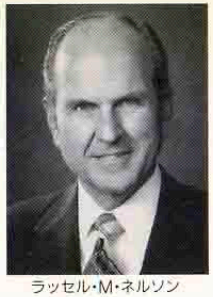
デビッド・B・ヘイト



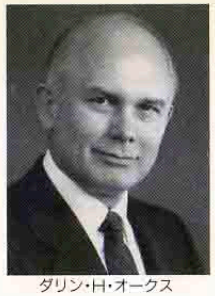
ジェームズ・E・ファウスト



ニール・A・マックスウェル



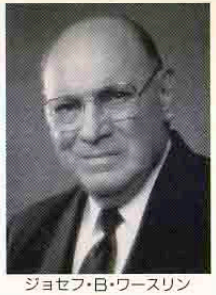
ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン

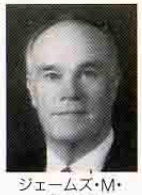


リチャード・G・スコット

七十人会長会



ディーン・L・ラーセン



ジェームズ・M・パラモア



J・リチャード・クラーク



レックス・D・ピネガー



カーロス・E・エイシー



チャールズ・ディディエ



L・アルディン・ポーター

七十人第一定員会


アンヘル・アブレア


カーロス・H・アマーゾー


ベンジャミン・B・バンクス

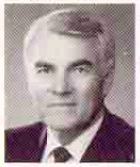

ウィリアム・R・ブラッドフォード


テディー・E・ブルーアートン


モンティ・J・ブラフ


F・エンツィオ・ブッシェ


ジョン・K・カーマック


ジョー・J・クリステンセン


スペンサー・J・コンディー


ジーン・R・クック


ヤコブ・ディヤガー


ロバート・K・デレンバック


ローレン・C・ダン


ヘンリー・B・アイリング


ボーン・J・フェザーストーン


ジャック・H・ゴーズリンド


ジョン・H・グローバーグ


W・ユージン・ハンセン


ハロルド・G・ヒラム


ジェフリー・R・ホランド


F・バートン・ハワード


マーリン・K・ジェンセン


L・ライオネル・ケンドリック


菊地良彦


アドニー・Y・小松


アレクサンダー・B・モリソン


グレン・L・ペイス


H・パーク・ピーターソン


ヒュー・W・ピノック


ロナルド・E・ポールマン


ハートマン・レクターJr.


ハンス・B・リンガー


アール・C・ティンギー


ロバート・E・ウエルズ

七十人第二定員会


リノ・アルバレス


ダラス・N・アーチボルド


エドワルド・アヤラ


メリル・J・ベイトマン


C・マックス・コールドウェル

アルバート・チョールズJr.

ゲーリー・J・コールマン

ルロン・G・クレーブン

リグランド・R・カーティス

クリントン・L・カトラー

フリオ・E・ダビラ

ジョン・B・ディクソン

グラハム・W・ドクシー

ジョン・E・ファウラー

ロイド・P・ジョージ

F・メルビン・ハモンド

韓 仁 相

ジェイ・E・ジェンセン

マルコム・S・ジェプセン

ケネス・ジョンソン

クリー・L・コッフォード

W・マック・ローレンス

アウグスト・A・リム

リチャード・P・リンゼー

マーリン・R・リバート

ジョン・M・マドセン

ヘルベシオ・マーティンズ

ジェラルド・E・メルチン

V・ダラス・メリル

リン・A・ミケルセン

ジョセフ・C・ミューレン

スチーブン・D・ナドール

デニス・B・ノイエンシュバンダー

ホルヘ・A・ロハス

ロバート・E・サックリー

サム・K・島袋

デビッド・E・ソレンセン

F・デビッド・スタンレー

戴 國 源

ホラーシオ・A・テノリオ

J・バラード・ウォシュバーン

ローウェル・D・ウッド

管理監督会

H・デビッド・バートン

ロバート・D・ヘイルズ

リチャード・C・エッジリー

デュレル・A・ウルジ



聖徒の道 1993年1月20日発行(毎月1回20日発行)第37巻第1号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可



聖なる森　グレッグ・K・オルセン画

「その光が私の上に留(とどま)った時，私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有(も)ちたもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中(うち)のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい，他のお一人を指して『こはわが愛子(あいし)なり，彼に聞け』と仰せられた。」
（ジョセフ・スミス2：17）